

始



獸醫學博士 勝島仙之介 共著
農學博士 新美信太

家畜內科學

上卷

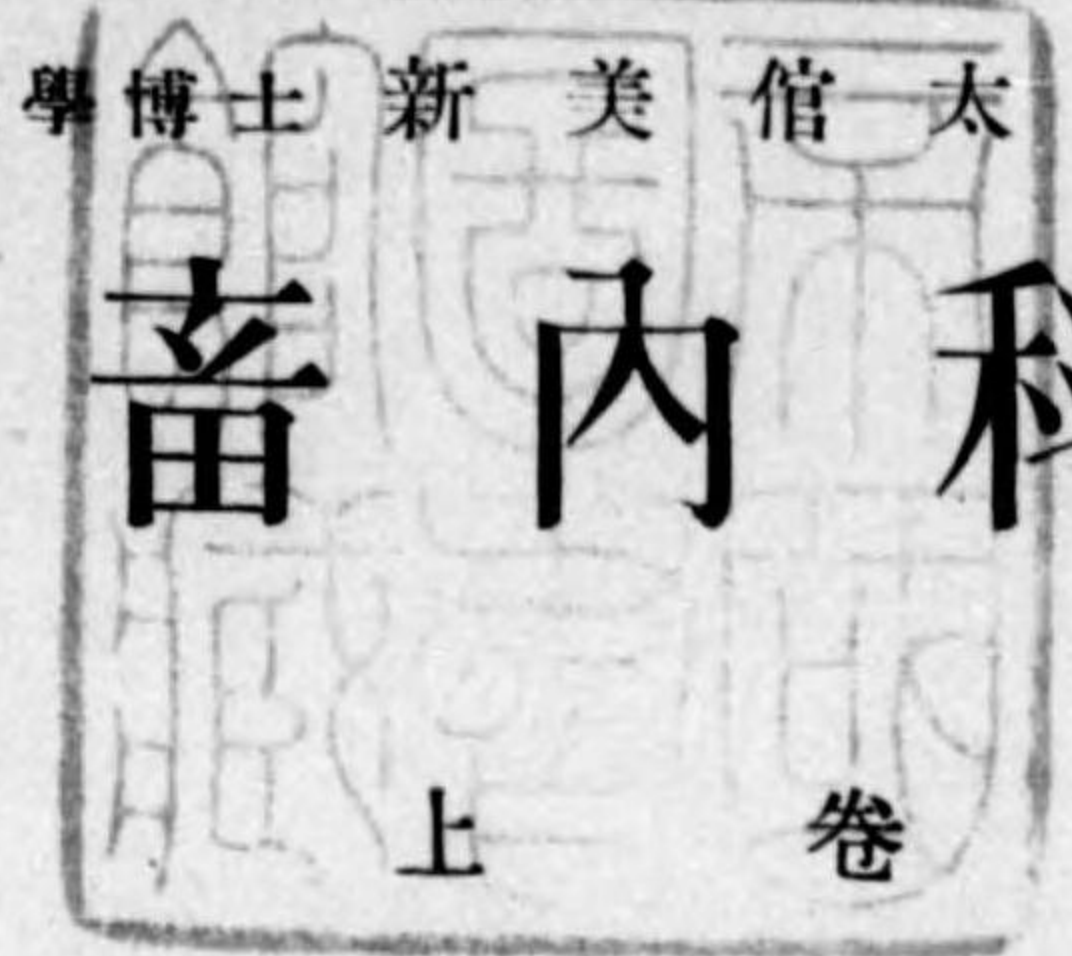
改訂第七版

南江堂書店發行

90
45

獸醫學博士 勝島仙之介 共著
農學博士 新美信一 太

家畜內科學



改訂第七版



東京・京都

南江堂書店發行

90-145

第七版序

本書ハ今回ノ改版ニ苐ミ各疾病ノ分類ヲ整ヘンカ爲メ先ツ代謝機病及血液病ヲ分チテ二篇トナシ病的嗜好[異嗜・喰毛症・喰羽症及啄羽症]・佝僂病・骨軟症ヲ夫々消化器病及運動器病ヨリ移シテ代謝機病ニ蒐メ新ニ消化器病中ふれぐも一ね性口炎・神経系病中山羊腰麻痺ヲ加ヘ次ニ傳染病ヲ各病性ニ從ヒテ六類ニ區分改竄シかなだ馬痘・禿性匂行疹・白癬・こくしぢうむ病・住肉孢子蟲症ヲ移シテ各所屬ノ傳染病中ニ編入シ又新ニ馬ノ傳染性流産・牛ノ皮疽・牛及犬ノ血斑病・冷血動物ノ結核病・雞ちふす・雛白痢・雛ノあすべるぎろーじす・鳩ノみげ・黒頭病及あめーば赤痢ヲ増補シ以テ舊版ノ闕漏ヲ充タセリ而シテ毎篇各章ハ内容ニ大補正ヲ加ヘ最近ノ新研究殊ニ本邦諸家ノ業績ヲ悉ク網羅シテ剩ス所ナク且ツ行文ヲ横書ニ組換ヘ病名及地名等ノ擬漢字ヲ總テ假名文字ニ改メ藥名ヲ改訂日本藥局方ノ用語ニ一定シ尙圖畫五表ヲ増加シテ益々通讀・理解ニ便ナラシムル等全ク面目ヲ一新シ眞ニ日進・月將ノ氣運ニ沿ヒ併テ讀者ノ眷顧ニ酬ムコトヲ期セリ

畏而恩師勝島博士ノ墓前ニ新冊ヲ捧ケ本書改訂第七版ノ上梓ヲ靈ニ告ク矣

昭和七年十二月二十七日

故勝島博士一周忌命之日

農學博士 新 美 信 太

第七版例言

1 書中所論ノ各病ハ病性・史傳・發生・原因(細菌ノ染色・培養・抵抗性)・發病論(自然感染・感受性・病理)・剖檢・症候・經過・豫後・診斷・類症鑑別・療法及豫防法等序ヲ踐テ歷載ス然レトモ重要ナラサルノ症ハ間、此例ニ從ハス簡單ニ記述セリ

2 産科ニ關スル病論ハ専門ノ書ニ譲ル

3 書中用キル所ノ術語ノ下ニハラテン語若クハドイツ語ヲ挿入スルヲ例トス又羅・獨・英・佛・伊ノ數國語ヲ併セ列スルコトアリ

4 藥名ハ日本藥局方ニ則リ又溫度ハ攝氏(37°C)・度量ハめーとる系ニテ μ ・mm・cm・m・^{グラム}・^{リットル}・^{リットル}・^{リットル}・^{リットル}・^{リットル}ヲ併用シ藥量ハ瓦及りーとる系ニシテ^{リットル}・^{リットル}・^{リットル}・^{リットル}ヲ附シ或ハ單ニ數字ヲ以テ表ス例之10瓦ヲ10.0・1でしぐらむヲ0.1ト記スルカ如シ

昭和七年初冬

著者識

第四版序

本書ハ第四版ニ至リテ全ク面目ヲ一新セリ每篇各章大ニ増補改訂ヲ加ヘ就中傳染病篇ノ如キハ大半改作セリ加之鮮明ナル圖畫二百七十九點ヲ挿入シ以テ讀者ノ理解記憶ニ便ナラシメタリ

本書ノ體裁ハ上卷ニ於テ消化器・呼吸器・循環器・泌尿器・運動器・神經系及皮膚ノ順序ニ從ヒ各系統臟器ノ疾病ヲ簡明ニ論載シ而モ樞要ノ事實ハ一モ遺漏ナカラシメタリ各臟器病ノ末ニハ腫瘍及寄生蟲病ヲ記述シ以テ舊版ノ缺點ヲ補フタリ

下卷ハ首ニ新陳代謝機病及血液病ヲ掲ケ次ニ傳染病ヲ詳論セリ就中傳染病ノ原因・病原性・細菌學的診斷法並ニ最新ノ治療法ニ關シテハ至大ノ注意ヲ拂ヒ宇内諸大家ノ經驗研究ノ新事蹟ヲ網羅紹介シ以テ駁々乎タル氣運ニ背カサランコトヲ努メタリ然リト雖家畜內科學ノ深奧ナル其範圍廣大無邊ニシテ不明未決ノ問題モ尠シトセス本書ノ如キ焉ソ完全ト稱スルヲ得ンヤ況ンヤ日進月將ノ學術昨ノ非ハ今ノ是ニ變シ續々新研究・新發明アルニ於テヲヤ

今ヤ世界的ノ大戰亂ハ五載ニ亙リ軍馬ハ勿論家畜ノ要求ハ最急ニシテ驚クヘキ巨額ニ上レリ乃チ六畜ハ頓ニ缺乏ヲ告ケ營ニ各種動物ノ市價騰貴セルノミナラス毛製品・皮革・乳肉其他ノ畜產物モ從テ暴騰ヲ來シ畜產ハ交戰國ノミナラス世界各國ニ於テ衣食ノ供給上極テ重大ノ問題ヲ惹キ起セリ是ニ於テ家畜衛生保全ノ任ニ當ル我同學者ノ職責ハ更ニ一層重大ト爲レリ同學者諸士殊ニ初學ノ徒ハ切ニ本書ヲ精讀玩味シ更ニ一步ヲ進メ本書ヲ指鍼トシ實驗考究ニ從事セラレナハ庶幾クハ文明獸醫ノ本分ヲ全フシ以テ昭代ニ酬ユルヲ得ン若シ夫レ所論ノ不備・魯魚ノ誤ノ如キハ更ニ江湖諸大家ノ高教ヲ仰キ逐版改訂補正スヘキナリ

大正七年秋季皇靈祭前一日

著者識

初 版 序

本書ハ予カ農科大學獸醫學科乙科ノ教室ニ於テ講述セル家畜內科學ノ筆記ヲ訂正シテ梓ニ上セルモノナリ予ハ往年農商務省ノ命ヲ奉シ家畜醫範ノ內科學篇ヲ纂著セリ烏兎倏忽爾來茲ニ九表葛社會ノ文運ハ駸々トシテ上進シ殆ント底止スル所ヲ知ラス殊ニ醫學獸醫學ノ如キハ長足ノ進歩ヲナシ昨ノ是トスル所今既ニ非ナルモノアリ故ニ舊著說ク所陳腐ニ屬スルモノ頗ル多ク傳染病論ノ如キ全ク面目一新ヲ要スルハ洵ニ已ムヲ得サルノ數ナリ而シテ本邦未タ他ニ家畜內科學ノ新著アルヲ聞カス斯道ニ志アルノ初學ヲシテ多年迷津望洋ノ歎アラシメタリ予ハ久シク一書ヲ著ハシ斯ノ一大缺點ヲ補フノ志アリシト雖モ公私ノ事務ニ鞅掌シテ成業ノ遅キヲ憾トセリ頃者講義錄ノ訂正成ルヤ諸氏ノ懇懇ニ從ヒ先ツ此篇ヲ江湖ニ頒チ目下ノ急需ニ應セントス

獸醫學術ノ深遠高尚ナル其蘊奧ヲ窺ハント欲セハ勢ヒ浩瀚ニ涉ラサルヲ得ス而シテ浩瀚累篇ハ誦讀記憶ニ便ナラスシテ本邦現時獸醫畜産ニ適セス本書僅ニ三卷其論載スル所淺近簡易ニシテ對策應答ノ便ヲ計レリ大方ノ一讀ヲ煩ハスニ足ラス只之ヲ以テ公私獸醫學校及農學校ノ教科書ニ供シ併セテ開業獸醫及畜産家諸君參考ノ一助トナスヲ得ハ著者ノ本懐ハ聊カ達セリト云ン乎

明治三十年春

著 者 識

家畜內科學上卷目次

緒 論

第一篇 消化器病	3
第一 口腔ノ疾病	3
口 炎	3
1. かたーる性口炎又單純口炎又紅斑性口炎	3
2. 水疱性口炎又あふた性口炎	5
3. ふれぐもーね性口炎	6
4. 潰瘍性口炎	7
第二 唾腺ノ疾病	9
流涎症	9
耳下腺炎	10
第三 咽頭ノ疾病	11
咽頭炎又あんぎな	11
豚ノ咽頭炎	16
犬ノ咽頭炎	16
咽頭ノ腫瘍	17
咽頭ノ寄生蟲	18
第四 食道ノ疾病	18
食道炎	18
食道梗塞	19
食道擴張	22
食道狹窄	23
食道麻痺	25
食道痙攣	26

食道破裂	26
食道ノ腫瘍	27
食道ノ寄生蟲	27
すびろせるか-さんぐいのれんた	27
第五 家禽ノ嚙嚢病	29
嚙嚢かたーる	29
嚙嚢秘結	29
嚙嚢ノ寄生蟲	29
第六 胃腸ノ疾病	30
嘔吐	30
胃腸かたーる	32
馬ノ急性胃腸かたーる	33
馬ノ慢性胃腸かたーる	38
牛ノ急性胃腸かたーる	42
牛ノ慢性胃腸かたーる又前胃弛緩症	45
反芻獸ノ急性鼓脹	48
羊・山羊ノ急性鼓脹	51
附 豚ノ鼓脹	52
反芻獸ノ慢性鼓脹	52
反芻獸ノ第一胃急性擴張又反芻獸ノ胃食滯	53
第一胃空虚又鐵道病	55
第四胃及十二指腸かたーる	56
創傷性胃横隔膜炎	56
幼獸胃腸かたーる	60
肉食獸ノ胃腸かたーる	63
犬ノ便秘	65
犬ノ異物性胃腸病	67

豚ノ胃腸かたーる	68
家禽ノ胃腸かたーる	68
1. 家禽ノ單純胃腸かたーる	68
2. 家禽ノ便秘	69
馬ノ疝痛	69
總説	69
1. 痙攣疝	77
2. 食滯疝又過食疝又急性胃擴張	79
胃破裂	83
横隔膜破裂	83
慢性胃擴張	84
3. 便秘疝	85
a 單純便秘疝	85
b 砂疝及結石疝	90
c 腫瘍ニ因ル便秘疝	92
d 腸狹窄ニ因ル便秘疝	93
e 腸ノ擴張及麻痺ニ因ル便秘疝	93
4. 風氣疝	94
5. 變位疝又腸ノ變位ニ因ル閉塞疝	96
a. 腸ノ箱頓及絞搾	97
b. 腸ノ軸轉及纏結	101
c. 腸ノ重疊	108
6. 血塞疝	110
7. 寄生疝又蠕蟲疝	116
牛ノ疝痛	118
1. 腸重疊ニ因ル牛ノ疝痛	118
2. 腸箱頓ニ因ル牛ノ疝痛	119

精管絞搾	119
3. 牛ニ於ケル他種ノ疝痛	120
犬ノ疝痛	120
豚ノ疝痛	121
胃腸潰瘍	122
胃腸出血	124
胃腸炎	126
1. 單純胃腸炎	127
2. くるっふ性腸炎	130
3. 微性胃腸炎又傳染性胃腸炎又敗血性胃腸炎	132
a. 肉食獸・雜食獸及家禽ノ腐敗肉ニ因ル胃腸炎	132
b. 草食獸ノ微性胃腸炎又微中毒	133
4. 中毒性胃腸炎	136
胃腸ノ腫瘍	136
胃ノ寄生蟲	138
1. 馬蠛蚋又馬蠅蚋	138
2. 羊及山羊ノ胃蟲症	143
3. 牛ノ胃蟲症	145
4. 豚ノ胃寄生蟲	146
5. 肉食獸ノ胃寄生蟲	147
6. 家禽ノ胃寄生蟲	147
腸ノ寄生蟲	147
1. 條蟲類	148
a. 馬ノ條蟲	149
b. 牛ノ條蟲	150
c. 羊及山羊ノ條蟲	151
d. 犬ノ條蟲	153

e. 猫ノ條蟲	157
f. 家兎ノ條蟲	158
g. 家禽ノ條蟲	158
2. 吸蟲類	159
3. 線蟲類	160
a. 哺乳動物ノ蛔蟲症	160
b. 家禽ノ蛔蟲症	165
c. 蟯蟲症	166
d. 旋毛蟲	167
e. 十二指腸蟲症	168
〔1〕 肉食獸ノ十二指腸蟲症	168
〔2〕 牛ノ十二指腸蟲症	171
f. 馬ノ硬口蟲症	172
g. 腸ノえそふあごすと一ま症	177
4. 豚ノ大鉤頭蟲症	179
第七 肝臟ノ疾病	181
黄疸	181
重性黄疸	183
初生兒黄疸	184
急性肝實質炎	184
肝ノ急性黄色萎縮	185
化膿性肝炎又肝膿瘍	185
肝壞疽	186
幼豚ノ地方性肝炎	186
るーびん病	186
慢性肝間質炎又肝硬化症	189
しゅわいんすべるげる病	191

肝ノあみろいど變性	192
脂肪肝	193
肝臓破裂	194
膽石	195
肝臓ノ腫瘍	197
肝臓癌腫	197
肝臓ノ寄生蟲	198
1. 肝蛭症	198
2. 肝包蟲症(肝ゑひのこつかす症)	203
3. 肝囊蟲症	205
第八 脾臓ノ疾病	207
脾管かたーる	208
慢性脾臓炎	208
化膿性脾臓炎	209
脾臓脂肪組織ノ竈狀壞疽	209
脾臓萎縮	209
脾石	209
脾臓ノ腫瘍	209
脾臓ノ寄生蟲	209
第九 腹膜ノ疾病	209
腹膜炎	209
1. 急性腹膜炎	209
2. 慢性腹膜炎	213
腹腔水腫又腹水	214
腹膜ノ腫瘍	218
腹腔ノ寄生蟲	218
第二篇 呼吸器病	219
第一 鼻腔ノ疾病	219

急性鼻かたーる又鼻感冒	219
慢性鼻かたーる	220
羊ノ鼻かたーる	222
牛・豚・犬・猫ノ鼻かたーる	222
鼻粘膜ノ劇性炎	223
鼻出血又衄血	225
鼻腔ノ腫瘍	226
鼻腔ノ寄生蟲	228
1. 羊蠅又羊蠅	228
2. 舌形蟲(ぺんたすとーまむてーにをいです)	229
第二 鼻腔近腔ノ疾病	231
上顎竇炎及前頭竇炎	231
慢性喉嚢かたーる	233
第三 喉頭ノ疾病	234
喉頭炎	234
1. 急性喉頭かたーる	234
2. 慢性喉頭かたーる	237
3. くるっぶ性喉頭炎	238
喉頭浮腫又聲門水腫又最急性喉頭炎	240
喘鳴症又喉頭偏癱	241
喉頭痙攣	244
喉頭ノ腫瘍	245
第四 氣管及氣管枝ノ疾病	245
氣管枝炎	245
1. 急性氣管枝かたーる	246
2. 慢性氣管枝かたーる	248
3. くるっぶ性氣管枝炎	249

4. 寄生性気管枝炎及気管枝肺炎又肺蟲症	250
家禽ノ氣道寄生蟲	257
1. 開嘴蟲(じんがーます)	257
2. しとちてす-ぬーだす	259
第五 肺ノ疾病	259
肺ノ充血及水腫	259
肺出血又咯血	261
肺 炎	262
1. くるっぶ性肺炎又大葉性肺炎	264
a. 馬ノくるっぶ性肺炎	264
b. 牛ノくるっぶ性肺炎	270
c. 小家畜ノくるっぶ性肺炎	272
2. かたーる性肺炎又気管枝肺炎又肺小葉炎	272
3. 異物性肺炎附肺壞疽	276
4. 微性肺炎	280
5. 化膿性肺炎又肺膿瘍	283
6. 慢性肺間質炎	284
肺 氣 腫	285
息 癆	288
附 喘 息	292
肺ノ腫瘍	293
肺ノ寄生蟲	294
肺包蟲又肺ゑひのこっかす	294
第六 肋膜ノ疾病	295
肋 膜 炎	295
胸 水	301
氣 胸	303

第三篇 循環器病	304
第一 心囊ノ疾病	304
心 囊 炎	304
1. 牛ノ心囊炎	304
創傷性心囊炎及心臟炎	304
2. 馬及他ノ家畜ノ心囊炎	308
心囊水腫	310
心囊氣腫	311
第二 心臟ノ疾病	311
心悸亢進	311
心動緩徐	312
心動間歇	312
心臟肥大	313
心臟擴張	315
心 筋 炎	319
脂 肪 心	320
心臟破裂	321
急性心内膜炎	321
心臟瓣膜病	324
1. 僧帽瓣(二尖瓣)ノ閉鎖不全	326
2. 左房室口ノ狹窄	327
3. 三尖瓣ノ閉鎖不全	328
4. 右房室口ノ狹窄	329
5. 大動脈半月狀瓣ノ閉鎖不全	329
6. 大動脈口ノ狹窄	330
7. 肺動脈半月狀瓣ノ閉鎖不全	331
8. 肺動脈口ノ狹窄	331

混合心臓瓣膜病	332
心臓ノ腫瘍	334
心臓ノ寄生蟲	335
第三 血管ノ疾病	335
動脈瘤	335
附 大血管ノ破裂	336
動脈ノ血栓及栓塞	336
第四篇 泌尿器病	339
第一 腎臓ノ疾病	339
蛋白尿	339
血尿	342
尿毒症	343
腎充血	344
腎炎	346
1. 急性腎炎	346
2. 慢性腎炎	349
a. 慢性非硬化性腎炎又慢性混合腎炎	350
b. 慢性硬化性腎炎又慢性間質性腎炎又腎萎縮	351
3. 化膿性腎炎	354
腎膿瘍	354
腎盂炎	355
牛ノ細菌性腎盂-腎炎	356
腎水腫	359
腎石	359
腎ノあみろいど變性	361
腎臓ノ腫瘍	362
腎臓ノ寄生蟲	362

腎蟲(いゝすとろんぎらす-ぎがす)	362
第二 膀胱ノ疾病	363
膀胱かた-る	363
膀胱麻痺	366
第五篇 運動器病	368
れうまちす	368
1. 筋肉れうまちす	368
2. 關節れうまちす	374
旋毛蟲症(とりひな病)	376
附 人ノ旋毛蟲症	380
囊蟲症	381
第六篇 神経系病	385
總説	385
第一 腦及腦膜ノ疾病	386
腦貧血	386
腦充血	387
日射病及熱射病	389
電撃	391
腦ノ挫傷及震盪	392
腦卒中又腦溢血	394
腦血管ノ栓塞	397
腦軟化	397
急性腦膜-腦炎又急性腦水腫	397
腦炎	405
1. 單純腦炎又非化膿性腦炎	405
2. 化膿性腦炎又腦膿瘍	408
馬ノ流行性腦-脊髄膜炎又ぼるな病	410

項瘰又流行性腦-脊髓膜炎	416
山羊腰麻痺	417
慢性腦水腫又神乏症又眠狂	422
延髓球麻痺(舌・脣・喉頭麻痺)	426
牛ノ地方性咽頭麻痺	427
腦ノ腫瘍	427
腦ノ寄生蟲	428
旋回病	429
第二 脊髓及脊髓膜ノ疾病	434
脊髓炎及脊髓膜炎	434
脊髓ノ挫傷及震盪	437
馬ノ地方性脊髓麻痺	439
脊髓ノ壓迫麻痺	441
第三 末梢神經ノ疾病	442
末梢神經病ノ原因及症候總說	442
1. 三叉神經麻痺	444
2. 顏面神經麻痺	446
3. 前庭神經麻痺	448
4. 上肩胛神經麻痺	449
5. 橈骨神經麻痺	449
6. 大腿神經麻痺	450
7. 坐骨神經麻痺	450
8. 脛骨神經麻痺	450
9. 閉鎖神經麻痺	450
多發性神經炎	450
第四 官能的神經病	452
癲癇	452

急癇	457
產褥瘵癇又產褥急癇	457
牝犬ノ產褥瘵癇	458
他ノ動物ノ產褥瘵癇	459
產褥麻痺	459
彊梗	459
舞蹈病	460
橫隔膜瘵癇	461
眩暈	462
ばせどう氏病	464
神經系病附錄	465
醋癖	465
執拗又抗癖	468
家禽ノ神經系病	470
第七篇 皮膚病	471
總說	471
紅斑	474
蕁麻疹	475
濕疹	478
1. 犬ノ濕疹	480
2. 馬ノ濕疹	486
a. 馬ノ丘疹-水疱性濕疹	486
附 人ノ痒疹及癢痒症	488
b. 馬ノ慢性鱗屑濕疹	490
附 人ノ乾癬及糠秕疹	491
c. 馬ノ鬣癬・尾癬・糾癬	491
d. 馬ノ肢關節屈面ノ濕疹(水疔(繫皸)・膝皸・飛皸)	493

3. 牛ノ濕疹	495
4. 羊ノ濕疹	496
5. 豚ノ濕疹	496
食疹	497
1. 粕疹	497
2. 蕎麥疹	502
壞疽性皮膚炎	503
大水疱性皮膚炎又天疱瘡又大水疱疹	506
唇邊へるべす	507
瘰癧及癬	507
脫毛症	510
結節狀斷毛症	512
多汗症	512
脂漏症	513
皮膚寄生蟲病	515
血汗症	515
顆粒性皮膚炎又痒性皮膚炎又ひむし	516
牛ノわひ又こせ病	521
疥癬	525
總説	525
1. 馬ノ疥癬	533
2. 牛ノ疥癬	538
3. 羊ノ疥癬	539
4. 山羊ノ疥癬	545
5. 犬ノ疥癬	545
6. 猫ノ疥癬	547
7. 豚ノ疥癬	548

8. 家兎ノ疥癬	548
9. 家禽ノ疥癬	548
毛囊蟲癬又あからず癬	549
其他ノ皮膚寄生蟲	556
1. 蜘蛛類	556
a. だに(壁蝨)科	556
b. 雞だに科	558
c. 秋だに科	558
2. 昆蟲類	558
a. 半翅目	558
b. 微翅目	559
c. 雙翅目	559

(終)

緒 論

家畜内科学トハ家畜ニ於ケル各箇ノ疾病ヲ論究スル學科ナリ
疾病ノ類別法ハ1ニシテ足ラス或ハ病性ニ由リ或ハ症候・組織
變狀ニ基キ或ハ經過・轉歸等ニ由ル現今普通行ハル、ノ法ハ先
ツ疾病ヲ2類ニ大別シ更ニ解剖學的系統ニ從ヒ之ヲ細別スルニ
在リ

I 臟器病又局所病

- 1 消化器病
- 2 呼吸器病
- 3 循環器病
- 4 泌尿生殖器病
- 5 神経系病
- 6 運動器病
- 7 皮膚病

II 全身病

- 1 代謝機病
- 2 血液病
- 3 傳染病

本書ハ入り易キヲ旨トシ先ツ上卷ニ於テハ消化器病ヨリ順次
系統ヲ追テ臟器病ヲ説キ代謝機病・血液病及傳染病ハ下卷ニ於
テ詳論セントス生殖器病中妊娠・分娩ニ關スル諸病ハ産科學ニ

譲リ運動器病ハ外科学ニ屬スルモノ、外 2—3 ヲ論スルノミ

第一篇 消化器病

第一 口腔ノ疾病

口炎 Stomatitis. Maulentzündung 獨.

口炎ハ口粘膜ノ炎症ニシテ 原發・續發ノ別アリ原因ニヨリ外傷性・傳染性・微性竝ニ 中毒性口炎ニ區別ス 又病性ニ從ヒ紅斑性・かたーる性・丹毒性・ふれぐもーね性・水疱性・膿疱性・潰瘍性・くるっふ性及ぢふてりー性ノ別アリ臨牀上かたーる性・水疱性・ふれぐもーね性及潰瘍性ノ口炎ヲ重要ナリトス

1 かたーる性口炎 Stomatitis catarrhalis.

又單純口炎 Stomatitis simplex.

又紅斑性口炎 Stomatitis erythematosa.

病性 本病ハ口粘膜表層ノかたーる性炎症ナリ

原因 原發性口炎ノ原因ハ (1) 外傷例之銜傷・鋭齒・異物・麥芒・魚骨ノ類・粗暴ノ管理・粗硬ノ食物 (2) 化學的刺戟物例之あんもにあ水・巴豆油・吐酒石・昇汞・石炭酸竝ニ多數ノ有毒植物例之雙蘭菊・しきった・こるしくむ・煙草・芥子・毛茛科及大戟科ノ植物等 (3) 溫熱的刺戟例之熱湯・熱食ノ如シ (4) 被微ノ飼料例之野菜ノ微 *Polydesmus exitiosus*・小麥ノ微 *Puccinia graminis*・苜蓿

ノ微 *Uromyces* 及 *Tilletia caries* 等ノ如シ罕ニハ^{けむし}粘蕨ノ細毛・食物ニ混シテ口内粘膜ヲ刺戟スルコトアリ<sup>是レ器械的ノ傷害ノミナラス
化學的刺戟ニ基クモノナラン</sup>野菜ノ葉虱亦1因タリ (5) 中毒 水銀中毒ニ於ケルカ如シ所謂汞毒性口炎是ナリ

續發性口炎ハ消化器病及熱性病ノ經過中ニ發ス又附近粘膜ノ炎症ニ續發スルコトアリ例之咽頭炎ノ如シ生齒期及齒牙交換期ノ口炎ハ器械的ノ刺戟ト生齒ニ伴フ所ノ充血ニ因ル

症候 輕症ニ於テハ口内先ツ乾燥・増温・知覺鋭敏トナリ舌面ニ灰白色ノ苔ヲ生ス唇・頬ノ粘膜ハ潮紅シ門齒後部ノ口蓋ハ鬱血ノ爲メ腫起ス(蝦蟇腫 *Ranula*, *Froschgeschwülst*)口内ニ一種ノ甘臭アリ重症ニ於テハ唇・齒齦・頬ノ粘膜ハ潮紅・腫起シ罕ニハ爛斑ヲ生ス之カ爲メ患畜ハ甚シク粘唾ヲ漏ラシ食慾稍減損ス

猫ニ於テハ舌乳頭ハ白色若クハ黃白色ヲ帶ヒ舌縁ノ鮮赤色ニ對シ人ノ注意ヲ惹ク又牛・豚ニ於テハ圓錐形乳頭ノ上皮肥厚シテ恰モ鷺口瘡 *Soor* ノ觀ヲ呈スルコトアリ家禽ハ口炎ヲ發スレハ頻々嘴ヲ開クカ爲メ舌ハ乾燥シ其角質不透明トナル所謂家禽ノびぶ *Pip* (*Pellicula linguae s. Pituitas*) 是ナリ此屑ヲ病的ト誤認シテ剝脫ヲ試ムヘカラス

經過 輕易ノ症ニシテ速ニ治癒ス

療法 先ツ原因ヲ除去スヘシ輕症ハ概ネ原因療法ヲ以テ足レリトス較重症ニ於テハ屢清水ヲ以テ口内ヲ洗滌シ或ハ醋水(1:10)・食鹽水・硼酸(2—3%)・鹽素酸カリ(3—4%)等ヲ試用シ臭氣アレハくれをりん(0.5—1%)ヲ用ウ唾液・粘液ノ分泌旺盛ナレハ收斂劑(たんにん・明礬・檳皮煎汁等)ノ溶液ヲ以テ洗滌スヘシ

凡テ重症ニ於テハ粗硬ノ食ヲ禁シ流動物若クハ軟餌ヲ與フ被微ノ飼料ハ固ヨリ給與スヘカラス

② 水疱性口炎 *Stomatitis vesiculosa*.

又あふた性口炎

Stomatitis aphthosa sporadica.

病性 口粘膜ノ上皮層下ニ漿液瀦溜シテ水疱ヲ生スルモノヲ云フ即チ特發性あふたニシテ傳染性あふた(口蹄疫)トハ全ク異ナレリ

原因 被微ノ飼料ニ因ル例之苜蓿ノ微 *Uromyces*・野菜ノ微 *Polydesmus exitiosus* ノ如シ發芽ノ馬鈴薯・粘蕨ノ細毛其他ノ刺戟物ニ基クコトアリ時トシテ原因明瞭ナラサルモ概ネ食物ニ存スルヲ以テ之ニ就テ搜索スルヲ要ス

曾テトラケーネ種馬牧場ニ於テ100頭ノ種馬ノ中50頭之ニ罹リタルコトアリ其原因不明ナリシト云フ アフリカニ於テ Theiler 氏ハ傳染性水疱性口炎(方言 *Blauwtong*)ノ發生ヲ見タリ

症候 口粘膜即チ唇・頬・舌及口蓋ニ水疱ヲ生ス該水疱ハ清澄ノ漿液ヲ含ム或ハ散發シ或ハ簇發ス概ネ速ニ破潰シ鮮赤色ノ爛斑ヲ生シ日ナラスシテ癒ユ水疱ノ外・かた一る性口炎ノ徵アリ即チ粘膜ノ潮紅・腫起及流涎ヲ見ル水疱破潰後ハ暫時口内ニ疼痛アルカ爲メ食慾減少ス水疱發生ト同時ニ體温少シク上昇スルコトアリ苜蓿病ニ於テハ口炎ノ外・頭・乳房・四肢ニ丹毒性皮膚炎ヲ發スルコトアリ

經過 概ネ良好ニシテ速ニ治癒ス

診断 特發性ノあふたハ口蹄疫ト誤診シ易シ實驗ニ徴スルニ數多ノ動物之ニ罹リ熱ヲ發シ或ハ微ノ爲メニ胃症若クハ一般中毒ノ徴ヲ呈スレハ鑑別容易ナラス須ラク傳染ノ有無ニ注意シ疑ヒアレハ健畜ニ接種ヲ試ムヘシ蹄冠ニ於ケル水泡ノ缺如ハ診斷上注目スヘキ1要徴ナリトス

療法 粗硬ノ食ヲ禁シ屢、清水ヲ以テ口内ヲ洗滌シ且硼酸・鹽素酸カリノ溶液(3—4%)・くれをりん・さりちーる酸・明礬・たんにん・硫酸鐵等ノ溶液ヲ試ムヘシ

3 ふれぐも一ね性口炎

Stomatitis phlegmonosa.

病性 本病ハ口粘膜ノ重症炎症ニシテ粘膜下織ノ化膿ヲ伴フ症ナリ主トシテ馬ニ發シ罕ニハ羊ニモ生ス

原因 原發症ノ原因ハ全クかたーる性口炎ニ同シ繼發症ハ腺病・血斑病・炭疽等ノ經過中鄰接器關ノ化膿若クハ壞死ニ基クモノトス

症候 口粘膜ハ著シク潮紅(帶青赤色ヲ呈ス)・腫脹シ大ニ疼痛アリ頬・唇・舌モ亦腫脹シ終ニ上唇下垂シ舌尖ハ門齒間ニ現ハレ其邊緣及尖端ニ齒ノ壓痕ヲ印ス唾液ハ絶エス漏出シテ口角ヨリ縷ヲ曳ク重症ニ在テハ咽頭炎ヲ併發シ嚥下困難トナリ往々鼻粘膜ニ波及シテ粘液様黃褐色ノ鼻液ヲ漏シ顎凹及咽頭ノ淋巴腺ハ急性腫脹ヲ呈ス

經過及豫後 原發症ハ常ニ良性經過ヲ取り2—3週日內ニ全ク恢復ス組織ノ壞死及膿瘍ヲ伴フ重症モ適當ノ治療ヲ加ヘハ治癒ス咽頭後壁及氣管ニ波及セルモノ及惡性傳染病ニ繼發セルモ

ノハ豫後概ネ不良ナリ

療法 飼料及牧場ヲ變換スヘシ一般療法ハかたーる性口炎ニ同シ化膿及敗血性炎症ニ對シテハ外科的療法ヲ要ス

4 潰瘍性口炎 *Stomatitis ulcerosa.*

病性 本病ハ口粘膜ノ壞疽性炎症ニヨリ潰瘍ヲ發スルモノニシテ好テ肉食獸ノ齒齦ヲ侵ス

原因 虛弱・貧血ノ犬・猫ニ發シ易ク又胃腸病・佝僂病及犬瘟熱ニ續發スルコトアリ誘因ハ外傷又ハ化學的・溫熱的ノ刺激ナリトス往昔本症ヲ壞血病ノ一種 *Scorbutus. Scurvy* ト同視シタルハ大ニ誤テリ潰瘍ノ眞因ハ細菌ノ傳染ニアリ凡テ口内ノ不潔・齒石ノ堆積ハ細菌傳染ヲ促ス而シテ其細菌ハ壞疽菌・敗血性唾液菌・化膿球菌・大腸菌 *Bacillus necroseos, Staphylococcus pyogenes aureus, Bacillus salivarius septicus, Bacillus coli communis* 等トス又牛・馬・羊ニテハ鏽黴・爛黴ニ原クコトアリ

馬ハスウエデン苜蓿 *Trifolium hybridum* ノ草圃ニ放牧セラレ、際之ヲ發シ又多數ノ *Setaria viridis* ヲ混セル乾草ヲ食シ之ニ罹ルコトアリ又絲狀菌中ノ *Hyphomyces destruens equi* ハ馬ノ唇潰瘍ノ原因トナル

仔羊ハ黴 *Polydesmus exitiosus* ヲ食シ流行性齒齦炎ヲ發スルコトアリ

繼發症ハ流行性鷺口瘡・傳染性膿疱口炎・慢性豚疫・家禽ぢふてり一等ニ發ス

症候 犬ノ齒齦ハ赤色ヲ呈シ齒頸ノ周圍ハ腫起ス一兩日ヲ經レハ其腫脹ハ暗赤色トナリ益々腫大シ齒齦ト齒トノ間ニ間隙ヲ生シ輕ク壓スルモ出血ス漸次灰綠色又ハ灰黃色ニ變シ壞疽性

ノ痂皮ヲ生ス此痂皮自然ニ脱落スルカ若クハ人工ヲ以テ剝離スレハ大小不同ノ潰瘍ヲ生ス之ト同時ニ涎シ口角ヨリ粘稠血色ノ液ヲ漏ラシ口内ハ臭氣 Foetor ex Ore ヲ放ツ唇・頬罕ニハ舌ノ下面ニ粘膜ノ充血及細胞ノ浸潤ヲ見ルコトアリ

草食獸ノ潰瘍性口炎ハ肉食獸ノモノトハ稍、趣ヲ異ニス仍テ次ニ其症狀ヲ略説ス

草食獸ノ症候 牛・馬・羊ノ潰瘍性口炎ハ微ニ原キ口粘膜潮紅・腫脹シ唇ニ潰瘍ヲ生シ涎ヲ流ス重症ニ於テハ齒齦・口蓋及舌ノ側面ニ豌豆大乃至50錢銀貨大ノ灰色・灰褐色ノ隆起セルちふてり一斑ヲ生ス其痂皮狀物ヲ除キ去レハ瘍底ハ深赤色ヲ呈ス此他微中毒ノ全身症狀アリ

経過 良性ノ症・少壯ノ動物ニ於テハ潰瘍ハ深大トナラス身體ノ違和至テ輕ク無熱若クハ微熱アルノミ8—10日ヲ經テ癒ユ老畜及再患畜ニ於テハ浸潤・潰爛共ニ頗ル迅速ニシテ患齒ハ弛緩シ齒根ハ灰白色ノ齒髓若クハ齒槽骨膜炎 Periostitis alveolaris ノ病的產物ニ圍繞セラレ遂ニハ下顎骨ノ骨疽ヲ生シ罕ニハ口腔ト鼻腔トノ間ニ瘻管 Fistule ヲ生ス唇・頬ノ粘膜潰瘍ヲ生スレハ硬ク緊張シ其1部ハ浮腫シ近傍ノ淋巴腺ハ腫脹シ全身ノ違和甚シク全快スルモノ稀ニシテ概ネ敗血症ヲ續發シ熱度頗ル高ク脈搏細數・食慾缺損・下痢・衰憊・精神痴鈍・昏睡ニ陥リテ死ス其経過ハ6—12日ナリ時トシテハ慢性ニ轉ス

豫後 患畜ノ體質・年齢及他部ノ係累ニ由テ異ナレリ凡テ強壯・幼少ノ者ハ豫後良ニシテ虛弱・老衰ノ者ニ在テハ不良ナリ

療法 柔軟ノ滋養物ヲ細割シテ與ヘ(例之細割ノ生肉)屢、口腔内ヲ洗滌・消毒スヘシくれをりん(1%)溶液頗ル妙ナリ除臭

ノ爲メ過まんがん酸カリ(0.3%)ヲ用ウルコトアリ潰瘍面ハ石炭酸水(1—2%)・昇汞水(1000倍)ヲ以テ洗滌シ硝酸銀(1—2%)又ハ蘆薈ちんき・五倍子ちんき等分ヲ塗ル齲齒 Caries 及弛緩ノ齒ヲ拔去シ骨膜腐壞スレハ鹽化亞鉛(2—3%)溶液又ハよーどちんきヲ塗抹シ或ハ硝酸銀棍ヲ施ス既ニ敗血症ニ陥レハ局所療法ハ概ネ功ヲ奏セス強壯・防腐及衝動ノ法ヲ主トスヘシ

第二 唾腺ノ疾病

流涎症 Ptyalismus, Salivatio.

Speichelfluss 獨

病性 唾液ノ分泌非常ニ増加スルカ又ハ口内ノ唾液ヲ嚥下スル能ハサルカ爲メ唾液ノ口外ニ漏出スル症ヲ云フ獨立ノ1症ニアラスシテ種々ナル疾病ノ1症候ニ過キス

原因 流涎ハ屢、口炎及咽頭炎ニ發ス又口腔・咽頭及食道ノ異物・嚥下ノ障礙・咽頭諸筋麻痺ノ場合ニ起ル而シテ咽頭及食道ノ麻痺ハ狂犬病・產褥麻痺・腦病・微(ちれちあ・かりーす)其他變敗食ノ中毒ニ於テ見ル所ナリ犬ニ於テハ胃腸病及寄生蟲ノ爲メ流涎シ罕ニハ耳下腺炎竝ニ子宮・卵巣ノ疾病ニ由リ反射性流涎ヲ來スコトアリ

唾液分泌ヲ促進スル藥劑(催唾藥)ハ水銀・びろかるびん・にこちん・あれこりん・むすかりん・よーどノ類ナリ

症候 唾液ハ泡沫狀ヲ呈シ口邊ヲ濕ス或ハ粘縷ヲ牽キ口角ヨリ垂下ス

破傷風及舌・咽頭麻痺ノ場合ニ於テハ多量ノ唾液口内ニ潑溜

シ強テ口ヲ開ケハ忽チ多量ノ唾液ヲ漏ラス

療法 原病療法ヲ主トスあとろびん 牛馬 0.01—0.02
犬 0.001—0.002・すこぼら
みん 大 0.01
小 0.002 ノ皮下注射ハ一時的唾液分泌抑制ノ效アリ口内ハ
頻々消毒・収斂ノ藥液ヲ以テ洗滌スヘシ

耳下腺炎 Parotitis.

病性 本病ハ耳下腺ノ外傷又ハ傳染ニ原ク炎症ニシテ殊ニ後者
ニ因ルモノヲ多シトス

耳下腺炎ノ原發症ハ人ニ多キモ家畜ニハ稀ナリ ベルリン高等獸醫學
校くりにつくニ於テ
ハ1886年ヨリ1894年マテ入院犬7
萬頭中僅ニ6回之ヲ見タリト云フ佛國ノ獸醫某ハ人ノまんぶす Mumps
ノ犬ニ傳染シタリト云フモ疑ナキ能ハス又 Bissauge 氏ハ小兒ノまん
ぶす流行ノ際牛ニ於テ流行性ノ耳下腺炎ヲ見タリト云フ

原因 原發症ハ耳下腺ノ外傷ニ因ル牛・馬・犬・猫・山羊ニ於テハ
特異傳染性ヲ帶フルモノアリ原因ニヨリ耳下腺炎ヲ別ツコト次ノ如
シ

- 1 外傷性耳下腺炎 Parotitis traumatica. 器械的損傷ニ由ル
- 2 特發性耳下腺炎 Parotitis idiopathica. 傳染ニ基ク而シテ傳染
毒ハ血液若クハ Stenon 氏管ヨリ腺實質ニ達スルモノ、如シ
- 3 繼發性耳下腺炎 Parotitis secundare. 排泄管ノ炎症ハ耳下腺
ニ蔓延ス口炎ハ排泄管ニ傳ハリ之ヨリ腺ニ移ル又腺疫・咽頭炎・犬
瘟熱ニ繼發ス
- 4 轉移性耳下腺炎 Parotitis metastatica. 膿毒症・敗血症・胸疫・
腺疫等ニ於テ之ヲ見ル
- 5 放線菌腫 Actinomykom. 本症ハ牛ニ多シ徐々發生シ漸ク
結シ後ニハ膿瘍ヲ生ス著シキ疼痛ヲ覺ヘス

症候 耳下腺ハ腫脹シ熱痛ヲ帶フ其周圍ニ浮腫アリ特發性ニ在テ

ハ全腺一樣ニ腫脹ス化膿スルハ稀ナリ他ノ場合 殊ニ近傍ヨリ
蔓延スルモノニ於テ
ハ限局性ニシテ小葉ノミ化膿ス其腫脹ハ往々近傍ニ波及ス腫脹甚シ
ケレハ飲食ヲ礙ク又罕ニハ唾嚥ヲ貽シ例外ニハ壓迫ノ爲メ顔面神經
ノ麻痺ヲ來ス流行性耳下腺炎ハ1側若クハ兩側ニ發シ大熱ヲ伴フモ
曾テ化膿セス牛ニ於テハかたニ一性乳房炎ヲ伴フコトアリ

診斷 腺疫及あんぎなノ經過中耳下腺下淋巴腺ノ炎症ト誤診スル
コトアリ解剖上ノ位置及一般ノ症候ニ注目スヘシ喉嚢ノ腫脹・靜脈
炎・皮膚若クハ皮下織ノ浮腫性又ハふれぐも一ね性炎症竝ニ耳下腺
ノ腫瘍亦鑑別ヲ要ス

療法 腫脹ニハ石炭酸水ノ罨法ヲ施シ耳下腺膿腫セサルトキハ溫
ばっふヲ施シ以テ化膿ヲ促シかんふる・くれをりん・石炭酸又ハよーど
はるむノ軟膏ヲ貼シ頑固ノ症ニハよーどちんき・荳膏軟膏・赤色よー
ど汞軟膏ヲ施ス牛ノ放線菌腫ニ在テハよーどかり (1日量5瓦)ヲ内
用セシム膿瘍ハ速ニ切開スヘシ唾嚥ハ外科手術ヲ要ス

第三 咽頭ノ疾病

咽頭炎 Pharyngitis.

又あんぎな Angina.

病性 本症ハ咽頭竝ニ其附近ノ炎症ヲ總稱ス獨リ咽頭ノミ
侵サル、ハ稀ナリ通常軟口蓋・扁桃腺及喉頭ハ多少炎症ヲ發シ
時トシテ歐氏管及喉嚢亦發炎ス人竝ニ小動物ニ於テハ軟口蓋炎
Uvulitis・扁桃腺炎 Tonsillitis 及咽頭炎ヲ區別シ得ルモ牛・馬ニ
於テハ臨牀上斯ク細別スルコト難シ又咽頭炎ニ原發・繼發ノ別
アリ時トシテ流行性ヲ帶フルコトアリ

咽頭炎ハ病性ニ從ヒかたニ一性・ふれぐも一ね性・くるっぶ性・ぢ

ふてり一性及出血性ニ分ツ生前ニ於テハ斯ノ如キ區別ヲ認メ難シ唯
かた一性・ふれぐも一ね性ハ病候ノ輕重・淋巴腺ノ繼患・熱度ノ
高低・経過ノ長短ニ由テ推察シくるふ性及ぢふてり一性ハ咯出セル
排泄物ニ由リ察知スルノミ

發生 咽頭炎ハ馬及豚ニ頻發ス牛及犬・猫之ニ次キ羊・家禽

ニハ稀ナリ 馬及豚ノ口腔後部ニ位セル扁桃腺ハ數多ノ盲孔ヲ具フ然ルニ他獸ニ
於テハ僅ニ1箇ノ深窩アルノミ是レ恐ラクハ馬・豚ニ咽頭炎ノ多キ
1因ナ
ランカ

原因 素因ハ幼弱・愛護過度ノ動物ニ存ス誘因ハ次ノ如シ

- 1 器械的・化學的及溫熱ノ直達刺戟 略ホ口炎ノ原因ニ同シ
- 2 感冒 寒烈ノ風・冰冷ノ水・凍沍ノ食物等ニ由ル一般ノ感冒モ亦之ヲ來ス實ニ感冒ハ普通ノ原因ナリトス
- 3 傳染 流行性あんぎなハ特異ノ傳染ニ因ル Streptococcus, Bacillus necrosos ノ如キ是ナリ 幼駒ニ流行スル咽頭炎ハ大抵腺疫ノ性ヲ帶フ産初ノ幼犬ニ流行スル咽頭炎ハ往々轉移性膿毒症ニ陥ル豚ニ於テハ屢、ぢふてり一性咽頭炎ヲ見ル又馬ノいんふるゑんざハ屢、傳染性咽頭炎トシテ現ハル
- 4 附近ノ炎症 鼻腔炎・喉頭炎・口炎等ハ孰レモ咽頭ニ蔓延スルコトアリ

繼發性咽頭炎ハ腺疫・口蹄疫・狂犬病・犬瘟熱・馬ノいんふるゑんざ・牛・豚ノ出血性敗血症・豚ベすと・血斑病・炭疽・鼻疽・結核等ニ發ス

剖檢 輕症(かた一性咽頭炎) 咽頭ノ粘膜ハ一樣若クハ斑點狀ノ赤色ヲ呈シテ腫脹シ硝子様若クハ膿様ノ粘液ヲ被ムリ線狀ノ爛斑ヲ呈ス

慢性咽頭炎ニ於テハ粘膜ハ蒼白色ヲ帶ヒ肥厚シテ皺襞ヲ生シ粘稠ノ液ヲ被ムリ濾胞及粘液腺ハ腫大ス

劇症(實質性及化膿性咽頭炎) 粘膜甚タ赤ク漿液浸潤ノ爲メ浮腫シ恰モ焦爛セルカ如ク膿若クハ不潔帶綠色ノ壞疽痂ヲ被ムリ痂皮ノ下・實質ノ缺損アリ 淋巴濾胞及粘液腺ハ半ハ豆大ニ腫脹シ半ハ化膿ス之ヲ截開スレハ數多ノ膿栓ヲ生ス

炎症若シ粘膜下織ニ波及スレハふれぐも一ねトナル咽頭周圍ノ淋巴腺ハ腫脹シ血液ヲ浸潤シ或ハ膿ヲ醸ス 又同時ニ喉頭炎・聲門浮腫・氣管枝かた一性・異物性肺炎及鼻腔・口腔ノかた一性ヲ見ルコトアリ

症候 1 咽頭ノ症狀 本病ハ概ネ徐發ス 3—4日ノ後食慾減損シ多クハ咳嗽ヲ發ス眞ノ初期ニ於テハ獸醫ト雖モ本病ヲ看過スルコトアリ病獸ハ頸ヲ保ツコト強硬ニシテ頸ノ屈伸若クハ側動ヲ忌避シ咽喉部ハ増溫シ之ヲ壓スレハ知覺過敏ニシテ咀嚼・嚥下共ニ困難就中嚥下ノ際ニハ疼痛ヲ覺ヘ或ハ全ク嚥下スルコト能ハサルモノアリ從テ粘稠ノ唾液口内ニ瀦溜シ臭氣ヲ帶ヒ口外ニ流レ飲食物ハ鼻孔ヨリ漏出ス青草ヲ與フレハ其逆出物ハ綠色ヲ帶フ蓋シ特徴ナリ

咽頭粘膜ノ變狀(潮紅・腫脹)ハ唯、小動物^{猪・羊・犬・猫・家禽}ニ於テ直接ニ目睹スルコトヲ得・大家畜ハ口腔長ク且軟口蓋發育スルカ爲メニ直視スルコトヲ得ス從テ臨牀實驗上病性ノ鑑別ハ容易ナラス 唯、病勢ノ輕重ニ由テかた一性若クハふれぐも一ね性ヲ察知スルノミ

2 呼吸器症狀 鼻粘膜ハかた一性ノ爲メ鮮赤色ヲ帶ヒ間、鼻孔ヨリ泡沫ヲ混シタル漿液様ノ液ヲ漏シ末期ニ至レハ膿様ノ

粘液ヲ出シ喉頭炎ヲ併發スレハ咳嗽ヲ發ス咳嗽ハ初期乾性ニシテ後ニ至レハ濕性ニ變シ咳嗽ト共ニ痰ヲ喀出ス呼吸ハ輕症ニ於テハ殆ト常ニ異ナラス重症ニ於テハ促迫シ喘鳴ヲ伴フ咽喉部ヲ聽診スレハらせる Russel ヲ聽ク

3 咽頭周圍殊ニ耳下腺部ノ症状 耳下腺下・顎凹又ハ舌下ノ淋巴腺腫脹スルコトアリ

4 熱候 熱候ハ整然タラス全ク無熱ナルモノアリ或ハ熱度輕微ニシテ僅ニ脈搏ニ由テ判シ得ルモノアリ脈ハ 40—48 ヲ算シ體温ハ 40—41°C ニ達スルコトアリ病初ヨリ高熱ヲ以テ發シ來ルモノハ傳染性ヲ示ス腺疫ノ經過中ニ發スルモノ、如シ病ノ經過中體温ノ突然昇騰スルハふれぐも一ね性ヲ示ス淋巴腺ノ化膿亦突然體温ノ昇騰ヲ來スコトアリ脈數ノ大ニ加ハルハ惡徵ニシテ既ニ 80 以上ヲ算スレハ豫後不良ナリ

5 消化器症状 往々劇シキ腸かた一るアリ屢、欠伸シ蠕動機衰へ糞ハ惡臭ヲ帶ヒ粘液ヲ被ムル尿ハ酸性ナルモ腸かた一るナキトキハ反應ニ異常ナシ尿ノ比重低ク時トシテ蛋白質ヲ含ム

6 皮疹 罕ニハ蕁麻疹ヲ認ムルコトアリ急ニ發生シ又急ニ消散スルモ再發シ易シ

經過 急性ヲ常トス單純かた一る症ノ經過ハ 6—8 日乃至 14 日間ナリ粘膜下織ノふれぐも一ね又ハ淋巴腺ノ炎症・化膿ハ 4—5 週日ニ互ル聲門浮腫ヲ發スレハ急ニ斃ル、コトアリ腫瘍竝ニ寄生蟲ニ由ルモノハ總テ慢性ナリ本病ノ經過中往々異物性ノ肺炎ヲ發スルヲ以テ胸部ノ診査ヲ怠ルヘカラス

豫後 病ノ輕重・廣狹及合併症ノ有無等ニ依リテ豫後ヲ異ニス輕易ノかた一るハ速ニ治ス重症ハ豫後慎重ヲ要ス何トナレハ

聲門浮腫・肺壞疽ニ由リテ突然斃ル、コトアレハナリ

診斷 本病既ニ發生シ諸徵悉ク具ハリ合併症ナキモノハ診斷容易ナリ然レトモ眞ノ初期ニ於テハ稍、鑑別シ難シ晚期ニ於テモ口内及咽頭ノ異物又ハ咽頭ノ腫瘍ト鑑別ヲ誤ルコトアリ食道ノ狹窄・痙攣竝ニ麻痺亦類似ノ症ナリトス其他耳下腺炎・舌炎・喉囊ノ腫脹及流涎ノ諸症ト誤認スヘカラス馬ノ腺疫ハ本病ト誤診セラレ易シ

療法 本病流行スルトキハ先ツ豫防ノ目的ヲ以テ病畜ヲ隔離スヘシ

攝生上廄舎ノ溫度及空氣ノ流通ニ注意シ賊風ヲ防キ馬體ヲ温包シ粗硬ノ食ヲ避ケ咀嚼・嚥下シ易キ滋養物ヲ給シ屢、新鮮ノ水ヲ與ヘ唇・鼻翼ヲ淨拭スヘシ廄舎内ノ諸器具ハ凡テ清潔ニシ口腔ハ冷水又ハ洗劑ヲ以テ頻々洗滌スヘシ

急性ふれぐも一ね性ニシテ劇痛ヲ帶フルトキハ初期ニ於テハブリースニツ (Priessnitz) 氏卷法又ハあんもにあ擦劑あんもにあ水 1分・おれふ油⁴若クハてれびん油トかんふるちんきノ等分合劑ヲ塗布シ或ハ芥子精 (3—5%) ヲ施ス醗膿ノ傾アルトキ竝ニ炎腫稍、輕キモノニ於テハ石炭酸水ノ卷法ヲ賞用ス 此卷法ハ苦痛ヲ緩解シ石炭酸ノ吸收セラル、ニ由テ炎症ヲ防クノミナラス硬キ炎腫ヲ軟化セシメ膿瘍ノ成熟ヲ促ス 腫脹セル淋巴腺ニハ從來水銀軟膏ヲ施シタリト雖其效驗ハ人ノ信スルカ如ク大ナラス限局性ノ硬腫アレハ芫菁軟膏ヲ施シテ解凝ヲ促シ既ニ膿瘍ヲ生スレハ速ニ之ヲ切開スヘシ

小動物ニ於テハ咽頭粘膜ニ直接藥液ヲ塗ルヘシ例之硝酸銀溶液 (2%)・よーどちんきちんき3分・ぐりせりん25分・明礬ぐりせりん (10%) ノ如シ Kagel 氏ハ馬ノ鼻孔ヨリ咽頭ニ向テごむ管長サ60種・壁厚ク内徑狭キモノヲ插

入シ食鹽水(0.5%)・昇汞水(1000倍)ノ類 40—60c.c.ヲ注入ス

Dieckerhoff氏ハルゴール(Lugol)氏液・硝酸銀・明礬等ノ溶液ノ咽頭内注射環状氣管韌帶ノ部ヨリ彎鍼ヲ刺スヲ賞揚スルモ時ニ危険ノ結果ヲ見ルコトアリ

吸入法ニハ熱湯・くれをりん・石炭酸犬・猫ニ於テハ之ヲ忌ム・てれびん油・(孰レモ1%)ヲ用キルモ其效能ハ甚タ大ナラス

内服薬ハ丸劑・水薬ヲ投スヘカラス 舐劑モ成ルヘク避クルヲ可トス凡テ強制的ニ内服薬ヲ飲マシムルハ嚴禁トス便秘及熱アルトキハ微温ノ食鹽水又ハ石鹼水ヲ灌腸シ1槽ノ飲水ニ鹽素酸カリ(40—50瓦)又ハさりち一酸そーだ(8—10瓦)ヲ混ス或ハ甘汞 1—2 瓦 $\frac{1}{3}$ 日 白糖ニ混シ舌上ニ撒布ス高熱アルトキハ頻頻冷水ヲ灌腸シ且軀幹ニ冷濕布ヲ纏フ又敗血熱ニ對シテハかんふるちんき 10—20 c.c. 宛數回皮下ニ注射スびろかるびん・あれこりんハ唾液ノ分泌ヲ促スモ嚥下困難ナルヲ以テ禁忌ニ屬ス窒息ノ虞アルトキハ氣管截開術ヲ行フ時トシテ氣管ノ創口ヨリルゴール氏液ヲ注入スルコトアリ

豚ノ咽頭炎 豚ニハ麥粉ノ粥・麩汁・青草又ハ乳漿ノ如キ嚥下シ易キ飼料ヲ給シ初期吐劑ヲ投スヘシ白藜蘆 0.5—2.0 又ハ吐根 1—3.0 ヲ食ニ混スレハ最モ便ナリ或ハ吐酒石 0.5—1.5 ヲ脂肪ニ混シ2回ニ分服セシム水劑ハ決シテ與フ可ラスダラとりん(0.02—0.03)ノ皮下注射耳ノ後面ニ於テハ頗ル便ナリ咽喉部ニ強刺戟劑ヲ塗擦スルコトアリ例之芫菁軟膏又ハ巴豆油 30 滴・てれびん油・あんもにあ擦劑各 500 瓦ノ合劑ノ如シ便秘アレハ脂肪ヲ啖ハシメ石鹼水ノ灌腸ヲ施ス

嚥下甚タ困難ニシテ治療ノ效ヲ見サルトキハ速ニ屠場ニ送ルヘシ

犬ノ咽頭炎 犬殊ニ虛弱ノ種類ニ多シ食思減損・嚥下困難・流涎

ノ徴ヲ以テ起リ尋テ耳下腺下ノ淋巴腺腫脹シ罕ニハ化膿ス咽頭ヲ檢スレハ其粘膜・扁桃腺・口蓋帆等ノ紅腫ヲ認ム 其經過ハ佳良ニシテ2—3週日内ニ癒ユ時トシテ咽頭炎ハ歐氏管ヲ沿フテ中耳ニ蔓延シ耳聾ノ原因トナル

咽喉部ニ温ばっふヲ施シ腺ノ腫脹ニハかんふる軟膏(1:10—20)・水銀軟膏又ハよーどほるむ軟膏(1:10)ヲ施ス慢性咽頭炎ニハ咽頭ノ粘膜ニ長キ筆ニテよーどちんき・過くろーる鐵液(1:6)若クハよーどぐりせりんヲ塗附シ或ハ硼酸若クハたんにな(白糖等分)ヲ吹入ス飼料ハ專ラ牛乳ヲ與フヘシ

咽頭ノ腫瘍

發生 咽頭及其周圍ノ腫瘍ハ概シテ稀ナリ乳嘴腫 Papillom・肉腫 Sarcom・癌腫 Carcinom・脂肪腫 Lipom ノ如キ新生物及潑溜囊腫 Retentioncyste ハ極メテ罕ニ遭遇スルノミ牛ニ於テハ往々放線菌腫 Actinomycom 又ハ結核腫瘍ヲ認ム

症候 咽頭ニ疼痛ナク腫瘍増大スルニ從ヒ嚥下益々困難トナリ尋テ呼吸困難ヲ來シ呼吸ニ當リ喘鳴・喘息・飛箭聲若クハ鼾聲ヲ發ス根蒂ヲ有スル腫瘍ニ在テハ呼吸困難ノ狀一層著シク窒息ニ陥ルモノアリ罕ニハ惡臭ノ鼻液ヲ泄ラシ往々之ニ血液及組織片ヲ混ス

豫後 豫後ハ腫瘍ノ位置及性状ニ由テ決定ス腫瘍ヲ除去シ得サレハ窒息・肺炎又ハ虛脱ニ陥リテ斃ル

診斷 小動物ニ於テハ直接目視シ得ルモ馬ニ於テハ鼻喉頭鏡ニ藉ラサレハ診定シ難シ牛ニ在テハ咽頭内ニ手ヲ插入シテ觸診スルコトヲ得

療法 根蒂ヲ有スルモノハ手術ニ依リ除去スルヲ得放線菌腫ニ對シテハよーどかりヲ服用セシム

咽頭ノ寄生蟲

1 馬蠅 *Gastrophilus* larven (*Gastrophilus haemorrhoidalis*, G. equi). 時トシテ多數ノ馬蠅ハ馬ノ咽頭後壁ニ鉤著シ咽頭粘膜ノ劇シキ炎症ヲ惹起ス喉頭内ニ迷入スレハ卒然窒息ニ陥ラシム

咽頭内ニ手ヲ挿入シテ直接寄生蟲ヲ除去シ或ハ油類ヲ内服セシム又棒ノ1端ニ亞麻若クハ綿ヲ纏ヒ之ニ油ヲ浸シテ咽頭粘膜ヲ摩擦スレハ幼蟲ハ粘膜ヨリ脱離ス

2 蜻 *Simulia columbacsensis*. 多數ノ本蟲牛ニ寄生スレハ口又ハ鼻腔ヨリ咽頭ニ侵入シテ咽頭粘膜ノ炎症ヲ惹起ス

3 水蛭 *Haemopsis Sanguisuga* (*Limnatis nilotica*) 歐洲南方ニ於ケル家畜^{馬・牛}ハ往々飲水ト共ニ水蛭ヲ攝取ス蓋シ水蛭ハ咽頭粘膜ニ達シ血液ヲ吸フテ此部ノ炎症ヲ惹起ス故ニ患畜ハ往々口及鼻腔ヨリ出血シ貧血ヲ來シ罕ニハ大出血ノ爲メ斃死スルコトアリ

暖國ニ於テハ豫防上飲水ヲ濾過シテ與フ患畜ニハ鹽類溶液・醋酸水若クハあんもにあ水ヲ注入シ又てればん油ノ蒸氣ヲ吸入セシム

4 ぢすふあらぐすーれちきゅらつす *Dispharagus reticulatus*. 時重氏ハ本蟲ノ爲メニ起リタル馬ノ重キ咽頭炎ヲ見タリ

第四 食道ノ疾病

食道炎 *Oesophagitis* Schlundentzündung 獨.

病性 食道ノ炎症ハ粘膜・粘膜下織・筋膜竝ニ食道周圍ノ結締織ニ發ス從テかた一性・實質性・ふれぐも一ね性及食道周圍炎 *Perioesophagitis* ノ別アリ終リノ3症ハ大抵異物又ハ食道破裂ニ基ク又本症ニ急性・慢性ノ別アリ

原因 かた一性性食道炎ハ時々咽頭炎ニ併發シ又全身病ノ分症トシテ現ハル例之牛痘・羊痘・ぢふてりー・口蹄疫ニ於ケルカ如シ犬ニ於テハ食道蟲 *Spiroptera Sanguinolenta* ノ寄生ニ因スル腫瘍ノ近傍ニ生ス又異物ノ符留・食道探子ノ誤用・苛烈ノ藥品ニ因ルコトアリ例之強酸・苛性あんもにあ水ノ誤用ニ於ケルカ如シ其他器械的・化學的・溫熱ノ刺戟之カ誘因トナル

剖檢 かた一性ニ於テハ粘膜ノ表面充血シ上皮盛ニ落屑スルモ粘液ノ分泌ハ増加セス而シテ上皮ノ缺損部ハ暗赤色ヲ呈シ往々出血スルモ其他ノ部分ハ上皮弛緩シテ容易ニ剝離スルヲ得粘膜下織ハ浮腫ヲ來ス重症ニ於テハ食道壁大ニ肥厚シ粘膜下織ハ筋層ト共ニ膠様又ハ膿様浸潤ヲ呈ス慢性かた一性ニ於テハ上皮著シク肥厚シ乳頭ハ増大突隆シ息肉様増殖ヲ招來ス

症候 輕かた一性ノ徵ハ顯著ナラサルヲ以テ初期ハ診斷シ難シ嚥下困難・嘔吐・食道ノ知覺銳敏ノ徵アレハ始メテ診斷スルコトヲ得ヘシあんもにあ水誤用ノ爲メ起リタル牛ノくるっぶ性食道炎ハ呻吟・流涎・咳嗽・嚥下不能ヲ來シ數日ノ後長サ15いんちノ義膜ヲ吐出シタルノ例アリ

療法 屢、氷片ヲ與ヘ清涼緩和ノ滋養食ヲ給シ收斂劑溶液(たんにん^{0.5-1%}亞麻仁煎ニ混ス・硝酸銀・鹽素酸カリ)ヲ用ウヘシ頸部ノ刺戟擦劑ハ無效ナリ狹窄ノ虞アルトキハ食道探子ヲ施スヘシ

食道梗塞 *Obstructio oesophagi*.

病性 食塊若クハ異物ニ因リ食道ノ梗塞スル症ナリ

原因 食道梗塞ハ牛ニ多シ大食片^{馬鈴薯・蕪薯・果實}若クハ他ノ異物ニ原ク時トシテ粗硬食ノ大塊食道ニ符留スルコトアリ反芻作用ニ

由リ毛球其他ノ異物ヲ第一胃ヨリ食道ニ反送シ來ルハ甚タ稀ナリトス

馬ハ粗大・乾燥ノ食片又ハ大哺塊ニ因リ食道梗塞ヲ來ス殊ニ貪饑ノ際咀嚼・混唾ノ不十分ナル哺塊ヲ嚥下シ或ハ麻醉藥ノ應用後・食道神經麻痺セル場合ニ起リ易シ罕ニ雞卵・丸藥・食道探子ノ破片・乳齒等ノ嚥下ニ原ク

犬ニ在テハ食片^{骨・軟骨・肉・魚骨}又ハ食ニ混シタル異物ニ原因ス偶、戲ニ小物體ヲ嚥下スルコトアリ罕ニハ嘔吐ニ際シ胃中ノ異物ヲ食道ニ筈留スルコトアリ

症候 病畜ハ突然喫食ヲ中止シ舉動不安トナリ頭・頸ヲ低下シテ嚥下運動ヲ行ヒ數、口ヲ開キテ多量ノ唾液ヲ泄ラス顔容憂愁ヲ帶ヒ舌ヲ口外ニ垂ル時アリ痙咳ヲ發ス此症狀ハ一時中止スルモ時々反復ス

飲食物ノ攝取全ク絶止シ或ハ飲食ヲ試ムルモ多クハ鼻孔ヨリ之ヲ逆出シ或ハ口ヨリ哺ヲ脱漏ス不全梗塞ニ在テハ水ノミハ能ク嚥下ス故ニ給水試験ニ頼リ梗塞ノ部位ヲ發見スルコトアリ即チ食道起始部ノ梗塞ニ在テハ飲食物ノ嚥下ヲ試ムルモ直ニ之ヲ逆出ス之ニ反シ下部ノ梗塞ニ在テハ逆出稍、遲シ

食道全ク充滿スレハ漸ク飲食ヲ廢シ單ニ虛嚼及ヒ嚥下運動ヲ行ヒ食道ハ頸ノ左側ニ於テ硬キ圓筒狀トナリ之ヲ壓スレハ絞扼ヲ來シ時トシテ嘔吐ス吐物ハ游離鹽酸ヲ含マス梗塞長キニ互レハ間、食道擴張ヲ將來ス豚ニ在テハ頸側ノ膨隆限局性ナラス卻テ散漫性ナルヲ常トス

牛及他ノ反芻獸ノ食道梗塞ハ速ニ鼓脹ヲ來ス然レトモ不全梗塞ニ於テハ鼓脹ハ顯著ナラス豚ニ於テモ梗塞久シキニ互レハ鼓

脹ヲ發ス豚ハ多ク1處ニ佇立シテ頭ヲ低レ口ヲ開キ涎ヲ流シ屢、絞扼シ多クハ伏臥セス反復飲水ヲ試ミ攝取シタル水ハ直ニ口ヨリ逆出ス犬ハ異物ニ因ル頸靜脈壓迫ノ爲メ頭部ニ浮腫ヲ生ス

經過及豫後 食道内ニ筈留セル異物ハ往々數回ノ絞扼運動ニ由リ暫時ニシテ排出セラレ或ハ食道筋ノ持續的攣縮ニヨリ胃ニ進送セラル食道ノ起始部又ハ末端ノ梗塞ハ治癒シ易シ異物久シク食道ニ停滯スレハ病勢漸次増悪シ牛ハ速ニ鼓脹ヲ發シ呼吸及循環ノ障礙ニ由リ數時間内ニ窒息ス

時アリ本病ハ數日ニ互リ病畜ハ遂ニ羸憊ス食道壁ハ異物ノ壓迫ニ因リ壞死シ其周圍ニ炎症ヲ繼發シ壞死部穿孔スレハ頸部ノ結締織ニ化膿性炎症ヲ來ス胸部食道ニ於ケル同様ノ變狀ハ肋膜炎ヲ併發ス

食塊ニ因ル梗塞ハ概ネ軟化シテ治癒ニ赴ク食塊モ時ニ食道ノ擴張若クハ穿孔ヲ來スコトナキニアラス馬ハ初メヨリ誤嚥肺炎及壞疽性肺炎ヲ來ス虞アリ

診斷 固形物ニ因ル食道梗塞ハ重キ嚥下困難ノ急發ヲ特徴トス頸部食道ノ梗塞ハ頸側ヨリ觸診シテ筈留物ヲ證明スヘシ咽頭部ノ梗塞ハ診斷最モ容易ナルモ他ノ部位^{殊ニ胸部}ノ梗塞ハ診定頗ル難シ

類症鑑別 食道痙攣ハ麻醉藥ノ應用ニヨリ速ニ治癒ス食道擴張及狭窄ハ稟告ト軟餌及液體ノ通過容易ナルトニ依テ鑑別ス食道麻痺ハ舉動不安・嚥下ノ大困難ヲ來スモ絞扼ヲ現ハサス

反芻獸ニ於テ他ノ原因ニ由ル急性鼓脹ハ反復絞扼運動ヲ行ヒ嚥下ヲ試ミ卻テ逆出ヲ缺キ食道探子ヲ送入スルモ障礙ニ遭遇セス胃内容

ヲ吐出スルモノハ酸臭ヲ放チ遊離鹽酸ヲ含ム犬ノ狂犬病亦嘔下困難
ヲ來スモ他ノ症狀ニ徴シ鑑別敢テ難シトセス

療法 食道起始部ニ箝留セル異物ハ口ヨリ挿入シタル手ニ
テ直接之ヲ除去シ或ハ適當ノ器械ヲ用ウ頸部食道ニ於ケル異物
ハ食道探子ヲ用キ胃ニ向テ押送ヲ試ムヘシ頑固ノ症ハ固ヨリ外
科手術ヲ要ス

醫藥トシテ吐劑ヲ與フ即チ豚ニハ 5% たらとりん 0.02—0.03 又
ハ鹽酸あほもるひね 0.05 (犬ニハあほもるひね 0.01—0.02) ヲ
皮下ニ注射スレハ直ニ異物ヲ吐出スルコトアリ又すとりに一
ね・忍ぜりん・5% たらとりんノ皮下注射ヲ行ヘハ筋ノ強キ收縮ヲ
起シテ異物ヲ胃ニ向テ通過セシムルコトアリ

食道擴張 Dilatio oesophagi.

病性 本病ハ食道ノ全管ニ互ルモノアリ (Ectasia oesophagi) 又 1
部ニ局限スルモノアリ (食道憩室 Diverticulum oesophagi) 擴張ハ狹
窄ト竝發シ大抵狹窄部ノ上ニ現ハル 其關係ハ心房室口狹窄ニ於ケル
心室擴張ノ如シ又先天性ノモノアリ

發生 本病ハ牛・馬ニ發ス罕ニハ羊・山羊・犬ニ觀察セラル

原因 狹窄久シキニ涉レハ食道ノ筋膜ハ次第ニ弛緩シ狹窄部ノ上
ニ停滞セル食物ノ爲ニ擴張ス狹窄ニ伴ハサル擴張ハ稀ニシテ食道壁
ノ炎症又ハ外傷ニ由ルモノ、如シ馬ノ食道ニ多キ胞子蟲(ふそろすば
るみあ Psorospermien schlauche) ハ恐ラク素因トナルモノナラン
Kitt 氏ハ迷走神經ノ疾患ニ基クト云フ

症候 本病ハ徐發スルヲ以テ其初兆ハ顯著ナラス最初喫食不正ニ
シテ食慾アリト雖モ能ク食フ能ハス 日ヲ追フテ羸瘦ス食後若干時ヲ
經レハ嘔吐ス嘔吐ハ間歇性ニシテ一定ノ時期ニ起リ間、鼻孔ヨリ食

ヲ漏ラス吐物ハ粘液ヲ被ムリ已ニ分解スルコトアリ 然レトモ決シテ
消化シタルモノナシ嘔下ハ困難若クハ不能ニシテ 往々口・鼻孔ヨリ
食餌ヲ混シタル粘唾ヲ漏ラス嘔下ニ際シテハ大ニ頭ヲ低レ後肢ヲ腹
下ニ攢メ嘔下ヲ試ミテ苦悶シ屢、吃逆様ノ聲ヲ發シ疝痛ノ如ク煩躁
スルモノアリ牛ハ鼓脹ヲ發シ反芻力減衰ス 多クノ場合ニ於テ大麥・
剉藁ハ能ク吞下スルモ乾草ハ嘔下スルコト能ハス

食後左ノ頸溝ニ腫脹ヲ發ス是レ第 1 ノ要徴ニシテ 拳犬乃至人頭大
ニ達シ按壓スレハ消失ス時トシテハ頸溝中ニ於テ痛ヲ帶ヒタル長キ
腫脹ニ觸レ得ヘク食物ヲ嘔下スルトキハ此中ニ蠕動アルヲ覺ユ食道
探子ヲ施セハ擴張部ノ下ニ於ケル狹窄ニ觸レ或ハ囊狀ノ膨大アルヲ
認ム又屢、咳嗽ヲ發シ呼吸困難ナリ甚シキハ氣管壓迫ノ爲メ窒息ス
罕ニハ異物性肺炎ヲ併發ス又罕ニハ頸ノ右側ニ腫脹ヲ認ム

經過 累年ノ宿痾ニシテ脱力・羸瘦・窒息・食道破裂・異物性肺炎
又ハ敗血ノ爲メ斃ル曾テ左側ノ頸動脈強ク搏動セシ 1 例アリ

豫後 不治・治癒ハ例外ニ屬ス

診斷 食道ノ破裂・咽頭炎・口炎・胃かた一る・中毒・疝痛ニ注意
スヘシ精密ノ検査・食道探子ノ應用ヲ要ス 經過ノ緩慢ハ診斷ノ 1 助
トナル

療法 治療多クハ效ナシ頻次少量ノ流動物又ハ半流動ノ營養物ヲ
與フヘシ食物停滞スレハ按摩シテ之ヲ除去シ 又ハ食道探子ヲ施シ場
合ニ由リテハ外科手術ヲ試ムヘシ 卒然呼吸困難ヲ來スコトアルヲ以
テ豫メ氣管切開術ノ準備ヲ怠ルヘカラス

食道狹窄 Stenosis oesophagi.

原因 先天性ハ至テ稀ナリ後天性ハ次ノ諸因ニ由ル

1 壓迫 食道ノ外部ニ腫瘍アリテ食道ヲ壓迫スルニ由ル例之甲

狀腺腫 Struma・放線菌腫 Actinomykom・淋巴腫 Lymphom・食道周圍ノ膿瘍 Abscessus periesophagi・氣管枝淋巴腺及縱隔淋巴腺ノ結核性腫脹・大動脈瘤・黑腫 Melanom・第一肋骨ノ骨瘤等ノ如シ叙上ノ腫瘍ハ食道ノ1側ヨリ壓迫シ或ハ環狀ニ食道ヲ緊約ス

2 梗塞 多クハ箱留シタル異物 骨・根菜・麵麩ノ1片・果實・丸劑・探子ノ破片等ニ因ル又食道ノ内腔ニ生シタル腫瘍ニ由ルコトアリ例之牛ノ乳頭腫・癭腫・放線菌腫・犬ノ寄生蟲 (Spiroptera sanguinolenta)ニ原ク腫瘍ノ如シ罕ニハ食道筋膜ノ肥厚及膿瘍ニ因ル

3 食道粘膜炎ノ癭痕的收縮 是レ食道ノ腐蝕・創傷又ハ癌腫變性ニ由テ來ル此種ノ變狹ハ眞ノ狹窄 Stricture ナリ

第一圖



牛ニ於ケル食道探子ノ應用

症候 狹窄部ノ上ニハ漸次擴張ヲ來ス從テ臨牀上狹窄ト擴張トヲ區別スヘキ特徴ナシ食道探子ヲ應用シテ始メテ診斷ヲ確ムヘシ牛ハ狹窄ニ於テ特徴ヲ呈ス(慢性鼓脹)蓋シ結核牛ノ氣管枝淋巴腺若クハ縱隔淋巴腺ノ變性・腫脹ハ食道ヲ壓迫シテ慢性鼓脹ヲ發セシム犬・猫ニ於ケル食道異物ハ Röntgen 光線ヲ用キテ發見スルヲ得ヘシ

療法 外科的ニ屬ス屢ニ食道探子ヲ施ス食餌ノ注意ハ前者ニ同シ食道ニ異物箱留スルトキハあれこりん・ゑぜりん又ハうらとりんノ皮下注射ヲ行ヒ放線菌腫ニ因ル狹窄ニハよーどかり(日々6-10.0)よーぢびん若クハよーどわぞーげんヲ試ムヘシ器械的ノ處置ハ外科書ニ讓ル

食道麻痺 Paralysis oesophagi.

Schlundlähmung 獨.

食道麻痺ハ概ネ咽頭麻痺ニ併發ス此2症ハ臨牀上區別シ難シ其原因ハ中樞(腦ノ嚥下中樞)若クハ末梢(咽頭・食道)ニ存ス其中樞性ハ腦出血・腦震盪・次急性腦炎・膿瘍・腫瘍・寄生蟲・中毒殊ニちれちあーか產褥麻痺・狂犬病ノ場合ニ發ス

末梢性ハ咽頭及食道ノ炎症殊ニ粘膜炎カ筋膜ニ蔓延シタル時ニ發ス其炎症ニ原發・繼發ノ別アリ後者ハ腺疫・血斑病ノ場合ニ發ス披裂軟骨截除術後ニ發シ又左側ノ顛仆・頸部ノ蹴踘・打撲等ニ原クコトアリ

症候 主徴ハ嚥下不能・流涎・吐哺ニシテ咽頭ヨリ胃ニ至ル迄食道ノ全管ハ食餌ヲ充實ス從テ左側頸溝内・氣管ノ下ニ當テ圓筒形ノ腫瘍ニ觸レ得ヘシ症候ハ略ホ食道狹窄ニ同シ腦症ノ徴ハ原病ニ由テ異ナレリ合併症ハ異物性肺炎ナリトス

療法 屢ニ食道探子ヲ施シ外部ニ刺戟劑ヲ塗リすとりに一ね・あれこりん・うらとりんノ皮下注射並ニ電氣療法ヲ試ムヘシ罕ニハ自

然ニ治スルコトアリ

食道痙攣 Oesophagismus, Oesophagia spastica.

食道ノ症候的攣縮ハ屢、之アルモ特發性痙攣ハ至テ稀ナリ人多クハ繼發症ヲ認メテ特發症トナス

原因 馬ニ於テハもるひね・くろくほるむ・抱水くろら一ノ麻醉後ニ多シ食道ニ箱留ノ食塊・食道傷害・潰瘍等ハ純神經病ニ由ルモノト頗ル相類セル痙攣ヲ發ス純神經症ハ稀ナリ

症候 搖擗狀ノ發作ヲ以テ嘔吐シ四肢ヲ腹下ニ攢メ或ハ食間突然前肢ヲ以テ地ヲ爬シ疝痛ノ狀ヲ示シ嚥下スルコト能ハス食道大ニ緊張シ之ヲ壓スレハ嘔吐ヲ催ス

療法 ぶろむかり・抱水くろら一・もるひね等ヲ用ウ //

食道破裂 Ruptura oesophagi.

原因 食道破裂ハ外傷(蹴傷・顛倒)異物箱留及食道探子ノ暴用ニ由ル憩室又ハ脂肪變性存スルトキハ食道壁ハ尋常嚥下ノ際ニモ偶然破裂スルコトアリ

症候 裂口ノ頸部ニ在ルト胸部ニ在ルトニ由テ症候ニ差アリ其頸部ニ在ルヤ食餌ハ裂口外ニ漏出シ大腫瘍ヲ呈シ終ニふれぐも一ね性炎症ヲ發シテ嚥下スルコト能ハス口・鼻孔ヨリ飲食ヲ逆出ス又往々食道周圍ノ結締織中ニ空氣竄入スルカ爲メ頸・頭・肩ニ散漫性氣腫ヲ發シ或ハ食道瘻ヲ生シ之ヨリ出ル空氣ハ不快ノ臭氣ヲ帶フ又食道氣管瘻ヲ生スルコトアリ

胸部食道破裂スレハ病候ハ更ニ劇ナリトス乃チ突然卒倒シ呼吸促迫シ重性肺充血ノ如キ徵ヲ呈シ或ハ疝痛類似ノ狀ヲ示ス氣胸又稀ナリトセス隨テ大ニ苦悶・震戦シ嘔吐ヲ試ミテ頭ヲ直伸シ大ニ頸筋ヲ

攣縮シ終ニハ化膿性若クハ糜爛性肋膜炎ヲ發シテ斃ル犬ノ食道異物ハ食道ヲ穿孔シ前大動脈ヲ破リ亡血致死ノ1例アリ

療法 胸部食道ノ破裂ハ治スヘカラス頸部食道破裂スレハ往々手術ヲ施シテ救フコトヲ得

食道ノ腫瘍

牛ノ食道ニハ往々乳嘴腫若クハ放線菌腫ヲ生ス馬ノ食道ニ於テハ纖維腫 Fibrom・黑腫 Melanom・癌腫・犬ノ食道ニ於テハ肉腫・軟骨腫 Chondrom 及瀰溜囊腫ヲ見ル

總テ食道ノ腫瘍ハ食道狭窄ノ症狀ヲ呈ス頸部食道ニ生シタルモノハ手術ニ依リ除去スルヲ得ヘク放線菌腫ニ對シテハよ一ど製劑ヲ處方ス

食道ノ寄生蟲

すびろせるか-さんぐいのれんた

Spirocerca sanguinolenta.

發生 すびろせるか-さんぐいのれんたハ從來本邦及佛・伊・支那・ブラジル・インド・トルコ・チュニスノ犬ニ觀察セラレタリ Roger 氏ニ據レハ本邦ノ犬ニ於テハ 10%・チュニスニ於テハ 70% 以上モ寄生スト云フ

原因 本蟲ハ血様赤色ノ線蟲ニシテ長サ 3—8 cm. アリ雄蟲ハ雌蟲ヨリ短ク且其尾端ハ捲回ス Grassi 氏ハ ^{アブラムシ} Blatta orientalis ナ中間宿主ト見做シタルモ之ニ疑ヒテ抱クモノアリ 小野氏ハ滿洲ニ於ケル研究ニ依リ糞食昆蟲ばふんころがし *Gymnopleurus sinnatus* カ滿洲ニ於ケル中間宿主タルヲ證明セリ

病理 幼蟲ハ攝取セラレタル
 蜚ト共ニ犬ノ胃ニ達シ之ヨリ食
 道ニ遊走シテ其粘膜下織ニ侵入シ
 胡桃大ノ瘤腫ヲ生ス該瘤腫ハ膿ヲ
 醸シ數箇^{20箇ニ}達ス_{達ス}ノ蟲ヲ宿シ其頂點
 ニ小孔ヲ有ス又本蟲ノ1部ハ胃内
 ニ寄生シ時トシテ淋巴流若クハ血
 流ニ由リテ他ノ器官^{殊ニ大}ニ達シ_{動脈壁}
 テ局所ノ炎症ヲ起サシム Roger 氏
 ニ據レハ本蟲ハ神經ヲ興奮スヘキ
 代謝產物ヲ生スト云フ



すびろせるか-さんぐいのれんた
 食道粘膜ノ含蟲結節 (右下隅)

症候 主徴ハ消化障礙(嚥下困難・絞扼運動・嘔吐・虚嚼)ナリ其他
 往々乾咳・窒息發作及羸瘦ヲ認メ時トシテ 神經障礙ヲ來シ 後軀麻痺
 若クハ狂犬病様ノ舉動ヲ現ハス重症ハ死ヲ免レス 大動脈破裂スレハ
 卒然斃死ス

療法 對症療法ヲ施スニスキス豫防法トシテハ蜚ヲ啖ハシメサル
 様注意スヘシ

其他ノ食道寄生蟲

1 **ごんぎろねま-すくた-つむ** *Gongylonema scutatum* ハ絲
 狀蟲ニシテ長サ 4—14 cm. アリ牛ノ食道ノ上皮層ニ寄生シ羊・山
 羊ニモ發見セララルごんぎろねま-ふるくるむ *G. pulchrum* ハ豚ニ寄
 生ス

2 **ふいらりあ-がすつろふ-ら** *Filaria gastrophila* 猫ノ食道ニ發
 見セララル

3 **牛蠹** *Hypoderma bovis* ノ幼蟲ハ夏期及冬期ニ於テ牛ノ上部
 食道及咽頭粘膜下ノ結締織内ニ寄生ス時アリ血液浸潤ヲ來ス

第五 家禽ノ嚥囊病

嚥囊かた-る *Ingluviitis. Kropfkatarrh* 獨.

原因 嚥囊かた-るハ嚥囊中食餌ノ 停滯・乾固・分解ニ由テ發シ
 又ハ既ニ醱酵若クハ分解セル食物ヲ攝取スルニ原キ 或ハ寄生蟲ニ因
 ル又腐蝕藥中毒ノ爲メ劇シキ炎症ヲ起スコトアリ 例之燐・砒石・食
 鹽・汞劑ニ因ル中毒ノ如シ

症候 食慾多クハ全廢・嚥囊軟腫或ハがす蓄積シテ鼓脹ノ狀ヲ呈
 ス病雞ハ嘔吐ヲ試ミ或ハ眞ニ嘔吐シ 惡臭ノがすヲ嘔出シ嚥囊ヲ壓ス
 レハ直ニがすヲ排ス病雞ハ虛弱・榮養不良ノ爲メニ斃ル

療法 按摩シテ嚥囊内ノ食塊ヲ口内ニ壓出シ 防腐收斂溶液(硼酸
 水2%・硫酸鐵1%)又ハさりち-る酸溶液1茶匙ヲ投シ1日間絶食
 セシメ數日間軟食ノミヲ與ヘ穀類ヲ給ス可ラス

嚥囊秘結 *Obstructio ingluviei.*

原因 硬固ノ不消化物(硬固ノ食・異物)ノ蓄積スルニ因ル

症候 嚥囊甚シク膨大シ前者ト異ナリ硬固トナリ食ヲ喫セス嚥
 ヲリ惡臭淡色液ヲ漏ス時トシテ嚥囊壁破裂シ 或ハ反復擴張ノ結果垂囊ニ
 變ス異物ノ疑アレハ X 光線ヲ藉リテ検査スヘシ

療法 按摩シ鹽酸ノ 1—2 滴ヲ薄荷浸1茶匙ニ混シテ與ヘ(1日
 3—4回)又外科手術ヲ施シテ内容ヲ除去ス

嚥囊ノ寄生蟲

家禽ノ食道・嚥囊及胃ニ種々ノ絲狀蟲宿リテ 往々嚥囊かた-るヲ
 惹起ス

1 ぢすふらぐす-うんしなつす *Di pharagus uncinatus* ち-うんしなつすハ人ノ外鵝・鴨及鵠ノ食道ニ寄生シち-なす-つす *D. nasutus* 及ち-らちせぶす *D. laticeps* ハ雞ノ胃及嚙囊ニ寄生ス

2 ごんぎろねま-いんぐり-ういこ-ら *Gongylonema ingluvicola* ハ雞ニ発見セラレ

3 とりこぞ-ま-こんとるつむ *Trichosoma contortum* ハ鵝及鴨ノ食道ニ寄生ス

第六 胃腸ノ疾病

嘔吐 Vomitus, Erbrechen 編

病性 嘔吐トハ不快ヲ感シ胃ノ内容ヲ口又ハ鼻孔ヨリ排出スル作用ヲ云フ或ハ延髄ニ於ケル嘔吐中樞ノ刺戟ニ由リ(中樞性嘔吐)或ハ反射刺戟ニ原ク(反射性嘔吐)殊ニ後者ヲ多シトス

原因 反射性嘔吐ハ胃腸病ノ經過中屢之ヲ見ル其原因ハ次ノ如シ

- 1 過食 豚・犬ニ多シ牛ニ於テモ稀ナリトセス
- 2 胃粘膜ノ直達刺戟 刺戟性ノ食物・苛烈ノ藥品
- 3 胃粘膜ノかた-る若クハ炎症 例之豚丹毒・犬瘟熱・家禽これら・胃蟲症・胃潰瘍
- 4 腸ノ閉塞 異物又ハ腫瘍ニ因ル幽門部ノ狭窄若クハ閉塞或ハ胃ノ附近ニ於ケル腫瘍ニヨリ胃カ壓迫ヲ蒙ムルトキ又腸ノ閉塞ハ腸變位ニ際シ起リ易シ
- 5 腹膜ノ刺戟 腹膜炎ニ於テ屢嘔吐ヲ見ル是レ腹膜ヨリ反射的ニ嘔吐中樞ヲ刺戟スルニ由ル
- 6 咽頭ノ刺戟 豚・犬ノ咽頭炎・咽頭ノ異物ニ於テ嘔吐ヲ

見ル犬ハ痙攣性咳嗽ノ發作中嘔吐シ牛ニ於テハ縦隔淋巴腺ノ結核腫瘍カ迷走神經ヲ壓迫シテ嘔吐ヲ來スコトアリ

中樞性嘔吐ハ船暈 See-krankheit・頭蓋ノ外傷及種々ノ腦病・尿毒症・膽石症ノ經過中ニ發シ又藥物ノ中毒ニ由ル例之あほもるひね・ぢらとりん・あれこりん等ノ如シ

嘔吐ノ難易 犬・猫ハ最モ嘔吐シ易シ豚・家禽之ニ次ク反芻獸ハ容易ニ嘔吐セス馬ハ最モ嘔吐シ難シ蓋シ馬ニ於テ嘔吐ノ困難ナル所以ハ胃ノ構造特異ニシテ噴門ノ括約筋能ク發育シ食道ハ胃ノ中央斜ニ開口シ且胃ハ甚タ小ナルニ由ル但シ Marek 氏ハ之ヲ馬ニ於ケル嘔吐中樞ノ發育不全ニ歸セリ

症候 前兆ハ嘔意 Nausea ニシテ輕微ノ不安・舌ノ運動・空嚔・流涎・呼吸ノ異常等ナリ馬ハ腹筋及頸筋ヲ痙攣狀ニ收縮シ頭ヲ掣下シ頸ヲ低レ口及鼻孔ヨリ帶綠黃色・泡沫狀・酸臭ノ液ヲ吐出ス吐物ノ稠度其他ノ状態ハ食物ニ由リテ差アリ其量モ亦一定セス或ハ1回ニ滿槽ノ量ヲ吐出シ或ハ數時間内頻々反復シテ少量ノ液ヲ出ス其發作中病馬ハ發汗シ4肢ヲ腹下ニ攢メ眼球凸出シ眼光ハ銳シ嘔吐後ハ虚脱シ震戦・踉蹌・間・暫時ハ咳嗽ヲ發ス又直ニ嘔吐セス僅ニ唾液ヲ漏シ絞扼運動・暖氣ヲ催スコト多シ

吐血 Vomitus cruentus ハ胃炎・胃潰瘍・胃ノ腫瘍・胃ノ損傷ニ因ル胃ノ内容ハ食道若クハ咽頭ニ於テ血液ヲ混スルコトアリ肉食獸ハ過食後食物ニ凝固セル血液ヲ混スルコトアリ又寄生蟲ヲ吐出スルコトアリ

吐糞 Ileus, Miserere ハ肉食獸ニ於テ小腸ノ後部若クハ大腸ノ内容物ヲ胃ニ逆送シ胃ヨリ吐出スルモノニシテ糞固有ノ色及臭

氣ヲ帶フ又中毒(燐・砒石・青酸・石炭酸)ニ於テハ吐物ハ夫々固有ノ臭氣ヲ帶フ家畜ハ嘔意 Vomituritio (würgen) ヲ呈スルノミニシテ眞ニ胃ノ内容ヲ吐出セサルコトアリ

噯氣 Eructatio (Rülpsen) ハ反芻獸ノ生理的作用ナルモ鼓脹ニ於テハ頻ニ惡臭ノがすヲ噯出ス他ノ動物ニ在テハ胃腸内異常醱酵ノ徴トス

療法 過食及中毒ニ於テハ嘔吐ヲ制止スルノ必要ナシ然レトモ頑固ノ嘔吐ニハ頻々氷片ヲ與ヘ胃部ニ冷罨法ヲ施ス且麻酔藥(阿片・ぶろむ劑ノ内服・抱水くろら一ノ浣腸・もるひねノ皮下注射)ヲ試ムヘシ牛ニ在テハかんふる2瓦・卵黄2箇ヲ水2立ニ混シテ與フ犬ニハコーヒーヲ與ヘ功ヲ奏スルコトアリ又芳香藥(かみるれ)・えーてる・あるこーる等ヲ與ヘ炭酸水・平野水ヲ飲用セシム //

胃腸かた一る Gastro-enteritis catarrhalis.

Magen-darmkatarrh 獨.

病性 胃腸かた一るハ胃腸粘膜ノ表層炎ナリ古人ハ之ニ種ノ名稱ヲ下セリ胃弱^{消化困難} Dyspepsia・消化不良 Indigestio・胃病 Gastricismus, Status Gastricus・胃熱 Gastric fever 等はナリ胃腸かた一るニ原發・續發ノ別アリ前者ハ獨立シテ發シ後者ハ他ノ臟器病若クハ全身病ノ經過中ニ發ス

胃かた一るト腸かた一るトハ通常併發ス各家畜ハ胃腸ノ解剖的構造及生理的官能ヲ異ニシ且食物ノ關係同シカラサルヲ以テ實地上各家畜區分シテ論スルヲ便ナリトス

馬ノ急性胃腸かた一る

Akuter Magen-darmkatarrh beim Pferde 獨.

原因 馬竝ニ諸家畜ノ急性胃腸かた一るハ最モ屢ニ發生スル疾病ノ1ニシテ其原因半ハ胃腸粘膜ノ直達刺戟ニ因リ半ハ介達ノ感作ニ原ク又箇體素因アリ身體ノ虛弱・貧血・榮養不良・幼年・高齢・重病ノ恢復期・胃腸病ノ反復發生等皆素因ニ屬ス平素愛養セラル、改良馬種ハ些々タル原因ニヨリ胃腸病ニ罹リ易シ

直達刺戟 直達刺戟ニ次ノ數種アリ

1 不良ノ食餌 不消化又ハ變敗ノ食物例之硬キ木材質ノ纖維・過多ノ麥・豆類・塵埃濕氣ヲ帶ヒタル芻藁・黴ヲ生シタル麥・腐敗セル根菜^{甘藷・馬鈴薯・蕪菁}・醱酵性ノ青草其他飲食物ノ冷熱過度ノモ^{氷冷ノ水・凍沍被霜ノ草・蕪菁・蒸熱ノ食等}・不潔汚濁ノ水

2 飼養法ノ失宜 不規則ナル給食即チ給食時間ノ長短宜キニ適セス1日1回給食シ又ハ1回ニ大量ヲ過食セシムルカ如キ是ナリ過食ハ空腹後急ニ大量ヲ與フルトキ又ハ食物ヲ變更シ又ハ舍飼ノ動物ヲ放牧スル際ニ起リ易シ苜蓿ノ如キ醱酵性青草ノ貪饑ハ殊ニ害アリ新乾草モ亦往々不消化ノ原因トナル夏期冷水ノ過飲亦害アリ

3 咀嚼不全 齒牙交換ノ際齒齦過敏ナルカ又齒牙異常アルニ因ル

4 有毒植物 しきた・煙草・ぢぎたりすノ類

5 強烈ノ藥劑 峻下劑其他ノ苛烈藥

介達感作 間接原因ハ勞働過度・感冒等ニシテ給食後直ニ使

役スルハ殊ニ害アリ客馬車ノ寒暖ノ急變・不良ノ天氣ハ突然側枝充血ヲ起シ胃腸かた一ノ前提トナル又精神的感作興奮・翻倒・疼・痛・調教等酷熱・濕蒸及卑濕・不潔ノ厩舎ハ皆體質ヲ弱クシ以テ胃腸病ヲ誘發ス又胃腸病ハ地方病トナリテ流行シ他ノ傳染病ノ初期ト區別シ難キコトアリ

續發性胃腸かた一ハ數多ノ熱性病例之胸疫・犬瘟熱・血斑病等及心・肺・肝ノ慢性疾病ノ經過中ニ發ス

剖檢 原發急性胃腸かた一ノ爲メ斃ルハ稀ナリ續發症ニ於テハ陰性結果ヲ見ルコトアリ何トナレハ死後かた一ノ變狀消失スルコトアレハナリ

1 胃ノ變狀 胃ノ粘膜下織ニ漿液浸潤アリ胃ノ幽門部ハ腫起シテ皺襞ヲ生シ限局性若クハ散漫性ノ充血及血斑ヲ呈シ粘膜面ハ透明硝子様又ハ膿様ノ粘液ニ被ハレ該液ハ粘液・細胞・白血球及剝脫セル上皮ヲ含ム

2 腸ノ變狀 略ホ胃ノ變狀ニ同シ腸ノ粘膜ハ腫脹・弛緩シ筋膜ニ浸潤アリ之カ爲メ腸壁ハ脆クシテ破レ易ク炎性充血ハ限局シ或ハ全面ニ散布シ或ハ絨毛ノミ充血シ弧腺・集腺亦腫大ス濾胞ハ化膿シ其上皮剝脫スレハ跡ニ小潰瘍ヲ貽ス重症ニ於テハ上皮ノ缺損即チかた一性爛斑ヲ見ル粘膜ハ漿液・粘液・膿様液若クハ血液ニ由テ被ハレ上皮細胞ハ大ニ剝脫スルコトアリ(落屑性かた一)

症候 1 急性胃かた一 初期ハ食慾減損シ或ハ食慾不正ニシテ嗜嫌不定・往々異嗜ヲ呈シ好テ冷物ヲ舐メ尿濕ノ糞ヲ咬ミ多ク水ヲ飲マス頻々欠伸シ又唇ヲ動シ奇異ノ狀ヲ呈ス

胃中ニ多量ノ食充滿スルトキハ病馬ハ嘔吐ヲ試ミ或ハ眞ニ嘔

吐ス此嘔吐ハ大害ヲ醸サス又劇烈ナル痙攣ヲ伴ハス放牧セル馬若シ白藜蘆葉ヲ食スレハ往々斯ノ如キ無害ノ嘔吐ヲ發ス

口粘膜ニ著シキ變狀アリ或ハ潮紅シ或ハ蒼白ニシテ處々不潔黃色ヲ帶ヒ初期ハ乾燥シ後ニハ粘唾ヲ含ミ微ニ甘臭ヲ放ツ舌ハ不潔ノ苔ヲ被ムル

腹圍ハ初メ平素ト大差ナキモ後ニ至レハ緊縮ス腸蠕動或ハ常ノ如ク或ハ減衰シ糞ハ乾固ニシテ小塊ヲナシ滑澤ノ粘液ヲ被ムル其量少ナク屢ニ排泄セラレ概ネ不消化ノ食塊ヲ雜ユ尿ハ著シキ異常ヲ呈セス或ハ減量ス十二指腸かた一ヲ伴ヘハ黃疸症狀ヲ呈ス精神ハ病ノ輕重ニ由テ多少痙攣トナリ倦怠ニシテ勞働ヲ欲セス疲勞・發汗シ易シ多クハ無熱ナルモ熱度昇騰スルコトアリ脈ハ8—12ヲ増加ス皮溫均一ナラス結膜潮紅ス概ネ痙攣ノ徵ヲ缺ク

2 急性腸かた一 急性胃かた一ニ反シ其初メ食慾常ノ如ク晩期ニ至リテ減スルノミ渴甚シク大ニ水ヲ食ル全身違和セス熱ヲ發セサルモノアリト雖モ概シテ一般ノ症狀胃かた一ヨリモ稍、劇ナリ主要ノ徵候ハ腸ニアリ蓋シ蠕動ハ活潑ニシテ腹中往々雷鳴ヲ聽ク痙攣ハ急性胃かた一ニ於ケルヨリモ頻發シ且稍、劇ナリトス

肚腹ハ時々がすニ由テ膨脹ス之ヲ按壓スレハ知覺過敏ナリ屢ニ大量ノ糞ヲ泄ラス糞球大ニシテ柔軟・無色若クハ黃白色ノ粘液又ハくるっぶ様ノ義膜ヲ被ムリ不消化ノ麥粒ヲ混シ酸臭ヲ放ツ脫糞後時々汚液ヲ絞出シ肛門・尾・内股ヲ汚染シ又時々惡臭ノがすヲ泄ラス

晩期ニ至レハ下痢ヲ發ス蓋シ下痢ハ腸かた一ノ要徵ニシテ當初糞ハ柔軟・濕潤ナルモ尋テ軟泥狀トナリ終ニハ水瀉シ酸敗・

腐敗ノ臭氣若クハ屍臭ヲ放チ肛門哆開シテ失禁自利シ體力頓ニ衰フ(溶崩性下痢)糞ノ反應ハ多クハ酸性ナリ(脂肪酸)時アリテ此徵ヲ缺クモノハかた一ノ小腸ニ局限セラレ水分再ヒ大腸ニ於テ吸收セラレ、ニ由ル

下痢アルモノ必ス大腸かた一ノアリト斷定スルヲ得ス何トナレハ青草ヲ食フカ爲メ糞ハ柔軟トナリ又ハ眞ノ一時ノ反射性腸蠕動ノ亢進及繼發性充血ニ由テ下痢スルコトアレハナリ例之身體大ニ冷却スル時ノ如シ

下痢アルトキハ尿ノ量ハ減少シ其比重重ク且變色シ沈渣ニ乏シクいんぢかん及磷酸鹽類ニ富ミ其反應ハ中性又ハ酸性ナリ馬ノ急性腸かた一ノ經過中一時的ノ丘疹及弱視ヲ認ムルコトアリ是レ恐ラクハ酸酵及腐敗產物ノ吸收ニ基クモノナラム

經過 輕症ノかた一ノ速ニ治ス6—8日以上ヲ經過スルハ稀ナリ下痢ノ後ニ輕易ノ便秘ヲ發スルコト少カラス原因持續シ又ハ病勢重キモノハ慢性トナル

診斷 大熱ナキ急性胃腸かた一ノ他ノ消化器病ト混同スルコト稀ナルモ原發性ナルヤ將タ續發性ナルヤ鑑別シ難キコトアリ腸炎及胃炎トノ區別亦容易ナラス

かた一ノ占位ハ診察スルヲ要ス小腸ニかた一ノアレハ往々黃疸ノ徵ヲ呈ス此徵ナキトキハ左季肋部及左腹側ニ於ケル小腸ノ蠕動音ニ注意スヘシ

大腸主トシテ病ニ罹レハ疝痛及下痢ヲ發ス直腸及其近傍ノかた一ニハ特徴アリ即チ糞ハ膜狀・網狀ノ粘液及上皮ノ凝集セル1層ヲ被ムル直腸かた一ノ劇シキトキハ反復少量ノ糞ヲ排シ裏急後重 Tenesmus アリ背ヲ彎シ大ニ努責ス

療法 第一豫防法ヲ專要トス即チ飼養・管理ノ衛生原則ヲ遵守スヘシ飼養・管理ノ注意ノミニ由テ自ラ治シ得ルモノ頗ル多キヲ以テ最モ之ニ重キヲ措クヘシ

凡テ刺戟物及不消化物ヲ避ケ少量ノ食^{殊ニ}青草ヲ與フヘシ過食ノ場合ニ於テハ暫時絶食セシムルノ必要アリ又獸體ヲ温覆シ日々數回摩擦シ1回若クハ2回暫時舍外ニ牽出シテ運動セシム

内服藥ハ病狀ニ由テ要示ヲ異ニス

1 過食症 食物胃中ニ停滯スレハ成ヘク速ニ腸ニ通過セシメンカ爲メ芒硝・吐酒石・人工かるゝす泉鹽ノ類ヲ與フ例之吐酒石 6.0・芒硝 300.0・蜀葵根末及水適宜・砥劑トナシ分服セシム蘆薈えきす 25.0・軟石鹼適宜ヲ塊劑トナス又少量ノ甘汞(2.5—3.0)ヲ白糖ニ混シテ與ヘ又ハ硫酸ゑぜりん(0.08—0.1)若クハあれこりん(0.05)ノ皮下注射ヲ行フ但シ非常ノ過食竝ニ心・肺病ノ患馬ニハふいぞすちぐみん・あれこりんヲ用ウ可ラス非常ノ過食ニハ胃かて一テるヲ施スヘシ

2 異常酸酵症 胃腸ニ酸酵ヲ醸セハ食後1—2時間ヲ經テ稀鹽酸10—15.0ヲ與フ又食鹽20—30.0・重碳酸ソーダ25—50.0ヲ散劑トナシ或ハ食物ニ混シテ與フ胃中ノ食物酸敗シ風氣ヲ醸セハ先ツ胃かて一テるヲ插入シがすヲ排除シタル後鹽類下劑ヲ投シテ胃腸内容ノ排泄ヲ圖リくれをりん5—15.0・甘草末25.0・蜀葵根末及水ヲ適宜3丸トナシ日々1丸ヲ内服セシム

3 消化微弱症 胃弱ニ於テモ亦稀鹽酸ヲ賞用スベふしん10—15.0・大黃ちんき・龍膽ちんき・複方きなちんき・苦味ちんき5—15.0又ハ食鹽100.0・芒硝300.0・鹽化あんもん50.0ヲ散劑トナシ毎餐1食匙ヲ混シテ與フ人工かるゝす泉鹽50—80.0

ヲ投シ或ハ大黃根末 15.0・重炭酸ソーダ・甘草各 10.0・蜀葵根末・水適宜ヲ舐劑トシテ 1—2 回ニ分與ス又蘆薈えきす 5.0 ヲ丸劑トナシ頓服セシム其他あにす・茴香・葛縷子・杜松子等ヲ應用スルコトアリ

4 下痢症 初期屢、下痢シ後ニ至リテ反復惡臭ノ糞少量ヲ瀉下スルトキハ少量ノ甘汞 (2—3.0) ヲ妙ナリトス又最モ食餌ニ注意シ冷水ヲ禁シ乾食ヲ給ス炒麥・大麥ノ粥・亞麻仁煎等 下痢尙ホ止マサレハ阿片劑ヲ處ス即チ阿片末 5—15.0 ヲ丸劑トナシ或ハ單方阿片ちんき 50—150.0 ヲ粘汁ニ和シテ頓服セシム或ル場合ニハ阿片ちんきニ番木鱧ちんきヲ伍ス其量ハ 5—10.0 ナリ下痢尙ホ止マサレハ收斂劑ヲ用フ例之檫皮末又ハきな皮末 50.0 ヲ炭酸カリ・重炭酸ソーダ等ニ混シ舐劑トナス或ハ硫酸鐵・明礬 20.0・たんにん 10.0 又ハ鉛糖 5.0 ヲ亞麻仁煎ニ混ス最後ニハ硝酸銀 0.5—1.0 ヲ礬土ニ和シ又ハ蒸溜水ニ溶解ス糞ノ酸臭ヲ帶フルトキハ重炭酸ソーダ又ハ炭酸カリ (1 日量 30.0) ヲ用ウ直腸ノかた一ニ於テハ澱粉又ハ收斂劑ノ灌腸ヲ施ス例之明礬・たんにん・硝酸銀 (1%) 等ノ如シ Trasbot 氏ハかんふる・あぎ各 10.0 ヲ卵黃 2—3 箇ニ混シ之ニ 1 立ノ米泔汁ヲ加ヘ乳劑トナシ 1 日 2 回反復内服セシム

馬ノ慢性胃腸かた一

Chronischer Magen-Darmkatarrh beim Pferde 獨

病性 本病ニ原發・續發ノ別アリ原發症ハ稀ナリ大多數ハ續發症ニシテ胃腸ノ器質的疾疾病・肺・心・腎ノ諸病ノ分症トナリテ發ス賤種ノ老馬ニハ最モ多キ病症ナリ

原因 急性かた一ニ於ルカ如ク許多ノ動物ハ素因ヲ有ス例之慢性榮養變調・貧血・惡液・重病ノ恢復期・慢性中毒・使役過劇ノ後ニ於ケルカ如シ急性ノ胃腸かた一ハ轉シテ慢性トナルモノ多シ乃チ急性胃腸かた一ノ原因久シク持續スレハ慢性ノかた一ヲ招來ス就中不正ノ飼養・不適-不消化ノ食物ヲ主因トス例之多量ノ麩・糠・剉藁ノ如シ硬莖竝ニ霜・黴・砂ヲ帶ヒタル食亦同般ノ害アリ食砂・嘔氣ノ癖亦慢性消化不良ヲ誘致スルコト稀ナラス老馬ニ在リテハ咀嚼不全・齒牙ノ疾患・慢性門脈鬱血・肝・心・肺ノ慢性疾疾病・反射性蠕動亢進 (例之反復ノ感冒) 寄生性動脈瘤ノ如キハ何レモ慢性ノ胃腸鬱血ヲ生シ遂ニ慢性かた一ヲ續發ス多量ノ砂 (6 疋) ヲ食シ胃病ヲ起セシモノアリ又寄生蟲 (がすつらす-ゑくい *Gastus equi*・すびろふてら-めがすと-ま *Spiroptera megastoma* 及ヒ蛔蟲 *Ascaris*・條蟲 *Taenia*) 器質的ノ胃腸變狀腸ノ潰瘍・膨大・狭窄・變位・腫瘍・結石・異物・脾臟ノ疾疾病等ニ因テ發ス續發症ハ又貧血・骨軟症・白血病等ニ現ハル

剖檢 1 胃ノ變狀 胃ノ幽門部殊ニ其大彎ニ於ケル粘膜ハ粘稠液ヲ附着シ灰赤色・不潔赤褐色若クハ石盤色ヲ呈シ時トシテハ大理石色ヲ帶フ

粘膜ノ表面ハ或ハ平滑或ハ大皺襞ヲ生シ粗糙・贅疣狀ノ小隆起 *Gastritis polyposa*, *Etat mamelonné* ヲ呈ス又粘膜ハ大ニ肥厚シ彈力ヲ失ス之ヲ切レハ頗ル抵抗力アリ粘膜下結締織及筋膜ノ肥厚ハ已ニ肉眼ヲ以テ認ムヘシ他ノ場合ニ於テハ胃ノ筋膜ハ弛緩シ菲薄トナリ爲メニ胃ハ大ニ擴張シ平常ノ 2—3 倍ニ増大スルコトアリ潰瘍ハ別ニ之ヲ説クヘシ重症ニ於テハ左側ノ胃粘膜モ亦變狀ヲ呈ス胃ヲ鏡檢スルニ胃液腺ノ細胞ハ萎縮シ結締織細

胞ハ肥厚シ上皮細胞ハ脂化ス

2 腸ノ變狀 略ホ胃ノ變狀ニ同シ腸ノ粘膜ハ線狀若クハ斑點狀ノ赤褐色若クハ石盤色ヲ呈シ恰モ鰻ノ皮ニ似タリ其血管ハ迂回・膨大ス粘膜ノ表面ハ灰白透明若クハ膿様ノ粘液ヲ被ムリ腸ノ濾胞ハ先ツ腫大シ後ニ至リテ萎縮・剝脱シ數多ノ小窩ヲ貽シ恰モ篩目ノ如シ小腸ノ内容物ハ半流動ニシテ乳漿ニ類シ點々凝塊ヲ浮フ腸粘膜モ亦肥厚シ腺間結締織及粘膜下結締織ノ増加小腸ハ殊ニ乳頭狀又ハぼりぶ狀ノ小隆起ヲ呈ス罕ニハ粘膜薄變ス腸筋膜ノ肥厚又ハ萎縮ノ結果トシテ腸ハ擴張若クハ狹窄スルコトアリ

盲腸・結腸(殊ニ胃狀膨大部)ノ濾胞ハ往々發炎・腫大シ稗子大乃至蠶豆大トナリ隆起シ或ハ潰瘍ニ變ス(濾胞潰瘍)時トシテ腸ニ穿孔ヲ生ス

症候 1 慢性胃かた一る 食慾缺損・若クハ食思不定・欠伸頻々・通便遲滯・舌ハ白苔ヲ生シ口内乾燥シ或ハ粘液瀦溜ス本病ハ無熱ノ經過ヲ取り病候ハ一張・一弛・時々變更ス(回歸性胃腸かた一る)反復疝痛ヲ發スル者亦少ナシトセス或ハ神經症候ヲ現シ眩暈 Vertigo abdominalis 又ハ胃狂 Stomach stagger ノ狀ニ陥ルモノアリ是レ胃腸ノ刺戟・胃腸鬱血ノ結果タル腦貧血及酸酵產物ノ吸收ニ由ル

2 慢性腸かた一る 病勢ノ輕重・時間竝ニ發病ノ廣狹ニ依リテ症狀ニ差異アリ肚腹多クハ縮小ス罕ニハがすノ爲メニ膨大・緊張ス腸ノ蠕動ハ高低常ナク或ハ減衰シ或ハ亢進シ雷鳴ヲ伴フ通便ハ屢・秘結シ糞ハ小球ヲナシ且乾燥シ酸敗・腐敗ノ臭氣ヲ帶ヒ往々其色淡クシテ不消化物ヲ混ス他ノ場合ニ於テハ慢性下痢ヲ發シ或ハ下痢ト便秘ト交、來リ或ハ風氣 Flatus ヲ醸シ

輕疝痛ヲ發ス尿ノ性状一定セス全ク異常ナキモノアリ概ネあるかり性ニシテ磷酸鹽類及いんぢかんニ富ミ或ル場合ニハ蛋白質ヲ混ス病久シキニ互レハ前記ノ症狀一進一退シ榮養次第ニ衰へ瘦削脱力ス然ルトキハ粘膜ハ蒼白色若クハ黄色ヲ帶ヒ毛ハ粗硬トナリ容易ニ發汗ス腸ノ濾胞潰瘍ハ頑固ノ下痢ヲ來シ或ハ時々便秘シ疝痛ヲ伴フ或ハ急性腸かた一るノ狀ヲ呈シテ發熱ス

經過 經過ハ原因ト發病ノ廣狹竝ニ輕重ニ由ル其原因ヲ除クコト愈、早ケレハ經過愈、短シ既ニ粘膜ニ大變狀ヲ生スレハ經過ハ固ヨリ緩慢トナル慢性胃腸かた一るニ罹リタル馬ハ多年病勢ハ弛張スルモ尙ホ役務ニ服シ時々増悪ヲ示シ(回歸性胃腸かた一る)體重・體力ハ次第ニ減少ス他ノ場合ニ於テハ脱力・羸瘦シ遂ニ虛脱ニ由リテ斃ル栓塞ニ基ク慢性ノ腸かた一るハ間歇性ノ疝痛ヲ發シ腸壞疽ノ爲メニ斃ル

療法 有害ノ原因ヲ除去シ飼養法ヲ改良スルヲ以テ主眼トス凡テ變敗・不消化ノ食物其他ノ有害物ヲ避ケ數次消化シ易キ良美ノ食青草・軟乾草・根菜・糠・糠少量宛分給スルヲ可トス管理・使役亦整正ナルヲ要ス齒縁ノ不正ナルモノハ之ヲ整理シ老畜ニハ挽割麥ヲ與フヘシ

醫藥ハあるかり鹽類ヲ以テ主劑トナス乃チ食鹽 1 食匙或ハ重碳酸ソーダ 25.0・芒硝 50.0 若クハ人工かるゝす泉鹽 25—50.0 ヲ毎食ニ混シ或ハ純健胃劑(大黃根末・けんちあな・乾薑・蘆薈えきす少量等)ヲ投ス便秘アルトキハ青草・麩汁ヲ與ヘ芒硝(250—300.0)・蘆薈(20—25.0)ノ中等量ヲ試ム下痢アレハ阿片劑・收斂劑又ハ制酸劑ヲ投ス即チ急性腸かた一るノ條下ニ掲ケタルモノ皆用ウヘシ就中阿片ヲ良シトス灌腸ニハ收斂劑又ハ澱粉ヲ用

ウ糞便大ニ悪臭ヲ放ツトキハくれをりん(1日量 10.0)ノ内用ヲ試ムヘシ

牛ノ急性胃腸かたーる

Akuter Magen-Darmkatarrh des Rindes 獨

原因 素因ハ消化力微弱・體質虚弱・老齡・既往症等ナリ弛緩性ノ食(根菜・豆腐滓ノ如キ)・經久舎飼・運動不足亦素因トナル誘因ハ次ノ如シ

1 食料過多

2 寒熱ノ飲食 凍瓦ノ食・霜ヲ帶ヒタル食・寒期ノ放牧・感冒・過熱ノ食

3 飼養法ノ失宜 乾食ト青草トノ急變・新乾芻・麥芽・麥粉・麩・根菜・生芋・過多ノ藁・搗碎セサル穀類及油粕竝ニ不規則ナル飼養法

4 變敗・不潔ノ食物 殊ニ醱酵・酸敗ノ製造物殘滓例之麥酒粕・火酒釀滓・製糖殘滓ノ如シ

5 不消化ノ食物竝ニ異物 砂・胞衣等

6 過度ノ勞働竝ニ長途ノ驅逐

續發性ノ胃腸かたーるハ熱性病其他諸病ノ經過中ニ發ス

剖檢 剖檢ノ機會ハ至テ少ナシ Harms 氏ニ據レハ胃ノ粘膜ハ腫脹シテ腺狀・斑點狀又ハ一般ニ赤色ヲ呈ス 第四胃竝ニ腸ハ細胞ニ富メル粘液多量ヲ含ム 第一胃ノ粘膜ハ大乳頭ヲ具フル部ニ於テ著シクかたーるヲ發ス

第三胃ノ皺襞ハ處々赤色ヲ呈ス其内容ハ非常ニ乾燥シ且粗糙ナリ

症候 食欲減乏・舉動活潑ナラス屢、伏臥シ反芻作用稀ニ起リ短クシテ且ツ弱ク後ニ至リテ全ク歇ミ鼻孔ヲ舐メス第一胃ノ運動ハ微弱若クハ廢絶・通便遲滯ス無熱ニシテ耳・脚溫暖・鼻端冷潤・乳量敢テ減少セス病徵ハ速ニ消散シ或ハ數日間持續ス 4—5日 以上ニ互レハ病徵増悪ス乃チ病牛ハ茫然起立シ敢テ飼槽ニ近ツカス 渴甚シク反芻停止シ四肢ヲ攢メ背ヲ彎シ毛毳粗硬・皮溫不正ニシテ往々戰慄シ鼻端乾燥・結膜潮紅・口内熱ヲ帶ヒ大ニ粘唾ヲ流シ時々惡臭ノがすヲ暖出シ或ハ嘔吐ス

腹部殊ニ左臍ハ膨大・粘硬ニシテ之ヲ打テハ濁音ヲ呈ス 或ハ多少ノがすヲ含ム第一胃ノ運動ハ弱ク手ヲ以テ壓迫スルモ殆ト運動ヲ感セス大ニ腹部ヲ壓スレハ疼痛ヲ示ス 通便遲滯・糞ハ乾固ニシテ暗色ヲ帶ヒ臭氣甚シク或ハ粘液ヲ混シ或ハ下痢シ柔軟ナル糞塊中ニ不消化ノ食物ヲ混ス右腹側ニ於テハ流動音ヲ聽ク 往々病牛ハ稍、不安トナリ彼此ニ動搖シ後肢ヲ舉テ腹ヲ蹴ラントシ頻リニ尾ヲ掉リ又屢、起臥シ或ハ顧眄ス尿ハ晩期ニ至リ其量ヲ減シ暗色ヲ帶ヒ酸性ヲ呈ス乳ハ半量ニ減シ熱ハ稍、高シ脈モ亦増數シ小且硬ナリ時アリ丘疹ヲ發ス

經過 輕症ハ既ニ 5—8日 以内ニ輕快ス重症ハ眞ノ胃腸炎ニ轉シ斃ル、コトアリ急性ノかたーる久シキニ互レハ慢性ニ轉ス

豫後 概ネ良・然レトモ慢性ニ轉スルモノアリ又眞ノ炎症ノ爲メニ斃死スルモノアルヲ以テ豫後ノ判決ニハ大ニ慎重ヲ要ス

診斷 消化管ノ何レノ部ニ病ノ本位アルヤ往々確診シ難シ然レトモ1部ニ病アレハ他部ニ影響ヲ及ホスヲ以テ精密ノ鑑別ハ必シモ必要ナラス又かたーるト鼓脹ト混同スルコトアリかたーるノ經過中少量ノがすヲ生スルコトアルモ眞性ノ鼓脹トハ容



牛糞ノ沈渣

易ニ區別スルコトヲ得・胃腸炎ト胃腸かたーるトハ病勢ノ程度ニ於テ異ナルノミ故ニ往々鑑別シ難シ

療法 原因ヲ除キ 嚴ニ飲食ノ攝生ニ注意スヘシ 先ツ病初ハ絶食セシメ又ハ大ニ減食シ少量ノ青草・良乾草又ハ鹽ヲ加ヘタル糞汁ヲ與フ又胃腸ノ運動ヲ催進センカ爲メニ牛體ヲ摩擦シ左腹側ヲ按摩ス直腸ニ便秘アレハ手ヲ入レテ糞ヲ排除シ又ハ微温ノ石鹼水・食鹽水若クハぐりせりんノ灌腸ヲ施ス

内服ハ稀鹽酸 20.0 ヲ約 1 立ノ水ニ和シテ日々 2—3 回反復服用セシム便秘ノ徵アレハ亞麻仁煎 $\frac{200.0}{3}$ 立ニ煮出ス = 600.0 ノ芒硝ヲ溶解シ 3 分シテ 3 時間毎ニ其 1 分ヲ與フ又芒硝 500.0 ヲけんちあ煎若クハ葛縷子浸ニ和ス 第一胃ノ運動弛緩シテ食欲・反芻共ニ振ハサレハ吐酒石 8.0・白藜蘆根末 10—20.0・芒硝 500—800.0 ヲ與フ白藜蘆ちんき (10—20.0) モ亦佳ナリ Harms 氏ハダラとりん 0.1—0.15 ヲあるこーる 5.0 ニ溶解シ皮下ニ注射ス或ハくれをりん 10—20.0 ヲ賞用スル者アリ 胃ニがすヲ生シ著シ

ク膨滿緊張スルモノニハ食道探子ヲ插入シテがすヲ排出シ或ハ穿胃術ヲ施スニ在リ

牛ノ慢性胃腸かたーる

Chronischer Magen-Darmkatarrh des Rindes 獨

又前胃弛緩症

Atonia ruminis, reticuli et omasi.

Atonie der Vormägen (Marek) 獨

病性 前胃弛緩症ハ前胃ノ刺戟ニ對スル感受性又ハ收縮力ノ減弱ニ因リ食糜ノ反芻・後送徐々ニ遲滯シ消化障礙ヲ惹起スル症トス

古人ハ本症ニ慢性胃弱 Dyspepsia chronica・慢性消化不良 Indigestio chronica・第一胃麻痺 Pansenslähmung・複葉筋秘結 Loeser dürre 等種々ノ異名ヲ下セリ

發生 本病ハ牛ニ頻發シ山羊之ニ亞キ羊ニ發スルハ稀ナリ

原因 急性かたーるノ原因中列舉シタルモノ長ク持續スルトキハ慢性かたーるヲ來ス或ハ急性かたーるノ治療ヲ怠リ若クハ治療ノ法宜シキヲ得サルカ爲メニ慢性ニ轉ス其他原因トナルヘキ條件ハ大約次ノ如シ

- 1 長途ノ輸送
- 2 咀嚼不全 齒牙ノ疾患ニ因ル
- 3 第一胃又ハ第二胃ト腹壁トノ癒著 穿腹術ノ後往々之ヲ見ル
- 4 食道ヲ壓迫スル腫瘍 結核牛ニ於テ屢見ル所ナリ
- 5 胃内ノ腫瘍 例之第四胃ノ硬腫 Scirrhus・肉腫竝ニ第二

—第三胃孔ノ乳頭腫

- 6 横隔膜ノ破裂 第二胃ノ轉位
 7 胃腸内ノ異物 例之尖體・毛球・植物球・腸ノ腫瘍等是ナリ
 8 慢性ノ肝・肺・心ノ疾病ニ於ケル血液ノ鬱積
 9 懷妊子宮 第一胃ヲ壓迫シテ其運動ヲ妨ク
 10 産後精神的感動

續發性ノ慢性胃腸かた一るハ凡テ慢性ノ榮養變調殊ニ結核病ニ於テ之ヲ見ル

剖檢 解剖的ノ變狀ハ病ノ位置・輕重及病期ノ新陳ニヨリテ大差アリ第一胃ハ乾固ノ食物ヲ含ミ其粘膜ノ上皮細胞ハ新鮮ノ屍體ニ於テスラ容易ニ剝脫ス大乳頭ノ部ハ赤色ヲ呈シ或ハ溢血斑ヲ示シ稍腫起ス第三胃ハ膨大シ其葉間ノ食餅非常ニ乾固シ其上皮ハ死後直ニ剝脫シ易シ粘膜ハ赤色ヲ呈シ或ハ壞死シ或ハ血斑ヲ現ハス

第四胃ハ少量ノ粗糙ナル食糜ヲ含ミ其粘膜ハ萎縮シ粘稠ノ液ヲ被ムリ石盤色ノ斑點ヲ呈ス

腸ノ粘膜ハ或ハ赤ク或ハ石盤色ヲ帶ヒテ萎縮シバイエル氏腺ハ篩狀ヲ呈ス小腸ノ起始部ハ膽汁ヲ雜エタル粘液多量ヲ含ミ大腸ハ乾固・暗色ノ糞便ヲ容ル其粘膜ハ粘液ヲ被ムリ時トシテふれぐも一ね性ノ腸炎ヲ發ス肝臟ニハ鬱血ノ變狀アリ肺・腦膜・腎臟・右心等ニハ何レモ虚性充血ヲ見ル

症候 慢性かた一るノ徵候ハ概ネ急性ノモノト同キモ經過緩慢ニシテ且ツ頑固ナリ其特徴ハ症候ノ屢・弛張スルニ在リ病牛ハ倦怠ニシテ輕微ノ熱ヲ發シ皮温不正・毛皮粗硬・次第ニ羸

瘦シ食慾・反芻竝ニ胃ノ運動ハ共ニ衰ヘ往々異物ヲ嗜好シ時々噎氣ヲ催ス第一胃ハ食物ヲ充實シ之ニ觸ルレハ粘硬ナリ時アリテ輕キ鼓脹ヲ發シ多クハ便秘ス即チ糞ハ硬クシテ暗色ヲ帶ヒ恰モ燒糞ノ如シ粘液及血液ヲ雜フルモノアリ或ハ便秘ト下痢ト互變スルモノアリ尿量・乳量共ニ減シ屢・呻吟・咬牙ス恢復期ニ赴カサレハ諸症増惡シ羸瘦・衰弱シテ斃ル

豫後 慎重ヲ要ス病 2—3 週日以上ニ互レハ豫後概ネ不良ナルヲ以テ速ニ屠殺スルヲ優レリトス數日間全ク便秘シ食慾・反芻缺損シ蠕動廢絶シテ不斷臥伏スルハ惡徵ナリ

診斷 急性胃腸かた一る竝ニふれぐも一ね性腸炎トノ誤診ヲ避ント欲セハ主トシテ經過ノ緩急ニ注目スヘシ異物ニ因ル慢性腹膜炎亦鑑別ヲ要ス此場合ニ於テハ主トシテ心臟病ノ徵候ニ注意スヘシ慢性鼓脹トハがすノ量ヲ察シテ鑑別ス

肺疫ヨリハ胸部ノ嚴密ナル理學的診法ニ依テ鑑別ス

療法 概シテ急性胃腸かた一るニ賞用シタル藥品ハ皆用ウヘシ先ツ食餌ノ攝生ヲ嚴ニシ食量ヲ減シ 1 日 2—3 回稀鹽酸 20.0 ヲ與フ食鹽・重炭酸ソーダ・芒硝・人工かるゝす泉鹽ノ少量 (1 日量 50—150.0) 亦效アリ前胃弛緩ノ徵アレハてればん油 (15—25.0・1 日 2—3 回芳香浸劑ニ和シテ與フ) 又あるこ一る (1 回量 25—50.0) Gemeiners 氏殊ニ之ヲ賞用ス 白藜蘆根末若クハ白藜蘆ちんき (1 回量 10—20.0 ヲ少量ノ苦味劑又ハあるかり鹽類ニ伍ス) 又ざらとりん 0.05—0.1 ヲあるこ一るニ溶解シ皮下ニ注射ス或ハくれをりん (1 回量 5.0・1 日 3 回 1 瓶ノ水ニ和ス) ヲ賞用ス便秘アレハ大量ノ芒硝ヲ投ス即チ 1000—1500.0 又ハ芒硝ニ 7.5 ノ吐酒石ヲ混シ或ハ人工かるゝす泉鹽 例之 50.0 ノ食鹽・100.0 ノ重炭酸ソーダ・500.0 ノ芒硝 ヲ多量

ノ水ニ混シテ與フ蘆薈 30—60.0 ヲ單用スルコトアレトモ多クハ吐酒石・芒硝ニ伍用ス

下痢ニ對シテハ阿片ちんき 100.0 又ハたんになん・たんのほるむ 10.0 ヲ處ス但シ牛ニハ水銀劑ヲ與フ可ラス凡ソ内服藥ヲ選フニ當リテハ屠殺上ノ關係ヲ顧慮スヘシ以上醫藥ノ外極メテ大量ノ水ヲ胃中ニ注入スルノ法アリ例之 Defke 氏ハ 50 立ノ水ニ稀鹽酸 10—15.0 ヲ加ヘテ注入シ更ニ其效ヲ助クルニ灌腸ヲ以テセリ最後ノ療法ハ胃ノ截開術トス

反芻獸ノ急性鼓脹

Tympanitis acutus ruminantium.

病性 鼓脹トハ胃中ノ食物醱酵シテ急ニ多量ノガスヲ醸ス症ヲ云フガスハ食物ニ由リテ異ナレリ綠草ヲ喫スレハ炭酸最モ多ク乾草ヲ食ヘハ泥沼ガスヲ主トス Reiset 氏ノ分析ニ依レハ急性鼓脹ニ於テ炭酸ガス 74%・泥沼ガス 24%・窒素分 2% アリ

發生 本病ハ牛ニ最モ多ク又屢、羊ニ發ス山羊ニハ稀ナリ

原因 一般原因 多量ノ食物殊ニ醱酵性青草ノ過食ヲ主因トス放牧ノ際往々斯ノ如キ過食ヲ見ル舍飼ニ在リテハ既ニ凋メル綠草ノ貪饞ニ由ル蓋シ久シク堆積發熱シタルモノハ特ニ醱酵シ易シ故ニ本病ハ休日・祭日ニ頻發ス同一ノ理由ニ基キ本病ハ鬱閉濕蒸ノ天候ニ多シ是レ溫氣ト濕氣ハ飼料ノ醱酵ヲ促スニ由ル牧場ニ於テハ未タ青草ニ慣レサル動物之ニ罹リ易シ牧草嫩軟多汁ニシテ豐饒ナルトキ又ハ霜・露・雨ヲ帶ヒタル草若クハ凍瓦ノ食ヲ啖フトキハ動モスレハ發病ス食後直ニ多量ノ水ヲ飲ムモ亦害アリ本病ノ素因ハ匆卒ノ貪饞・消化器ノ孱弱・第一胃ノ

運動及暖氣ヲ妨礙スル病的變狀等ナリトス但後者ハ寧ロ慢性鼓脹ノ原因ト爲リ易シ

特別原因 植物中某種ノ草ハ殊ニ鼓脹ヲ發シ易シ

1 苜蓿(赤苜蓿・白苜蓿・紫苜蓿)及ゑすばるせと *Esparsette* 開花前ハ危險殊ニ多クシテ開花後ハ較、少ナシ故ニ幼嫩ナル苜蓿ハ多ク啖ハシム可ラス

2 荳科植物 大豆・豌豆・蠶豆・扁豆・ぢぢち *Vetch* 並ニ蕎麥等

3 所謂酸性ノ草 例之ぼあ *Poa* (ぼあ-あくあちか *Poa aquatica*) しるぶす-しるぢぢくす *Scirpus sylvaticus* ノ如シ

4 穀類ノ葉若クハ莖 收穫後閑田ニ生スル雜草殊ニ滯穂ヨリ生スル後生等

5 製造物又ハ醸造物ノ殘滓 例之醱酵セル麥酒粕・火酒醸滓・乾燥セル麥芽・腐敗セル馬鈴薯・根菜等ノ如シ

6 鼓脹ハ又中毒ノ1症候トシテ發シ來ル 例之しき、た・苺若・白藜蘆・煙草・毛茛科ノ植物・絲狀菌等

7 嚥氣 犢ノ哺乳スル際多量ノ空氣ヲ嚥下スレハ之ヲ發ス

8 食道ノ梗塞 例之根菜ノ1片食道ニ符留スルカ如シ

病理 本病ノ主徴ハ炭酸中毒ニ在リ稀ニハ腦卒中ノ徴候ヲ見ル而シテ炭酸ノ中毒ハ横隔膜及肺ノ壓迫ト胃中ニ於ケルガス散漫シテ血中ニ入ルトニ由テ生シ前半身ノ鬱血ハ第1胃膨滿緊張シ後體ノ大血管ヲ壓迫シ且心臟及肺臟ニ向テ血液ノ注流ヲ妨礙スルニ由ル

剖檢 第一胃ハガスノ爲メ非常ニ膨大シ往々破裂ス横隔膜モ亦破裂シテ胸腔ニガスヲ充タスコトアリ皮膚及皮下ノ血管ハ

大ニ怒張シ血液ハ暗黒・濃厚ニシテ能ク凝固セス肺ハ充血・出血若クハ水腫ヲ呈ス心ノ左側ハ血液ヲ充タシ心内膜ニ出血アリ罕ニハ脾血管ノ破裂又ハ脾實質ノ破碎ヲ見ル腸ノ粘膜ハ充血シ粘膜下及漿液膜下ニハ出血アリ頭部ノ粘膜ハ充血シ腦ニハ充血若クハ出血ヲ見ル

症候 腹部殊ニ左腹側ハ急ニ膨大シ腹壁ハ大ニ緊張シ彈力ニ富ム之ヲ打テハ鼓音ヲ發ス第一胃ノ運動ハ全ク廢絶シ食欲並ニ反芻ハ初メヨリ全ク歇ミ通便

亦遲滯ス脚ヲ開張シ背ヲ彎シ尾ヲ舉ケ耳ヲ俛レ1處ニ凝立シ動クヲ欲セス呼吸促迫・興奮・鬱憂・結膜潮紅・血ヲ射ルカ如ク角膜周擁ノ血管ハ大ニ充血ス眼光瘳惡・脈搏疾硬(所謂金線狀脈)後ニハ手ニ觸ル、コト能ハサルニ至ル心臟ハ暴跳シ呼吸ノ困難益々加ハル結膜ハちあのーゼヲ呈ス病牛ハ是ニ至リテ迷朦・失神シ遂ニ踉蹌トシテ斃ル

經過 迅速・果斷ノ治療ヲ施サ、レハ僅々ノ時間内ニ斃ル既ニ治療ヲ施シがすヲ除キ去ルモ尙ホ 12—24 時間ハ停滯セル食物ノ醱酵ニ由リテ再ヒがすヲ生

スル虞アリ輕易ノ鼓脹ハ口及肛門ヨリがすヲ排シテ自然ニ癒ユ

第四圖



山羊ノ急性鼓脹

豫後 速ニ治療ヲ施サ、レハ豫後ハ良ナラス

療法 蓄積シタルがすヲ除去スルハ第1ノ要旨ニシテ迅速ヲ要ス其法1ニシテ足ヲ履、舌ヲ引き出シ又ハ口ニ藁索ヲ施シ之ニたゝる・ばたノ類ヲ塗り頻ニ舐却セシメテ噯氣ヲ促ス或ハ口ヲ開キ柳枝ヲ以テ軟口蓋ヲ刺戟ス又兩手ヲ以テ強ク左腹側ヲ按壓シ且藁ヲ以テ摩擦シ頻リニ冷水ヲ灌キ輕症ニ在リテハ靜ニ牽テ運動セシム但シ重症ハ窒息ノ虞アルヲ以テ運動ヲ忌ム

内服ハ制酵藥ヲ主トス即チ次亞硫酸ソーダ(100—200.0)・鹽素酸カリ(50—60.0)・稀鹽酸(10—15.0)又ハくれをりん・れぞるちん・りぞーる(15.0)ヲ反復服用セシム

以上ノ諸藥ヲ以テ長ク時ヲ費ス可カラス 3—4 回ニシテ效ヲ見サレハ其ノ用ヲ止メ危險アリト認ムレハ直ニ食道探子又ハ套管鍼ヲ施ス窒息ノ兆アレハ探子ハ施スヘカラス直ニ套管鍼ヲ刺スヘシ即チ先ツらんせと又ハ外科刀ヲ以テ少シク皮膚ヲ截リ次テ鍼ヲ刺スヲ便ナリトすがすハ1時ニ排除セス少時ヲ隔テ、之ヲ除去スヘシ否ラサレハ腦貧血ヲ起シ卒倒スルコトアリがすハ復ヒ蓄積ノ虞アルヲ以テ套管鍼ノ管ハこるくヲ施シ數時間刺入シ置クヘシ危險ノ徵既ニ消散スルモ尙ホ數日間ハ減食スルヲ可トス

豫防法 要ハ原因ヲ避クルニ在リ乾食ヨリ青草ニ變スルノ際注意シ牧草殊ニ苜蓿繁茂ノ地ニハ空腹ノ畜牛ヲ放牧セス先ツ少許ノ青草ヲ與ヘ漸ク之ニ慣レシムヘシ草ヲ刈リテ貯フルニモ堆積セスシテ廣ク之ヲ散布スヘシ又粘稠被微ノ食ヲ與フ可ラス

羊・山羊ノ急性鼓脹 1頭ニ發スレハ大要牛ノ治法ト同シク腹部ヲ摩擦シ前體ヲ高クシ冷水ヲ灌クヘシ食道探子ハ費用スルヲ得ス内

服ハ石灰水 1/4 立ヲ 10—15 分毎ニ反復ス又次亜硫酸ソーダ 15.0 ヲ少量ノ水ニ溶解シテ與ヘ或ハこるしくむちんき 5 滴・てれびん油半食匙・水 150.0 又ハあんもにあ水半食匙・水 120.0 (投薬ノ際大ニ注意ヲ要ス)かんふるちんき 1 食匙 (毎 15 分・1 回) ヲ試ムヘシ群羊ニ發スレハ運動ヲ命シ大盤ニ水ヲ盛り之ニ浴セシメ 或ハ池川ニ入レ危険ト認ムレハ套管鍼ヲ施スヘシ

附 豚ノ鼓脹 醗酵性ノ食・酸敗ノ乳漿・中毒等ニ由リがすヲ醸ス水劑ハ總テ危険ナリ故ニ危急ニ迫レハ套管鍼ヲ施スヘシ

反芻獸ノ慢性鼓脹

Tympanitis chronica ruminantium.

病性 不斷反復シテ第一胃ニがすノ蓄積スルノ症ナリ概ネ原發性ニアラスシテ繼發性ナリ Erdmann 氏ニ依レハ泥沼がす 42%・炭酸がす 35%・窒素分 20% ナリト云フ Lungwitz 氏ニ依レハ泥沼がすと炭酸がすとノ比例ハ $CH_4 : CO_2 = 1,1 : 1,2 - 1,5$ ナリ

原因 第 1 慢性胃かた一ノ 1 症候トシテ發ス蓋シ反芻獸ノ第一胃ノ作用衰フルトキハ容易ニ醗酵ヲ醸シ慢性鼓脹ヲ生ス故ニ慢性胃かた一既ニ存スレハ些々タル飲食ノ關係ニ由リがすヲ醸ス例之急食・飽饑・副食物ノ缺乏・短ニ失スル刍藁・過多ノ麥粉等ノ如シ

第 2 反芻及暖氣ノ器械的障礙例之後縦隔淋巴腺ノ結核性腫脹・膿瘍・肉腫・放線菌腫ノ壓迫ニ因ル食道ノ狹窄・前胃ノ新生ぼりぶ・肉腫・纖維腫・泥砂・結石及毛球・胃壁ノ膿瘍 又ハ胃ト腹壁トノ癒著多クハ尖體ノ反復第 1 胃ヲ刺スニ由ル 横隔膜へるにあ・第二胃ノ轉位・齒狀條蟲 *Taenia*

denticulata 等トス牛ノ慢性鼓脹ハ結核病ニ原クモノ殊ニ多シ

症候 慢性胃かた一ノ徵アリ左腹側反復膨大シ頑固ニシテ治シ難ク反芻機能及胃ノ運動減衰シ胃ノ蠕動音モ亦大ニ衰ヘ漸次羸瘦ス此他原病ノ徵アリ

経過 數週・數ヶ月ニ渉ル

豫後 原因ニ由テ異ナレリ慢性胃かた一ニ由ルモノハ原病ヲ治シ得レハ消散ス器質的ノ變化即チ癒著・腫瘍ニ因ルモノハ治スヘカラス縦隔淋巴腺結核ノ疑アレハつべるくりんノ注射ヲ試ムヘシ

療法 慢性胃かた一ノ療法ヲ施ス主トシテ稀鹽酸・次亜硫酸ソーダ・くれをりん・中性鹽類竝ニ胃衝動劑即チ吐酒石・芒硝・てんびん油ノ類ヲ用キ極メテ頑固ナレハ罕ニ套管鍼ヲ施スコトアリ然レトモがすハ概ネ復ヒ蓄積スルヲ以テ勞シテ效ナシがす吸收劑モ亦無益ナリ最モ必要ナルハ食物攝生法ナリトス不治ノ原因アリト認ムレハ速ニ屠場ニ送ルヘシ

反芻獸ノ第一胃急性擴張

Dilatatio acuta ruminis ab alimentis.

又反芻獸ノ胃食滯

Pansen-überfüllung der Wiederkäuer 獨.

病性 胃食滯トハ急ニ多量ノ食ヲ貪饑シ非常ノ食量第 1 胃ニ充滿停滯スルノ症ニシテ牛ノ消化器病中頻發ノモノニ屬ス

原因 過食ニ因ル動物ノ特ニ嗜好スル食餌ハ動モスレハ過食ス例之青草・嫩芻・新穀・馬鈴薯・燕麥・諸種ノ醗滓ノ如シ又

偶然羈絆ヲ脱シ飼料ノ貯藏場ニ到リ1時ニ貪啖滿腹スルコトアリ久シク飢エタル者ハ好テ飽食シ過多ノ冷水ヲ飲ミタル後ハ食滯ヲ來シ易シ

症候 症候ハ食餌ノ量・質及其消化ノ難易ニ由テ異ナレリ通常食慾・反芻絶止シ病畜ハ背ヲ彎シ喫食ノ後屢、努責シ常態ノ糞ヲ排シ尾ヲ掉リ後肢ヲ以テ腹ヲ蹴ラントシ呻吟・苦悶・後體ヲ顧眄シ頻ニ頭ヲ振動ス或ハ呆然凝立・身傍ノ事ヲ省ミス罕ニハ伏臥・呻吟シ暫時ニシテ起立ス往々水ヲ貪リ涎ヲ流シ口中物ナクシテ虚嚼シ頭・頸ヲ伸シテ惡臭ノがすヲ屢シ或ハ嘔吐ス肚腹殊ニ左腹側ハ膨大シ饑窪ハ反テ凸隆スルニ至ル腹壁ヨリ第一胃ニ觸ル、ニ固體充滿シ粘硬ニシテ捏粉ノ如ク之ヲ打テハ濁音ヲ發ス久シク第一胃ニ強壓ヲ加フレハ病牛ハ不快ヲ感シ之ヲ避ケントス

第一胃ノ運動ハ平素目以テ視ルヘク手以テ觸ルヘキモ本病ニ在テハ然ラス第一胃ノ蠕動音亦微弱若クハ全ク缺如ス通便稀ニシテ其量少ナク糞ハ餅狀ヲナス却テ硬固暗色ノ球塊ヲ呈ス

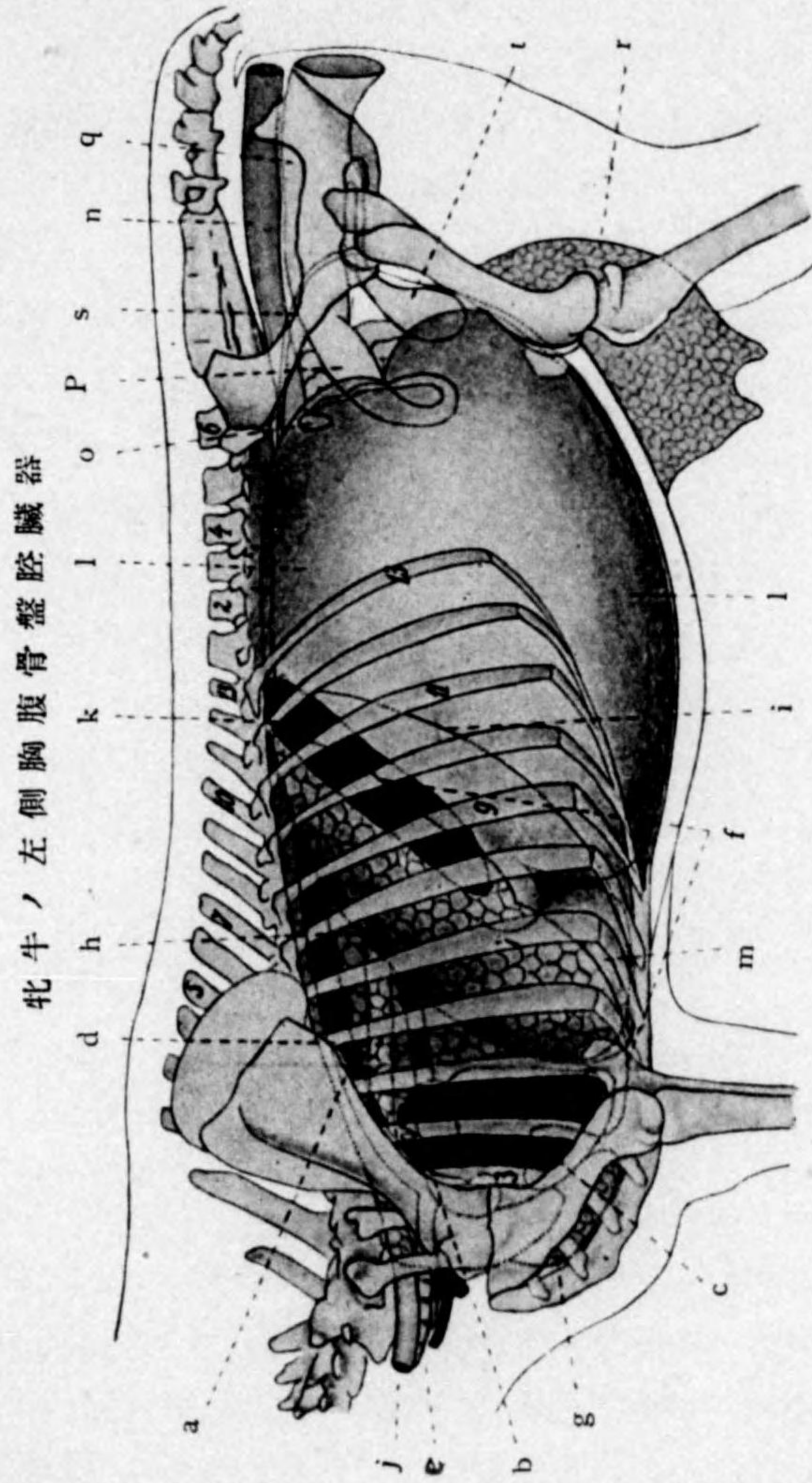
體溫増昇セス脈僅ニ増進シ呼吸ハ促迫ス眼光鈍ク眼球凸隆シ結膜大ニ充血ス

經過 重症ハ遽ニ窒息・卒中狀ニ陥リ或ハ急性胃腸かた一ヲ發ス然レトモ食量極メテ大ナラス且甚タ不消化ナラサレハ2-3日中ニ恢復ス

診斷 食滯ハ急性鼓脹ト誤診ス可ラス鼓脹ニ在テハ腹ノ膨脹更ニ著シク之ニ觸ル、ニ粘硬ノ物ナク弾力性ノがすアルヲ知ル呼吸・血行ノ障礙亦食滯ヨリモ劇ナルヲ常トス

次ニ腹内へるにあハ頓發シ病牛不安トナルヲ以テ稍、食滯ニ

第一表



- a. 大動脈
- b. 肺動脈
- c. 心臓
- d. 後大靜脈
- e. 氣管
- f. 肺ノ後下緣
- g. 肺尖
- h. 横隔膜ノ中央穹隆部
- i. 横隔膜ノ附着部
- j. 食道
- k. 脾臟
- l. 第一胃
- m. 第二胃
- n. 直腸
- o. 卵子宮
- p. 子宮
- q. 乳房
- r. 房
- s. 輸尿管
- t. 膀胱

類スルモ直腸ヨリ検査スレハ直ニ病ノ真相腹輪ノ邊・骨盤入口ノ右前方ニ緊張索アリヲ知ルニ足ル

子宮翻轉ニ於テモ頓ニ食ヲ嫌ヒ左腹側膨大シ秘結アルヲ以テ稍、類似スルモ腔ヲ檢スレハ診斷立トコロニ定ル急性胃腸かた一ヨリハ既往ヲ詢究シテ判斷スヘシ

療法 輕症ハ數日間食ヲ減シ牽テ運動セシムヘシ重症ニ於テハ頻々腹部ヲ按摩シ下劑及吐劑ヲ投スヘシ乃チ蘆薈・吐酒石・大量ノ芒硝竝ニ白藜蘆根末(1回量5—10.0)若クハ其ちんき(1回量10—20.0)ヲ賞用ス又酒石酸ゑぜりちん(0.1—0.2・蒸溜水20.0)又ハ硫酸ぐらとりん(0.1・稀あるこ一る5.0)ヲ皮下ニ注射ス Trasbot 氏ハ吐根末4—8.0ヲ賞用ス最後療法ハ第一胃ヲ截開シ滯食ヲ除去スルニ在リ

第一胃空虛 Pansenleere

又鐵道病 Eisenbahnkrankheit 獨.

1778—1779年 Voigtlander 氏ハ長途ノ汽車輸送中飲食ヲ與ヘサル牛ノ第一胃殆ント全ク空虛トナレルヲ見タリ 妊期ノ進メル牝牛ニ多シ

症候 麻痺性產褥熱ニ類似ス最初眼光及舉動ニ由リ不安ヲ示シ歩行踉蹌・尾ヲ伸シ後體先ツ麻痺シ起立スル能ハス 頭ヲ側傾シ眼光鈍ク結膜潮紅・瞳孔散大シ脈數ハ120迄増數シ體溫38.8—39.4°C・呼吸疾速・腸蠕動沈衰・食慾廢絶・渴甚シク通便ナシ剖檢上第一胃ハ空虛ニシテ空囊ノ如ク捲クコトヲ得タリ

1888年 Weigel 氏ノ觀察セル1例ハ榮養佳良ノ牝牛汽車到着後間モナク發病シ8—24時間ニ斃レタリ其主徴ハ大熱・食慾廢絶・不斷伏臥シ消化器全ク麻痺セルニ在リ

死因 2—3 日間第一胃ニ食物ヲ容レサルコト・休息缺乏・脊髄震盪ナリトス

療法 産褥麻痺ニ於ケルカ如ク乳房内ニ反復空氣ヲ吹入シ且あるこ一及かふえいんヲ試ムヘシ

第四胃及十二指腸かた一

Labmagen-Dünndarmkatarrh 獨

症候 消化器病頓發シ急性若クハ慢性ノ經過ヲ取ル通常ノ胃かた一ニ異ナレル點ハ結膜黃疸ノ徵ヲ呈シ糞ハ常態ニシテ第一胃ノ作用障礙セラレス右下腹部ヲ壓スレハ疼痛ヲ訴フルニ在リ晚期ハ久シキヲ經テ異嗜ノ狀ヲ顯ハス Harms 氏ハ第四胃ノ秘結ヲ見タリ其徵ハ嘔氣頻發・第四胃ノ部ヲ壓スレハ苦痛ヲ感シ涎ヲ流シ或ハ嘔吐シ直腸ハ糞ヲ充滿ス Kitt 氏ハ第四胃ノ硬腫ヲ見タリ

剖檢 第四胃及十二指腸ノ粘膜ハ浮腫・充血シ粘液ヲ附着シ粘膜ハ肥厚シ其皺襞ハ大ナリ

療法 Harms 氏ニ依レハ減食シ易化ノ食ヲ與ヘ人工かるゝす泉鹽及稀鹽酸ヲ與フ

創傷性胃横隔膜炎

Reticulitis et Phrenitis traumatica.

Traumatische Magen-zwerchfellentzündung 獨

病症 本病ハ異物ノ爲メニ生スル牛ノ胃病ヲ云フ牛若シ胃中ニ異物ヲ嚥下スレハ先ツ胃傷ヲ發シ尋テ心臟病ヲ招來ス牛ノ胃中ニ異物ヲ目撃スルコト極メテ多キハ牛ヲ解剖スル者ノ熟知スル所ナリ然レトモ生前ハ敢テ病徵ヲ呈セサルモノアリ

原因 1 鈍體 石・砂・毛球・衣服ノ一片・皮革・彈丸・貨

幣等

2 尖體 釘・鍼・鐵線・小刀・肉匙等

凡ソ牛ハ好テ異物ヲ舐メ 身邊ノ諸物ヲ舐却・嚥下スル癖アリ又牛ノ採食ハ急卒ニシテ能ク咀嚼セス而シテ異物ノ害ハ第一胃ヨリモ第二胃ニ多キ所以ハ第二胃ハ小ニシテ收縮力强ク且其粘膜ハ蜂巢狀ノ構造ヲ有スルニ因ル

剖檢 鈍體ハ胃かた一及胃炎ノ原因トナル又胃中ニ多量ノ砂堆積シ硬固ノ塊ヲナシ胃ノ粘膜ニ沈著スルコトアリ

尖體ハ未タ全ク胃壁ヲ貫通セサルトキハ第二胃ニ存ス蓋シ第二胃ノ運動ハ其異物ノ穿刺部ニ炎症ヲ發セシム其創ハ至テ小ニシテ往々發見シ難キモノアリ多クハ細管孔ヲ生シ創圍ハ肥厚シ膿ヲ醸ス其外部ニ當ル腹膜ハ成形性滲出ノ爲メ肥厚シ横隔膜ト癒著スルコトアリ而シテ其癒著部ニハ大小不同ノ膿瘍ヲ生ス時トシテ尖體ハ創傷部ニ存セスシテ胃ノ收縮ノ爲メ腸内ニ陥リ糞ト共ニ體外ニ排泄セラレ僅ニ痕跡ノミヲ殘ス或ハ腹腔若クハ胸腔内ニ陥リ努責ノ際内臓ヲ傷ケ腹膜炎・腸炎・肝炎等ヲ發シ或ハ腹腔外ニ脱出スルコトアリ第三胃・第四胃ニ入ルハ稀ナリ又心・肝・脾・胸腹壁ノ膿瘍・肺炎・肺膿瘍・肺ト横隔膜若クハ肋膜トノ癒著ヲ來スコトアリ罕ニハ脊椎・肋骨若クハ股筋等ニ穿入ス又極メテ罕ニハ第二胃及第一胃ノ致命的出血ヲ生スルコトアリ心囊及心臟ノ變狀ハ牛ノ心囊炎ノ條下ニ詳ナリ

症候 鈍體ハ慢性若クハ急性ノ消化不良ヲ來ス其原因ハ粘膜ノ刺戟・挫傷及傷害ニ在リ多量ノ砂(6 斤ノ例アリ)ヲ食スレハ重キ病狀ヲ呈ス即チ嚥下セスシテ不斷咀嚼シ流涎・呻吟・頻頻伏臥・背ヲ彎シ通便秘結シ漸次羸憊ス第一胃ヲ觸診スルニ其

内容ハ硬クシテ石ノ如ク其蠕動作用ハ廢絶ス

大抵 2—3 週間ニ斃ル他ノ場合ニ於テハ慢性消化不良ヲ來ス
尖體ハ胃炎竝ニ横隔膜炎ヲ發セシム其要徴ハ大約次ノ如シ

胃他ニ原因ナクシテ突然消化不良トナリ又ハ急ニ疝痛ヲ發シ斷
エス動搖シ後肢ヲ舉ケテ腹ヲ蹴ラントス他ノ場合ニ於テハ急性
胃かた一ノ狀ヲ發シ又時々反復シテ慢性ノ消化不良及慢性鼓
脹ヲ來ス

経過及合併症 経過ハ頗ル長ク遂ニ羸瘦・衰弱シテ斃ル診
察ニ方リ最モ注意スヘキハ食後・起臥・旋回若クハ運動ノ際呻
吟シテ疼痛ヲ訴ヘ運歩緩慢・顔貌鬱憂ヲ帶フルニ在リ外部ヨリ
第二胃即チ劍狀軟骨ノ左側竝ニ胸骨・胸壁・鬐甲及第一胃ヲ壓
迫スレハ疼痛ヲ訴フ横隔膜ノ附著部ヲ打診・觸診スレハ亦疼痛

第五圖



創傷性胃横隔膜炎ニ於ケル第二胃部ノ濁音界 (D)

ヲ示ス呼吸竝ニ努責ニ際シ横隔膜ノ運動ニ疼痛ヲ覺エ大血管ノ
傷ケラル、トキハ直腸ヨリ出血ス分娩ニ際シ大ニ腹筋ヲ收縮シ
又ハ市場ニ輸送スルニ方リ横隔膜ノ運動盛ナルトキハ異物ノ轉

位ヲ促シ其方向・穿入ノ深淺ニ由リ肺炎・肋膜炎・氣胸・腸炎・
腹膜炎・肝炎・膿毒症・敗血症・體內出血等ノ如キ合併症ヲ生ス
尖體若シ腹腔外ニ脱出スレハ左胸壁・左季肋部及胸骨部等ニふ
れぐも一ね性ノ浮腫ヲ發ス其浮腫ハ大小1ナラス間、人頭大ニ
至リ熱痛ヲ帶ヒ後ニハ膿・食糜ヲ雜ヘタル物質ヲ排泄シ時トシ
テ胃ニ通スル所ノ瘻管ヲ生ス尖體若シ横隔膜ヨリ心囊ヲ傷クレ
ハ心臟病ヲ發ス心臟病ノ條下ニ於テ細説スヘシ

診断 時トシテ至テ易ク時トシテ頗ル難シ慢性ノ胃かた一
るト混同スルコト勿レ鑑別セント欲セハ精密ノ診断ヲ要ス鑑別
ノ要點ハ横隔膜及第二胃ニ於ケル疼痛・症候ノ反復變化・急速
ノ羸瘦・治療無效等ニ在リ腹膜炎・胃腸炎等ノ鑑別亦頗ル難シ然
レトモ是等ノ病症ハ急性ニシテ熱ヲ發シ一般ノ症狀劇烈ナリ尖
體若シ肺臟ヲ傷クレハ慢性肺炎ノ徴ヲ發ス從テ結核ト誤認シ易
シ本病ノ経過中屢、蛋白尿ヲ認ム

療法 豫防ヲ專一トス酪婦ヲ戒メテ鍼・釵等ニ注意セシメ又
屢、食物ヲ検査シ異物ヲ除去スヘシ Harms 氏ハ飼槽ノ1端ニ斜
溝ヲ設ケテ異物ヲ收拾センコトヲ企テ Rust 氏ハ剉糞機ニ磁石
ヲ附装シ金屬性ノ異物ヲ除去スルノ法ヲ賞揚ス

診断確實ナラサレハ急性又ハ慢性胃かた一ノ治療ヲ施ス診
断確實ト認ムレハ速ニ屠殺スヘキカ又ハ胃ヲ截開シテ異物ヲ除
キ得ヘキヲ熟考スヘシ Obich 氏ノ手術式ハ次ノ如シ

左腹側ノ所謂饑窪ノ上方ヨリ下方ニ向ヒ腰椎横突起ノ下1掌ヲ距
リ第一胃ヲ截開シ前下方ニ向ヒテ手ヲ入レ第二胃ノ口ヨリ胃底ヲ按
診シ異物ヲ探リテ之ヲ除去ス而シテ後、胃ノ創ヲ縫ヒ次テ腹壁ノ創
ヲ縫合ス又1方ハ動物ヲ翻倒シ仰臥セシメ靴ヲ以テ劍狀軟骨ノ左側

ヲ強賦スルニ在リ Obich 氏ハ 13 回此法ヲ試ミ 4 回好結果ヲ見タリ
Schöbel 氏ハ 60 回強賦法ヲ試ミ 僅ニ 2 回ノミ異物第二胃ニ復歸セザ
リシト云ヒ Estor 氏ハ 21 回之ヲ施シ良結果ヲ得タリト云フ

幼獣胃腸かた一

Magen-Darmkatarrh des Jungviehes 獨

發生 哺乳幼獣竝ニ甫メテ離乳セル幼獣ノ胃腸かた一ハ
頻發ノ症ニシテ犢・仔羊ニ多ク仔馬之ニ亞ク

原因 1 哺乳幼獣

[1] 母畜ノ状態 母畜ノ生活状態ハ哺乳幼獣ノ健康ト密接ノ
關係アリ乃チ下記ノ諸因ハ皆弊害ヲ其子ニ及ホス

- (イ) 消化器病・榮養變調・惡液・厄弱等
- (ロ) 傳染病(全身結核・乳房結核・流行性鶯口瘡)及乳房炎
- (ハ) 母畜飼養ノ關係亦尠カラス例之滋養過多・多汁・粗惡・
變敗・腐敗ノ食
- (ニ) 脂肪竝ニ水分過多ノ乳汁・乳房内ニ於テ既ニ凝固セル
乳・苦味・酸味・粘稠ノ乳等
- (ホ) 乳汁中ノ異物即チ揮發油(てれびん油)・樹脂質(てれび
ん・ぼるさむ)下劑其他ノ藥品皆幼獣ノ胃腸ヲ害ス
- (ヘ) 母畜ノ過度ノ勞働亦影響ナキニアラス

[2] 幼獣ノ飼養失宜 母子ヲ離シ母畜ヲ使役ニ供シ其家ニ歸
ルノ後一時ニ多量ノ乳ヲ飲マシムルカ如キ其他不規則ノ哺乳及
乳汁ノ代用品ハ病原トナル

[3] 幼獣ノ感冒

[4] 胎兒便ノ秘滯 胎兒便ハ秘滯スレハ分解シテ腸ノ粘膜ヲ

刺戟シかた一ヲ誘起ス

2 離乳幼獣

- [1] 習慣上ノ缺點 粗硬不消化ノ乾食竝ニ變敗ノ食等
- [2] 不適ノ乳汁 乳ノ代用品ニシテ多量ノ澱粉ヲ含ムモノハ
酸酵シテ醋酸・乳酸・乳脂酸等ヲ醸シ胃腸ヲ刺戟ス
- [3] 不順ノ天氣 殊ニ春秋放牧ノ際ニ多シ冷水過飲モ亦 1 原
因ナリ
- [4] 齒牙換生 生齒期ニ於テハ種々ノ物ヲ舐嚙ス
- [5] 寄生蟲 例之羊ノ胃蟲(すとりんぎるす-こんとるたす
Ttronylus contortus)・條蟲(てーにあ-ゑきすばんざ Taenia exp-
ansa) 等ノ如シ先天性ノ胃弱・腸間膜淋巴腺ノ疾病等ハ皆素因
トナル

病理 哺乳期ノ幼獣ニ在テハ唾液未タ十分ニ分泌セラレス
胃腸粘膜ノ上皮層ハ薄弱ニシテ損傷セラレ易シ其筋膜ハ薄弱ニ
シテ收縮力十分ナラス胃液ハべふしんニ乏シク腴液ハ生後一定
期間澱粉糖化酵素ヲ缺如ス又前胃ノ作用未タ全カラス流動物ハ
直ニ第四胃ニ入ル是レ幼弱ナル反芻獸ニ胃腸かた一ノ多キ所
以ナリ

剖檢 變狀ハ概ネ成獣ニ同シ胃ハ粘稠ナル乾酪様ノ凝塊ヲ
含ミ離乳セルモノニ於テハ極メテ粗硬ナル芻秣ノ球塊ヲ見ル胃
粘膜ハ潮紅・腫脹・濾胞性かた一ノ狀ヲ呈シ稀ニハ潰瘍ヲ生
ス胃腸粘膜ハ或ハ肥厚シ或ハ菲薄ナリ腸間膜淋巴腺ハ多少腫大
シ屍體ハ概ネ羸瘦シ稀血・貧血ノ變狀アリ

症候 本病ハ徐發シ又頓發ス哺乳幼獣ハ能ク哺乳セス倦怠・
沈鬱ス離乳幼獣ニテハ往々先ツ發熱シ皮温不正・4 肢厥冷・鼻

端乾燥・體力衰弱・屢下痢シ糞ハ其初メばぶ状・後ニ至レハ柔軟トナリ途ニ水瀉ヲ發ス糞汁ハ黄色又ハ灰綠色ヲ帶ヒ泡沫ヲ含ミ或ハ凝固物ヲ雜エ臭氣頗ル甚シク往々血液ヲ混シ失禁自利シ尾根・内股等ヲ汚染ス又裏急後重若クハ輕疝痛ヲ起シ或ハ下痢ト鼓脹トヲ兼發スルモノアリ末期ニ至レハ次第ニ衰弱シ往々かたーる性肺炎ヲ併發ス

経過 急性若クハ慢性・數日間ニ斃ル・モノアリ或ハ數週日ニ互ルモノアリ死因ハ虚脱・貧血・稀血・かたーる性肺炎若クハ無氣肺トス

豫後 慎重ヲ要ス久シク下痢スルモノハ頗ル危険ナリ

療法 先ツ母畜ノ飼養ニ注意スヘシ凡テ肥腹ヲ促ス食・不良變敗ノ食・過度ノ勞働・母子離隔等ハ勉メテ避クルヲ要ス病原母乳ニ在リト認ムレハ他ノ健牛ノ乳ヲ與フヘシ厩舎ヲ清潔・溫暖ニ保チ母牛ノ乳頭ハ哺乳前ニ洗滌スルヲ可トス

下痢ノ原因食餌ニ存スルト認ムレハ直ニ之ヲ變スヘシ1回ニ多量ノ乳ヲ哺セシメス日々少ナクモ3—4回ハ哺乳セシメ已ニ離乳セルモノハ急ニ粗硬ノ食ヲ啖ハシム可ラス漸次之ニ慣レシメ刺戟・不消化ノ食ヲ避クヘシ積ハ生後4—6週間・羊兒ハ3—4月間ハ粗硬ノ食ヲ忌ム

下痢ニ對シテハ收斂・包攝ノ藥劑ヲ投シ炒麥ノ粉・こーひー・雞卵・石灰水・ごむ漿・亞麻仁煎等ヲ與フ變敗・醱酵ノ食物停滯スルト認ムルトキハ先ツ緩下劑ヲ投ス例之蓖麻子油又ハさらっど油2—3食匙又ハ芒硝若クハ硫酸まぐねしあ30.0ヲ亞麻仁煎ニ和シ頓服セシム醱酵がすニ對シテハ炭酸まぐねしあ及そーだノ刀尖量・又ハくれをそーと若クハくれをりん積 2.0—5.0
羊兒 0.5—1.0又

ハさりちーる酸・たんにん各1—2.0ヲかみるれ浸ニ和シ1日3回分服セシム重症下痢ニ於テハ阿片末積 0.2—1.0
羊兒 0.05—0.2若クハ阿片ちんき(1回量5.0)ヲ與フ或ハ阿片末0.3ニ大黃根末4.0及炭酸まぐねしあ1.0ヲかみるれ浸100.0ニ混シ2回ニ分與スたんのほるむ2.0—3.0・たんなるびん3—5.0又ハ蛋白たんにんヲ處シ時トシテ明礬・たんにん・硝酸銀ノ1%溶液ヲ灌腸ス衰弱ノ兆アレハ食鹽水(0.9%)2立ヲ皮下ニ注射スヘシ

肉食獸ノ胃腸かたーる

Akuter Magen-Darmkatarrh bei den

Fleischfressern 獨.

原因 肉食獸ノ胃腸かたーるハ頻發ノ病ニシテ寧ロ牛・馬ヨリモ多ク其大原因ハ不正ノ飼養ニ在リ例之1回ニ多量ノ食ヲ給スルカ如シ馬鈴薯・甘藷・麵麩・米飯・骨等ノ多量ヲ餓犬ニ與フンハ胃病ヲ起シ易シ凡テ不消化物若クハ器械的ノ刺戟物竝ニ變敗・腐敗ノ食物及異物骨片・竹片・木片皆胃病ヲ誘發スルノ虞レアリ又齒牙ノ疾患・急速ノ喫食・過熱ノ食餌・感冒等ハ胃病ノ素因トナル又他病ノ分症トシテ來ル例之・犬瘟熱・胃潰瘍・内臟蟲・門脈鬱血・慢性心臟病・肺病・肝臟病・腎臟病ニ於ケルカ如シ

症候 1 胃食滯 概ネ嘔吐シ自ラ治スルモノアリ假令眞ニ嘔吐セサルモ惡心・嘔意アリテ屢嘔吐ヲ試ミ盛ニ涎ヲ流シ食慾全廢・強テ食ヲ勸ムレハ嘔意ヲ催フス然レトモ渴甚シク頻ニ水ヲ飲マント欲ス胃ハ膨滿シ之ヲ壓スレハ呻吟ス病犬ハ鬱憂シテ活潑ナラス呼吸稍促迫ス或ハ不安ニシテ屢身體ノ位置ヲ變シ苦痛ヲ訴フルモノアリ概ネ無熱ナリ

2 胃かた一る 病畜ハ概ネ嘔吐ス然レトモ嘔吐ハ特徴ニアラズ何トナレハ胃潰瘍・胃癌・胃腸炎・胃腸ノ膨大・狹窄・竈頓・内臓蟲・腹膜炎・横隔膜炎・食道病・咽頭炎・尿毒症・敗血症・急痲・癲癇・腦卒中・腦炎・耳漏等ニ於テモ嘔吐スルコトアレハナリ又犬ハ咳嗽ノ際屢、嘔吐スルコトアリ

胃かた一るノ経過ハ急性又ハ慢性ニシテ有熱若クハ無熱ナリ輕症ニ於テハ病畜快活ナラス運動ヲ欲セス食慾減損・纔ニ嗜好物ノミヲ喫シ又大ニ渴ス一兩日ニシテ諸症消散ス又屢、嘔意ヲ催シ或ハ嘔吐ス蓋シ其初メ食糜ヲ吐キ後ニハ泡沫様ノ粘液ヲ吐出シ往々之ニ血液及膽汁ヲ混シ甚シキハ純粹ノ膽汁ヲ吐出ス通便秘結・體溫稍、昇騰ス^{39—39.5°C}病犬ハ褥藁ヲ爬攪シ且冷處ヲ選フ胃脘部ヲ壓迫スレハ疼痛ヲ訴フ

3 腸かた一る 腸ノミ病ニ罹ルトキハ嘔吐ヲ發セス食慾モ亦胃かた一るノ如ク減損セス胃脘部ヲ壓スルモ疼痛ヲ訴ヘス主要ノ症候ハ下痢トス糞ハ其初メばぶぶ状ヲ呈シ後ニハ粘液狀又ハ水様トナリ或ハ膽汁及血液ヲ混シ或ハ泡沫ヲ含ム既ネ臭氣甚シク直腸ノ粘膜ハ潮紅・腫脹シ頻ニ努責シ尿中ニ膽汁ノ色素ヲ混ス熱ハ稍、高ク^{40—41°C}屢、黃疸ヲ伴フ

経過 急性胃腸かた一るハ1—2週間ニ治スルヲ常トス慢性胃腸かた一るハ頻發ノ症ニシテ飼養ノ失宜ニ由リ或ハ急性胃腸かた一るヨリ轉シ來ル

豫後 概ネ佳良・但シ幼弱・貧血ノモノハ脱力シテ斃死スルコトアリ

療法 先ツ暫時絶食セシメ水モ亦多量ニ與フ可ラス榮養物トシテハ數次少量ノ生肉ヲ與フルヲ佳トス食物胃中ニ充滿スレ

ハ吐劑ヲ與フ可シ即チ鹽酸あほもるひね 0.003—0.005 ヲ皮下ニ注射シ又ハ吐根末 0.5—2.0・吐酒石 0.05—0.3 ヲ與フ食慾久シク全缺スレハ健胃劑ヲ投ス例之稀鹽酸 (5.0・水 250.0 1日數回1茶匙乃至1食匙) 或ハ稀鹽酸ニペふしんヲ伍ス (稀鹽酸・ペふしん各 5.0・水 350.0 1日數回1茶匙乃至1食匙) 又ハ苦味ちんき 5.0・稀鹽酸 2.5・水 150.0 ヲ1日3—4回1茶匙乃至1食匙ヲ與フ大黃ちんき 4.0 ヲ1日3回服用セシムルモ亦效アリ

下痢アレハ冷水ヲ禁シ葛湯・米飯汁又ハ大麥ノ煮汁ノ類ヲ與ヘ腹部ヲ溫包シ赤酒ヲ與フ之ニ桂皮末ヲ加フレハ更ニ妙ナリ止瀉藥トシテ阿片ちんき 20—60 滴ヲごむ漿ニ混シ又ハどうぶる散 0.5—2.0 ヲ用ウ近時ノ經驗ニ徴スレハきせろほるむ1回量 0.5 ヲ白糖又ハごむ漿ニ伍用スレハ良效アリ頑固ナレハたんにん 1.0 (1日量) 又ハ蛋白たんにん若クハ硝酸銀 0.01—0.05 ヲ蒸溜水ニ溶解シ又ハ丸劑トナシテ與フ時トシテ收斂劑ノ灌腸ヲ要ス例之たんにん・硝酸銀・明礬各 1—2% ノ如シ

便秘アレハ甘汞 0.03—0.1 又ハ蓖麻子油 30.0 ヲ頓服セシム頻ニ嘔吐ヲ發スレハ屢、冰片ヲ與ヘ阿片・ぶろむかり・抱水くろら一る等ノ少量ヲ投ス (ぶろむかりハ1回量 1.0) 次硝酸蒼鉛 0.2—1.0・くれをそーと・くれをりん・數滴ノよーどちんきモ亦可ナリ異常ノ酸酵アレハ甘汞 0.03—0.1 又ハくれをりん 1—2.0・なふたりん 0.5—2.0 等ヲ用ウ

犬ノ便秘 Verstopfung beim Hund 獨

原因 通便ノ便秘ハ蠕動機ノ不振又ハ器械的ノ障礙ニ因ル

1 消化シ難キ刺激性榮養物 例之骨・麵麩・乾食等ノ如シ

2 運動不足 是レ屢、秘結ノ原因トナル

3 高齢 腸壁ノ萎縮ニヨリ蠕動減衰ス

4 慢性腸かた一 刺戟ヲ感セス腸液ヲ分泌セス

5 腸ノ器械的壅塞 異物・糞塊・骨・近傍ノ腫瘍例之攝護ノ腫瘍ノ壓迫・腸ノ擴張殊ニ盲腸・麻痺・痔疾・肛門腺排泄管ノ閉塞・假性便秘等トス

6 症候的便秘 熱性病ノ經過中・下劑ノ服用後・黃疸・腹膜炎・腸炎・腦脊髄病等ニ發ス

症候 主徴ハ通便ノ秘結若クハ絶無ニ在リ病犬ハ屢、努責窘迫シ通便ニ際シ疼痛ヲ覺ユ糞ハ硬ク土色ヲ帶ヒ臭氣鼻ヲ衝キ粘液及血液ヲ混ス食思減損・蠕動抑止・腹壁緊張ス肚腹ヲ按診スルニ硬キ結節狀ノ糞塊ニ觸ル之ヲ壓スレハ病犬ハ疼痛ヲ訴フ直腸ニハ硬キ宿糞停滯スルカ或ハ毫モ堆積セス腸管全ク壅塞スレハ吐糞ス熱ハ至テ輕ク精神ハ初期ニ於テ爽快ナルモ末期ニ至レハ痴鈍トナル時々痙痛ノ狀ヲ呈スルコトアリ

經過 數日或ハ4—6週(平均8—15日)ニ亙ルコトアリ滯糞ノ爲メ腸ノ壞死・腸炎及穿孔性腹膜炎ヲ發ス又腸ノ癩痕・狹窄・擴張ヲ見ルコトアリ

豫後 佳良・時トシテ慎重ヲ要ス稀ニハ不良ナルコトアリ

診斷 經久ノ飢餓ニ由テ通便ナキモノ及腫瘍等ト鑑別スルヲ要ス

療法 消化シ難キモノ及容積ノ大ナル食餌ヲ避クヘシ骨・甘藷・時麵麩等トシテハ絶食セシメ或ハ淡白ノ食(例之粥汁)若クハ冷水ヲ與フ經過長キトキハ唯、乳汁・肉羹汁ノミヲ給與シ勉メテ運動セシムヘシ

灌腸ニハ微温湯ヲ用キ又ハおれ一ふ油(1日3回15—30c.c.宛)ヲ注入スルコトアリぐりせりんノ灌腸ハ概ネ無効ニ屬ス腹部ノ按摩・直腸ノ検査ハ必ス怠ルヘカラス

内服ハ蓖麻子油20.0—60.0又ハ甘汞0.05—0.1ヲ砂糖ニ和シテ用ウ又蓖麻油10.0—20.0・巴豆油1—5滴ニあらびあごむヲ伍シ良效ヲ

見ルコトアリ 最後ニハ硫酸セゼりんノ皮下注射ヲ試ムヘシ其量0.001—0.003トス

犬ノ異物性胃腸病

Corpora aliena Ventriculi.

原因 胃腸穿孔・出血・胃瘻・胃若クハ腸ノ壞疽性炎症等ハ異物ノ爲メニ發ス所謂異物トハ大骨片・石・鉛・鐵・彈丸・木片・果物ノ皮(栗皮)等ニシテ遊戯ノ際吞下スルコト多シ

剖檢 胃又ハ腸ノ膨大・肥厚・異物ヨリ後部ノ狹窄・空虛竝ニ其竊留部ノ炎症・壞死等ヲ見ル

症候 當初異物猶ホ胃内ニ遊離シテ存スルトキハ更ニ病徴ヲ呈セサルカ或ハ急性かた一ノ狀ヲ呈ス金貨ヲ吞下シ12年間無病ニ生存セシ例アリ異物長ク腸ニ存スレハ慢性かた一ノヲ來ス異物若シ胃又ハ腸ノ一部ニ竊留シ之ヲ壅塞スレハ病候始メテ顯著トナル蓋シ初期ハ無熱ニシテ憂愁・伏臥・絶エス吠鳴シ鳴聲次第ニ衰ヘ頻々體位ヲ變シ胃腕部過敏ニシテ食ヲ嫌ヒ屢、水ヲ飲ミ飲食ノ後嘔吐ス時トシテ非常ニ頑固ノ嘔吐・吐糞Miserere及重性黃疸ヲ見ル通便ハ秘結スルカ或ハ全ク絶ス異物大ナルトキ殊ニ然リ末期ニ至レハ熱ヲ發シ速ニ羸瘦ス時トシテ狂犬病類似ノ症ヲ呈シ性質一變シ瘳惡トナリ人ヲ咬ミ物ヲ破壊スルノ癖ヲ現ハス

診斷 腹部ノ按診精密ナルヲ要ス後肢ヲ以テ體ヲ提擧シ腹部ヲ按摩スヘシRöntgen光線ヲ利用スレハ診斷ニ妙ナリ

療法 吐劑・下劑多クハ無効ニ屬ス強テ多量ノ甘藷・麵麩等ヲ食セシメテ異物ノ排出ヲ促スコトアリ根治ハ手術ヲ要ス胃ノ截開術・腸ノ截開術ノ如キ是ナリ

豚ノ胃腸かた一る

Magen-Darmkatarrh der Schweine 獨.

原因 飼養失宜ヲ主因トナス流行性胃腸かた一る(所謂胃疫)ハ多
雨ノ年ニ多ク感冒・濕潤・管理ノ怠慢・蝸牛・昆蟲ノ過食等ニ因ル

症候 食思缺損・嘔吐・疝痛ヲ發シ不安トナリ或ハ便秘シ或ハ下
痢ス體溫稍・昇騰・四肢及耳ハ厥冷シ鼻端熱ヲ帶ヒ結膜ハ潮紅シ尋常
中ニ身體ヲ匿クシ尾ヲ垂下ス

療法 犬ニ同シ唯、藥量多キヲ要シ且用法ヲ異ニス豚ニハ飲劑ヲ
投ス可カラズ醫藥ハ食餌ニ混シ或ハ灌腸シ或ハ皮下ニ注射スヘシ

食滯又ハ食傷(不良變敗ノ食ヲ食饑シタル者)ト認ムレハ吐劑トシ
テダラとりん 0.02 ヲあるこ一る 5.0 ニ溶解シ耳ノ後面ノ皮下ニ注
入ス鹽酸アボもるひねハ豚ニ效ナシ白藜蘆根末 0.5—2.0・吐根末 1—
3.0 ヲ與フルコトアリ白藜蘆煎劑(2:50.0)ノ灌腸亦試ムヘシ便秘ア
レハ甘草 1—4.0 ヲ白糖ニ和シ舌上ニ撒布ス下痢ニ對シテハ阿片末
1—2.0・たんにん等ヲ用キ滋養料トシテ乳・肉羹汁・麵麩・麩汁等ヲ
給與ス

家禽ノ胃腸かた一る

Magen-Darmkatarrh des Geflügels 獨.

1 家禽ノ單純胃腸かた一る

Der einfache Magen-Darmkatarrh
beim Geflügel 獨.

普通ノ下痢ハ家禽これら及中毒性腸炎ノ下痢ト區別セサル可ラス
本症ハ優等ノ輸入幼雞ニ於テ春期ニ多シ

原因 其原因ハ他ノ家畜ニ於ケルカ如ク飼養ノ失宜 過食・變敗食・
不消化物

ニ在リ又感冒・内臟蟲・結核ノ爲メ下痢スルモノアリ

剖檢 落屑性腸かた一る(潮紅・腫起・上皮剝脫)又ハ腸炎ヲ見ル

症候 食慾減少・羽毛逆張・鬱憂・嗉囊久シク空虛トナラス粘液
様ノ白色糞ヲ排ス遂ニハ綠白色ノ水様糞汁ヲ瀉下ス渴加ハリ次第ニ
衰弱シ下痢止マサレハ終ニ虛脱又ハ出血性腸炎ニ因リテ斃ル

療法 雞舎ヲ清潔ニシテ病鳥ヲ温保シ煮麥・米飯等ヲ與ヘ炒小麥・
葛湯・燻蒜・麻實・ぶらん酒ニ浸セル麵麩・赤酒(1茶匙乃至1食匙)
粘汁(亞麻仁煎1:水20.0)・蜀葵根煎汁(10:水200.0)1食匙ヲ與フ止
瀉藥トシテハ硫酸鐵(1%ヲ飲水ニ和ス)又ハ阿片ちんき(1.0)頑症ニ
於テハ硝酸銀1%溶液1—2茶匙・胃弱ニハ蒜・胡椒ヲばたニ混シ丸
劑トナス又薄荷浸(2:60)1日3回1食匙ヲ與フ

2 家禽ノ便秘 Verstopfung beim Geflügel 獨.

下痢ニ續テ發シ又寄生蟲・石・羽毛其他ノ不消化物ニ基キ又肛内糞
塊ノ蓄積・腸ノ消化力微弱ニ由ル

療法 綠食・粘劑・脂肪・油ヲ與ヘ冷水ヲ灌腸シ蓖麻子油2食匙・
さびな葉末 1—2.0・大黃 0.2—0.5 ヲ蜂蜜ニ伍シ丸劑トナス甘草 0.5
—0.1 小禽ニハ芒硝又ハ人工かるゝす泉鹽ヲ飲料水(1:200)ニ混ス

馬ノ疝痛 Colica equorum, Dolo coli.

Kolik des Pferdes 獨.

總說

病性 疝痛トハ腹腔内諸臟器ノ種々ノ疾病ニシテ專ラ疼痛
ヲ發スルモノヲ云フ疝痛ハ總稱ニシテ單一ノ疾病ヲ指スニアラ
ス之ヲ別テ眞性及假性トナス眞性ノ疝痛トハ胃・腸ニ病アリテ

疼痛ヲ發スルモノヲ云ヒ假性ノ疝痛トハ腎臟・膀胱・子宮等ニ病アリテ疼痛ヲ感スルモノヲ云フ又傍發性疝痛ナルモノアリ炭疽・血斑病・中毒等ニ發ス

疝痛ハ獸醫内科学上重要ナル症ニシテ最近ノ統計ニ據レハ本邦ノ軍隊ニ在テハ全病馬ノ2.1%・全消化器病ノ5.8%ヲ占ムプロシヤ軍隊ニ在テハ全病馬ノ11—14%ニ達ス

原因 1 特異素因 馬ニ疝痛ノ多キ所以ハ次ノ事實ニ因ル

- [1] 馬ノ胃ハ至テ小ナリ
- [2] 馬ハ嘔吐困難ナリ
- [3] 馬ノ腸間膜ハ長クシテ固著セス盲腸・結腸ノ骨盤彎曲及其胃狀膨大部ニ食物停滯シ易シ

[4] 馬ノ腸神經ノ末梢ハ非常ニ鋭敏ナリ

[5] 馬ニハ寄生性動脈瘤ノ發生多シ

2 感冒 冷濕ノ空氣・天氣ノ急變・毛絨ノ更脱・凍互ノ食・非常ノ冷水^{零下7°C}以下ノ水

3 過食 急ニ大量ノ食ヲ貪饑スルニ由ル飼料ヲ急變シ又ハ飼料ト使役ノ關係宜キヲ失スルトキ起リ易シ故ニ疝痛ハ日曜日・祭日等ニ多シ麥・藁・糠・稗・豆類(殊ニ大豆)・新麥・新乾草・甘藷・玉蜀黍等ヲ飽食スレハ殊ニ疝痛ヲ發シ易シ食後直ニ使役スルモ亦然リ齒牙ノ疾患ニ基ク咀嚼不全モ亦疝痛ノ1因ナリ

4 食傷 土砂ヲ被リタル食・濕潤微敗ノ食・不潔變敗ノ食

5 胃腸内ノ酸酵 赤苜蓿・紫苜蓿・酸酵セル青草・生蕎麥・大豆・根菜・甘藷ノ葉・蔓等ハ殊ニ風氣ヲ醸シ易シ食後直ニ多量ノ水ヲ與フレハ酸酵ヲ促ス又疝癖アルノ馬・多量ノ空氣ヲ嚥下スレハ疝痛ヲ起スコトアリ

6 腸内容ノ停滯 運動不足ノ馬・弛緩性ノ食物ヲ過食スルニ由ル例之對藁・稗・木材質ニ富メル食・麥粉・糠・甘藷ノ蔓等ハ皆腸ニ停滯シ易シ腸壁ノ弛緩・擴大・麻痺等アルトキハ殊ニ然リ

7 結石・結塊 土砂ヲ被リタル牧草又ハ掃集セシ稗・麥粉・糠等ヲ食スルニ由ル故ニ水車製粉場ノ馬ニ多シ

8 腸ノ寄生蟲 例之條蟲・蛔蟲・すくれろすとーむ・蟻蟲・馬蠅等ノ如シ

9 腸ノ狹窄

10 飢餓 飢餓ニ因ルモノヲ飢疝 Hungerkolik ト云フ

11 腸ノ變位 軸轉・纏結・重疊・符頓・絞搾等ハ輾轉・翻倒ノ際ニ起リ易シ

12 腸ノ組織變狀 腸かたーる・炎症・潰瘍・中毒等

疝痛ノ種類 疝痛ノ分類法種々アリト雖實地上次ノ7種ヲ重要ナリトス

1 痙攣疝又感冒疝 Colica spasmodica. Erkältungskolik.

2 急性胃擴張又食滯疝又過食疝 Dilatatio ventriculi acuta. Ueberfütterungskolik.

3 便秘疝 Colica stercoracea. Anschoppungskolik.

[1] 單純便秘疝 Einfache Anschoppungskolik.

[2] 砂疝及結石疝 Sandkolik und Steinkolik.

[3] 腫瘍ニ因ル便秘疝 Verstopfungskolik durch Neubildungen.

[4] 腸狹窄ニ因ル便秘疝 Verstopfungskolik durch Darmstrikturen.

[5] 腸ノ擴張及麻痺ニ因ル便秘疝 Verstopfungskolik durch Dilatation und Lähmung des Darmes.

- 4 風氣疝又腸鼓脹 Colica flatulenta.
- 5 變位疝 Colica dislocationis.
- [1] 腸ノ筋頓及絞挫 Incarceratio et strangulatio intestini.
- [2] 腸ノ軸轉及纏結 Torsio et volvulus intestini.
- [3] 腸ノ重疊 Invaginatio intestini.
- 6 血塞疝 Colica thrombo-embolica.
- 7 寄生疝 Colica Verminosa.

本邦ノ軍馬ニ就テ疝痛ノ種類・發生及斃死ノ比率ヲ調査スルニ大正十二年ヨリ昭和二年ニ至ル5年間ノ統計ハ次ノ如シ

區分	年次	大正	同	同	昭和	同	平均
		12年	13年	14年	元年	2年	
痙攣疝	發生率(%)	1.12	2.02	1.29	1.74	1.76	1.59%
	死亡率(%)	—	1.11	1.96	1.49	1.47	1.21%
食滯疝	發生率(%)	6.06	3.18	3.26	3.33	2.26	3.62%
	死亡率(%)	4.29	6.96	3.88	7.81	3.45	5.28%
風氣疝	發生率(%)	2.96	1.91	1.29	1.46	1.58	1.84%
	死亡率(%)	2.19	4.60	5.88	3.57	4.92	4.23%
便秘疝	發生率(%)	15.47	15.32	15.39	16.42	20.75	16.67%
	死亡率(%)	3.92	3.86	3.12	2.38	2.00	3.06%
變位疝	發生率(%)	0.69	0.94	0.83	0.73	0.75	0.79%
	死亡率(%)	90.63	100.00	90.91	92.86	96.55	94.19%
其他ノ疝痛	發生率(%)	0.15	0.39	0.45	0.36	0.52	0.37%
	死亡率(%)	75.00	44.44	55.56	57.14	35.00	53.43%
疝痛總計	發生率(%)	26.46	23.76	22.51	24.05	27.62	24.88%
	死亡率(%)	6.05	8.58	7.63	6.71	5.45	6.88%

備考 發生率ハ保管馬ニ對スル病馬ノ比例トス

Bollinger 氏ノ統計ニ據レハ疝痛病馬ノ總死亡數中 50—60% ハ腸ノ變位竝ニ腸ノ器械的原因ニ由リテ斃レ 40—50% ハ腸炎・腹膜炎ノ爲メニ死ス剖檢上最モ多キハ結腸及小腸ノ變位ト胃破裂ナリ之ニ次クモノハ胃腸炎・結腸破裂・橫隔膜破裂ニシテ網膜ノ破裂 Winsrow 氏孔内腸ノ筋頓・結腸便秘・盲腸轉捩ハ較、少シ

1889—1893 年プロシア軍馬 1892 頭ノ剖檢中胃破裂 347 回 (18%)・結腸轉捩 336 回 (17%)・小腸ノ變位 331 回 (17%) アリ其他ハ腸結石・腸ノ腫瘍・盲腸及直腸ノ破裂・小腸ノ小腸内又ハ盲腸内翻入・腸擴張(憩室)・直腸便秘・直腸軸轉・直腸ノ直腸内筋入・寄生蟲等ナリ

症候 疝痛ハ通常急發シ稀ニハ徐發ス其主徴ハ腹痛ニシテ動物ノ舉動不穩ニヨリ知ルヘシ即チ前肢ヲ以テ地ヲ爬シ後肢ヲ舉ケテ腹ヲ蹴ラントシ屢、後體ヲ顧眄シ頻ニ尾ヲ掉リ前肢ヲ屈シ背ヲ彎シ頭・頸ヲ伸ハシ後肢ヲ腹下ニ前メ時々呻吟シ以テ苦痛ヲ訴フ病勢較、重キトキハ頻リニ起臥シ或ハ身體ヲ伸張シ後肢ヲ開張シ恰モ排尿ヲ試ムルカ如シ然レトモ尿ヲ排スルニアラス疝痛愈、劇烈ナレハ突然仆レテ左右ニ滾轉シ或ハ仰臥シ^腹ヲ屈シ之ヲ腹上ニ集メ或ハ犬ノ如ク跪キ或ハ牛ノ如ク前肢ヲ屈シ後體ヲ高クス暖氣・惡心・嘔吐ヲ催シ鼻孔ヨリ吐物ヲ泄ラスコトアリ喘々然トシテ非常ノ注意ヲ以テ起臥スルモノアリ時トシテ腹痛ノ發作劇甚ニシテ發狂ノ如ク騒亂シ跳躍・躄息・呻吟・哀鳴・騒動シテ人ヲ襲ハントシ飼槽ヲ嚙ミ切齒・搖唇・開口シ或ハ漫ニ前進シ或ハ馬場運動ヲナシ不斷頭ヲ動シ齶然壁ニ靠著シ震戰シテ痙攣ヲ發ス痙攣疝ニ在リテハ疼痛ハ間歇ス其休間ハ不安ノ狀ヲ呈セス僅ニ飲食スルモノアリ腹部膨大或ハ緊縮ス聽診スレハ腸ノ蠕動音大ニ減スルカ或ハ全ク聽ク可ラス時トシテ

ハ金屬音ヲ聽ク但シ下痢疝ニ在リテハ蠕動音頗ル高ク往々腹中雷鳴ヲ聽ク普通ノ疝痛ニ於テハ概ネ秘結シ通便遲滯・稀ニ少量ヲ排泄ス糞ハ小塊ヲナシ頗ル硬ク暗色ヲ帶ヒ粘液又ハ血液ヲ混シ臭氣鼻ヲ衝キ稀ニハ軟鬆ニシテ恰モ牛糞ノ如ク大塊ヲナシ概ネ不消化物ヲ混シ屢放屁ス結膜ハ或ハ常色ヲ帶ヒ或ハ潮紅シ或ハ不潔ノ暗赤色・淡黃色ヲ呈ス口内ノ粘膜ハ潮紅乾燥シ或ハ多量ノ粘唾ヲ含ム或ハ厥冷・蒼白・舌ハ概ネ苔ヲ生ス脈ハ輕症竝ニ初期ニ在リテハ異常ナシ終ニハ 50—60 ニ増數ス疝痛・炎症ニ轉スレハ 1 分時ニ 80—90 ヲ算ス脈性細硬・後ニ至レハ手ニ觸レス心機亢盛・心音頗ル高シ

呼吸ハ初期ニ異常ナキモ病馬煩騷ノ爲メニ増數ス風氣疝ニ於テハ呼吸頗ル促迫シ甚シキハ窒息ノ虞アリ體溫モ亦輕症ニ於テハ常ニ異ナラサルモ重症ニ在リテハ 39—40°C 若クハ 41°C ニ達シ耳・脚厥冷シ多クハ發汗ス冷粘汗ハ惡徵トス口内ノ厥冷モ亦良徵ナラス尿ハ疼痛ノ持續スル間毫モ排泄セラレス若シ排尿アレハ良徵ナリ尿色ノ濃淡・反應・蛋白質ノ有無等一定セス精神又異常ナキモ重症ニ於テハ往々痴鈍トナル直腸検査ヲ行ヘハ糞ノ量竝ニ其狀ヲ知ルコトヲ得ヘシ直腸ニハ糞塊滯積シ或ハ全ク空虚ナリ直腸粘膜ハ往々熱ヲ帶ヒ大ニ腫脹ス時トシテ直腸ハ非常ニ擴張シ或ハ狹窄ス稀ニハ此検査ニ依リテ結石・腸重疊・ヘるにあ・箝頓等ヲ發見シ結腸結腸左下層及骨盤彎曲部ニハ盲腸ノ状態竝ニ膀胱ノ盈虛ヲ知ルコトヲ得・故ニ直腸検査ハ必ス怠ル可ラス

腸炎ニ轉スルトキハ疼痛劇甚或ハ較安靜トナリ斷エス苦悶シ喘々然トシテ地ニ臥ス結膜暗赤色ヲ帶ヒ脈細數^{1分時ニ}70—100 後ニ至レハ全ク手以テ觸知スヘカラス體溫ハ 39—40°C ニ達シ冷粘

汗ヲ流シ口内厥冷シ遽ニ虚脱ス

經過 概シテ疝痛ノ經過ハ數分時ヨリ數時間ニ互ル 24—36 時間以上ハ既ニ惡徵ニ屬シ次急性ノ疝痛ハ 8—14 日ニ彌リ又間歇的ニ來ルモノアリ合併症ハ諸部ノ挫傷眼弓・顳骨弓・4 肢ノ外傷・腸骨外角・腱炎・脱臼・骨折・異物性肺炎・腹膜炎・内臟變位・破裂・ヘるにあ・口炎・咽頭炎・直腸粘膜ノ毀傷・褥創等ナリ

豫後 速ニ全治シ或ハ炎症ニ轉シ或ハ斃死ス風氣疝ハ炎症ニ轉スルニ先チ窒息ノ爲メニ斃ルコトアリヘるにあ・變位・箝頓・器質變狀疝等ノ如キ亦速ニ斃ル便秘疝・痙攣疝ハ治シ易シ死亡率ハ前記ノ如ク疝痛ノ種類ニ依リ著シキ相違アルモ總平均ハ 6.88 % ナリ病初豫後ヲ明言スルヲ得ス一見輕易ノ疝痛モ致命ノ腸變位ヲ來スコトアリ同一ノ疝痛ニ於テモ豫後ハ瞬間ニ變スルヲ以テ極テ慎重ヲ要ス凡テ疼痛減却・皮溫均一・發汗減少・脈ハ強且軟トナリ 2 便排泄シ食欲舊ニ復シ且蠕動音ヲ聽クヲ得ハ即チ治癒ヲ期スヘシ多量ノがすヲ排シ水ヲ飲ミ大ニ排尿スルハ良徵ナリ

無熱ノモノハ豫後良トス蠕動音ノ絶ヘサルモノ亦良ナリ變位疝ニ於テハ概ネ不良トス嘔吐モ多クハ惡徵ナリ腸炎ニ轉スレハ殊ニ不良ナリ

胃腸炎・腹膜炎・胃腸又ハ横隔膜ノ破裂等ノ發生ヲ示ス惡徵ハ細數・不正ノ脈(遂ニ觸知スルヲ得ス)高熱又ハ次平溫・疝痛ノ急劇増加又ハ突然ノ減退・冷粘汗・4 肢厥冷・經久便秘・蠕動機全廢・肚腹大膨脹・呼吸困難・嘔吐等ナリ

診斷 或ハ易ク或ハ難シ主ラ次ノ諸症ト鑑別スルヲ要ス

1 へもぐるびんあみあ(血色素病) 本病ニ於テハ後肢麻痺シ腰

部ニ疼痛ヲ覺エ尿ハ變色シテ血色素ヲ含ム

2 陣痛 疼痛ハ輕微ニシテ生殖器ニ變狀アリ殊ニ腹部ノ状態ニ注意スヘシ

3 尿閉 久シク利尿ナシ膀胱竝ニ尿道ヲ検査シ以テ尿閉ノ原因ヲ發見スヘシ時トシテハかてーてるノ挿入ヲ要ス

4 膀胱炎 尿ヲ檢シ膀胱ノ上皮細胞・膿球・磷酸3基鹽ノ結晶ヲ發見シ直腸ヨリ膀胱ヲ壓シテ知覺ノ如何ヲ試ミ且尿意頻數ニシテ胃腸ニ障礙ナキニ注目スヘシ

5 子宮炎 外陰部ノ検査及内診ヲ行フ又分娩・流産ノ有無ヲ問診シ腔排泄物・子宮ノ感覺・腫脹等ニ注意スヘシ本病モ亦經過ノ長キヲ常トス

6 子宮ノ轉位 子宮ノ翻轉・脫出・轉振・箱頓ハ内診及外診ニ賴テ發見スルヲ得ヘシ

7 へるにあ 鼠蹊・臍・腹内・陰囊ノへるにあニ於テハ疝痛劇甚ナリ局部ノ検査及直腸検査ニ由テ往々發見スルコトヲ得・經過ハ不良ナリ

8 腹膜炎 疝痛ト腹膜炎トノ鑑別ハ頗ル難ク間、識別スルヲ得スれうまちす性腹膜炎ハ同性ノ疝痛ト區別シ難シ外傷又ハ手術ニ續發スル腹膜炎ハ創傷・腎・膀胱・子宮等ヲ檢シテ診斷スヘク疝痛ノ經過中ニ起ル腹膜炎ハ大熱・細數ノ脈・脱力等ニ徴シテ推診スヘシ

9 腸かた一る及腸炎 急性ノ腸かた一るハ輕疝痛ヲ發スルモ速ニ治シ且多クハ下痢ス眞ノ腸炎ニ在リテハ能ク既往ヲ詢究シ刺戟物及毒物ヲ與ヘタルヤ否ヤヲ聞キ尙ホ一般ノ徵候ヲ吟味スヘシ眞ノ腸炎ニ在リテハ疼痛持長シ病勢ハ重ク且頑固ノ便秘アリ往々血便ヲ泄ラシ熱度高ク脈搏細數・結膜暗赤色ヲ呈ス

10 腎炎 尿ノ顯微鏡的及化學的検査ヲ施シ診定スヘシ腎炎ニ於ケル腹痛ハ輕クシテ腰部ノ知覺過敏・後肢強拘ニシテ之ヲ開張ス

11 肝炎 馬ノ急性肝炎ハ極テ罕ニ肝臟ノ表面ヲ被フ所ノ腹膜ノ炎性刺戟ニ由リ少シク不安ノ徵ヲ呈スルコトアリ黃疸ノ狀アルニアラサレハ診定シ難シ

12 肋膜炎及肺炎 呼吸ノ狀ニ注意シ胸部ヲ精檢スヘシ

13 腦炎竝ニ腰膜炎 腦症狀ヲ主徵トス

14 蹄炎・血斑病及炭疽 蹄炎ニ於テハ歩行ノ狀ニ注意シ血斑病ニ在リテハ出血ノ斑點ニヨリテ診斷ヲ確メ炭疽ニ於テハ一般ノ徵候ニ注意シ且血液ヲ檢スヘシ

療法 要旨 3アリ 1ハ鎮痛・2ハ便通・3ハ腸炎ヲ豫防スルニ在リ即チ病馬ハ廣キ馬房ニ入レ多量ノ臥藁ヲ敷キ其4壁ノ内面ヲ軟蓐(通常棕櫚ノ皮ヲ張レリ)ニテ覆ヒ以テ患馬ノ滾轉ニ因ル打撲・負傷ヲ防キ屢、藁束ヲ以テ強ク腹部及4肢ヲ摩擦シ或ハ同時ニかんふるちんきトてればん油 1:10—20 或ハ 4:3:1ノ合劑(てればん油 1分・あんもにあ擦劑 3分・かんふるちんき 4分)ヲ腹壁ニ塗布シ或ハ溫濕布ヲ腹ニ纏フ便秘疝ノ輕症ニ在リテハ牽テ運動セシムヘシ但シ速歩・疾驅ヲ禁ス痙攣疝ニ於テハ運動ハ反テ害アリ重性ノ疝痛ニ於テハ強テ運動セシム可ラス寧ロ前記ノ寬馬房ニ放チ患馬ノ自由ニ委スルヲ可トス

疝痛ニ對シテハ必ス直腸ヲ検査シ滯糞ヲ除去シ或ハ結腸及膀胱ノ狀ヲ檢シ微溫ノ石鹼水又ハぐりせりんノ灌腸ヲ施ス他ノ療法ハ疝痛ノ種類ニ由リテ異ナレリ同一ノ藥劑ヲ諸種ノ疝痛ニ應用セントスルハ非モ亦甚シ

1 痙攣疝 Colica spasmodica. Erkältungskolik 獨

病性及原因 痙攣疝ハ身體ノ内部又ハ外部ノ冷却ニ由リ腸

ノ攣縮ヲ來シ以テ腹痛ヲ發セシム 身體ノ濕冷・發汗後寒風ニ暴露セラレ・冰冷ノ水ヲ飲ム等馬ハ感冒ノ原因ニ觸ル、コト多キヲ以テ屢、此種ノ疝痛ニ罹ル春秋ノ候ハ特ニ多シ種馬牧場ニ於テハ皮膚薄弱ナル貴駿之ニ罹リ易シ最近5年間ノ統計ニ據レハ本邦ノ軍馬ニ於ケル痙攣疝ノ發生率ハ1.59%トス ブダベスト獸醫學校くりにつくニ於テハ疝痛總病馬數ノ35%ヲ占ムト云フ

Marek 氏ニ據レハ本症ハ一時的ノ輕易腸かた一ニ外ナラス感冒ノ外酸酵性・腐敗ニ傾ケル食物殊ニ不潔・濕潤・變敗ノ廢棄並ニ消化不良ノ粗硬食ニ因ルト云フ

症候 痙攣疝ノ疼痛ハ胃腸筋膜ノ收縮ノ爲メ腸ノ知覺神經ヲ壓迫スルニ因ル腹痛ハ久シク持續セサルモ頗ル劇烈ニシテ卒然發作シ一時輕減シテ反復發生ス發作ト發作トノ間ハ殆ント健態ニ異ナラス斯ノ如キ弛張性ノ發作ハ實ニ本症ノ特徴ナリ他ノ疝痛ニ於ケルカ如キ腸蠕動作用ノ減衰及通便秘結ノ徵ヲ缺キ反テ腸攣縮ノ爲メ蠕動音ハ高ク通便ハ常態又ハ柔軟ニシテ甚シキハ下痢ス又痙攣音 Krampfgetön 薄キ金屬板上ニ高處ヨリ水ヲ滴下スルカ如キ音ヲ聽ク蓋シ此音ハ大ニ緊張セル腸1部ノがす突然緊張力ノ微ナル腸ノ他部ニ散漫スルニ因テ生ス

經過 良性ニシテ數時間ヲ出テス輕症ハ數分乃至30分以内ニ治ス然レトモ12時間以上ニ涉リ腸變位ノ如キ合併症ヲ來スコトアリ死亡率ハ1.21%ナリ

診斷 主トシテ血塞疝トノ鑑別ニ注意スヘシ卒然ノ發作・剖檢上變狀ノ缺如ハ2症俱ニ見ル所ニシテ鑑識至テ難シ唯、痙攣疝ハ概ネ感冒ニ原クヲ以テ感冒ヲ來スヘキ事情アリタルヤ否ヤヲ詢究スヘシ但シ栓塞疝又ハ血塞疝ハ感冒ノ關係ナシ

療法 鎮痙ノ良藥ハもるひねトス實ニ此疝痛ニ於テハもるひねノ應用ハ對症療法ニアラスシテ原因療法ナリ之ニ由テ腸ノ攣縮・疼痛ヲ治シ得ルノミナラス腸變位ノ危險ヲ豫防ス鹽酸もるひねノ皮下注射量ハ0.3—0.4ヲ5c.c.ノ蒸溜水ニ溶解ス大抵1回ノ注射ヲ以テ足レリトス罕ニハ2回ヲ要ス又抱水くろら一ノ浣腸若クハ内服(25—50.0)ヲ賞用スルモノアリ

かみるれ・薄荷・茴香・あにす等ノ浸劑ハ揮發油ヲ含ムヲ以テ鎮痙ノ效アルモ其效力ハもるひねニ比シテ弱キノミナラス浸劑ハ氣道ニ入り異物性肺炎ヲ來スノ虞アリ硫酸ゑぜりんハ禁忌ニ屬ス

外用ハ てれびん油及かんふるちんき(1:10—20)ヲ腹側ニ塗擦シ馬體ヲ溫覆ス微溫湯ノ灌腸・溫濕布ノ腹部ノ纏包ハ鎮痙ノ效アリ病馬ハ須ラク靜養シ運動セシム可ラス

2 食滯疝又過食疝 Colica crapulosa.

Ueberfütterungskolik 獨.

又急性胃擴張 Dilatatio ventriculi acuta.

病性 食滯疝(過食疝)ハ非常ニ大量ノ食ヲ飽啖スルカ又ハ胃内容ノ排出阻止セラレ胃ヲ過度ニ膨大セシムル症ナリ故ニ急性胃擴張ノ別名アリ

食滯疝ノ發生率ハ本邦ノ軍隊ニ於テハ3.62%トス ベルリン高等獸醫學校くりにつくニ於テハ疝痛病馬ノ10%ブダベストニ於テハ11—24%ヲ占ム

原因 食滯疝(急性胃擴張)ニ原發・繼發ノ別アリ

1 原發性急性胃擴張 過食ニ由ル 燕麦9立以上ヲ過食セシ例アリ 大麥・燕麦・

玉蜀黍・大豆・截糞・新乾草等ノ過食・醱酵シ易キ飼料首瘤・るーさん・あすばるせつと・蕪菁・馬鈴薯・變敗被微ノ食・醱酵セル青草等・食後ノ大勞働・食物ノ急變・給食時間ノ不定モ亦發病ノ原因トナリ罕ニハ大量ノ冷水飲用ニ由ル齒牙ノ疾患竝ニ大寒・酷暑モ素因トナル

2 繼發性胃擴張 小腸ノ變位ニ原クモノ多シ又大腸ノ轉位・便秘・氣脹ニ因ルコトアリ蓋シ腸ニ閉塞アレハ胃ノ内容物ヲ後送スル能ハス腸ニ逆蠕動ヲ起シ腸ノ内容ヲ胃ニ向ツテ逆送スルニ由ル

剖檢 胃ハ平素ノ容積ノ數層倍擴大シ往々多量ノがすと食糜若クハ食ヲ混セル液體ヲ含ム胃粘膜ハ急性かた一ノ狀ヲ呈シ間々出血ス胃破裂 Ruptura ventriculi ニ在テハ胃ノ内容ハ腹腔ノ前部若クハ大網膜ノ2層間ニ存シ血液ヲ混シ腹膜ハ發炎ス而シテ破裂ハ大抵大彎ニ存シ裂縁ハ腫起・出血シ裂口ハ漿液膜ニ於テ最大・筋膜ニ在テハ稍、小ニシテ牽縮シ粘膜ニ於テ最モ小ナリ往々漿液膜ノミ破裂シ他ノ2層ハ裂傷セス肺ハ充血シ往々横隔膜ノ破裂アリ其裂口ヨリ腹内臟器ノ胸腔内ニ脱出スルヲ認ム

症候 1 原發性胃擴張 喫食後數時間4時—7時間内ニ疝痛ヲ發ス其疝痛ハ劇烈ニシテ持續シ殆ト間歇セス突然仆レテ滾轉シ往往犬坐姿勢ヲ呈ス時トシテ肚痛輕ク冷水過飲後ニ起レル胃擴張ノ如キハ腹痛ヲ訴ヘサルコトアリ

呼氣ハ酸臭ヲ帶ヒ頻々噯氣・嘔意ヲ催シ或ハ嘔吐シ多クハ鼻孔ヨリ或ハ口ヨリモ食糜ヲ混シタル酸臭ノ液ヲ泄ラス左側ノ頸靜脈ハ頭部ニ向ヒ波狀運動ヲ示ス左頸溝ヲ按壓スレハ人工的ニ噯氣ヲ起サシム

食道ノ筋膜ハ弛緩スルヲ以テ胃かて一てるノ挿入ヲ試ムルニ

ハ何等ノ抵抗ヲ感セス胃管 Magenrohr ヨリ酸臭若クハ惡臭ノ液食糜ヲ混シ往々血色ヲ帶フヲ漏ラス頭ヲ低下スルトキ殊ニ然リ

腹圍ハ常ニ異ナラス或ハ僅ニ膨大ス腹ヲ打診スルニ常音ヲ呈ス腸ノ蠕動音ハ罕ニ起リ重症ニ在テハ全ク聽エス腸かた一若クハ輕度ノ氣脹ヲ併發スレハ活潑ノ蠕動音ヲ聞ク大ニ努責シテ少量ノ糞ヲ排ス後ニハ窘迫シテ1—2ノ糞球ヲ排出ス或ハ腸閉塞ニ於ケルカ如ク通便絶止ス直腸検査ヲ施シ小腸ニ中等度ノがすと蓄積アルヲ知ル前腸間膜根ノ直後方ニ於テ觸診シ得ヘシ脾臟ハ後方ニ推移シ其後縁ハ腸骨外角ノ部ニ達ス

呼吸ハ促迫シ脈疾速1分時60以上ヲ算シ後ニハ微弱トナル結膜ちあの一ぜヲ呈シ發汗ス體溫多クハ39°C以下・胃破裂ヲ併發スレハ高熱トナル尿中いんぢかんノ量増加スト云フ

2 繼發性胃擴張 原病ノ症候ニ掩ハレ噯氣・嘔吐ヲ主徴トス疑アレハ胃かて一てるヲ挿入スヘシ

経過及豫後 輕症ハ數時間内ニ治ス或ハ尙ホ若干日・急性胃かた一ノ徴ヲ存ス或ハ一旦安靜トナルモ胃炎ノ症狀ヲ顯ハシ終ニ斃死スルモノアリ或ハ吐物ヲ嚥下シ肺壞疽ヲ來シテ斃ル死因ハ窒息・胃破裂・罕ニハ横隔膜破裂ナリトス蓋シ過度ニ緊張シタル胃カ破裂スレハ肚痛ハ突然消散シ俄ニ虚脱シ呼吸困難・脈微弱・顔貌鬱憂ヲ帶フ死亡率ハ5.28%ナリ

療法 治療ノ目的ハ胃内容ノ排除ニアリ乃チ輕症ニ於テハ蘆薈(25—30.0)・硫酸まぐねしあ(200—300.0)又ハ大黃20—25.0ヲ丸劑若クハ舐劑トナス又鹽酸びろかるびん(0.2—0.4)・硫酸ゑぜりん(0.06—0.08)若クハ其合劑ヲ皮下ニ注射ス但シびろかるびんハ心臟麻痺ヲ來シゑぜりんハ胃破裂ヲ惹起スルコトアリ胃

内ニがすヲ生シ膨滿緊張セル場合ハ殊ニ然リ慎重ヲ要ス

重症ニ於テハ豫猶ナク胃かてーてる Magenkatheter ヲ以テ胃内容ヲ排除セサルヘカラス蓋シ胃中ノがす又ハ液體ヲ除キ去レハ疝痛忽チ歇ム概ネ1回ニテ足ルモ時トシテ反復挿入ヲ要ス

胃かてーてる 長サ約 2.2m.・外徑 27mm.・内徑 16mm.ノごむ管ナリ

挿入法 馬ヲ梓場ニ保定シ介者ヲシテ馬頭ヲ低下セシメ Bayer 氏ノ箆口具 Maulkeil 若クハ Günther 氏ノ開口器 其横枝ニ綿絲又ハ麻織絲ヲ卷ク ヲ以テ口ヲ開キ助手ヲシテ舌

ヲ口外1側ニ引出サシメ術者ハおれーふ油又ハぐりせりんヲ塗布セルかてーてるヲ兩手ニ握リ口腔ヨリ咽頭・食道ヲ經テ胃ノ噴門ニ送り噴門ノ抵抗ニ打勝チ胃ニ挿入ス既ニ胃内ニ達スレハ酸臭ノがす及流動物劇シク进出ス其多キトキハ 10—20 立ニ達ス胃ノ内容濃厚ニシテ流出シ難キトキハかてーてるノ末端ニ漏斗ヲ装着シ數立ノ微温湯ヲ注入シ以

テ流出ヲ促ス胃ノ洗滌ハ流出液ノ無色トナルマテ之ヲ行ヒ次テ靜ニカてーてるヲ抜キ去ルヘシ

不安・煩躁甚シクシテかてーてるヲ挿入シ能ハサレハ止ムヲ得ス鹽酸もるひね (0.2—0.4) ノ皮下注射又ハ抱水くろらる (25—



馬ニ於ケル胃かてーてるノ應用

第 六 圖

30.0) ノ灌腸ヲ行ヒ或ハ阿片ちんき (10—20.0) ヲ内服セシムト雖之カ爲益、胃内容ノ後送ヲ阻碍シ酸酵がすヲ生スルカ故ニ其結果ハ概ネ不良ナリ其他看守人ヲ附シ滾轉・顛倒ヲ制止シ以テ頭ノ打撲及胃破裂ヲ豫防シ恢復後ハ1日間絶食セシメ尙ホ若干日間ハ青草ノ如キ消化シ易キ飼料ヲ與フヘシ

胃破裂 Ruptura ventriculi.

原因 過食疝ノ經過中ニ起リ又ハ之ニ繼發ス胃破裂ノ原因ハ胃腑非常ニ擴張シ遂ニ胃壁ヲ破ルカ又ハ病馬突然顛倒シ膨滿ノ胃ヲ震盪スルニ在リ又嘔吐ニ際シ胃壁ヲ攣縮シ或ハ噴門緊縮シ嘔吐ヲ妨クレハ胃ノ筋膜ハ非常ニ緊縮シ自ラ破裂スルコトアリ

ゑぜりん・鹽化ばりうむノ誤用・粗暴ナル胃かてーてるノ挿入ニ基キ又馬竈妙ノ爲メ胃ニ穿孔ヲ生スルコトアリ

胃破裂ハ嘔吐ノ結果ナリ然レトモ胃壁ノ不全破裂 筋層又ハ其一部ノ破裂 ハ嘔吐ノ原因トナリ噴門麻痺スルトキ殊ニ然リ

症候 胃破裂ハ腸破裂ト鑑別シ難キコトアリ嘔吐又ハ嘔意ハ破裂ニ先テ發ス胃破裂ノ特徴ハ疝痛ノ極期ニ於テ卒然虚脱スルニ在リ蓋シ疝痛ハ消散シ腸ノ蠕動音ハ聽クヲ得ス脈細數ニシテ絲ノ如ク 100 以上ヲ算シ或ハ全ク觸知スルヲ得ス四肢厥冷・冷汗ヲ流シ體温ハ平温以下ニ降り或ハ急ニ増昇シ病馬ハ蹣跚トシテ震戦シ屢・嘶キ異常ノ姿勢ヲ呈シ四肢ヲ腹下ニ攢メ顔貌憂愁ヲ帶ヒテ凝眸シ食慾全廢・呼吸困難・步履強拘ニシテ時々口・鼻孔ヨリ黄綠色ノ粘液ヲ漏ラシ數時若クハ數日ノ後斃レ罕ニハ破裂輕微ニシテ網膜等其裂口ヲ被ヘハ數日間尙ホ使役ニ耐ヘ得ルモノアリ

横隔膜破裂 Ruptura phrenicus.

原因 過食疝ニ於ケル横隔膜ノ破裂ハ一方膨滿セル胃カ横隔膜ヲ非常ニ壓迫スルト一方ニハ病馬ノ卒然顛倒スルニ因ル 既存ノ横隔膜ヘンニ又ハ其炎症ハ破裂ヲ促ス

剖検 裂縁ハ不正ニシテ出血・腫脹・浸潤ヲ示ス胃・小腸・結腸又ハ網膜ハ横隔膜ノ裂口ヨリ胸腔内ニ轉位シ 慢性經過ニ於テハ肺・肋膜又ハ心囊ト癒著スルヲ見ル又腸ノ一部裂口ニ箱頓スルコトアリ

症候 劇シキ疝痛ノ發作・異常ノ姿勢^{殊ニ犬・踉蹌・大發汗・呼吸困難} 射聲・咳嗽ヲ發シ高ク嘶ク能ハス腸ノ一部胸腔内ニ脱出スレハ胸ノ打診上往々肩マテモ鼓音若クハ濁音ヲ呈ス但シ此鼓音若クハ濁音ハ時々變化ス聽診上蠕動音^{含嗽音・流動音・拍水音}ヲ聽クモ氣胞音ハ耳ニ達セス斯ノ如キ徵證ハ診斷ヲ確ムルニ足ルモ腹内臟若シ胸腔内ニ脱出セサルカ又ハ其一部胸腔ノ深部ニ存スレハ認メ難シ又腸ノ蠕動音高キトキハ腸ノ位置ハ正シキモ尙ホ胸ニ傳ハルヲ以テ須ラク注意スヘシ

經過 急性ニシテ數分時乃至半時ノ後窒息シテ斃ル罕ニハ慢性ニシテ外觀上輕快シ或ハ數週間疝痛發作アルモ一旦輕快シ一定ノ休間例之毎^{14日}ヲ以テ再發シ微シク勞働セシムレハ疝痛ヲ發ス阪路ヲ下ラシムレハ大ニ苦悶ス或ハ全ク伏臥スルモノアリ 又呼吸困難ニシテ次第ニ羸瘦スルモノアリ

療法 患者ヲ安靜ニシモるひねノ皮下注射ヲ行ヘハ直ニ鎮靜ス

慢性胃擴張 Dilatatio ventriculi chronica.

原因 久シク不消化又ハ弛緩性ノ食^{例之割藁硬キ豆類}ヲ給與スルニ由ル泥砂ノ攝取・嘔氣癖・老馬ノ齒牙異常ハ本病ノ素因トナル 繼發性慢性胃擴張ハ幽門若クハ十二指腸ノ閉塞若クハ狭窄^{腫瘍・癒痕・反復ノ便秘}又ハ胃筋膜ノ弛緩^{慢性胃かたゝる・胃ノ腫瘍・胃筋ノ硬化・慢性肝間質炎等}ニ因ル

症候 食後殆ント毎回疝痛ヲ發シ數時間持續ス其發作中斃死スル

コトアリ後ニハ發作輕微ナルモ長キニ涉リ一般症狀ハ輕カラス胃筋麻痺スレハ虚脱・胃破裂・窒息若クハ腹膜炎ノ爲ニ斃ル

療法 易化・多汁ノ食又ハ液體ヲ與ヘ急性胃擴張ニ賞用セル醫藥ヲ試ムヘシ胃ノ幽門狹窄ニ於テハ胃腸截開術ヲ施スコトアリ 其他ノ場合ハ羸瘦ニ先チ屠殺スルヲ有利トス

3 便秘疝 Obstipatio intestini.

Anschoppungskolik 獨.

便秘疝ハ次ノ數種ニ區別ス

- 1 單純便秘疝 腸管内ニ糞ノ停滯スルモノ
- 2 砂疝及結石疝 腸管内ニ砂ヲ滯積シ又ハ結石ヲ形成スルモノ
- 3 腫瘍ニ因ル便秘疝 腫瘍ノ腸内徑ヲ壓迫スルモノ
- 4 腸ノ狹窄ニ因ル便秘疝 腸粘膜ノ癒痕ニ因リ狹窄ヲ致スモノ
- 5 腸ノ擴張麻痺ニ因ル便秘疝 腸ノ膨脹・麻痺ノ爲メ其内容停滯スルモノ

a 單純便秘疝 Colica stercorata, Obstipatio.

Anschoppungskolik 獨.

病性 腸ノ内容物カ腸ノ或ル部ニ停滯・乾燥シ其部ノ擴張若クハ全閉ヲ來ス本症ノ發生率ハ本邦ノ軍馬ニ於テハ 16.67% ト^{ブダベストノくりニツクニ於テハ疝痛患馬ノ}ス^{6—20% ベルリンニ於テハ 74% (1909)ヲ占ム}

原因 飼養法ノ失宜ニ原ク例之多量ノ大麥・短片ノ割藁(糞疝)・粃殼・玉蜀黍ノ莖幹・菽稈・其他硬固ノ纖維質ノ過食ノ如シ

舍飼ト牧養ノ急變・食物饒多ニシテ運動不足スルモノハ糞ノ停滯ヲ起シ易シ仔馬ハ直腸ニ胎兒便ノ停滯スルカ爲メ疝痛ヲ發スルコトアリ慢性腸かた一。腸間膜動脈ノ血栓・栓塞ニ因ルモノアリ老馬ニ在テハ齒牙ノ疾患ハ素因トナル軍馬ハ野外演習・行軍等ノ際穀飼ニ偏シ且疲勞加ハレハ消化不良ヲ來シ蠕動衰ヘ終ニ便秘疝ヲ發ス

剖檢 便秘ノ起リ易キ部位ハ(1)結腸ノ胃狀膨大部(2)盲腸(3)廻腸廻盲口ノ前方ニシテ左側結腸・十二指腸・直腸・空腸ニモ停滯スルコトアリ糞ノ停滯ニ由テ生シタル腸ノ變狀ハ一定セス先ツ停滯セル食物ハ其水分吸收セラル、ヲ以テ次第ニ乾燥シ異物ノ如キ刺戟作用ヲ逞ウス是ニ於テ腸粘膜ハかた一ニ罹リ往々多數ノ溢血斑ヲ生ス所謂出血性かた一是ナリ甚シキハ粘膜ノぢふてり一性壞死ヲ來ス Ernst 氏ニ據レハ粘膜ノぢふてり一性炎症ハ斑點狀ニ發生シ當初灰白色ヲ帶ヒ次テ灰黃色若クハ白色ヲ呈シテ溷濁ス殊ニ粘膜ノ皺襞・絨毛・濾胞ハぢふてり一ニ罹リ易ク腸ノ内面ハ恰モ糠ヲ散布シタルカ如キ觀アリ右ノ斑點狀溷濁ハ粘膜ノ壞死ヲ示シ其跡ニ潰瘍又ハ癍痕ヲ生ス罕ニハ深ク筋膜マテ壞死シテ穿孔ヲ生ス滯糞ハ又胃腸破裂ノ原因トナルコトアリ蓋シ盲腸ノ停滯物ヲ除去スル能ハサレハ結腸及直腸ニ滯積シ其破裂ヲ致ス廻盲口部ノ滯糞ノ半數ハ胃破裂ヲ生ス是レ停滯部ヨリ逆蠕動ヲ起シ腸ノ内容物ヲ胃ニ送り胃ヲシテ膨滿セシムルニ因ル若シ之ヲ吐出スル能ハサレハ胃壁ハ遂ニ破裂ス停滯久シキニ涉レハ盲腸壁ノ肥厚ヲ來ス

症候 1 大腸便秘 通便遲滯シ或ハ數日間排糞全ク絶エ頻ニ努責ス盲腸便秘ニ在テハ最初通便不十分ナルモ後ニハ排糞ス

疝痛ハ初期多クハ輕ク長キ休間間、數時
間ニ滯ルヲ隔テ、發ス後ニハ腹痛稍、強ク且頻發スルモ劇烈ノ程度ニ至ラス靜ニ伏臥シ時々腹部ヲ顧眄シ前肢ヲ以テ地ヲ爬スルモ劇シク滾轉スルハ稀ニシテ往々犬坐位若クハ排尿姿勢ヲ呈ス

腹圍ハ久シク或ハ全
經過中變セス打診スレハ結腸部ハ濁音ヲ呈ス盲腸部ノ濁音ハ腸骨外角ノ線マテモ達ス然レトモ高度ノ便秘アルニモ拘ハラズ濁音ヲ呈セサルコトアリ糞ヲ充滿セル腸管カ腸蠕動音
腹壁ニ觸レサル爲メハ罕ニ起リ或ハ全ク絶止ス

直腸検査ニヨリ牢固若クハ硬固ノ擴大セル腸ノ1部ニ觸レ得ヘシ結腸便秘ハ頻發スルモノニシテ腹腔ノ左半部ハ左結腸ノ占領スル所トナル往々下層結腸ノ膨大スルカ爲ニ上層結腸ハ右側ニ壓排セラレ甚シキハ其下方ニ轉位スルコトアリ

左側上層結腸ハ縱帶ヲ有セス左側下層結腸ハ1條ノ縱帶ヲ有スルカ故ニ上下兩層ヲ識別ス結腸ノ骨盤彎曲ハ深ク骨盤腔内ニ進入ス

結腸ノ胃狀膨大部ハ手ニ觸レス盲腸便秘ニ於テハ右臍部ノ上方ニ於テ人頭大ノ圓形物ヲ觸知ス直腸ノ便秘ニ於テハ骨盤前口部殊ニ左
臍部ニ充滿セル糞球ヲ觸知シ得ヘシ

脈搏・呼吸ニ著シキ變化ナク食欲ハ病初僅ニ存スルモ後ニハ廢絶ス數日ノ後體溫増昇シ脈弱クシテ増數シ尿中いんぢかんノ量増加ス熱度・脈搏ノ甚シキ異常ハ合併症腸炎・腹
膜炎等ヲ示ス

2 小腸便秘 食後數時間若クハ採食中十二指
腸便秘突然疝痛ヲ發ス而モ疝痛ハ強ク往々劇烈ニシテ排尿姿勢ヲ呈ス脈搏・呼吸ハ増數シ通便ハ絶止ス

直腸検査ヲ施セハ廻腸ハ臍大ニ膨脹シ左腎ノ後端ニ當リ脊柱ノ右方ニ於テ上方ヨリ下方ニ向ヒ或ハ反對ニ下左方ヨリ右上方盲腸底

ニ向ヒ斜走スル圓筒狀物ニ觸ル

十二指腸ノ便秘ニ於テハ前腸間膜根ノ後方ニ當リ右ヨリ左へ彎形ヲ呈シ而モ腸間膜根ト1條ノ短キ腸間膜ニ由テ連絡スル腕狀ノ圓筒狀體ヲ觸知ス

合併症 小腸便秘ハ屢胃擴張^{約1/3}_{-1/2}ヲ繼發シ大腸便秘ハ之ヲ來スコト太タ稀ナリ胃擴張ハ又胃破裂ノ原因トナル兩種ノ便秘ニ於テ腸破裂ヲ來スコトモ稀ナリトセス而シテ腸破裂スレハ腹膜炎ノ繼發ヲ免レス

経過 大腸便秘ハ徐發ス其増進モ亦緩徐ニシテ數日若クハ2—3週ニ互ル盲腸便秘殊ニ然リ之ニ反シ小腸ノ便秘ハ突然疝痛ヲ發シ一兩日中ニ斃死ス

疝痛ノ發作反復スルハ稀ニシテ飼養ノ大失宜ニ因ル盲腸便秘等ニ之ヲ見ル(常習疝痛 Habituelle, periodische Kolik)

豫後 療法宜キニ適ヘハ本病ノ大多數ハ治スルヲ得ヘシ經過長キニ涉リ腸ノ停滯物硬固ニシテ且腸ノ大部ヲ閉塞スレハ治シ難シ小腸及盲腸ノ便秘ハ危險ノ轉歸ヲ取り且再發シ易シ合併症アレハ豫後不良ナリ死亡率ハ3.06%トス

診断 通便遲滯シ次テ全ク秘結シ疝痛輕クシテ間歇時長ク且全身症狀ヲ缺如スルモノハ大腸便秘ヲ想像セシム然レトモ便秘ノ部位ヲ確診セント欲セハ直腸検査ニ賴ラサルヘカラス尿中いんぢかんノ定量^{Bauer氏說}ハ便秘ノ位置ヲ決定スルニ足ラス直腸検査ニ依リ概ネ他種ノ疝痛ヨリ鑑別ス

尿中いんぢかん證明法 可檢尿10cc.ヲ試験管ニ入レ之ト同量ノ濃鹽酸ヲ加ヘ更ニ2—3cc.ノくろゝほるむヲ注キ10%くろゝる石灰水又ハ鹽素酸^酸カリ水ヲ滴加ス尋テ管口ニこるく栓若クハごむ栓ヲ施シ輕ク振盪

シテ其内容ヲ十分ニ混和セシムいんぢかん存スレハくろゝほるむ直ニ藍染ス若シ著色ヲ認メサルトキハ更ニくろゝる石灰水^{又ハ鹽素酸}カリ水ヲ追加スヘシ斯シテくろゝほるむノ現ハス藍色ノ濃度ハ尿中いんぢかんノ含量ニ正比例スルモノトス

療法 大腸便秘ニ在テハ直腸ヨリ手ヲ插入シテ手ノ達スルタケ宿糞ヲ除去シ反復微溫石鹼水^{30—40立}ヲ注入ス^{Damman及Marek氏等ノ實驗ニ據レ}ハ滯糞ナキ馬ニ於テ灌腸液ハ結腸ノ中部若クハ起始部マテ達スルヲ以テ其部ノ糞ヲ軟化スルヲ得ヘシ盲腸及小腸ノ滯糞ニ對シテハ灌腸液ハ何等ノ影響ヲ及ホサス滯糞ヲ軟化シ且腸ノ蠕動ヲ催進セシメント欲セハ芒硝250—500.0^{多量ノ水ニ和ス}人工かるゝす泉鹽100—200.0・蘆薈30—40.0^{盲腸・結腸}直腸ノ便秘ニ適スHöhne氏ハ盲腸ノ停滯ニ對シ3日毎ニ50瓦ノ蘆薈丸ヲ與ヘ必要アリト認ムレハ2週間モ反復シ良效ヲ收メタリト云フ或ハ蓖麻子油500.0・をれーふ油1/2—1立ヲ投ス重症ニ於テハ下劑ヲ投スルノ後1—2時間ヲ經テゑぜりん(0.06—0.08)又ハびろかるびん(0.2—0.4)ノ皮下注射ヲ試ムヘシ^{著者ハ常ニゑぜりん(0.06)及びろかるびん(0.2)ノ混合溶液ヲ賞用ス}此皮下注射藥ハ腸筋膜ノ強キ收縮ヲ催進セシムルノミナラス腸腺ノ分泌ヲ促シ之ニ由テ糞便ヲ軟化セシム豫メ軟化セシメシテあるかろいどヲ用ウレハ腸破裂ヲ來スノ虞アリゑぜりんノ應用殊ニ然リ

下劑ヲ投シタル後ハ寬馬房内ノ厚キ敷藁上ニ導キ牧夫ヲシテ看守セシメ劇シキ顛倒・滾轉ヲ制止シ以テ頭部ノ打撲又ハ腸破裂ヲ豫防セサルヘカラス

前記ノ療法ヲ助クルニ直腸ヨリ手ヲ送入シテ糞ノ停滯セル腸部ヲ按壓シ以テ腸ノ運動ヲ促シ且糞塊ノ細碎ヲ試ムヘシ

繼發性胃擴張(主トシテ小腸ノ便秘ニ因ル)ニ對シテハ胃かてーてるヲ插入シテ胃ノ内容ヲ除去シ胃破裂ヲ豫防ス

食餌ノ注意ハ極テ必要ニシテ藁・乾草ノ如キ粗硬食ヲ屏ケ糠・

麥粉ノ湯・根菜・青草ノ少量ヲ度々給與シ口網ヲ施シ敷糞ノ貪
啖ヲ防クヘシ放牧ハ最モ妙ナリ盲腸便秘ニ在テハ酸酵シ易キ青
草ヲ與フヘカラス

b 砂疝及結石疝 Sandkolik und Steinkolik 獨

發生 砂疝及結石疝ハ概シテ稀有ナリ例證ノ多キハ珍奇ノ症トシ
テ其發見者カ競フテ之ヲ報道スルニ由ル プロシア軍隊ニ於テハ 20 年
間ノ平均 3.5% プタベストク
リニクニ於テハ
0.2—0.7% アリ

原因 砂疝ハ淺川・渾水ニ就テ水ヲ飲ムノ際砂礫ヲ嚥下シ泥砂ヲ
被ムレル食ヲ啖ヒ牧場又ハ野外ニ在リテ空腹ノ餘・土砂ヲ嘗ムルニ
因ル戰時ノ軍馬ニハ間、之ヲ見ル 補充部ノ幼駒ハ往々戯ニ土砂ヲ啖
フ廢舎ノ塵埃モ幾分ノカ原因トナリ毛ノ更脱ニ際シ毛ヲ嘗テ嚥下ス
レハ毛毬及結塊ノ起原トナル他ノ異物 布片・
鐵釘等 亦便秘ヲ來スコトアリ

結石ノ發生ニハ慢性腸かたゝるノ存在ヲ要ス 其主因ハ小麥若クハ
らい麥ノ糞ニ存ス蓋シ製粉所及麵麩製造所ノ馬ハ專ラ糞及其殘粉ヲ
以テ飼養セラル、故ニ結石疝ニ罹ルモノ多シ 糞ノ如キハ 1—2.5%
ノ磷酸まぐねしあヲ含有ス而シテ腸結石 俗ニ馬糞
石ト稱ス Euterolithus ハ主
トシテ此鹽類ヨリ成ル糞ニ混淆セル磨石粉 所謂金
剛砂 ハ其量至テ少シ

腸結石ハ專ラ磷酸あんもん—まぐねしうむ (Fürstenberg ニ據レハ
90%) ヨリ成リ尙ホ他ニ磷酸石灰・炭酸石灰 0.5—
1.5%・磷酸まぐねしあ・
硅酸及食鹽・鐵ノ痕跡竝ニ有機物 粘液・上
皮・食物 ヲ含有ス

蓋シ腸結石ノ形成セラル、ハ糞ニ存スル 饒多ノ磷酸まぐねしあカ
腸管内ノ あんもにあ鹽類ト抱合シ以テ 不溶解性ノ磷酸 3 基鹽類ヲ
生スルニ由ル而シテ 腸結石ノ核ハ 通常砂礫・麥粒・釘頭ノ如キ 異物
ヨリ成リ 其周圍ニ 3 基鹽類ヲ沈著シ 食スル毎ニ 鹽類ハ層々附加ス
所謂胃石 Magenstein ハ腸ノ逆蠕動ニ由リ腸石ヲ胃ニ送入セシモノ

ニ外ナラス胃ニ於テハ食餌ハ僅々ノ時間ノミ停留シ且胃液ハ酸性ナ
ルヲ以テ結石ヲ生スルノ理ナシ

腸結石ハ大腸殊ニ結腸ノ胃狀膨大部ニ多ク盲腸ニハ少ク Colin 氏
ハ 400 回
ノ解剖上結腸ノ胃狀膨大部ニ 23 回 (2%) 結
石ヲ發見シ盲腸ニ於テハ僅ニ 1 回之ヲ見タリ 小腸ニモ稀有ナリ其大サ不
同ニシテ大ナルモノハ 10 斤ノ重量ニ達セシモノアリ 腸石ノ外・結
塊 Phytocoacrement 1 名偽結石
Falsche Stein ハ砂泥・植物纖維・粘液又ハ毛等ノ
周圍ニ磷酸 3 基鹽ヲ沈着ス

結石ノ爲メニ生シタル局部ノ變狀ハ 滯糞ノ場合ニ同シ砂疝ニ於テ
ハ腸内ニ 30—50 磅ノ砂塊ヲ認ムルコトアリ 乾燥セル糞球モ罕ニハ
腸閉塞ノ原因トナル初生獸ニ於テハ胎兒便ノ爲メ閉塞ヲ來スコトア
リ他ノ異物ニ基ク閉塞ハ極テ稀ナリ

症候 前記ノ便秘疝ト區別シ難キモノ多シ 又腸石ノ存スルニモ
拘ハラズ毫モ病徵ヲ顯ハサ、ルモノアリ 或ハ反復間歇性疝痛ヲ發ス
數多ノ結石アルカ又ハ 1 箇ノ結石モ次第ニ後進スレハ時々弛張性ノ
腹痛ヲ發ス概シテ結石疝ノ發作ハ普通ノ便秘疝ヨリモ稍、劇ニシテ
且頑固ノ便秘ヲ生シ輒モスレハ胃腸ノ破裂及嘔吐ヲ來ス

犬坐・屈膝姿勢等ハ數、認ムルモ特徴ニアラス初徵ノ發現後尙ホ 1
—2 回便通アルモ爾後ハ通便・排尿共ニ全ク絶ス唯閉塞不全ニシテ徐
發スレハ少量ノ液狀便ヲ排泄ス 直腸ヲ檢スルニ直腸ハ全ク空虚ニシ
テ肩マテ手腕ヲ進ムレハ小腸ノ起始部 左腎ノ前端前
若クハ中線 ニ於テ結石ニ觸
レ得ルコトアリ 結腸ノ骨盤彎曲又ハ小結腸 直腸ノ
腹部 ノ閉塞ハ此検査ニ
由リテ發見シ得ヘシ罕ニハ小腸ニ於ケル 蛔蟲ノ纏絡セル團塊ヲ觸知
ス凡テ結石及結塊ハ 硬固・不等・結節狀ノ塊ヲ呈ス 其筭入部ヲ 壓ス
レハ知覺過敏ナリ直腸ノ閉塞ハ至テ發見シ易シ

體温ハ常態・呼吸・脈搏ハ僅ニ増數ス 小腸ニ閉塞アリテ 胃擴張ヲ
繼發シ又ハ腸炎ヲ來セハ疝痛發生後・脈ハ速ニ頻數トナル

經過 概シテ短キモ久シキニ涉ルモノ 少シトセス豫後ハ良ナラ

ス診断ハ結石若クハ砂ヲ直腸ヨリ排泄スルカ又ハ直腸検査ノ際結石ニ觸ルハニ由リテ始テ定ル若シ夫レ製粉所ノ馬ニシテ頻々疝痛ニ罹ルトキハ略ホ推診スルヲ得ヘシ然レトモ過食疝ノ如キ他種ノ疝痛亦少カラサルヲ以テ診察ニ當リテハ大ニ注意スルノ要アリ

療法 治療法ハ大體他ノ便秘疝ニ同シ即チをれーふ油 500.0 又ハ蓖麻子油 500.0 ヲ投ス結石大ナラサレハびろかるびん (0.2) ノ皮下注射ヲ試ム急ゼリハ用ウ可ラス直腸若クハ之ニ近キ處ノ結石ハリゴ一る 1% 溶液 1 立ヲ灌腸シ手ヲ送入シテ除キ去ルヘシ Felizet 氏ハ腹側ヲ截開シ次ニ腸ヲ開キ小兒頭大ノ腸石ヲ除キ去リ功ヲ奏シタリト云フ

c 腫瘍ニ因ル便秘疝

Verstopfungskolik durch Neubildungen 獨.

原因 腸管内ノ腫瘍ハ稀有ニシテ疝痛ノ原因トナルハ更ニ稀ナリ腫瘍或ハ腸壁ニ生シテ腸ノ内徑ヲ狹隘ナラシメ或ハ腸間膜ニ位シテ外方ヨリ腸ヲ壓迫ス例之胃息肉ハ十二指腸ヲ壅塞シ其破裂ヲ招來スルカ如シ小腸ノ内徑ヲ狹隘ナラシムル腫瘍ハ纖維腫・黒肉腫・粘液肉腫馬ノ腸壁ニハ肉腫比較的多シ滑平筋腫及粘膜下脂肪腫ニシテ大腸盲腸・直腸ニハ肉腫及癌腫癌ハ犬ノ肛門ニ多ク馬ニハ稀ナリトスヲ主トス又腸間膜ノ脂肪腫ハ腸ノ狹窄若クハ絞約ヲ致スコト稀ナリトセス腸壁ノ膿瘍・直腸ノ息肉・腸粘膜ノ瓣狀若クハ囊狀贅生・卵巢囊腫竝ニ骨盤結締織ノふれぐも一ね性炎症モ亦腸ノ狹窄ヲ誘發スルコトアリ通常腸ノ内容ハ腫瘍ノ爲メ狹窄セル部ニ滯積シ腸ノ擴張及其壁ノ代償性肥大ヲ生ス而シテ腫瘍ノ表面ハ往々膿潰ス

症候 此稀有ナル疝痛ハ慢性ノ便秘ト次第ニ増勢スル所ノ間歇性腹痛ヲ發シ年月ノ久シキ頑トシテ持長シ遂ニ腸ノ狹窄ヲ來シ甚シ

ク糞ノ停滯スルカ爲ニ斃ル直腸ノ腫瘍ハ時アリ劇シキ努責ヲ催シ血便ヲ泄ラスヲ以テ直腸検査ニ依テ之ヲ觸診シ得ルコトアリ

療法 努メテ腸内容ヲ柔軟ナラシムルニ注意スヘシ直腸ノ腫瘍ニシテ手ノ達シ得ヘキモノハ日々宿糞ヲ除キ去リ有莖腫瘍ハ手ニテ捻轉シ又ハ絞斷器ヲ施シテ之ヲ除クヘシ

d 腸狹窄ニ因ル便秘疝

Verstopfungskolik durch Darmstrikturen 獨.

腸ノ狹窄ハ異物・腸炎又ハ既往ノ箱頓若クハ重疊ノ後ニ生シタル腸粘膜ノ癍痕ニ原由ス腸ノ内徑ハ之カ爲メ非常ニ狹窄シ甚シキハ僅ニ 1 指ヲ容レ得ルノミ狹窄部ノ接續スル處ニ於テハ狹窄ニ準シタル膨大部アリ而シテ狹窄ハ廻腸ニ最モ多ク直腸ニモ存スルコトアリ

蓋シ廻盲腸孔ノ癍痕ノ狹窄・慢性腹膜炎ノ結締織肥厚・癒著・腸壁ノ腫瘍・腸石・糞球及異物等ハ腸閉塞若クハ狹窄ノ原因トナル腸間膜又ハ直腸周圍ノ膿腫若クハ腫大セル臟器ノ壓迫例之妊娠子宮・膨滿セル第一胃・卵巢・攝護腺ノ腫大・出血脾臟等竽ニハ化骨セル隱睾ノ壓迫ニ由リ腹内へるにあ・寄生蟲亦原因トナル

療法ハ結石疝ニ同シ腸内容ヲ柔軟ナラシメ直腸狹窄ニシテ手ノ達シ得ヘキモノハ日々滯糞ヲ除キ去ルヘシ

e 腸ノ擴張及麻痺ニ因ル便秘疝

Verstopfungskolik durch

Dilatation und Lähmung des Darmes 獨.

原因 腸ノ擴張ハ狹窄新生癍痕收縮滯糞・結石・重疊等ニ續發シ概ネ狹窄部ノ直前方ニ位シ腸壁ノ大肥厚ヲ來ス此他食塊若クハがすノ爲メ非常ニ膨脹シ遂ニ腸壁ノ麻痺ヲ來シ或ハ腸動脈ノ栓塞ニ由テ擴張ヲ來スコト

アリ腸壁一局部ノ擴張(憩室)ハ既往ニ於ケル小破裂ノ結果ナリ

症候 實地上緊要ナルハ直腸ノ擴張及麻痺ニシテ常習疝痛ヲ誘發シ遂ニ直腸ノ破裂ニ陥ル蓋シ直腸ヲ檢スルニ往々非常ニ大量ノ糞滯積シ之ヲ除キ去レハ疝痛ノ微消散ス間、糞塊ハ尿道ノ骨盤部マテモ壓迫シ膀胱ノ瀦尿・膀胱壁ノ肥厚ヲ誘起ス

療法 腸狭窄ニ基ク便秘疝ノ療法ニ同シ直腸ノ擴張及麻痺ニ於テハ手ヲ挿入シテ滯糞ヲ除キ去ルヘシ疝痛再發ノ虞アルヲ以テ定期的ニ之ヲ行フヲ要ス根治ハ到底期シ難シ

4 風氣疝 Colica flatulenta, Meteorismus

intestinatorum. Darmaufblähung 獨. Windcolic 英.

病性 風氣疝トハ腸管内急ニ多量ノガスヲ生シ腸壁ニ器械的ノ壓迫ヲ及ホストガス竝ニ分解産物ノ化學的刺戟ニ依リ腸ノ痙攣性收縮ヲ起シ劇痛ヲ感セシムル症ナリ本邦ノ軍馬ニ於ケル發生率ハ 1.84% トス

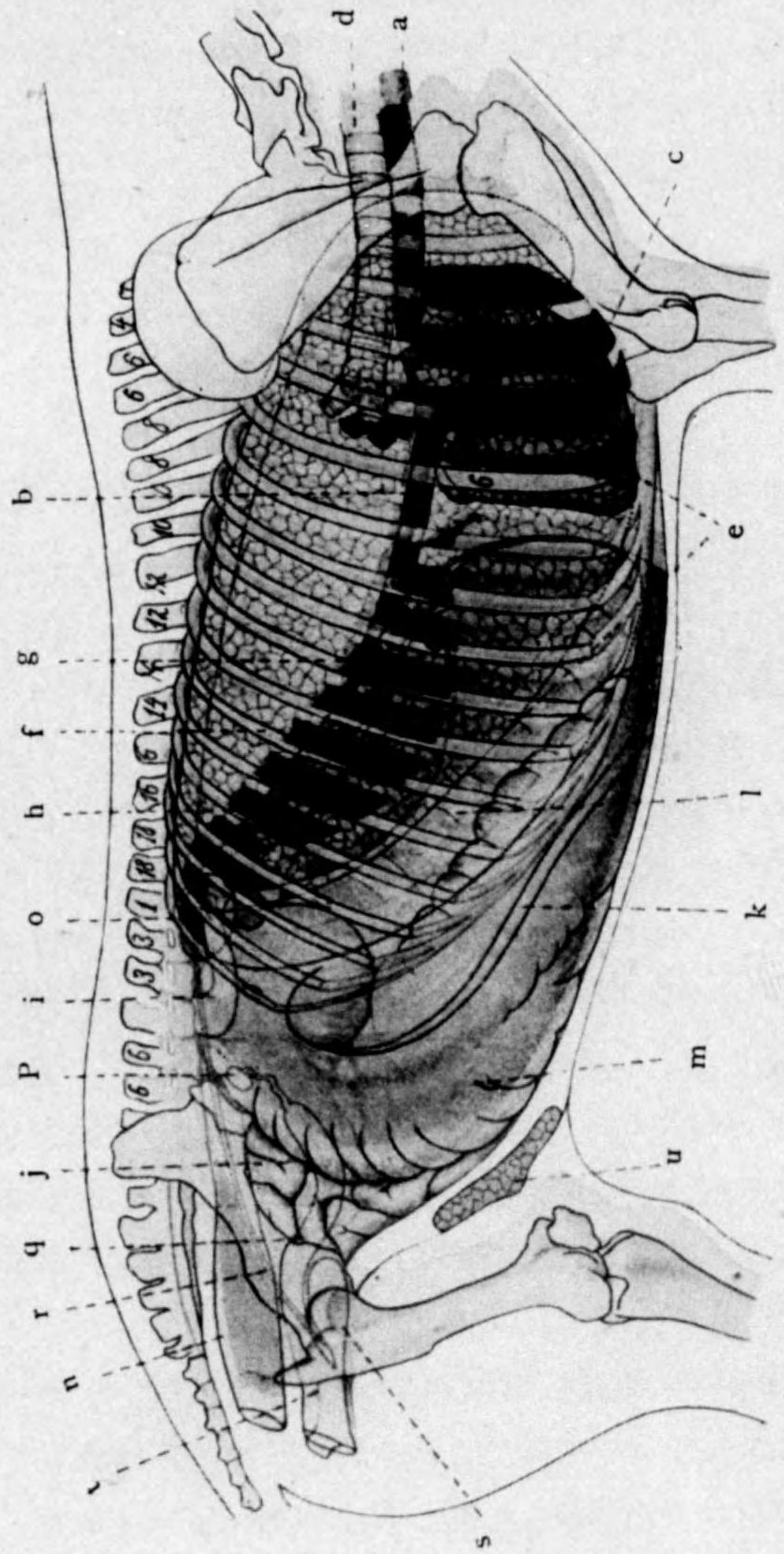
原因 醱酵性食物ヲ過食スルニ因ル而シテ醱酵シ易キ飼料ハ枯凋セル青草・馬鈴薯・甘藷蔓・豆類・玉蜀黍等ナリ急ニ貪啖シ食後直ニ使役セラル、トキハ風氣ヲ醸シ易シ嚙氣癖ノ馬若シ多量ノ空氣ヲ嚙下スレハ時々此種ノ疝痛ニ罹ル風氣疝ニ生スルガスハ炭化水素(泥沼ガス)及炭酸ガスヲ主トス Pinner 氏ハ炭化水素 49%・炭酸 8%・窒素 42% 其他若干ノ水素及硫化水素ヲ發見シタリ

繼發性風氣疝ハ便秘疝・血塞疝及腹膜炎ノ經過中ニ發ス腸筋頓・腸ノ變位及腸間膜動脈ノ血塞ニ於テハ速ニ風氣ヲ醸ス

剖檢 肚腹ハ常ニ著シク膨大・緊張ス殊ニ溫暖ノ候ニ在テハ

表 二 第

牝馬ノ右側胸腹盤腔臟器



- 膀胱
- 膀胱乳
- s. t. u.
- 腸腸胃巢宮管
- 盲直右右子輸
- m. n. o. p. q. r.
- 臟臟
- 肝脾十二指腸
- g. h. i. j. k. l.
- 前大靜脈
- 後大靜脈
- c. 心臟
- d. 氣管
- e. 肺ノ後下緣
- f. 橫膈膜ノ中央穹隆部

死後ニ於ケルがす^{酸酵}發生ノ爲メ益、甚タシ斯ノ如ク膨大・緊張セル腸管ハ腹腔ヲ切開スルニ當リ強力ヲ以テ进出ス破裂ノ存スル場合ニ於テハ腹腔内ニ胃・腸内容ヲ認ム其裂縁ノ性質ハ生前ノ破裂ナルヤ又死後ノ破裂ナルヤヲ説明スルモノニシテ甲ニ在テハ每常・裂縁ニ出血及腫脹ヲ認メ筋層ハ粘膜下ニ引退ス
胸腔臓器ニハ著シキ靜脈鬱血ヲ認ム

馬ノ陳舊屍體ニ在テハ死後ニ於ケルがす發生ノ爲メ内臓ハ一般ニ膨大スルモ窒息ノ徴ヲ缺ク

症候 採食後霎時ニシテ肚腹ハがすニ由テ急ニ膨脹シ間、非常ノ程度ニ達ス從テ肚腹ハ洋樽狀ニ膨大・緊張シ腹側ヲ打テハ鼓音ヲ放チ聽診スレハ金屬音ヲ聽ク腸壁麻痺スレハ全ク聽ヘス膨脹ニ應シテ呼吸促迫シ病馬ハ劇烈ノ疝痛ニ苦ミ不穩ニシテ憂愁ノ相ヲ呈ス露出粘膜ハ大ニ潮紅シ間、藍赤色ヲ帶ヒ頸靜脈隆起シ心悸亢盛・脈搏細數・歩行蹣跚タリ通便遲滯シ後ニ至レハ絶止ス初期竝ニ輕症ノ病馬ハ頻々放屁ス直腸検査ヲ施セハ腸ハ孰レモ膨大・緊張ス盲腸及結腸ノ膨大殊ニ著シ

經過及豫後 急劇ニシテ全治スルモノハ頻ニ放屁シ腹側弛緩・陷沒ス斃死ノ原因ハ肺ノ壓迫・肺水腫・血液ノ炭酸中毒・卒中・胃腸若クハ横隔膜ノ破裂トス死亡率ハ 4.23 % ナリ

診斷 風氣疝ノ診斷ハ難シトセス血塞疝・便秘疝ノ經過中ニ生スルがすノ蓄積ハ緩徐ニシテ長ク存シ風氣疝ノ如ク急劇ナラス

療法 蓄積セルがすヲ除去スルノ最良法ハ穿腸術ナルヲ以テ早期ニ之ヲ行フヘシ

穿腸術 通常右腹側ニ於テ腸骨ノ外角・季肋骨ノ後縁及腰椎横突

起ノ間ニ於ケル三角形ノ部ヲ選ヒ豫メ毛ヲ剪リ 皮膚及器械ヲ消毒シ
 らんせつと若クハ外科刀ヲ以テ微シク皮膚ヲ截リ 次ニ套管鍼ヲ刺入
 ス鍼ノ尖端ハ左肘頭ニ向ハシム 皮膚ノ創ニハよどほるむころじ
 をんヲ塗ルヘシ時アリ左腹側特ニ膨脹スレハ之ヲ刺スモ可ナリ往時
 ハ直腸ヨリ刺穿術ヲ行ヘリ近時復タ之ヲ賞揚スルモノアリ

輕症ノ風氣疝ニ於テハ先ツ冷水ヲ灌腸シ冷濕布ヲ腹ニ纏ヒ或
 ハ腹部ニ冷水ヲ灌キ盛ニ按腹シ或ハ直腸内ヨリ腸ノ膨大部ヲ按
 摩シテがすノ排泄ヲ促シ 硫酸ゑぜりん (0.06—0.08) ノ皮下注射
 ハ時ニ良效ヲ奏ス然レトモ 非常ニ胃ノ膨大・緊張ヲ伴フモノハ
 胃破裂ヲ來スノ虞アルヲ以テ危険ナリえーてる (えーてる 15—
 20.0・水1立) 又ハてれびん油 (てれびん油 10—15.0・水8立) ノ
 灌腸ハ輕症ノ風氣疝ニ效アリ又芒硝 250—500.0・蘆薈 20—25.0
 ヲ伍用シ制酵ノ目的ヲ以テりぞーる・くれをりん 15—20.0 ヲ試
 ムもるひねノ如キ麻醉藥ハ之ヲ用ユヘカラス益、がす蓄積シ結
 果ハ必ス不良ナリ重症ニアリテハ此般ノ施療ニ時間ヲ徒費スル
 ハ不可ナリ少時試ミテ效ナシト認ムレハ直ニ穿腸術ヲ施シ然ル
 後ニ前記ノ下劑及制酵劑ヲ投スヘシ

5 變位疝又腸ノ變位ニ因ル閉塞疝

Colica *Dislocationis* Verstopfungskolik
 durch Darmverlagerungen 獨.

病性 變位疝トハ腸管ノ1部天然ノ位置ヲ失シ腸ノ内腔狹
 隘トナリ若クハ閉塞シ内容ノ通過ヲ阻止シ且1方ニ於テハ腸壁
 ノ循環障礙ヲ惹起スル症ナリ本邦ノ軍馬ニ於ケル本症ノ發生率
 ハ最近5年間ノ統計ニ據レハ 0.79% ニシテ死亡率ハ 94.19%

ナリ

腸ノ位置變換ニ箝頓・軸轉・纏結・重疊ノ別アリ

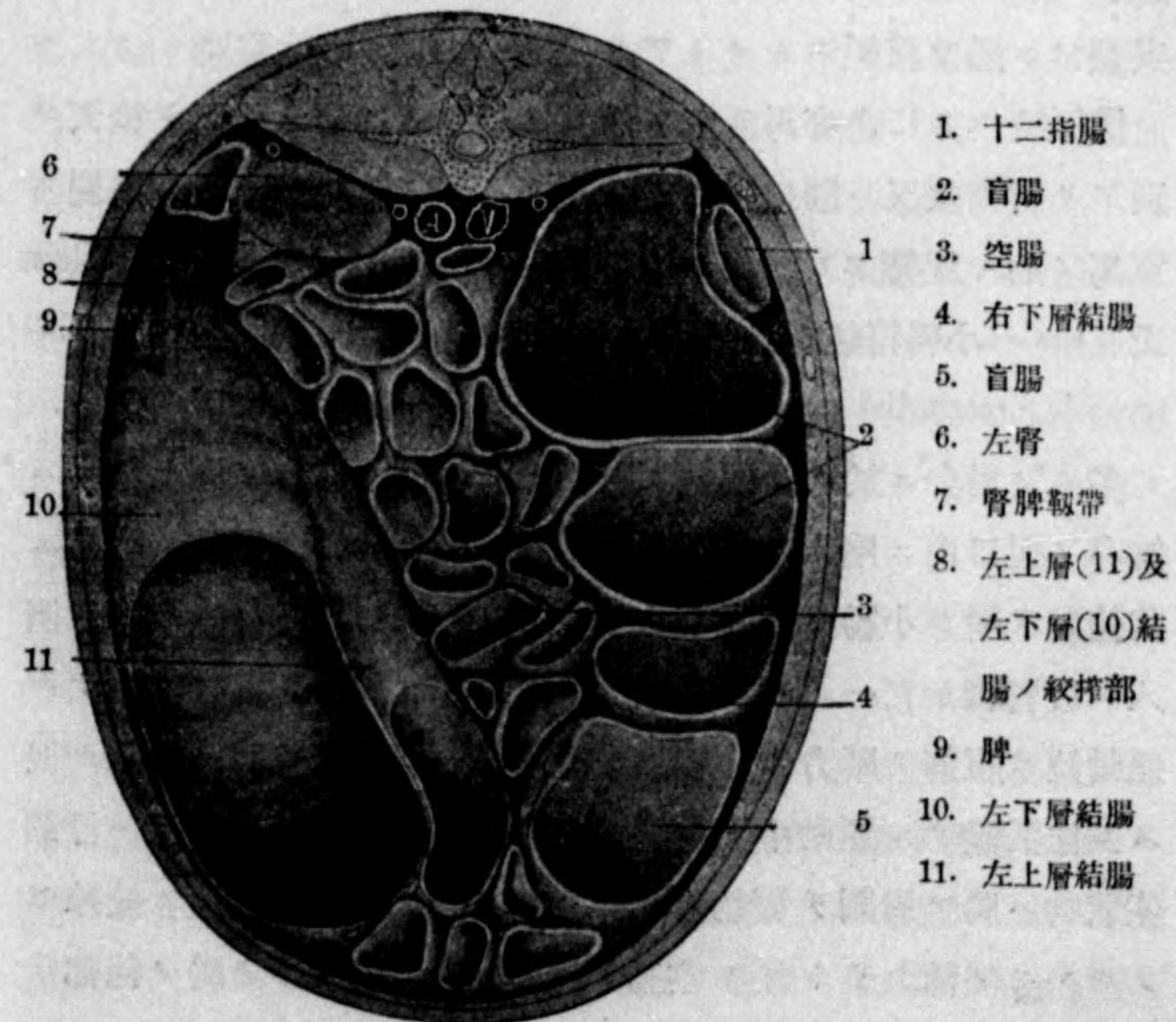
a 腸ノ箝頓及絞挫

Incarceratio et Strangulatio intestini.

Innere Einklemmung des Darmes 獨.

病性 腸外ノ物體ニ依リ急ニ腸内徑ノ閉塞ヲ來シ閉塞部ニ
 ハ直ニ鬱血ヲ起ス症ナリ 本病ハ馬ニ最モ多ク牛 疝痛ノ死因中腸箝頓
 其他ノ家畜ニハ稀ナリ
 ハ 5—13% ヲ占ム

第七圖



馬ノ腎脾靱帶ニ由ル左側結腸ノ絞挫

原因 腸ハ腹腔内ニ於テ靱帯其他ノ索條ニ依リ絞挫セララルコト多シ例之廻腸ノ先天性憩室 (Meckelsche Divertikel) 例外ニハ腸ノ後天性盲管 (Erworbene Ausstülpung)・腫大セル卵巣ノ靱帯・腎-脾靱帯・脾-胃靱帯・肝臓ノ鎌狀靱帯・永存ノ尿管 Ura-chus・小網膜・閉塞セル臍動脈又ハ腹壁・腸間膜其他腹内臓器ノ有莖新生物^{殊ニ脂肪腫}・有莖肝葉・精系ノ殘片・隱辜ノ精系等ニシテ壁ト癒著セルモノ・索狀ニ緊張セル大網膜・前腸間膜・腹内ノ索狀結締織等亦箝頓・絞挫ノ原因トナル

他ノ場合ニ於テハ腸ハ網膜・腸間膜ノ先天孔若クハ後天孔・腹膜又ハ腹筋ノ裂口ニ箝入スルコトアリ又前記ノ靱帯破裂シテ其裂口ニ腸ヲ箝頓スルコトアリ

横隔膜へるにあ亦馬ニ發ス而シテ此へるにあニ先天ト後天ノ別アリ胃擴張又ハ腸鼓脹ニ於テ腹筋ノ強キ收縮力ニヨリ破裂ス軍馬ノ如キ跳躍スルモノニ多シ罕ニハ網膜ノ天然孔 (Winslow 氏孔)ニハ小腸箝頓シ大網膜ノ2層間ニ挟マル(網膜内脱腸 Enterocoele omentalis)

多クノ場合ニ於テ誘因ハ大關係ヲ有ス例之僅ニ充滿セル腸ハ既存ノ裂口内ニ陥入ス又1方此ノ如キ場合ニ於テハ腸ハ容易ニ其位置ヲ變シ小腸ハ大腸ニテ被ハレタル孔口^{ウキンスロー氏孔・横隔膜裂口等}ニ陥入ス感冒後かた一る・腸間膜動脈ノ閉塞ニ於ケル腸ノ活潑ナル運動竝ニ腹筋ノ壓力^{重貨執曳・馳騁・飛跳・登山・滾轉・顛仆・標傷等}ハ裂隙ニ腸ノ滑入ヲ促ス其他活潑ナル運動中又ハ滾轉ノ際腹腔内ノ有莖腫瘍又ハ浮動索狀物ハ腸ノ周圍ヲ緊約スルコトアリ腎-脾靱帯ニ腸ノ絞挫セララル、モノ稀ナリトセス空腸ノ絞挫・箝頓最モ多ク腸ノ他部ニハ遙ニ尠シ

剖檢 腸ノ箝頓セラレタル部ハ暗赤色乃至黒赤色ヲ呈シ腫起・緊張ス腸壁ハ漿液・血液ヲ浸潤シ破レ易ク腸内ニハ血液ヲ混セル惡臭ノ稀液ヲ含ミ其粘膜ハ黒赤色ヲ呈シ其表面ハ往々不潔黄色ヲ帶ヒ粘膩ナリ箝頓部ハ淡黄色ノ横線ヲ示シ時トシテ淡色ノ輪ハ濃淡不同ノ赤色輪ニ分隔セラレ又限局性若クハ汎發性腹膜炎アリ時アリ同時ニ腸破裂ヲ認ム腹腔内ニハ黄色若クハ帶青色ノ漿液アリ往々纖維素片ヲ含ム

症候 馬ハ突然^{罕ニハ徐々ニ}劇シキ疝痛ヲ發シ不注意ニ地上ニ仆レテ滾轉シ肢ヲ以テ蹴リ不穩愈、亢フレハ殆ント發狂ノ狀ヲ呈ス後ニ至レハ滾轉・顛仆ヲ避ケ靜ニ伏臥シ若クハ起立ス蓋シ腹膜炎ノ爲メ腹痛ノ劇増ニ堪ヘサルモノ、如シ罕ニハ最初ヨリ喘々然トシテ地上ニ臥シ或ハ全ク伏臥セス常ニ同側ノ横臥・犬坐・屈膝及仰臥等モ亦往々認メラル、モ何等ノ診斷的價値ヲ有セス疼痛・不安ハ持續的若クハ少時ノ間歇アルノミ直腸又ハ小結腸ノ箝頓ニ於テハ時々大ニ窘迫ス顔貌ハ苦痛ヲ訴フルモノ、如シ

腹圍ハ増大セス罕ニハ僅ニ増大ス腸蠕動音ハ直腸又ハ小結腸ノ箝頓ニ在テハ久シク活潑ナリ他ノ場合ニハ罕ニ起リ或ハ全ク熄ム

通便ハ即時若クハ後ニ至リ絶止ス唯不全閉塞ニ在テハ通便ノ遲滯ヲ見ルノミ

直腸検査ヲ施セハ先ツ直腸ノ空虚ヲ認メ往々箝頓ノ部位ヲ發見ス直腸ノ箝頓ニ在テハ送入セル手ハ忽チ障礙ニ遭遇シ間、1指スラモ送入スルヲ得ス障礙ノ前方ニ當リ腸ハ皺襞ヲ呈シ知覺過敏ニシテ指ニハ不潔赤色ノ惡臭液ヲ染著ス他部ノ腸ノ箝頓ニ在テハ輕壓ヲ加フレハ大氣脹ノ腸忽チ萎小シテ帶痛性ノ硬キ索

條トナル而シテ此索條ハ他ノ緊張セル索條又ハ索輪ニ圍繞セラ
ル罕ニハ有莖腫瘍ヲ觸知ス腹腔ノ前方ニ於ケル箱頓ハ全ク檢知
スルヲ得ス或ハ僅ニ一局部ノ鼓脹ト疼痛點ヲ發見スルノミ

横隔膜へるにあニ於テハ初ヨリ呼吸困難ヲ來シ 山坂ヲ下ル時又
ハ側臥ニ際シ殊
ニ甚シ 腸壁ノ後方及下方ノ鑿性鼓音ヲ呈ス鼓音ノ上界ハ不定ナリ
既ニ肋膜炎ヲ發スレハ肋間ノ知覺過敏ニシテ摩擦音ヲ聞ク又胸
腔内ニ血液滯溜スレハ胸ノ試穿液ハ血様ニシテ多量ノ白血球ヲ
混ス左側横隔膜へるにあニ於テハ心臟ハ左側ニ壓排セラル、ヲ
以テ心搏動消失ス小腸箱頓ハ急性胃擴張ヲ繼發ス

一般ニ脈ハ弱クシテ1分時60以上ヲ算シ意識ハ昏濁シ呼吸
促迫シ體溫昇騰ス其狀恰モ血塞・栓塞症ノ重症ニ類ス

経過 疝痛ハ初ヨリ劇シク又ハ急ニ増劇シ數時間若クハ1日
間依然トシテ存シ後ニハ安靜トナリ長キ休間ヲ隔テ、輕キ疝痛
ヲ發ス適當ノ療法ヲ施サ、レハ腸破裂・腹膜炎・敗血症若クハ中
毒ノ爲メ斃ル自然ニ整復スルコトナキニアラサルモ極テ稀ナリ

豫後 直腸ヨリ整復スルニアラサレハ豫後不良ナリ 又高熱
ハ不良ノ徵ニシテ腹壁ヲ試穿シ腐臭ノ液アルヲ認ムレハ救助ノ
望ナシ

診斷 腸ノ箱頓ハ直腸検査ニ賴ルニアラサレハ確ニ診察ス
ルヲ得ス他ノ症狀ハ腸變位ノ疑ヲ抱カシムルニ過キス

療法 直腸ヨリ整復スルノ1法アルノミ即チ直腸ヨリ手ヲ送
入シテ箱頓セル腸ヲ引出シ 細キ索若クハ靱帶ヲ破リ或ハ腸
ヲ纏絡セル腫瘍ノ帶ヲ引離シ 得ヘシ醫藥
ハもるひね・抱水くろらーノ如キ麻醉藥ヲ用キルニ過キス下
劑ハ無益ニシテ卻テ害アリ

b 腸ノ軸轉及纏結

Torsio et Volvulus intestini.

Achsendrehung und Verschlingung

des Darmes 獨.

病性 腸ノ軸轉 捻轉 及纏結 纏絡 ハ腸ノ本軸ノ廻轉又ハ他部ノ腸
管ノ纏絡・絞榨ニ依リ腸ノ内腔遽ニ閉塞シ鬱血ヲ來ス症ヲ謂フ
死後ニ起レル腸ノ軸轉ト誤認スヘカラス後者ニ
在テハ腸ノ内徑ニ異常ナク且腸壁ニ鬱血ヲ見ス 此腸變位ハ馬ノミニ發シ變
位症中約 11—55% ヲ含ム

原因 軸轉及纏結ハ器械的作用ニ原ク殊ニ他ノ帶痛性腸病
ノ爲メ滾轉スルモノハ腸ノ軸轉ヲ來シ易シ其他非常ニ活潑ナル
腸運動モ亦甚タ罕ニハ小腸又ハ小結腸變位ノ原因トナル

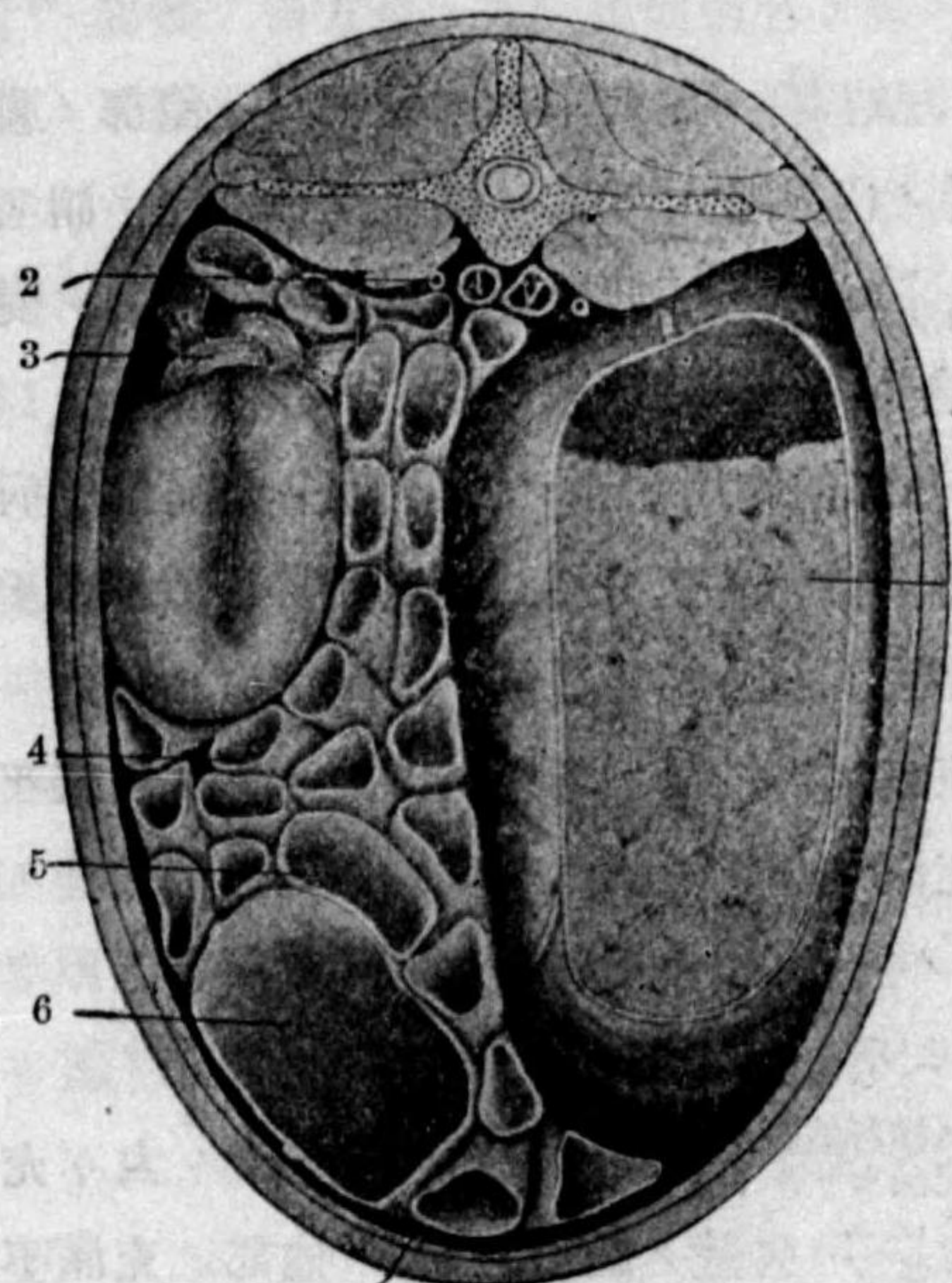
左側結腸ノ軸轉 本症ハ馬ニ於テハ2様ノ方法ニヨリテ起ル
(1)左側結腸カ中等度ニ充滿セルトキ伏臥セル馬ノ突然廻轉スル
ニ因ル(2)大多數ハ急劇ノ伏臥・顛仆・滾轉・馳騁・跳躍等ニ原ク
誘因ハ(1)左側結腸殊ニ骨盤彎曲ニ糞若クハ砂ノ停滯アルカ
爲メ重量ヲ増ストキ 而モ横行結腸ハ十
分充滿セサルトキ (2)右側上層結腸ノ大ニ充
滿スルトキ Forsell 氏ニ據レ
ハ左側下層大充滿 (3)腸壁ノ腫瘍(4)腸ノ他部ノ充滿不
足 胃ノ充滿程度モ亦恐ラク
影響ヲ及ホスモノナラン (5)腹壁ノ弛緩等トス Forsell 氏ハ多ク
ノ馬ニ於ケル骨盤彎曲部ノ腸間膜 上層・
下層間 ノ比較的幅廣キハ素因
トナルナラント云フ

盲腸ノ軸轉 本症ハ稀有ニシテ同一ノ器械的原因ニ基ク

小腸又ハ小結腸ノ軸轉及纏結 本症ハ更ニ複雑ナル器械的作
用ニ因ル即チ1方ニ於テハ他ノ腸ノ周圍ニ1ノ腸管カ其腸間膜
ト共ニ纏絡シテ結節ヲ形成ス所謂纏結 Volvulus nodosa 是ナリ

或ハ1ノ腸管カ其固有ノ腸間膜ノ周圍ヲ纏絡ス所謂軸轉 Achsen-
drehung (腸間膜纏結 Volvulus mesenterialis) 是ナリ粗暴ノ運動・
投出若クハ動物ノ滾轉ニ因ル小腸ニ液體・固形體若クハ砂ヲ充

第八圖



馬ノ盲腸便秘及小腸纏結

- 1. 盲腸ノ擴張及便秘
- 2. 左輸尿管
- 3. 小腸ノ纏結部
- 4. 空腸
- 5. 左側上層結腸
- 6. 左側下層結腸

腸ノ下ニ壓排セラル斯ノ如キ腸間膜ノ緊張若クハ壓迫ハ腸間膜
靜脈ノ鬱血及腸ノ腫脹竝ニ活潑ニシテ且有力ナル腸ノ收縮ヲ來
ス而シテ活潑ナル腸收縮ハ腸ノ結節形成ヲ促シ此結節ハ頗ル緊
硬ニシテ剖檢ノ際ニアラサレハ解離スルヲ得ス

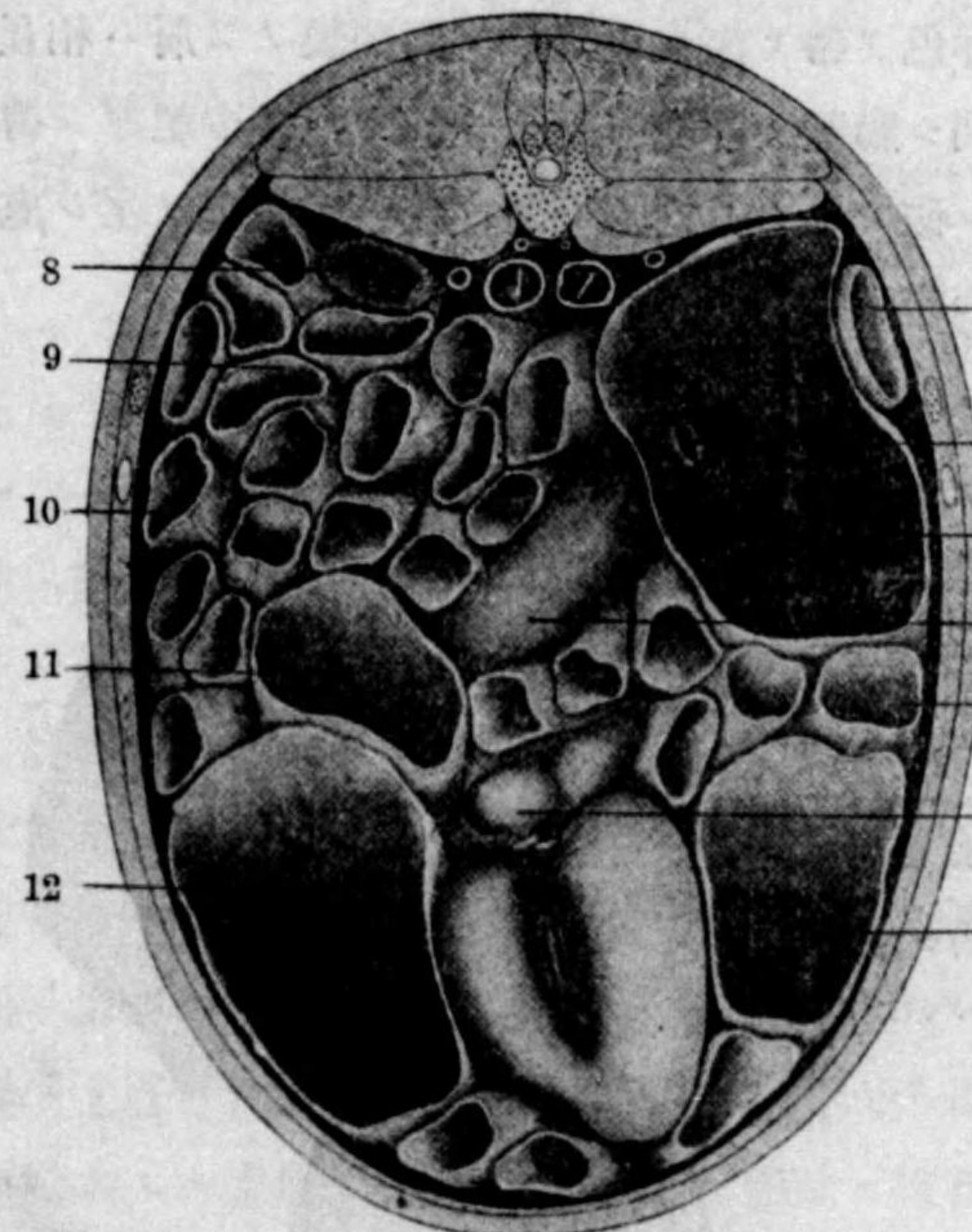
滿シ又腫瘍ヲ存スレ
ハ小腸軸轉ノ誘因ト
ナル然レトモ小腸ノ
軸轉ハ概シテ稀有ナ
リ

纏結ハ馬ニ頗ル多ク
概ネ小腸ニ於テ之ヲ
見ル小腸カ結腸・盲
腸若クハ小結腸ヲ纏
絡スルハ太タ稀ナリ
小結腸相互ノ纏絡モ
亦稀有ナリトス腸ノ
活潑ナル搖擺運動ハ
1—2ノ腸管ニ於ケ
ル腸間膜ノ緊張ヲ來
ス之カ爲メ長キ腸間
膜ニ懸垂セル腸ハ腹
腔ノ他部又ハ重キ大

誘因ハ小腸ノ或ル部位ニ於ケル滯糞・局所鼓脹・腫瘍・結石・
寄生蟲・腹壁ノ弛緩・腸ト腸トノ癒著等ナリトス

腸ノ屈折 Flexio intestini. Knickung des Darmes (橫軸廻轉
Drehung um die Querachse) 本症ハ比較的數、腸カ附近ノ臟器
又ハ腸壁ト癒著スル時ニ起ルモノトス斯ノ場合ニハ小腸又ハ結

第九圖



馬ノ廻腸便秘及小腸纏結

- 1. 十二指腸
- 2. 廻盲口
- 3. 盲腸
- 4. 廻腸
- 5. 右下層結腸
- 6. 有莖脂肪腫
- 7. 盲腸
- 8. 左腎
- 9. 空腸
- 10. 小結腸
- 11. 左上層結腸
- 12. 左下層結腸

腸ハ狹隘トナルノミニシテ血行障礙若クハ之ニ基ク係累ヲ見ス
然レトモ罕ニハ内徑ノ閉塞ヲ來スコトアリ馬ノ結腸左層ノ屈折
Flexio coli 又ハ盲腸ノ屈折 Flexio caeci ハ既往ノ癒著ナクシ
テ器械的作用ノ爲メ起ルコトアリ 其屈折セル盲腸尖端ハ貧血・

壞疽=陥ル

素因 馬ノ小腸腸間膜ハ著シク長ク又左側結腸ハ腹腔内ニ游離シテ存ス1方ニ於テハ使役ノ關係上馬ハ數、軸轉・纏結ニ罹リ重大種ノ馬ニ大腸及他ノ腸ノ軸轉多キハ腹壁弛緩セルト飼料容積ノ大ナルカ爲ナラン

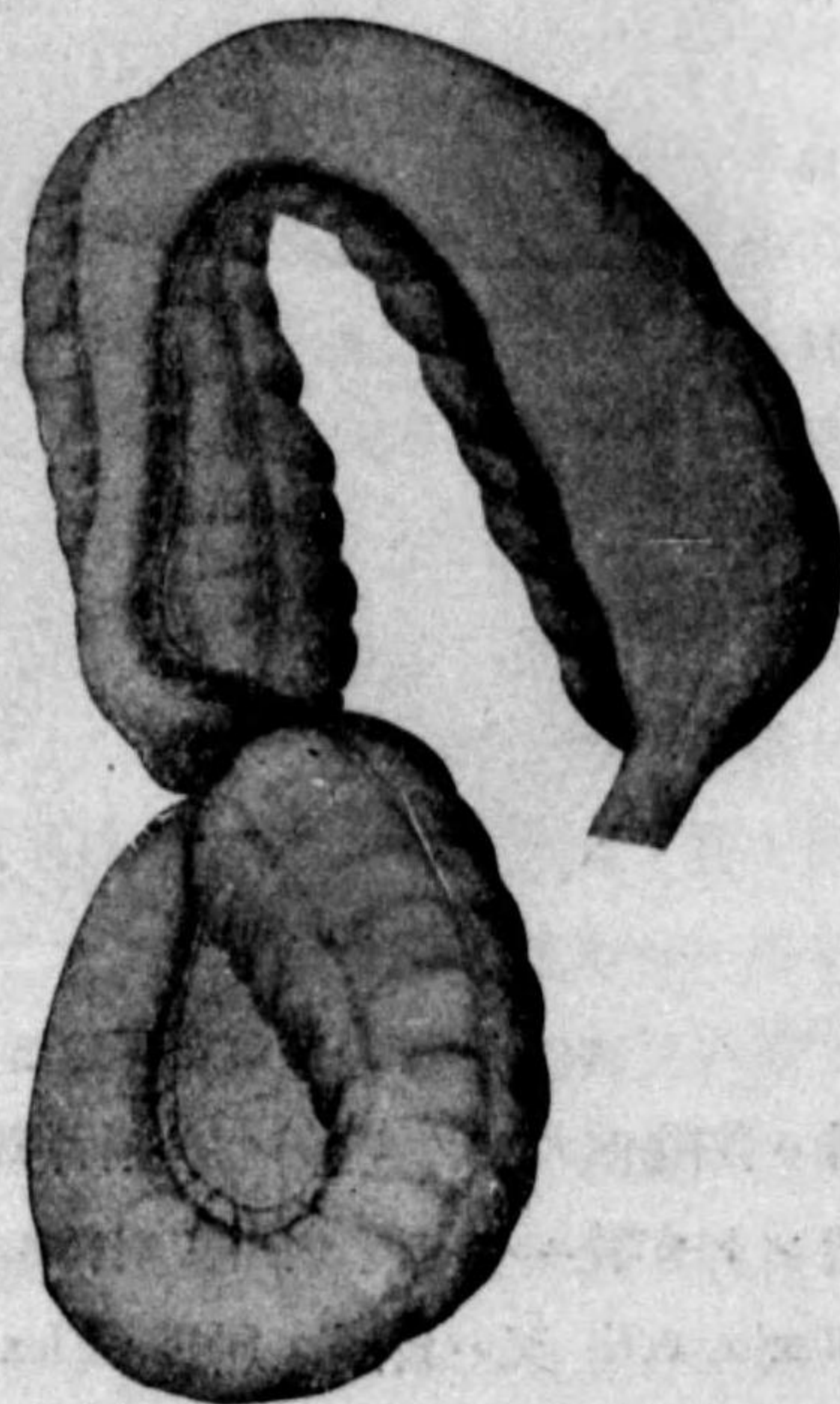
剖檢 結腸ノ軸轉ニ在テハ結腸ノ捻轉部ヨリ後方・大ニ膨脹シ暗赤色乃至黒赤色ヲ帶ヒ溢血斑ヲ示ス腸間膜ノ2層ハ相互ニ膠著シ血液ヲ浸潤シ腸壁ノ靜脈ハ怒脹ス腸壁ハ多少肥厚シ帶赤色ノ漿液ヲ浸潤シ破レ易ク其粘膜ハ黒赤色ノ大皺襞ヲ呈シ處

處壞疽ニ陥ル腸ノ内容ハ液狀若クハ粥狀ノ糞ニシテ血液ヲ混ス絞搾部ニ於テハ單ニ鬱血ノ徵又ハ貧血ノ傍ニ鬱血變狀アルヲ見ル

捻轉ノ方向ハ或ハ右ニ向ヒ或ハ左ニ向フ右方捻轉ハ左方捻轉ヨリ較多シ然レトモWall氏ハ26回中ニ左方15回・右方捻轉11回ヲ見タリ捻轉ノ程度ハ不同ニシテ半捻轉・全捻轉アリ極メテ罕ニハ數回捻轉ス

捻轉ノ部位(絞搾部)ハ横行結腸結腸ノ横隔膜彎曲ニ多キモ盲腸若クハ小結腸ノ起始部マテニ互ルコトアリ罕ニハ盲腸ノ轉廻ヲ見ル骨盤彎曲ニ

第十圖



馬ノ左側結腸ノ右方軸轉及小腸纏絡

於ケル縦軸捻轉ハ1ノ實例アルノミ左側結腸ノ中間ニ於ケル捻轉モ亦稀ナリトス大腸ノ屈折ニ於テハ其内徑ハ内方ニ彎入セル腸壁ニ由リ狹隘トナリ或ハ全ク閉塞セラレ其後方ニ位セル腸ハ大鬱血ヲ示ス但シ盲腸尖端ノ屈折ニ於テハ反テ貧血ニシテ壞疽ニ陥ル小腸ノ軸轉・纏結ニ於ケル腸間膜ハ索狀ニ旋轉シ或ハ他ノ腸管ノ周圍ヲ纏絡ス而シテ絞搾セラレタル腸ノ1部ハ非常ニ膨大シ暗赤色ヲ帶フ腹腔内ニハ血樣漿液ヲ含ミ限局性若クハ汎發性腹膜炎若クハ腸ノ破裂ヲ見ル

症候 大體腸箱頓ノ症狀ニ同シキモ腸捻轉ニ於テハ腹圍増大スルヲ以テ之ニ異ナレリ直腸ヨリ検査スルニ馬ノ結腸軸轉ニ於テハ大鼓脹ヲ認ム左側ノ上下2層上層ニハ頗ル腹腔ノ上壁マテモ達ス從テ上腹壁ト膨大セル結腸トノ間ニ手ヲ送入スルニ困難ヲ覺フ又結腸壁大ニ緊張スルヲ以テ其内部ノ硬糞ヲ觸知スルヲ得ス腸ノ他部ハ常態ナルカ又ハ結腸ニヨリ壓排セラル盲腸殊ニ然リ久シキニ互レハ他ノ腸管モ亦鼓脹ヲ發ス

腹腔内ニ於ケル結腸ノ位置ハ平素ニ異ナラサルカ或ハ左側ノ上下兩層共ニ腹腔ノ中央ニ移動シ甚タシキハ盲腸底ニ接觸ス骨盤彎曲ハ或ハ後方ニ或ハ1側ニ或ハ前方ニ轉向ス從テ結腸ノ方向ハ眞直ナルカ又ハ1側若クハ後方ニ向ヒテ弓狀ヲ呈ス左側結腸ノ上層・下層ノ關係ハ或ハ不變1回ノ全捻轉或ハ前方ニ向ヒテ次第ニ膨大セル上層ハ更ニ膨大ニシテ明瞭ニ縦帶及囊狀膨大 Poschen ヲ現ハセル下層結腸ノ右側若クハ左側或ハ其下方ニ偏倚ス縦帶ノ右方若クハ左方ノ螺旋狀經過ハ結腸カ骨盤彎曲ノ附近ニ至ルマテ螺旋狀ニ捻轉スルカ又ハ骨盤彎曲カ前方ニ轉向セルヲ示ス結腸若クハ其縦帶ヲ牽引スレハ疼痛ヲ訴フ

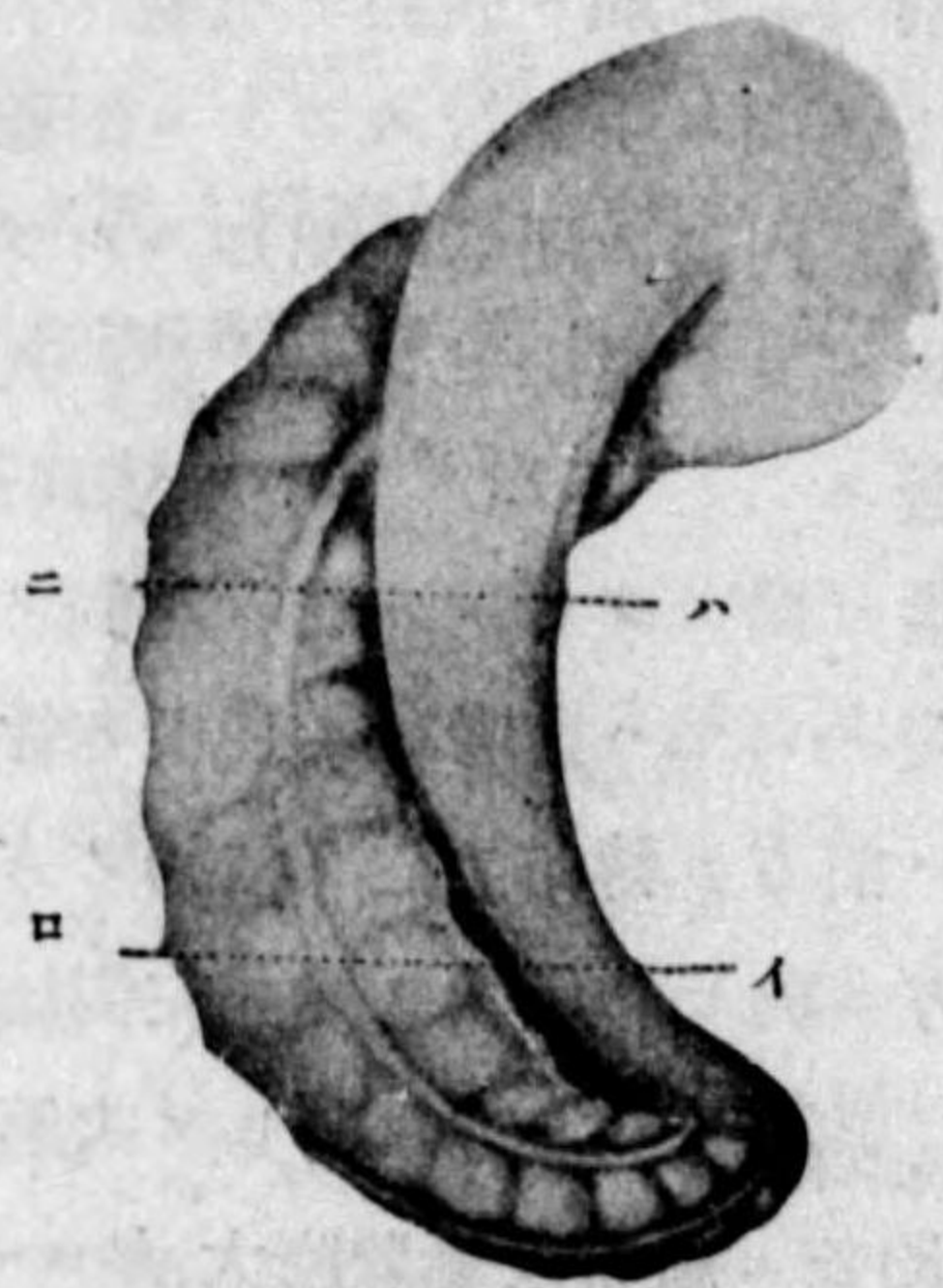
診斷上重要ナルハ左側結腸ノ肥厚セル壁カ肉樣ノ硬度ヲ呈シ

且肉索状ニ肥大セル結腸腸間膜ヲ左側結腸ノ内側ニ於テ觸レ得ルニアリ

結腸又ハ盲腸ノ屈折ニ於テハ腸ハ銳角ヲ以テ屈折シ且大ニ鼓脹ヲ發ス盲腸ノ軸轉ハ直腸検査ニヨリ直接捻轉部ニ觸ルニアラサレハ診定スルヲ得ス

小結腸^{通常腹部直腸ト稱ス}ノ軸轉及纏結ハ毎回直腸検査ニヨリ發見スルヲ得ヘシ直腸ニ近キ處ニ閉塞アレハ全ク手ヲ送入シ能ハサルカ或ハ僅ニ1指ヲ進メ得ルニ過キス而シテ其際閉塞ノ前方ニ於テ腸壁ハ皺襞ヲ呈シ疼痛ヲ帶ヒ且腸壁ヲ隔テ、氣脹セル腸管ヲ觸

第十一圖



馬ノ結腸ノ假性軸轉

骨盤彎曲ハ右ニ變位シ左上層ハ(イ)
(ロ)ノ線ニ於テハ下層ノ側下方ハ(ハ)
(ニ)ノ線ニ於テハ側上方ニ位ス

至大ナラサル馬ニ在テハ腸間膜根ヲ圍繞セル小腸ノ全捻轉ハ腎盂ノ横断面・脊柱ノ直下ニ於テ右又ハ左ニ走レル太キ索條ニ觸レ得ヘシ左側結腸ノ後部又ハ盲腸ノ上部ヲ旋轉セル小腸ノ纏結ハ觸診敢テ難シトセス然レトモ一般ニ小腸ノ軸轉・纏結ハ觸レ難ク唯小腸ノ1部ニ於ケル氣脹・疼痛ノ有無ニヨリ之ヲ推診スル場合尠カラス而シテ腹腔ノ前方ニ於ケル腸變位ハ直腸検査ニヨリ全ク觸知スルヲ得ス

知ス

小腸ノ纏結竝ニ其軸轉即チ腸間膜ノ1部纏結ニ在テハ大ニ膨大緊張セル小腸ハ急ニ皺襞ヲ作レル索條ニ移行ス其索ヲ牽キ又ハ之ヲ壓スレハ疼痛ヲ示ス

至大ナラサル馬ニ在テハ腸間膜根ヲ圍繞セル小腸ノ全捻轉ハ腎盂ノ横断面・脊柱ノ直下ニ於テ右又ハ左ニ走レル太キ索條ニ觸レ得ヘシ左側結腸ノ後部又ハ盲腸ノ上部ヲ旋轉セル小腸ノ纏結ハ觸診敢テ難シトセス然レト

經過 疝痛ハ最初ヨリ劇シク或ハ徐々ニ増進ス經過ハ短ク數時間若クハ一兩日內ニ斃ル大腸殊ニ小結腸ノ軸轉ニ於テハ2-3日間生存スルコトアリ自然治癒ハ絶無・稀有ナリ

診断 直腸検査ニヨリ軸轉若クハ纏結ノ部位ヲ證明スレハ確診ヲ下シ得ヘシ横行結腸及右側結腸ノ軸轉ハ他ノ状態ヨリ推診スルニ過キス又結腸ノ軸轉ニ關シ Jelkmann 氏ハ第4腰椎ノ水直面ニ於ケル2箇ノ緊張索條ヲ特徴トシ Möller 氏ハ左側下層結腸ニ於ケル縦帶ノ螺旋狀ヲ確徵ト做ス又 Forssell 氏ハ左側結腸ノ上層・下層ノ關係竝ニ縦帶ノ螺旋狀經過ヲ特徴ナリト主張ス

1 Möller 氏ニ據レハ下層結腸ノ側方ニ於ケル兩縦帶ノ左螺旋狀經過ハ右捻ヲ示シ其反對ノ經過ハ左捻ヲ示スト云フ

2 Forssell 氏ハ次ノ原則ニ從ヒ左側結腸ノ上層ト下層ノ關係ヨリ捻轉ノ方向ヲ定ム即チ(1)右方半廻轉ニ於テハ上層ハ下層ノ右ニ位シ且前方ニ向ヒテ下層ノ背面ヲ斜左ニ經過ス(2)90度以上ノ右方廻轉ニ在テハ上層ハ下層ノ左ニ來リ且下層ノ下ヨリ右前方ニ旋廻ス(3)之ニ反シ左方半廻轉ニ於テハ上層ハ下層ノ左ニ位シ且前方ハ斜ニ右方ニ向ヒ下層ノ上面ヲ超エ(4)90度以上ノ左方廻轉ニ於テハ上層ハ下層ノ右ニ位シ遙ニ前方ニ於テ下層ノ下ニ旋廻ス

第十二圖



馬ノ結腸ノ假性軸轉
左上層ハ左下層ノ側下方ニ位ス但シ(イ)(ロ)ノ線ヨリ前方ハ正位トス

療法 大體ハ腸筋頓ニ同シ結腸

ノ軸轉ヲ除クノ外直腸ヨリ整復ノ望ハ尠シ結腸ノ軸轉ニ在テハ常ニ捻轉ノ方向ニ馬ヲ滾轉セシム Forssell 氏ハ18回之ヲ試ミ17回功ヲ奏シタリト云フ 然レト

モ多クハ診断確定シ難キヲ以テ其價値ハ大ナラス他ノ實驗家 (Behrens, Hummerich, Marek, Forssell) ハ偉功ヲ收ムル能ハサリシモ原發性腸鼓脹及糞ノ停滯ヲ治シ得タリ滾轉ニ由ル整復ノ目的ハ横行結腸ノ左層ニ移行スル處又ハ左側結腸ノ軸轉ニ在リ

Jelkmann 氏ハ直腸ヨリ結腸ノ軸轉ヲ除クノ法ヲ推奨スルモ毎回功ヲ奏シ難ク卻テ直腸破裂ノ危險アリ骨盤彎曲ノ屈折ハ直腸内ヨリ骨盤ノ方ニ牽引スレハ容易ニ整復スルコトアリ

病初病馬ノ滾轉ニヨリ自然整復スルコトアリ

ルヲ以テ可ナリノ滾轉ハ許スヘシ然レトモ小腸及小結腸ノ軸轉及纏結ニ於テハ滾轉ハ腸ノ他部ノ變位ヲ起サシムルコトアリ此ノ如キ場合ニ在テハ麻醉藥もるひね抱水くろらヲ用キテ鎮痛スヘシ大鼓脹アレハ穿腸術ヲ施ス下劑ハ用ウヘカラス



馬ノ腸重疊

c 腸ノ重疊 Invaginatio intestini. Dar-meinschiebung獨

病性 腸ノ1部内翻シテ之ニ界ヲ接セル腸ノ内腔ニ摺入シ其内徑ヲ狹隘ナラシメ又ハ之ヲ閉塞シ翻入部ニハ靜脈鬱血ヲ來ス症ヲ云フ本病ハ概シテ稀有ノ症ナリ プロシヤ軍隊ニ於テハ 0.13% ベルリンノくりにつく 0.12%

ブダベストくりにつく 0.1%アリ

原因 非常ニ活潑ニシテ且強キ腸運動ニ因ル而シテ蠕動ノ亢進ハ感冒後・冰冷ノ水・凍瓦ノ食霜ヲ被ムレル草・凍却ノ根菜類腸かた一る及腸炎ノ經過中・腸寄生蟲・腸内異物・腸壁ノ腫瘍竝ニ諸種ノ疝痛ニ繼發ス

腸ノ鄰接部ニ突然異常ノ壓・増加シテ腸ノ收縮ヲ起ストキ例之飛跳ノ際ニ發ス

誘因 腸ノ或ル部ニ腫瘍又ハ癒著ノ存スルトキ比較的短キ腸間膜ニヨリ硬ク固定セラレ又ハ鼓脹ノ存スルトキニ起リ易シ

腸ノ重疊ハ小腸ニ最モ多シ蓋シ小腸ハ數大收縮ヲ起シ易ケレハナリ廻腸カ盲腸ニ摺入スルハ較稀ナリ例外ニハ結腸ニ摺入ス又盲腸ノ尖端カ盲腸體ニ翻入スルコトアリ盲腸カ結腸ニ・小結腸カ他部ノ小結腸若クハ直腸ニ翻入スルハ極メテ稀ナリ又十二指腸カ胃ニ摺入スルコトアリ

剖檢 翻入部ハ數厘若クハ數米ノ長キニ涉リ弓狀・螺旋狀若クハ蝸牛狀ノ圓筒ヲ呈シ其硬サ腸詰ノ如ク或ハ波動ス其他ノ腸ハ常態又ハ藍赤色若クハ紫色ヲ帶ヒ腸間膜ハ皺襞ヲ生スルカ爲メ靜脈ハ腫脹セル腸ニヨリ多少壓迫セラレ翻入部ノ入口ハ肉様ノ輪ヲ匝シ腸ハ腸間膜ト共ニ摺入シ靜脈ノ大鬱血アリ腸ノ漿液膜ハ纖維性腹膜炎ヲ發ス腸ハ相互ニ引離シ難ク瀕死期ノ摺入ハ解離シ易ク且出血・炎症ヲ見ス通常摺入ハ1箇所ニ過キサレモ例外ニハ2箇所・3箇所若クハ數箇所ニ發スルコトアリ罕ニ腸間膜破裂スルコトアリ廻腸ノ重疊ニ於テ十二指腸破裂シ全小腸ハ盲腸・結腸及直腸ニ翻入シ2.6米ノ腸片・肛門外ニ脱出セシ例アリ合併症トシテ汎發性腹膜炎ヲ見ルコト稀ナリトセス

症候 馬ニ於テハ大體・腸筋頓又ハ軸轉ノ徵ニ同シ盲腸ノ盲腸内若クハ結腸内翻入ニ在テハ通便全ク絶止ス或ハ劇シキ腸狭窄ノ状ヲ示ス直腸ヲ検査スルニ往々腸重疊ト他ノ腸變位トノ間ニ著シキ差異アリテ終末マテ局部鼓脹ヲ缺如ス小腸重疊ハ直腸検査ニヨリ腹腔内孰レニカ帶痛彈力性・腸詰様若クハ肉様ノ游離可動體ヲ觸知ス廻腸カ盲腸内ニ摺入スレハ盲腸頭ハ腕關節大ニシテ彈力アリ且牢固ノ可動體トシテ手ニ觸ル往々盲腸若クハ結腸ノ重疊ヲ診定スルヲ得ヘシ

血便ハ罕ニ見ルノミ

經過 最初ノ劇シキ疝痛消滅ノ後・馬ハ數日間安靜トナリ其間合併症ノ爲メニ斃ル例外ニハ反復數回ノ疝痛發作ヲ來ス盲腸重疊ハ6週若クハ數月ヲ閱シ其間腸狭窄ノ状ヲ呈ス自然ノ治癒ハ極テ稀ナリ

診斷 直腸検査ノ陽性成績又ハ腹壁按診ニ賴ル罕ニハ壞死腸片ノ脫出ヲ視テ察知ス其他血便・粘液便・纖維素塊ノ排泄・腸ノ閉塞・疝痛ノ鎮靜ニ拘ハラズ全身症狀ノ増悪等ヲ參考スヘシ

宿糞ハ重疊ニ反シ硬ク彈力ナク結節狀ニシテ疼痛ヲ帶ヒスくるぶ性腸炎ハ腸閉塞ノ徵ヲ缺ク

療法 唯一ノ療法ハ開腹術ナルモ馬ニ於テハ多ク功ヲ奏セス

6 血塞疝 Colica thrombo-embolica.

病性 血塞疝トハ腸間膜動脈ニ普通硬口蟲 *Strongylus vulgaris* ノ幼蟲寄生シ動脈ノ內膜炎ヲ生シ之カ爲メ血栓ヲ形成シ腸

壁ノ血行障礙ヲ來シ疝痛ヲ發スルモノトス

前腸間膜動脈ノ寄生性動脈瘤 Hering 氏ハ既ニ1830年馬ノ前腸間膜動脈ニ動脈瘤ノ極メテ多キヲ指摘セリ Bruckmüller, Röhl, Bollinger 氏等ノ計算ニ據レハ總テ馬匹ノ90—94%ハ此動脈瘤ヲ生ス此動脈瘤ハ幼駒ニ最モ多ク Ellenberger 氏ノ檢セル解剖馬85頭ノ中動脈瘤ナキモノ僅ニ1頭アリシノミ生後3月ノ幼駒ニモ之ヲ見ルコトアリ産初ノ仔馬ハ之ヲ缺クモノ、如シ斯ノ如ク寄生性動脈瘤ハ頗ル多キモ實際疝痛ヲ起スハ稀ナリ

原因 馬ノ腸間膜動脈ノ血塞ハ普通硬口蟲 *Strongylus vulgaris* (*Sclerostomum vulgare*, *bidentatum*) ノ幼蟲ニ由テ生ス此幼蟲ハ飲水ト共ニ攝取セラレ又厩壁其他糞ニ汚染セラレタル物品ヲ舐却スル際ニ傳ハル本蟲ハ又卑濕ノ牧場ニ存ス馬竝ニ他ノ動物ノ心臟瓣膜病・心內膜炎・胸部大動脈ノ動脈瘤ニ於テ腸間膜動脈ノ栓塞ヲ來スコトアルモ概シテ甚シキ惡結果ヲ生セス

病理 前腸間膜動脈ハ直腸ノ中部及後部ヲ除ク外・大小腸ノ全部ニ血液ヲ供給スルモノニシテ其動脈瘤ハ最モ多シ後腸間膜動脈又ハ內臟動脈ニ之ヲ生スルハ稀ナリ動脈壁ハ平等ニ擴張肥厚シ長橢圓形・壘狀若クハ紡錘形^{管ニハ囊狀}ノ動脈瘤ヲ含ム其太サ人頭大・長サ1米ノ $\frac{1}{3}$ ニ達スルモノアリ中膜及腸間膜結締織ハ殊ニ肥厚シ內膜ハ腫起・脂化・石灰變性・化骨・潰瘍・結締織硬化等種々ノ病的變狀ヲ生ス其内容物ハ血栓ニシテ動脈ノ内壁ニ附著シ疊層ノ構造ヲ有シ往々細管ヲ生シ(疎通)動脈ノ内徑ヲ閉塞ス或ハ大動脈ノ内部マテ連續ス或ハ脆柔ニシテ膿狀ニ軟化スルモノアリ血栓ノ他普通硬口蟲ノ幼蟲ヲ見ル其數ハ一定セス

此寄生蟲ノ存在ハ內膜性變化^{慢性創傷性動脈內膜炎}ノ原因ニシテ之ニ因テ血栓及動脈瘤ヲ誘起ス寄生蟲ノ數多キトキハ100—200箇若クハ其以

上ニ達ス其遊走ノ状態及時期(恐ラク夏)ハ未タ審ナラス

寄生性動脈瘤ト疝痛ノ關係 前腸間膜動脈瘤ハ腸ノ血行ヲ妨ケテ其榮養ヲ害シ從テ疝痛ノ素因ヲ生スルノミナラス腸ヲシテ斷エス3様ノ危險ニ暴露セシム(1)血栓ハ全ク前腸間膜動脈ノ内徑ヲ閉塞ス是レ稀ニ見ル所ナリ(2)血栓ハ腸動脈ノ1枝マテ連續ス(3)血栓ノ1片破碎シ栓子トナリ腸動脈内ニ筈入ス

總テ前記ノ場合ニ於テハ十分ナル側枝循環行ハレサルトキハ腸ハ變化ヲ免レス蓋シ血行杜絶セル血管領域ニ於テハ先ツ動脈貧血ヲ起シ血液又ハ組織中ニ炭酸ガ蓄積シテ一時腸蠕動ヲ催進ス從テ腸ノ某部ノ活潑ナル收縮ハ痙攣狀トナリ腸壁ニ於ケル神經末端ノ壓迫及牽引ニ由リ疝痛ヲ起サシム而シテ此痙攣ハ持續的ニアラサルヲ以テ疝痛モ長短不同ノ間歇ヲ以テ發作的ニ現ハル腸ノ貧血久キニ互レハ腸ノ蠕動ハ停止ス已ニ1—2時間ニテモ動脈血ノ供給杜絶スレハ腸筋膜ノ著シキ榮養障礙ヲ來ス一方ニ於テハ動脈血壓ノ低キカ爲メ靜脈血還流鬱滯ス從テ腸壁及腸内腔ニ漿液及血液ヲ滲漏ス(所謂出血性梗塞)後者ハ腸麻痺ノ直接原因トナル而シテ腸麻痺ハ腸内容ヲ停滯セシメ細菌ノ繁殖ヲ促シ以テ異常ノ醗酵ヲ生シ大ニガサヲ醸サシム又此麻痺ハ腸ノ軸轉・重疊ノ原因トナル是レ蠕動活潑ナル健全ノ腸ハ既ニ麻痺セル腸ヲ纏絡シ又ハ其腸内ニ翻入スルニ因ル結腸ノ左層(遊離層)ハ血栓・栓塞ノ爲メ捻轉スルコト多シ是レ此部ハ第1ニ血行障礙ヲ蒙リ活潑ナル蠕動ヲ起シ位置ヲ變スルモノ、如シ蓋シ動脈貧血ハ初期先ツ腸ノ蠕動ヲ旺盛ナラシメ以テ變位ヲ促スモノト看做サルヲ得ス麻痺部ニ界セル腸健全部ノ活潑ナル蠕動ヲ起シ左層ノ軸轉ヲ誘致スルトハ思料シ難シ終リニ腸麻痺ハ腸炎・胃腸・橫隔膜ノ破裂ヲ招來ス是レ麻痺部ニ始レル腸ノ逆蠕動ハ胃中ニ食物ヲ充滿セシメ且ガサヲ生シ膨脹シテ胃自ラ破裂シ又ハ胃腸ノ壓迫ニ由リ橫隔膜ヲ破ル

前腸間膜動脈ノ解剖的關係 此關係ヲ知悉スルハ栓塞性疝痛ノ發生ヲ諒解スルニ必要ナリ蓋シ前腸間膜動脈ハ後大動脈ノ短キ大枝幹ニシテ長サ約10—12種アリ其起根ノ直後ヨリ次ノ枝別ヲ生ス(1)前方ニ向テハ上結腸動脈(2)後方ニ向テハ前者ノ起根ニ對向シテ17—20條ノ小腸動脈・是ヨリ以下ハ稍細狹トナリ廻盲結腸動脈幹ノ名ヲ受ク是レ寄生性動脈瘤ノ宿ル所ニシテ4枝ニ分ル其前方ノ枝ハ最大ニシテ本幹ノ連續ヲナス之ヲ名ツケテ下結腸動脈ト云フ之ニ次テ出ルハ上下ノ盲腸動脈ニシテ終リニ歧ルハ廻腸動脈ナリ

廻盲結腸動脈幹ハ通常血栓ノ爲メ十全ニ閉塞セラレサルヲ以テ其下方ニ位セル動脈ノ枝別(下結腸動脈・上下盲腸動脈・廻腸動脈)ハ尙ホ血液ノ供給ヲ受ク是レ重キ疝痛ノ起ラサル所以ナリ然レトモ廻盲結腸動脈幹若シ全閉セラルトキハ盲腸ハ機能ヲ失ス(上・下盲腸動脈ノ閉塞)然レトモ下結腸動脈ノミ閉塞スルトキハ結腸ハ作用ヲ失ハス何トナレハ上結腸動脈ハ下結腸動脈ト吻合スルヲ以テ之ヨリ結腸ニ血液ヲ補給スレハナリ故ニ1ノ結腸動脈ノミノ閉塞ハ致命ノ栓塞性疝痛ヲ起スニ足ラス動脈瘤若シ例外ニ前腸間膜ノ起根マテ達スレハ兩結腸動脈ノ血行ハ杜絶シ小腸動脈ニモ血栓ヲ生ス但シ此小腸動脈瘤ハ通常動脈瘤ノ範圍外ニ在リ然レトモ1ノ結腸動脈若クハ盲腸動脈突然閉塞スレハ一時輕疝痛ヲ發スルハ疑ヲ容レス

血栓ノ1片破碎スレハ栓塞ハ通常下方ノ枝(下結腸動脈)ニ生ス而シテ上結腸動脈ハ尙ホ流通自在ナルヲ以テ1箇ノ栓塞ハ致命ノ疝痛ヲ生セス1ノ盲腸動脈ノ栓塞モ亦死ニ陥ラス何トナレハ上下ノ盲腸動脈ハ相互ニ吻合シ且盲腸ハ下結腸動脈ヨリ1小枝ヲ受レハナリ小腸動脈ハ腸ノ近傍ニ於テ2枝ニ歧レ各枝ハ弓狀ヲナシ前枝若クハ後枝ト吻合シ此弓ヨリ腸ニ小枝ヲ送ル而シテ小腸枝ノ分岐部ノ上ニ栓塞宿ルトキハ他ニ吻合枝アルヲ以テ其領分ノ血液補給ニ妨ナシ

剖檢 腸ノ出血性梗塞ニハ特異ノ變化アリ蓋シ胃ニハ敗血

症通徴ノ外・粘膜ノ腫起・充血・溢血斑アリ粘膜・粘膜下ノ血管ハ黒赤色ノ血液凝固ヲ含ミ小腸ハ血色ヲ帯ヒタル稀液ヲ含有シ其粘膜ニハ鈍褐赤色ノ浸潤ヲ見ル大腸壁ハ腸間膜ノ附着部ニ於テ漿液兼血液ノ浸潤ヲ呈シ平素ノ3倍若クハ其以上ニ肥厚ス直腸ニ栓塞性變化ヲ見ルハ稀ナリ出血性梗塞ノ劇シキ部ニ於テハ粘膜ハ火絮ノ如キ壊死組織・痂皮狀ヲナシ該痂皮ノ周圍ハ大ニ血液ヲ浸潤ス此痂皮ノ下ヲ細檢スレハ腸動脈ノ血塞ヲ認ム又腹腔ノ諸部ニ膠様浸潤アリ腹腔内ニハ多量ノ血液ニ漿液ヲ雜ヘタル液汁若クハ腐膿ヲ含有ス

Bollinger 氏ハ致命的疝痛ノ50%ハ栓塞性ナリト信シ原因證明シ難クシテ頓發スル疝痛ハ總テ血栓性若クハ栓塞性ナリト稱スルモ誇張ニ失スルモノ、如シ然レトモ血塞兼栓塞性疝痛ノ稀有ナラサルハ疑ヲ容レサル所ナリ

症候及経過 此疝痛ハ種々ノ経過ヲ取ル

1 急性経過ニシテ治スルモノ 外因ナクシテ頻々反復疝痛ヲ發シ頗ルれうまちす性疝痛ニ類スルモ其疼痛ハ間、劇ニシテ経過ハ短ク(數時間・最短15分)腸ノ1定部位ニ於テ蠕動亢進シ頻々軟便ヲ排シ呼吸・脈搏ニ著シキ異常ナシ腸動脈(1ノ結腸動脈又ハ盲腸動脈)ノ小栓塞ニ原キ血行障礙ハ吻合枝ニ由テ補償セラレ、モノトス生前確診シ難キヲ以テ他種ノ疝痛ト誤認サレ易シ

2 急性経過ニシテ不治ナルモノ 血栓又ハ栓塞ノ爲メ腸ノ變位ヲ來スモノ皆是ニ屬ス認知スヘキ外因ナクシテ突然發病スルヲ特徴トス疼痛ハ他ノ疝痛ニ反シ往々輕微ナルモ是レ恐ラクハ血行杜絶セル部ノ神經ハ急ニ麻痺スルカ爲メナラン 急ニ鼓脹ヲ來ス其他ハ變位疝ノ徴ニ同シ胃・腸

ノ破裂又ハ敗血ノ爲メニ斃ル

3 慢性経過ニシテ轉歸較佳良ナルモノ 腸動脈閉塞ノ結果鬱血ヲ來ス此鬱血持久スレハ慢性腸かた一(栓塞性腸かた一)ヲ生ス通常第1回ノ發作靜止スレハ熱温及脈ノ増數ハ消失シ腸ノ蠕動減衰・通便遲滯・食思減損・全身違和ノ徴アリ一兩日ノ後微熱再發シ輕キ疝痛ヲ發ス或ハ全ク疼痛ヲ缺クモノアリ斯ル緩慢ノ症(慢性疝痛)ハ數日・數月間持續ス曾テ Friedberger 氏ハ22日ニ互ル疝痛ヲ見タルコトアリ慢性腸かた一ハ羸瘦・惡液ニ陥ル然レトモ敗血症ノ狀ヲ以テ死スルモノ多シ

4 慢性経過ニシテ轉歸不良ナルモノ 血栓・栓塞・出血性腸炎及腸粘膜ノ壊死ヲ來スモノ是ナリ蓋シ出血性腸炎ハ寄生性動脈瘤ノ結果・腸ノ小動脈ニ血栓若クハ栓塞ヲ生シ腸粘膜ノ1部ハ動脈貧血・靜脈鬱血・出血性梗塞ヲ來シ壊死ニ陥ル其主徴ハ食慾減少若クハ絶止・渴甚シク蠕動音ハ聽ユルモ通便遲滯シ初期ハ小球ノ糞・晩期ニ至レハ粘液ヲ帶ヒタルぱっふ狀ノ惡臭便ヲ排シ間、之ニ血液ヲ混ス尿ハ強酸性ニシテ磷酸鹽類及蛋白質ヲ含ミ高熱持長ス^{41°C}若クハ其以上細數ノ脈⁶⁰⁻⁷⁰ 倦怠・衰弱日ニ加ハリ羸瘦シ肚腹陷沒・球糞・軟便互變シ尿ハ失色シ意識痴鈍トナリ時々食後ニ疝痛ヲ惱ミ諸病増惡ス熱ノ發作即チ筋肉震戰・惡寒・四肢厥冷・粘膜蒼白・呼吸促迫・心機亢盛・體温昇騰ハ死期ニ瀕シテ認ムルコトアリ

経過ハ概シテ長ク慢性胃腸かた一多クハ本病ニ先タツ眞ノ出血性炎症ノ経過ハ數日若クハ數週ニ渉ル死ノ原因ハ腸ヨリ敗血物ノ血中吸收・腹膜炎又ハ慢性瘦削ニ在リ治癒スルモノハ壊死セル粘膜剝脫シ其跡ニ癩痕ヲ結フ後病トシテ慢性潰瘍ヲ貽ス

コトアリ恢復期ハ頗ル長シ

療法 側枝血行ヲ催進センカ爲メ牽運動ヲ命シ且頻々腹側ヲ摩擦シ微温湯ノ灌腸ヲ行ヒかんふる油(2—3時間毎ニ20.0・1日量150.0)・さりち—る酸なとりうむ—かふ—いん(5.0)ノ皮下注射及生理的食鹽水ノ靜脈内注射ヲ施ス下劑ハ重症ノ恢復期ノミニ緩和ノモノヲ與フヘシ其他ノ場合ニハ有害ナリもるひね(0.2—0.4)ノ皮下注射・抱水くろら—る(25.0—50.0)ノ内服又ハ灌腸ハ本症痛孰レノ場合ニモ適ス是1方ニハ疼痛ヲ緩解シ又1方ニハ腸ノ蠕動ヲ制シ以テ腸ノ變位若クハ破裂ヲ豫防ス重症ニ於テハ氣脹セル腸管ニ刺穿術ヲ施スコトアリ

豫防法 蟲卵ノ攝取ヲ豫防センカ爲メニ馬ヲシテ水溜又ハ沼ノ汚水ヲ飲マシム可ラス卑濕ノ牧場ニ出サ、ルヲ可トス硬口蟲ノ多キ牧場ニ於テハ數本蟲ノ有無ヲ検査シ之ヲ寄生セル馬匹ハ隔離シ共同ノ牧場又ハ運動場ニ放ツヘカラス厩舎ノ床土・舎壁・隔木及飼槽ハ馬糞ニ汚染セラレ蟲卵附着ノ虞アルヲ以テ清潔・洗滌ニ注意シ時々消毒シ頻敷糞ヲ取換フヘシ卑濕牧場ノ泥ヲ被ムレル草ヲ與フ可カラス

7 寄生疝又蠕蟲疝 Colica verminosa. Wurmlikolik 獨

原因 胃又ハ腸ノ寄生蟲ニシテ其栖息中疝痛ヲ誘發スルモノハ(1)馬ノ蛔蟲 *Parascaris equorum* (2)條蟲 *Taenia Plicata*, *mamillana* et *perfoliata* (3)はぶろねま—めがすと—ま *Habronema megastoma*・無齒硬口蟲 *Strongylus edentatus*・四隅硬口蟲 *Strongylus tetracanthus* (4)馬ノ蟻蟲 *Oxyuris equi* 並ニ(5)馬蝨 *Gastrophilus equi* et *haemorrhoidalis* トシ2様ノ方法ニ由リ疝

痛ヲ起ス即チ1ハ數多ノ蟲體纏絡シ團塊ヲナシテ腸ヲ壅塞ス蛔蟲・條蟲ノ如キ是ナリ1ハ器械的傷害ヲ爲シ胃腸ノ炎症・潰瘍又ハ穿孔ヲ生ス此點ニ於テハ馬蝨ノ害殊ニ甚シ此蝨ハ通常無害ナルモ時アリ前記ノ害ヲ逞フシ疝痛ヲ誘起シ甚シキハ死ニ至ラシム蛔蟲モ亦其數夥シキトキハ腸粘膜ノ潰瘍及劇性炎ヲ發セシム條蟲 *Taenia perfoliata* ハ馬ノ腸ヲ穿孔シ化膿性腹膜炎ヲ續發スルコトアリ凡ソ内臟蟲殊ニ蛔蟲ノ如キハ剖檢上發見スルコトアルモ少數ノ蟲ハ疝痛ノ原因上毫モ關係ナキモノアレハ原因ヲ探ルニ方リ須ラク注意スヘシ

症候 特別ノ徵ナシ概ネ幼駒之ニ罹リ反復輕易ノ疝痛ヲ發ス然レトモ鋭敏ノ牝馬若シ直腸ニ馬蝨 *Gastrophilus haemorrhoidalis* ヲ生スレハ劇烈ナル疝痛ヲ發シ恰モ發狂ノ如ク騒動スルコトアリ

經過 一般ニ緩慢ニシテ消化障凝ト疝痛ノ發作ハ交發發生ス然レトモ胃壁ノ穿孔・腸内徑ノ全閉塞竝ニ腸炎ヲ起セハ經過急性ニシテ死ニ歸ス否ラスンハ豫後太タ不良ナラス

療法 驅蟲劑ヲ役ス驅蟲藥中第1位ヲ占ムルハ吐酒石ニシテ其10—15.0ヲ1日量トシ飲水ニ溶解シテ與フ(2—3回反復ヲ要ス)其他砒石末1回量1—2.0・てれびん油50—150.0ヲ乳劑トナスさんとに—ね(10—15.0)・甘汞(3—5.0)ヲ和スせめんしな(100—150.0)・^{アレカニス}檳榔子末(100.0)等ヲ試ムヘシ馬蝨ニハ二硫化炭素20—30.0ヲ膠囊ニ入レテ與フレハ顯著ノ效アリ

直腸ノ馬蝨ニハ石鹼水・稀釋石腦油・べんぢん又ハくれをそ—と溶液ヲ灌腸シ且手ヲ入レテ蝨ヲ除キ去ルヘシ著者ハ此場合ニモ二硫化炭素ノ内用ヲ推奨ス

牛ノ疝痛 Kolik der Rinder 獨

1 腸重疊ニ因ル牛ノ疝痛 Kolik durch

Darminvagination beim Rinde 獨

原因 牛ニ於ケル腸重疊ハ疝痛ノ普通原因ニシテ寧ロ馬ヨリモ多キカ如シ其原因ハ感冒・山地ノ勞働ニシテ蠕動機活潑トナリ腸ノ1部ハ其接續部ノ内ニ翻入ス空腸ノ迴腸ニ翻入スルモノ多シ

症候 特異ニシテ不消化ノ前兆ナク較、劇シキ疝痛ヲ發ス後肢ヲ以テ蹴リ角ヲ以テ腹ヲ突ントシ頻ニ頭ヲ掉リ後體ヲ顧盼シ屢、起臥シ左右交、肢ヲ搖シ往々躍起シ步履強拘トナル此疝痛ハ6—12時間持續シ尋テ鎮靜シ宛然全治ノ觀アリ然レトモ食思振ハス反芻廢絶シ初期ハ下痢シ晚期ハ通便乾固ナルヲ以テ人ヲシテ體內ニ大患アルヲ想ハシム往々頑固ノ便秘アリ何等ノ下劑ヲ投スルモ之ニ應セス大ニ努責・窘迫シ肛門ヨリ稠厚ナル粘液塊又ハ纖維塊ヲ泄シ間、之ニたる様ノ血液ヲ混ス聽診スルニ蠕動音全ク聽エス肚腹ハがす蓄積ノ爲メ次第ニ膨脹シ觸診上往々右側一定ノ部知覺過敏ニシテ脈ハ細數或ハ減數・體溫ハ脈數ニ準シテ昇騰セス身體厥冷シ病牛ハ痴鈍・無慾ナリ罕ニハ嘔吐ヲ認ム直腸検査ニ由リ腸ノ某部ニ長圓筒形ノ帶痛性腫脹ニ觸ル、コトアリ

經過 頗ル長ク6—9日ヲ經テ死ス或ハ約2週日ノ後・斃ルモノアリ或ハ8—12日間ニ疝痛ノ發作反復ス治癒ハ稀ニシテ重疊セル腸ノ1部壞死シ腹膜ヲ以テ聯結シ斷離ノ兩端相互ニ癒著スルニ因ル斯ノ如キ場合ニ於テハ腸ノ1片管狀ヲナシ糞ニ混

シテ出ツ

診斷 察病ハ概シテ至難ナラス疝痛ノ頓發罕ニハ疝痛發作ナキモノアリ爾後ノ鎮靜・頑固ノ便秘・混血粘液ノ排泄・蠕動音ノ缺如・全身大違和・腹ノ局部過敏殊ニ右側・腸ノ徑路ニ於ケル帶痛性ノ腫脹・數日ノ經過・逐次病勢ノ増悪等ハ察病上ノ指鍼トナスニ足ル但シ直腸検査ニ方リ左腎ヲ腫脹ト誤認ス可ラス

療法 外科手術ヲ主トス下劑ノ内服ハ概ネ功ヲ奏セス故ニ一旦之ヲ試ミテ效ヲ見サレハ之ヲ廢スヘシ病牛ヲシテ反復山阪ヲ登降セシメ以テ生理的ニ重疊部ヲ復位セシメントノ試験モ多クハ無効ナリ手術ハ防腐ニ注意シ右腹側ヲ切開シ患部ヲ探リ手ヲ以テ重疊セル腸ヲ整復シ功ヲ奏セサレハ箱入部ヲ切斷シ兩斷端ヲ腸縫合法ニ由リ縫合スヘシ

2 腸箱頓ニ因ル牛ノ疝痛

Kolik durch Darminkarzeration beim Rinde 獨

精管絞搾 Strangulatio ducto-spermatice.

原因 剗牛ニ於テハ腹内へるにあニ基ク所ノ箱頓最モ多シ網膜及腸間膜・橫隔膜・子宮廣韌帶等ノ裂孔ニ腸ノ箱頓スルハ稀ニ見ルノミ而シテ腹内へるにあハ精系斷裂式ノ去勢術ニ原ク此手術ノ不良結果ニ2様アリ1ハ骨盤入口ニ中ル處ニ於テ腸ハ前方ヨリ後方ニ向テ精系ノ腹膜襞ニ箱入ス之ヲ内翻 Ueberwurfト稱ス1ハ精系ヲ斷裂スルニ方リ殘餘ノ斷端ハ腹腔内ニ復歸シテ腸ノ周圍ヲ纏絡ス所謂絞約 Verschnüren 是ナリ2者孰レモ腸ノ箱頓ヲ來ス罕ニハ精系ノ莖若クハ其殘端ハ腹壁ニ癒著シ其間

隙ニ腸ノ竝入スルコトアリ

症候 大體腸重疊ノ症候ニ等シク經過モ亦6—8日ナリ察病上骨盤入口ノ前縁ニ方リ右ノ内腹輪ヨリ1手ヲ距ル處ニ於ケル拳大乃至小兒頭大・帶痛性ノ粘硬腫及精系ノ緊張ニ注目スヘシ

療法 外科的手術ニ賴ル乃チ直腸ヨリ手ヲ送入シテ前下方ニ引テ竝頓セル腸ヲ整復シ或ハ腹側ヲ切開シ腹腔内ニ手ヲ入レテ竝頓ヲ解ク病牛ヲ仰臥セシメ腹ヲ按揉スルノ法亦試ムヘシ

3 牛ニ於ケル他種ノ疝痛

Uebrigen Kolik beim Rinde 獨.

原因及症候 腸ノ重疊・竝頓及くるっぶ性腸炎ニ因ルモノ、外・疝痛ハ牛ニ稀ナルモ馬ニ於ケルカ如ク過食・感冒・腫瘍・滯糞・毛毬・胞衣嚥下・腸ノ軸轉・狹窄^{先天性半月狀瓣又ハ脂肪腫ニ因ル}横隔膜ノ裂孔ニ肝臟ノ脱出スル等ニ因リテ疝痛ヲ發スルコトアリ然レトモ疼痛ノ發作ハ輕ク滾轉・仰臥・吼鳴・跳躍ハ罕ニ認ムルノミ多クハ微シク不安ニシテ彼此ニ動搖シ後肢ヲ舉テ腹ヲ蹴ラントシ頻ニ尾ヲ掉リ又後體ヲ顧眄シ食慾ナク通便遲滯ス

疝痛ヲ伴ハサル便秘ハ同一ノ原因^{過食・不消化物・骨盤膿瘍・腫瘍・滯糞等ニ因ル}ニ基ク

療法 馬ニ於ケルカ如ク 忍ぜりん 0.1ノ皮下注射・下劑即チ芒硝 500—1000.0・蘆薈 45—60.0・蓖麻子油 500.0ト菜油 1000.0・巴豆油 15—25 滴ノ類ヲ選用シ且大量ノ微溫石鹼水ヲ灌腸シ糞ヲ以テ腹部ヲ摩擦スヘシ

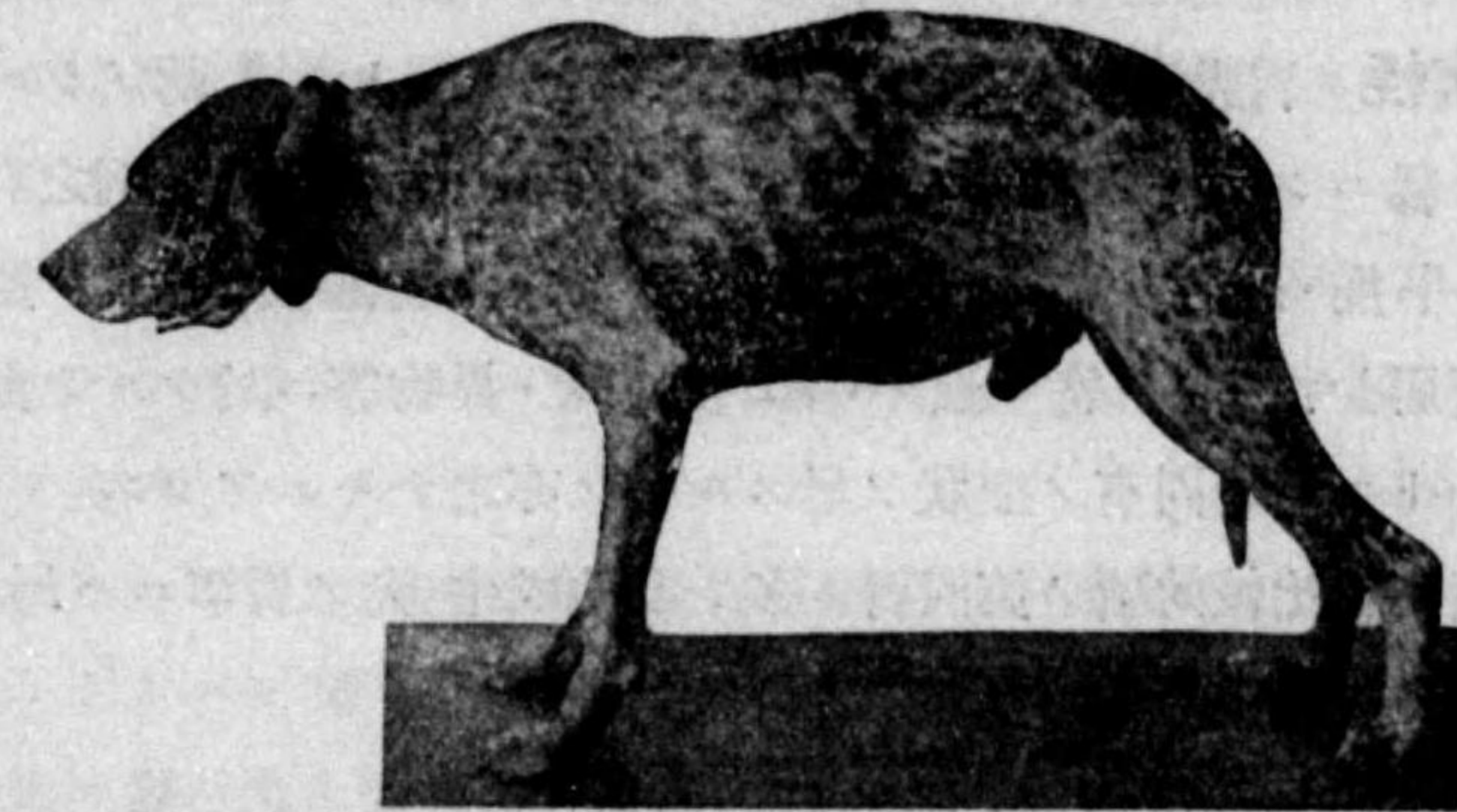
犬ノ疝痛 Kolik der Hunde 獨.

發生 犬ノ疝痛ハ甚々稀ナリベルリン高等獸醫學校ニ於テハ7萬

頭中3回ノ實例アルノミ

原因 腹部ノ厥冷・便秘・異物・骨・石・寄生蟲(殊ニ條蟲・蛔蟲・十二指腸蟲)・腸重疊・胃捻轉等トス然レトモ異物・滯糞・腸ノ重疊並ニ寄生蟲ニシテ毫モ疝痛ヲ起サ、ルモノ多シ比較的多キハ蠕蟲疝ニシテ忍びのこつかず條蟲ノ如キハ劇シキ疝痛ヲ誘起スルコトアリ

第十四圖



犬ノ結腸便秘

症候 不安興奮シテ哀鳴シ處々ニ奔走シ頻ニ伏臥ス經過ハ概シテ短シ

療法 原病ニ由テ異ナレリ對症療法トシテハもるひね 0.02—0.05ヲ皮下ニ注射ス或ハ阿片ちんき 25—30 滴ヲこむ漿ニ混シテ與フ便秘ニ因ルト認ムレハ蓖麻子油 30.0ヲ頓服セシム又ハ甘汞 0.05—0.1ヲ白糖又ハ蓖麻子油ニ混シテ與フルモ可ナリ腹部ヲ温包シ灌腸ス異物・腸ノ重疊・軸轉等ハ手術ヲ要ス

豚ノ疝痛 Kolik der Schweine 獨.

原因 不消化物ノ過食(穀・醱酵セル廢棄物・麥酒粕・砂等)感冒・寄生蟲(Echinorhynchus gigas・蛔蟲)・胃腸炎・中毒・腸重疊等トス

症候 不安ノ状アリ背ヲ彎シテ伏臥シ頻リニ呻吟・吼鳴ス食欲缺損・通便秘結シ時々痙攣ヲ發ス

療法 灌腸ヲ施シ腹部ニ擦劑ヲ塗リもるひねヲ皮下ニ注射シ下劑トシテ甘汞1—4.0ヲ與フ

胃腸潰瘍 *Ulcus ventriculi et ulcus intestini.*

病性 胃腸潰瘍ハ家畜ニ於テハ單獨ノ症トシテ認メラル、コト稀ニシテ概ネ他病ノ經過中ニ其副症トナリテ發ス例之狂犬病・牛疫・悪性かた一熱・血斑病・赤痢・胃腸炎・中毒・劇シキ胃腸かた一・寄生蟲 (*Gastrophylus*)・異物等ニ於ケルカ如シ然レトモ潰瘍固有ノ症狀ヲ呈スルモノ亦之ナキニアラス

潰瘍ハ比較的犢ノ第四胃ニ多シ其他成牛・犬ノ胃竇ニハ馬・豚ニ發スルコトアリ

原因 胃腸潰瘍ニ2種アリ

1 炎性潰瘍 (かた一性潰瘍又出血性爛斑)

胃腸粘膜ノ炎症浸潤劇甚ナルカ又ハ粘膜組織中ニ出血アルトキニ發ス胃ニ於テハ粘膜實質ノ缺損ハ終ニ永久ノ潰瘍トナリ腸ニ於テハ淋巴濾胞主トシテ之ニ罹ル所謂濾胞潰瘍是ナリかた一性潰瘍ハ急性及慢性胃腸かた一ノ經過中ニ發ス又粘膜ノ毀傷結痂ハ輒モスレハ腸ノ某部ニ潰瘍ヲ貽ス

2 圓形潰瘍 *Ulcus rotundum* (胃液潰瘍 *U. pepticum*)

圓形潰瘍ハ胃及十二指腸ノ起始部ニ發ス其發生ノ理ハ前者ニ異ナリ粘膜局部ノ自家消化ニ因ル蓋シ胃ノ局所血行ニ障礙アルトキハ酸性胃液ハあるかり性血液ニ由テ中和セラレサルカ故ニ胃酸ノ侵ス所トナリテ軟化 (*Gastro-malacia*) シ終ニ潰瘍ヲ生スル

ニ至ル粘膜血管ノ血栓・栓塞及其あてろま・脂肪及あみろいど變性竝ニ血管ノ局所痙攣ノ如キハ斯ノ血行障礙ヲ來ス

胃酸ノ量過多ナルトキハ通常速ニ癒合スヘキ粘膜ノ小缺損スラ潰瘍ニ變シ易シ全身貧血及胃粘膜ノ靜脈鬱血ニ於テモ胃粘膜ハ軟弱ニシテ十分動脈血ノ供給ヲ受ケサルヲ以テ些少ノ毀損ニモ抵抗スル能ハス蓋シ胃粘膜ニ損傷アレハ創傷性感染ヲ來シ一方ニ於テハ胃液中過多ノ鹽酸之ニ共働シテ潰瘍ヲ生スルモノ、如シ

全身火傷竝ニ血中ニときしんヲ含ムトキ潰瘍ハ如何ニシテ發生スルヤ未タ詳ナラス 實驗上脊髓・延髓・腦四疊體ノ毀傷ハ潰瘍ヲ生ス

かた一性 (出血性) 潰瘍及胃液潰瘍ハ各獨立ノ症トシテ存スルコトアルモ 兩者ノ判別ハ容易ナラス 甲ハ屢、胃ノ右半及腸ノ濾胞ニ發シ淺キ潰爛面ニ血痂ヲ帶フ乙ハ稀ニシテ胃及十二指腸ノ起始部ニ發シ圓形若クハ橢圓形ヲ呈シ其周縁平滑ニシテ癒合スレハ放線狀ノ癍痕ヲ貽ス

症候 臨牀上炎性潰瘍及胃液潰瘍ハ同一ノ症候ヲ呈スルヲ以テ鑑別スルヲ得ス其症候スラ往々顯著ナラス全ク慢性胃腸かた一ノ徵ニ掩ハル、コトアリ時トシテハ症狀顯著ニシテ幾ント潰瘍ノ存在ヲ示スニ足ルモノアリ例之頑固ノ嘔吐・疝痛・吐血・血便ノ如キ是ナリ馬ハ食後若干時ヲ經テ間歇性疝痛ヲ發シ榮養次第ニ衰ヘ甚シキハ血色ヲ帶ヒタル胃ノ内容ヲ吐出ス牛ハ貧血・胃弱ノ外、かた一様ノ黑糞ヲ排泄スルコトアリ 又馬ハ胃潰瘍ノ結果トシテ胃破裂ヲ發スルコト稀ナリトセス *Siedamgrotzky* 氏ハ馬ノ羸瘦・脱力ノ1例ヲ報シ *Zippelius* 氏ハ牛ノ慢性第

四胃かた一る・慢性鼓脹・便秘・栄養障礙及ヒ貧血ヲ見タリ

経過 緩慢ナリ 治癒スルコトアルモ確診シ得ヘキ潰瘍ハ概ネ死ニ歸ス 而シテ其死因ハ亡血・穿孔性腹膜炎若クハ虚脱ニ在リ

診断 往々特徴ヲ缺如シ 確診シ難キカ爲メ他病ト誤認セラレ就中慢性胃腸かた一るハ通常潰瘍ニ伴フテ發スルヲ以テ鑑別愈難シ嘔吐・吐血・下血ノ如キ特徴存スルモ猶ホ牛ニ在テハ胃ノ異物ト區別シ難シ但シ第二胃ノ部ニ疼痛アレハ概ネ異物ヲ示スモノトス

療法 攝生療法ヲ專要トス 粗硬不消化ノ食物ヲ避ケ牛ニハ煮熟セル流動食ヲ與ヘ醸滓ノ如キ酸酵シ易キ食ヲ屏クヘシ馬ニハ麥粉・麸粥ノ類ヲ給シ 犬ニハ乳汁・生卵及細割肉ヲ與フ 醫藥中かるゝす泉鹽ヲ賞用ス牛ニハ 100.0・馬ニハ 50.0・犬ニハ 2—5.0 (1回量)ヲ投ス 鹽酸ハ禁忌ニ屬ス 頑固ノ症ニハ次硝酸蒼鉛(犬 0.1—0.5)・あどれなりん(犬・1000 倍溶液 30 滴宛數回内服)若クハ硝酸銀ヲ用キ 腸出血ニハたんにん・硫酸鐵・鉛糖等ヲ處シ 頑固ノ嘔吐ニハ阿片・こかいん・ぶろむかり竝ニくれをそーと・くれをりん・よーどちんき・冰片ヲ試用スヘシ

胃腸出血 Haemorrhagia ventriculi.

Magen-und Darmverblutung 獨.

原因 胃腸出血ハ種々ノ病的作用ニ由テ發スル 1 症候ニ過キサルモ臨牀上重要ナルヲ以テ今特ニ一論ス其原因中主要ナルモノ次ノ如シ

1 胃腸粘膜ノ器械的若クハ化學的傷害 異物 骨片・硝子
碎片・魚棘・寄

生蟲(馬瘋妙・どくみうす・ゑひのこつかす條蟲・ゑひのりんくす-ぎがす)・腐蝕藥(吐酒石)・胃部衝突・粗暴ナル灌腸等ノ如シ

2 胃腸潰瘍 殊ニ圓形潰瘍ハ血管ヲ破リ出血ヲ來シ易シ

3 胃腸炎 細菌感染若クハ刺戟物・腐蝕物等ニ因ル

4 胃腸靜脈鬱血 腸ノ變位・心臟瓣膜病・肺氣腫・肝硬化症・門脈血塞等ニ發ス

5 出血性疾病 炭疽・血斑病・産褥熱・豚疫・豚べすと・犬瘟熱・膿毒症・敗血症ノ類

6 痔 Haemorrhoid (piles) 痔ハ直腸靜脈ノ瀰漫性若クハ結核狀ノ怒張ニシテ其粘膜下ニアルモノハ内痔ト稱シ肛門外ノ皮下織ニアルモノヲ外痔ト稱ス 痔ハ豚ニ多ク馬・牛・犬ニ稀ナリ 一般鬱血(心・肺・肝ノ疾病)ノ爲メ腹腔靜脈中最モ心臟ニ遠キ直腸靜脈ノ血液ヲ流利スル能ハサルニ由ル豚ハ遺傳素因ヲ有スルモノ、如シ消化困難・刺戟性ノ食ヲ飽饑シ十分運動セス又ハ苛烈ノ峻下劑ヲ服用セシムレハ之ヲ發スト云フ牛ニ於テハ 1 地方ニ流行スル直腸炎アリ俗ニ腰出血 Lendenblut, Rückenblut ト稱ス苛烈刺戟ノ食及過度ノ勞働ニ因スル出血性直腸炎ニ外ナラス時トシテハ炭疽ノ 1 種ニ過キサルモノアリ

7 腹部大動脈瘤 大動脈瘤ノ破潰ハ下血・疝痛ヲ發スルモ稀有ノ症ナリ

症候 吐血 Haematemesis, Vomitus cruentus'ヲ主候トス蓋シ頻々食糜ニ混シタル暗色ノ凝血ヲ吐出ス然レトモ胃出血ニ於テモ吐血セサルモノアルヲ以テ腸出血ト區別シ難シ腸出血ニ於テハ血便若クハた一るノ如キ黑色ノ糞ヲ排ス其他體內亡血若クハ慢性貧血ノ徵アリ終ニ稀血・水腫ヲ來ス

診断 胃腸出血ハ腫瘍・潰瘍・静脈鬱血ニ因ルヤ將タ胃腸炎・全身病若クハ痔ニ原クヤヲ發見セント欲セハ精密ノ診察ヲ要ス仔細ニ檢診スルモ判定ス可ラサルモノアリ直腸炎・全身病・痔ノ如キハ察病容易ナルモ異物・潰瘍・慢性鬱血ノ如キハ診察シ難シ胃出血ト肺出血ノ鑑別ハ臨牀上頗ル重要ノ事トス胃出血ハ出血ノ前後ニ胃病ノ徵アルノミナラス胃ノ含有物ヲ吐出シたる様ノ糞ヲ泄ラシ肺ハ無病ニシテ咳嗽ヲ發セス且吐出セル血液ハ凝固シ暗色ヲ帶ヒ胃酸ヲ混シテ酸性ヲ呈ス然ルニ肺出血ニ於テハ血液鮮紅・泡沫ヲ含ミあるかり性反應ヲ呈シ呼吸器ニ疾患アリテ咳嗽ヲ發ス但シ咯血ヲ嚙下シ更ニ吐出スル時又ハ咯血ニ於テ咳嗽刺戟ノ爲メ嘔吐スル時ハ鑑別頗ル難シ

犬ニハ肛門腺ノ腫脹・化膿ヲ痔ト誤認スルコトアリ須ラク注意スヘシ

療法 全然静養ヲ命シ冷水・冰片ヲ飲マシメ收斂劑ヲ投スヘシ明礬・たんにん・過くろーる鐵液(犬ニハ 3—5 滴)・鉛糖・硝酸銀・阿片・麥角ノ如キ是ナリ ゑるごちん 5—10.0 (大)・0.2—1.0 (小)ノ皮下注射・流動ひとらすちすえきす 8—10.0 (大)・0.2—0.5 (小)・阿片 5—10.0 (大)・0.1—0.5 (小)ノ内服あどれなりん(1000 倍溶液・犬ニハ毎時 30 滴宛)ヲ與フ 大ニ出血スレハ生理的食鹽水ノ静脈内注射ヲ行フヘシ出血中ハ全ク食餌ヲ與ヘス其後暫時流動物若クハ軟粥ヲ給與ス

胃腸炎 Gastro-enteritis. Magendarmentzündung 獨

胃炎ト腸炎トハ臨牀上鑑別スルコトヲ得ス解剖上ノ鑑別ハ固ヨリ容易ナリ腸炎ハ更ニ細別シテ十二指腸炎 Duodenitis・空腸

炎 Jejunitis・廻腸炎 Iliitis・盲腸炎 Typhilitis・結腸炎 Colitis 及直腸炎 Proctitis トナス

實驗ニ徵スルニ口ヨリ肛門ニ至ルマテ消化管ノ全系均シク發炎スルコト殆ント之ナシ病性ニヨリ腸炎ヲ分テかたーる性・ふれぐもーね性・出血性・化膿性・くるっぶ性及ぢふてりー性トナス原因上單純・傳染性・黴性・中毒性・血塞性・結核性等ノ別アリ又急性・慢性竝ニ特發・續發ノ別アリ臨牀上次ノ諸種ヲ重要ナリトス

- 1 單純胃腸炎 Gastro-enteritis simplex.
- 2 くるっぶ性腸炎 Enteritis crouposa.
- 3 黴性胃腸炎 Gastro-enteritis mykotica.
- 4 中毒性胃腸炎 Gastro-enteritis toxica.

1 單純胃腸炎 Gastro-enteritis simplex.

病性 本病ハ胃腸壁ノ重キ炎症ニシテ原發・繼發ノ別アリ急性ノ胃腸かたーる劇烈トナリテ發シ或ハ疝痛ヨリ轉シ來ル然レトモ原發スルモノナキニアラス

原因 原發性ハ飼養失宜及感冒ニ由ル即チ身體熱スルノ後遽ニ冷氣ニ觸レ寒冷ノ水ヲ飲ミ凍瓦ノ食ヲ喫シ過熱ノ飲料ニ由リ胃腸粘膜ヲ損シ又變敗食(黴中毒)・刺戟性ノ食物・寢糞ヲ過食シ肥溜附近ニ於テ動物ノ廢棄物ニ汚染セラレタル水ヲ飲ムカ如キハ頗ル危險ナリ異物^{例之}粗毛_{寄生蟲}(馬ノ Spiroptera megastoma・犬ノ Spiroptera sanguinolenta・豚ノ Spiroptera strongylina ノ如シ)ニ原ク

其他過勞(長途ノ騎乘・大暑中ノ強行軍・長途ノ汽車輸送)モ

原因トナル胃腸内ノ常存細菌(大腸杆菌・壞疽菌・化膿菌・出血性敗血菌)ハ平素無害ナルモ感冒・消化不良等ノ爲メ馬ノ抵抗力減少スレハ危害ヲ逞フスルニ至ル

剖検 胃腸炎ト胃腸かた一トハ病變ノ輕重ヲ察シ鑑別スヘシ甲ハ劇シキ實質炎ニシテ乙ハ輕キ表層炎ナリかた一若シ炎症ニ轉スルトキハ二者ノ區別判然タラサルコトアルモ斯ノ如キハ稀有ナリ大體胃腸炎ニ於テハ充血ノ代リニ出血アリ表層落屑性ニアラスシテ粘膜ノ實質炎・ふれぐも一ね性・漿液性又ハ化膿性浸潤アリ甚シキハ粘膜ノ壞死ヲ見ル

1 **胃ノ變狀** 胃粘膜ハ淡赤色乃至暗赤色ヲ帶ヒ腫起溷濁シ皺襞ヲ生シ大小不同ノ血斑ヲ表ハス粘膜ノ表面ハ或ハ滑平或ハ稠厚ノ粘液ヲ被ムリ或ハ淺キ潰瘍ヲ生ス瘍縁ハ銳ク且平坦・瘍底ハ滑平ニシテ間、凝血ニ被ハル(出血性爛斑 Erosiones haemorrhagicae) 斯ノ如キ潰瘍ハ概ネ犬ノ胃及牛ノ第四胃ノ皺襞頂及幽門部ニ發ス又粘膜ノ表面ハ胃液腺ノ顆粒狀腫起及脂化ノ爲メ凹凸不平トナルコトアリ粘膜下織ハ膠様物又ハ膿ヲ浸潤ス

2 **腸ノ變狀** 腸ノ粘膜ハ潮紅・腫起・溷濁シ大ニ濕潤・軟化シテ脆ク壞疽痂ニ被ハレ間、腸壁ノ穿孔ヲ生ス粘膜大部ノ上皮ハ剝脫シ絨毛ハ腫脹シ孤腺・集腺ハ或ハ變化ナク或ハ腫起シ赤暈ヲ匝ス膿潰スレハ細窩ヲ殘ス(濾胞潰瘍)腸内容ハ不定ニシテ水様・粘液狀・膿狀ノ別アリ其色一定セス 淡白・乳白・帶
綠・帶赤色 上皮・纖維素・膿球又ハ血球ヲ混シ或ハ全ク血液ノミヨリ成リ甚シク惡臭ヲ帶フ

粘膜下織ハ常態ニ異ナラサルモノアルモ多クハ充血・浮腫シ又ハ膠様物及血液ヲ浸潤シ非常ニ肥厚ス筋膜ハ僅ニ漿液ヲ浸潤

ス漿液膜ハ充血シ滲出物ヲ生ス腸間膜淋巴腺ハ髓様腫脹ヲ呈ス其他全身感染ノ結果トシテ急性脾腫及臟器ノ實質變性ヲ認ム又轉移性膿瘍ヲ認ムルコトアリ

症候 食慾廢絶シ反芻獸ニ在リテハ反芻ノ機轉ヲ失フ犬・豚ハ嘔吐スルコトアリ吐物ハ血液ヲ混ユ牛・馬モ時トシテ嘔吐ヲ催ス口粘膜潮紅・乾燥シ熱ヲ帶フ渴甚シク多量ノ水ヲ飲メハ輒チ嘔吐ス疝痛ハ劇シクシテ疼痛持續シ間歇セス犬ノ如キハ殆ント發狂ノ狀ヲ呈スルコトアリ腹部ヲ壓スレハ知覺過敏・腹壁緊張シ往々鼓脹ヲ併發ス蠕動音ハ全ク聽エス或ル場合ニハ亢盛ス頑固ノ便秘アリ大ニ努責シ僅ニ少量ノ糞ヲ排泄ス其糞ハ硬クシテ小塊ヲナシ粘液又ハ血液ヲ被ムリ或ハ純粹ノ血便ヲ排シ或ハ腸ノ壞死片ヲ混シ臭氣頗ル強シ末期ニ至レハ惡臭便ヲ下痢ス概ネ失禁自利シ尿ハ腎上皮・蛋白質若クハ血液ヲ含ミ草食獸ニ於テハ著シク酸性ヲ呈ス脈搏ハ細數(80—100)恰モ鐵線ノ如ク體溫ハ40—41°Cニ達スルモ或ル場合ハ甚タ高カラス死期ニ瀕スレハ反テ沈下ス結膜ハ暗赤色ヲ帶ヒ四肢厥冷・冷粘汗ヲ流ス疝痛漸ク減シ病畜ハ痴鈍トナリ昏醉ノ狀ニ陥リ或ハ搐搦ヲ發シテ斃ル

經過 頗ル急劇・1—3日・其以上ニ涉ルモノハ至テ稀ナリ

豫後 不良ナリ胃腸炎ハ危險ノ症ニシテ概ネ死ヲ免レス其惡徵ハ高度ノ熱・細數ノ脈・呼吸促迫・疝痛ノ頓止・頑固ノ便秘・脫力竝ニ大下痢等トス死ノ原因ハ腸ノ壞疽・敗血症・腦卒中・肺水腫・腸出血若クハ心臟ノ麻痺ナリトス

診斷 1 胃腸かた一 腸炎ニ於テハ大熱・心力ノ衰弱・全身ノ大違和・腹痛ノ持續竝ニ頑固ノ便秘アルヲ以テ鑑別スルコ

トヲ得

2 疝痛 腸炎ト疝痛ノ鑑別ハ往々至難ナリ 熱度・脈狀・結膜ノ色・疼痛ノ持續・一般大違和・頑固ノ便秘皆注目スヘキノ徴ナリ

3 中毒 精密ノ問診ヲナシ且特異ノ徴ニ注目スヘシ

4 傳染病 狂犬病・炭疽・牛疫等ト鑑別スルニハ精密ノ診査・経過ノ觀察ヲ要ス

療法 大ニ攝養ニ注意シ初期ハ絶食セシメ或ハ極メテ少量ノ挽割麥又ハ炒麥・亞麻仁煎・ごむ漿・青草等ヲ與ヘ冷水ヲ給ス可ラス腹部ハ糞束ヲ以テ強ク摩擦シ溫罨法ヲ施シ或ハ芥子精(5—8%)又ハかんふるちんきトてればん油ノ合劑ヲ塗抹ス四肢モ亦屢、摩擦スヘシ

大抵内服藥ハ緩和包攝劑ヲ主トス即チ粘汁・ごむ漿・をれーふ油・阿片末・阿片ちんき等ヲ與フ大痛アレハもるひねノ皮下注射ヲ行フ便秘ニ對シテハ蓖麻子油又ハ甘汞ニ芒硝ヲ伍用ス(甘汞4.0・芒硝500.0・2回分服)又甘汞ヲ阿片ニ伍スルコトアリ(阿片末10.0・甘汞2.0・蜀葵末適宜・舐劑トナシテ頓服セシム)牛ニハ亞麻仁100.0ヲ水750.0ニ煎出シ之ニ亞麻仁油250.0ヲ加ヘテ頓服セシム犬ニ於テハ阿片ちんき2.0—5.0・ごむ漿10.0・蒸溜水100.0ヲ混和シ1日3回1食匙ヲ與フ峻下劑ハ禁忌ニ屬ス

動物虚脱スレハかんふるちんき又ハ食鹽水^{あどれなりん又ハ葡萄糖ヲ混ス}ヲ皮下ニ注射ス又あるこーる・えーてるヲ飲料ニ和スルモ可ナリ

2 くるっぶ性腸炎 Enteritis crouposa.

病性 本症ハ粘液ヨリ成ル所ノ義膜ヲ生スル腸ノ特異性表層炎ナリ屢、牛ニ發シ慢性経過ヲ取ル馬・羊・猫ニハ稀ニシテ馬ノ経過ハ急性ナリ

原因 未タ詳ナラサルモ傳染・感冒ニ由ルモノ、如ク秋冬ノ候ニ多シれうまちすと併發スルコトアリ 刺戟・不消化ノ食物・植物ノ莖根・稗及峻下劑竝ニかんふるちんき・芫菁ハ本病ノ原因トナル馬ニ於テハ滯糞・犬ニ於テハ條蟲ニ因ルコトアリ牛ニ多キハ纖維素及蛋白質ニ富メル血液及其淋巴性ノ體質ニ關スルモノナラン

剖檢 牛ニ在テハ專ラ小腸・結腸ヲ侵シ馬ニ於テハ概ネ廻腸ニ發ス患部ハかたーる若クハ炎症ノ變狀ヲ呈ス即チ粘膜面ニハ灰黃色ノ義膜ヲ附著シ義膜ノ下ハ出血性若クハ化膿性ノ浸潤ヲ呈シ柔軟・脆弱ナリ義膜ハ管狀・索狀・膜狀又ハ圓筒狀ヲ呈ス其長サ0.5—1米ニ達スルモノアリ此義膜ハ纖維素ヨリ成ルニアラスシテ濃稠ナル粘液塊ヨリ成ル

症候 牛ニ於テハ病候輕易ニシテ苦悶ノ狀ナク唯、糞中ニ義膜ヲ認ムレハ始メテ本病アルヲ知ル然レトモ普通・慢性腸かたーるノ徴アリ 食欲・反芻ハ較、衰ヘ輕疝痛ヲ發シ便秘ス 體温ハ稍、昇騰シ末期ニ至レハ下痢シ糞中・義膜ノ外脂肪・血液・膿等ヲ混ス

経過 牛ニ在テハ慢性・馬ハ便秘シ時々疝痛ヲ發シ糞中ニ義膜ヲ混ス

豫後 牛ニ於テハ豫後概ネ良トス甚タ罕ニハ義膜ヲ以テ全ク腸管ヲ閉塞シ危險ノ結果ヲ來スコトアリ馬ニ於ケル豫後ハ慎重ヲ要ス

療法 大體ハ單純ノ腸炎ニ同シ攝養ニ注意シ重炭酸ソーダ・食鹽・芒硝ノ類ヲ用ウ乃チ Bulrich 氏ノ鹽類又ハかるゝす泉鹽ヲ持續シ食鹽(1%)又ハ炭酸カリノ灌腸ヲ行ヒ次テ緩和包攝劑及收斂劑ヲ與フ

3 黴性胃腸炎 Gastro-enteritis mycotica.

又傳染性胃腸炎 Gastro-enteritis infectiosa.

又敗血性胃腸炎 Gastro-enteritis septica.

食物中ノ害物ハ先ツ消化器ヲ侵シ次テ全身ヲ害ス其害物ニ2様アリ(1)敗血性傳染(ばちるれん・みくろこつくけんノ侵入)(2)敗血性又ハ腐敗性中毒(ふとまいん・せふちん Ptomaine, Septine)是ナリ即チ黴性胃腸炎ハ分解セル榮養物ノ食後敗血性微生物ノ侵入ト毒性ふとまいんノ吸收ニ由リ腸炎ヲ起シ尋テ全身症ヲ繼發スルモノニシテ傳染病ト中毒性胃腸炎ノ中間ニ位ス

a 肉食獸・雜食獸及家禽ノ腐敗肉ニ

因ル胃腸炎 Fleischvergiftung 獨.

原因 腐敗セル肉・内臓・腸詰・魚類等ヲ食スルニ因ル故ニ屠獸場・特殊部落等ノ飼犬並ニ雞ニ多シ膿毒症・産褥熱・創傷熱・化膿性關節炎・化膿性漿液膜炎・乳房炎・腸炎等ニ罹リタル動物ノ肉ヲ啖フニ由ル各動物皆中毒ニ對スル抵抗力ヲ異ニス本因ハ腐敗菌及ふとまいんとス人ノ肉中毒ノ原因トシテ腸炎菌・ばらちふすB菌・化膿性連鎖球菌及葡萄狀球菌・腸詰中毒菌・ふろてうす菌・大腸菌等發見セラレタリ家畜ニ於ケル細菌ノ研究ハ未タ周到ナラス

症候 1 肉中毒 卒然出血性ノ大下痢ヲ發シ頻リニ嘔吐シ煩渴・飲ヲ食リ高熱(40—42°C)ヲ發シ大ニ衰憊・疲困シ12—24時間内ニ沈衰シテ斃ル

2 腸詰中毒 Botulismus s. Allantiasis. 肉中毒ト同一ノ徵ヲ呈ス又往々咽頭麻痺・瞳孔散大・失明・眼瞼弛垂・斜視・氣脹(胃麻痺)・便秘(腸麻痺)ヲ見ルコトアリ

3 魚中毒 Ichthyismus. 豚ハ^{ニシシ}鱈ノ鹽藏汁ヲ吸フテ中毒シ痙攣ヲ發スルコトアリ(Trimethylaminノ中毒)咀嚼筋痙攣・癲癇様及強直様ノ痙攣・腦刺戟ノ徵・嗜眠・旋回・咽頭麻痺等ハ屢々認ムル所ナリ

療法 犬ニハ先ツ吐劑トシテ鹽酸あほもるひねノ内服ヲ試ミ次テ下劑ヲ投ス下劑ハ甘汞ヲ最良トス(犬0.1)又犬ニ於テハ微温ノ1000倍たんにん溶液又ハ弱くれをりん溶液ヲ以テ腸内ヲ洗滌スルコトアリ或ハあどれなりん1000倍溶液毎時30滴宛内服セシム

b 草食獸ノ黴性胃腸炎 Gastro-enteritis mycotica.

又黴中毒 Pilzvergiftung 獨.

原因 馬・牛・羊・豚等ニ發ス粘稠・變敗・分解ノ芻・藁・麥類・油粕・馬鈴薯・根菜殊ニ製糖殘滓・甜菜切片等ヲ主要ナル原因トス通常食物ニ生スル黴ニ數種アリ即チ次ノ如シ

1 絲狀菌 Schimmelpilz. 此適例ハ Mucor, Penicillium 及 Aspergillus トス Leber 氏ハ絲狀菌ニ於テ膿球菌ノ培養ニ存スルふろごーじん Phlogosin 類似ノときしんヲ析出シタリ麴・麥粉・燕麥・乾草・藁等ノ分解セルモノハ恐ラク屍毒ヲ生スルナラン

2 鏽黴 Rostpilz. 此部類ニ屬スルモノハ Uredinia 及 Puccinia graminis 等トス Frank 氏ハ家兎ニ試驗ヲ施シ肉中毒ト同様ノ症狀(胃症・迷朦痙攣)ヲ認メタリ

3 爛黴 Brandpilz. 此中主要ナルハ Ustilago・小麥ノ黴 Tilletia caries・玉蜀黍ノ黴 Ustilago maidis・普通ノ麥奴 Ustilago carbo トス爛黴ハ作用最モ劇烈ニシテ胃腸ノ粘膜及全身ヲ害ス恐ラク新陳代謝ノ産物トシテ毒素ヲ生ス

ルモノナラン

4 野菜ノ黴 Kernpilze. 野菜ノ葉ヲ枯凋セシムルモノニシテ Polydesmus exitiosus ハ其適例ナリトス

5 醗酵黴所謂酵母 Sp-rosspizl oder Hefepizl. あるこーる醗酵ヲ醸ス

剖檢 劇烈ナル出血性胃腸炎・肝・脾ノ腫大・心筋ノ脂化ヲ見ル時トシテ剖見無痕ナリ

絲狀菌ノ中毒ニ於テハ胃腸粘膜ノ炎症・血斑・爛斑・腦脊髄ノ充血・浮腫ヲ見ル

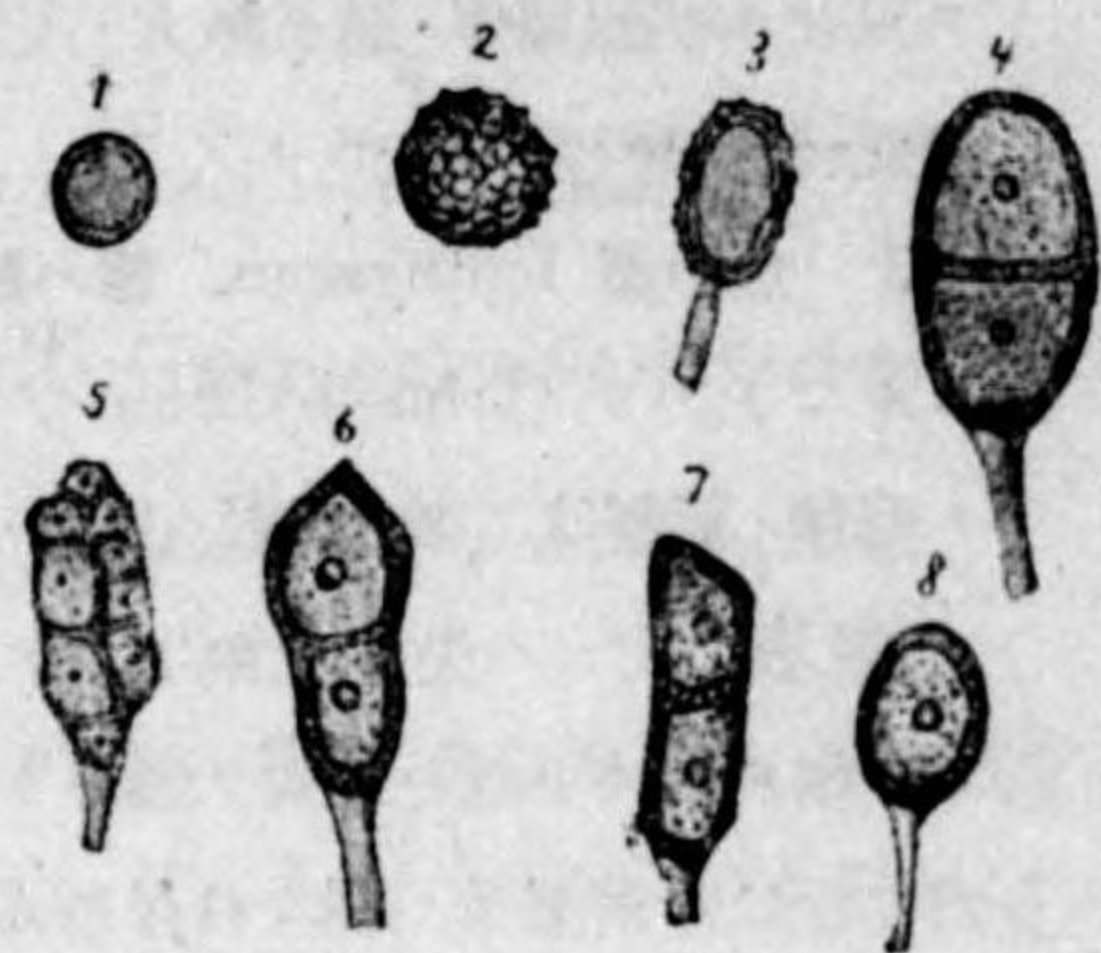
爛黴ノ中毒ニ在テハ剖見無痕又ハ顯著ナラス時アリ出血性胃腸炎及腸粘膜ノ鰻皮色ヲ見ル

鏽黴及野菜黴ノ中毒ニ於テハ皮膚炎・口内炎・咽頭炎・胃腸炎・腎炎及膀胱炎ヲ認ム數多ノ黴中毒相合スレハ變狀一定セス

症候 頓發シ同時ニ多數ノ家畜ヲ侵ス恰モ疫病ノ如シ病畜ハ頓ニ飲食ヲ嫌ヒ不安ニシテ疝痛ヲ惱ミ大ニ便秘ス晩期ニ至レハ惡臭ノ血便ヲ瀉瀉シ又鼓脹ヲ併發シ終ニハ失禁自利ス

絲狀菌ノ中毒ニ在テハ新陳代謝ノ化學的若クハ生理的異常ヲ來シ

第十五圖



びるつノ芽胞

1. うすちらご
2. ちれちあ-かりえす
3. うれどすぼ-れ
4. ぶくしにあ-ふらぐみちす
5. ふらぐみちうむ
6. ぶくしにあ-ぐらみにす
7. ぶくしにあ-すつらみにす
8. うろみせす

(250倍廓大)

溫度・培地・年齢・發育期等ノ關係ニ由リ其病徴ニ種々ノ差異ヲ生ス
ちれちあ Tilletia ノ中毒ニ於テハ舌及咽頭ノ麻痺ヲ來シ涎ヲ流シ不斷咀嚼シ往々咳嗽ヲ發ス熱度頗ル高ク脈頻數ニシテ惡寒戰慄・心機亢進・4 肢厥冷ス或ハ大ニ衰弱シ筋肉麻痺ヲ來シテ伏臥シ半ハ昏睡ノ狀ニ陥リ戰震・痙攣ヲ發ス

うすちらご-かるぼ Ustilago carbo ノ中毒ニ於テハ腎臟炎及膀胱炎ヲ來シ馬ハ多尿症ヲ發シ流産スルコトアリ黴中毒ノ或ル場合ニハ鼓脹・心機亢進・呼吸困難・唇・頬・口腔及鼻粘膜ノ炎腫ヲ見ル

各種ノ黴中毒ニ各特徴アリ數種ノ黴合同シテ作用ヲ逞フスレハ通徴ニ異ナレル症狀ヲ呈ス

1 絲狀菌 食思不振・疝痛・鼓脹・便秘・下痢 血便・粘液便・惡臭便・多尿 失神迷蒙・眠狂様ノ舉動・肢・舌等ノ麻痺・黒内障

2 爛黴 流涎・咀嚼運動・行步踉蹌及知覺麻痺或ハ胃症

3 鏽黴 唇・頬・眼瞼ノ皮膚炎・結膜炎・蕁麻疹・口内炎・咽頭炎・舌炎・腎炎・血色素尿

4 野菜ノ黴 前者ニ類シ口内炎・咽頭炎・鼻腔炎・皮膚炎(頭部) 胃腸炎・麻痺

5 醗酵黴 腦刺戟次ニ迷蒙及麻痺

經過 大抵 1—2 週・時トシテ突然死スルコトアリ

診斷 1 中毒性胃腸炎及他ノ化學的藥品中毒 原因ヲ探究シテ鑑別スヘシ

2 牛疫 牛疫ノ如ク口腔及腔ニ特徴ナク傳染セス疫ノ經過・剖見亦異ナレリ

3 炭疽 細菌ヲ發見シ以テ鑑別スヘシ炭疽ハ血中ニ固有ノ細菌ヲ含有シ經過劇烈ナリ

4 口蹄疫 口炎ヲ發スレハ之ニ類スルモ傳染セス

5 赤痢 初メヨリ下痢シ且傳染ニ因テ蔓延ス

6 次急性脳炎 不安ノ状ハ較、類スルモ腸ノ病候ヲ缺キ頑固ノ便秘・下痢等ヲ見ス

7 狂犬病 咬傷ノ有無ニ注目スヘシ

療法 鹽類下劑ヲ試ミ酒・あるこーる・かんふる等ノ如キ衝動劑ヲ處ス

4 中毒性胃腸炎 Gastro-enteritis toxica.

中毒性胃腸炎ハ無數ノ毒物ニ基ク而シテ其毒物ニ苛烈毒及苛烈麻醉毒ノ2類アリ酸類・ありかり鹽類・燐・砒石・鉛・水銀・巴豆油・石炭酸・芫菁等ノ中毒ハ數、遭遇スル所ナリ各中毒症ノ症候・解剖的變狀及療法等ハ中毒専門ノ書ニ讓ル

中毒性胃腸炎ノ診斷ハ決シテ容易ニアラス何トナレハ生前ノ症候・死後ノ變狀共ニ非中毒性胃腸炎ニ酷似スレハナリ

中毒ノ一般察病上重要ノ點ハ次ノ如シ

- 1 詢究 問診ノ結果満足ス可ラサルモノ多シ
- 2 頓發・急劇ノ經過・卒死
- 3 食後ノ發病
- 4 群畜同時ノ發病
- 5 胃症及神經症ノ合併
- 6 毒物固有ノ症候及剖觀
- 7 理學的・化學的及生理學的ノ毒物證明法

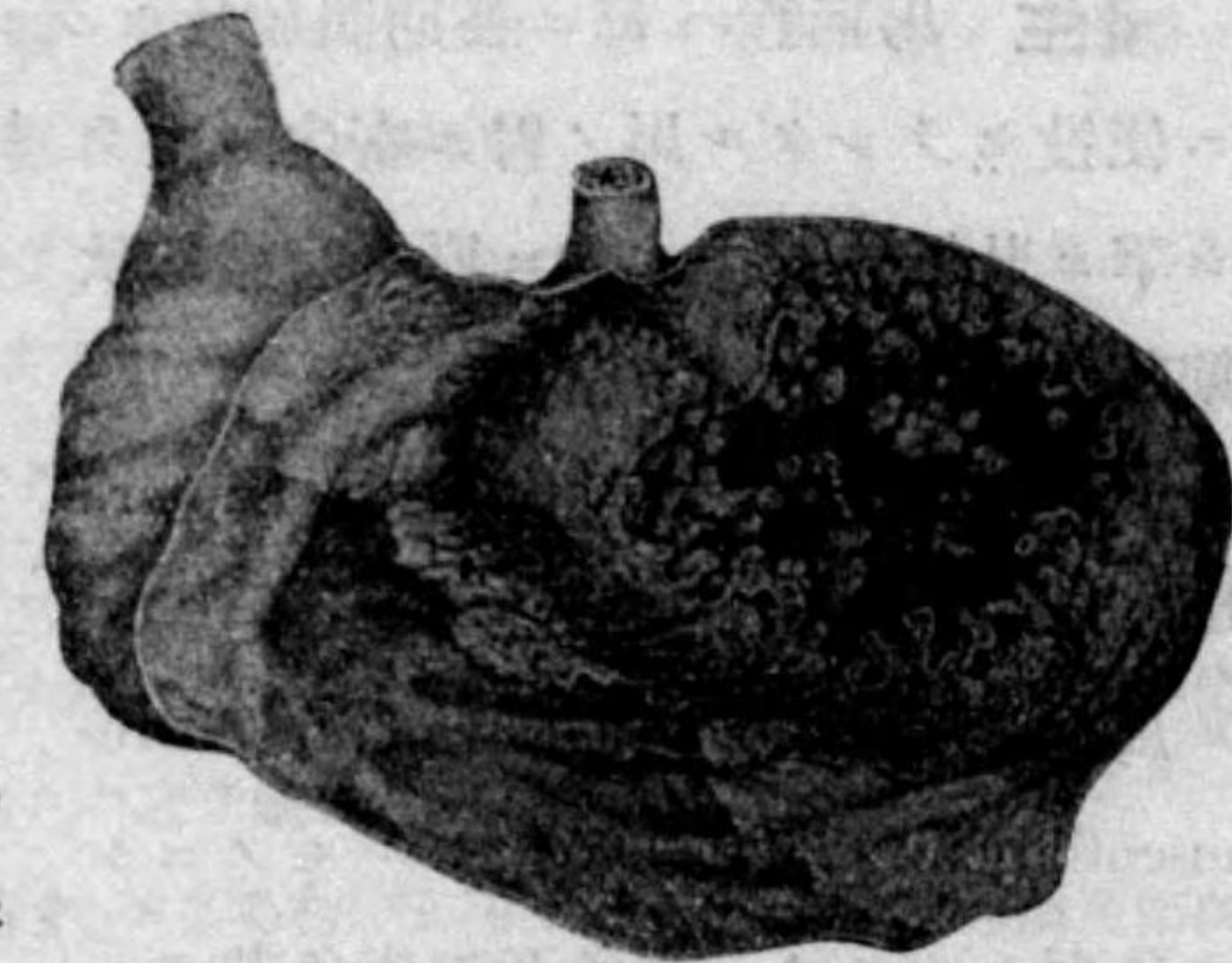
胃腸ノ腫瘍

胃腸ノ腫瘍ハ甚タ稀ナリ反芻獸ノ前胃ニ於テほりふ狀ノ腫瘍 Polypenartige Geschwülste・肉腫・軟骨腫・癌腫及放線菌腫等觀察

セラレ牛ノ第四胃ニハ上皮腫様ノ新生物 Epithelioide Neubildung・腺腫 Adenom・腺癌腫 Adeno-carcinom 竝ニ癌腫ヲ認メ又牛ノ全身結核病ニ於テ結核性腫瘍ヲ見タリ馬ノ胃・腸ニハ肉腫及癌腫少シトセス Eberlein 氏ハ犬ノ胃ニ於テ原發性癌腫ヲ證明

第十六圖

セリ極テ罕ニハ胃内ニ脂肪腫・纖維腫・筋腫 Myom・腸ニ癌腫ヲ生スルコトアリ



馬ノ胃癌

症候 胃ノ腫瘍大ナレハ粘膜ノ剝離及胃ノ運動障礙ヲ來スカ爲メ消化障礙ヲ呈シ胃かた一若クハ胃弱ヲ併發ス馬ニ在テハ往々採

食後ノ疝痛症狀・眩暈・嘔吐・牛ニ在テハ慢性鼓脹及嘔吐・犬ニ在テハ腹圍膨大・嘔吐及黄疸ヲ要徴トス凡テ病畜ハ漸次羸瘦シ惡液質ニ陥リ終ニ全ク衰弱シテ斃ル罕ニハ新生物破壊シテ胃壁ヲ穿孔シ或ハ大血管ノ侵蝕ニ因リ内出血ヲ來スコトアリ

診斷 胃・腸ニ於ケル腫瘍ノ診斷ハ甚タ困難ナリ唯肉食獸ノ胃ノ幽門部ニ於ケル腫瘍ハ時トシテ觸診ニ依リ決定スルコトヲ得ヘシ

療法 肉食獸ニ於テハ手術ニヨリ腫瘍ヲ除去スルヲ得ハ則チ治癒ノ望アリ

胃ノ寄生蟲

1 馬蕨虻又馬蠅虻

Gastrophiluslarven im Magen der Pferde 獨

發生 馬蕨虻ハ毎ニ長期間放牧セラレ又ハ林間若クハ牧野ニ使役セラレタル馬ノ胃ニ寄生ス主ラ 4—5 歳以下ノ幼駒ヲ侵シ罕ニ壯馬ヲ襲フ本虻ニ原ク病態ハ秋期收牧後ニ發スルヲ常トス

原因 馬蕨虻ハ短角雙翅類 Diptera brachycera 家畜蠅科 oestridae ニ屬スル馬蕨(馬蠅 Gastrus, Gastrophilus, Bremsenfliegen)ノ卵ヨリ孵化セルモノニシテ發育セルモノハ褐色乃至赤色若クハ黄灰色ヲ呈ス前方尖リ後體ハ幅廣クシテ且鈍ナリ全身ニ 11 箇ノ體輪ヲ有シ末輪ヲ除キ他ノ體輪ハ各數多ノ纖細ナル棘ヲ具ヘ頭端ニ 1 對ノ鉤ヲ有ス幼蟲成熟スレハ體長 15—20mm ニ達ス本蟲ニ次ノ 6 種アリ

第十七圖



馬蕨(がすつろふいるす-いくい)ノ卵

1 がすつろふいるす-いくい Gastrophilus equi. 本蟲ハ分布甚タ廣ク大陸ノ外本邦・朝鮮ニモ多ク飛翔ス成蟲ハ長サ 12—14mm 帶褐黄色ヲ呈シ卵ハ黄色ナリ

幼蟲ハ主トシテ胃ノ噴門部時トシテ幽門部及十二指腸ニ附著ス長サ 18mm 稍太ク黄褐色乃至肉様赤色ヲ呈ス第 9 輪ノ背側中央及第 10 輪ノ全背側ニ於テハ棘毛 2 列トナリ末輪ニハ凡テ之ヲ缺ク

2 がすつろふいるす-へもろいだりす G. haemorrhoidalis. 本蟲モ亦分布廣ク本邦・朝鮮ニモ發生ス成蟲ハ長サ 9—11mm 密毛ヲ有シ黑褐色ヲ呈ス唇及鼻腔周圍ノ觸毛ノ根部ニ産卵ス卵ハ黑色ナリ

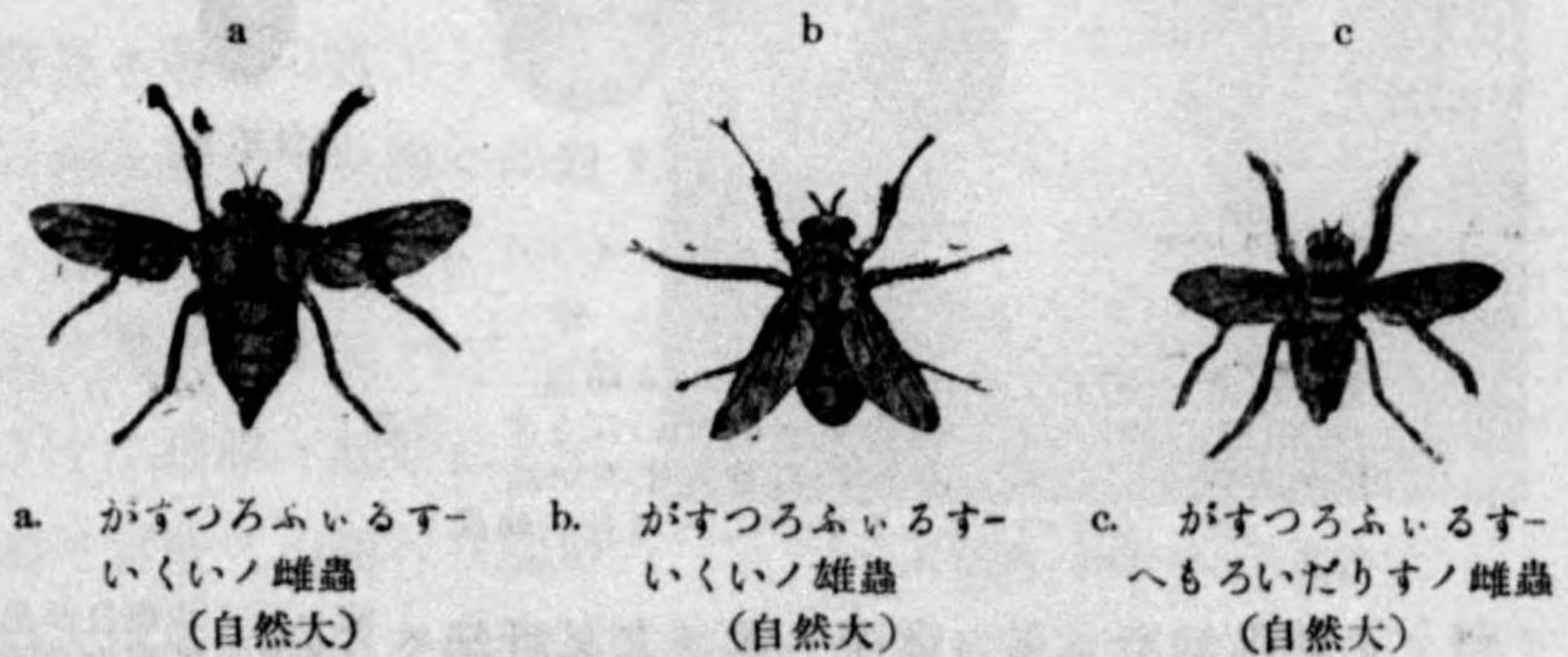
幼蟲ハ胃(噴門部及幽門部)及十二指腸ニ寄生ス排出前一時直腸又ハ肛圍ニ附著シ綠色ニ變ス長サ 13—16mm 暗褐色ニシテ第 8 輪及第 9 輪時トシテ第 7 輪ノ背側ノ中部ニ棘ヲ缺キ第 10 輪ノ全背側ニモ之ヲ缺クコトアリ第 11 輪ハ全ク裸出ス

3 がすつろふいるす-なざりす G. nasalis. 本蟲ハ大陸ノ外本邦・朝鮮ニ産スルモ前 2 者ノ如ク多カラス成蟲ハ長サ 12—13mm 栗色ヲ呈シ卵ハ白色ナリ主トシテ喉頭部ノ長毛又ハ鬣毛ノ尖端ニ産卵ス

幼蟲ハ主トシテ十二指腸罕ニハ胃ニモ寄生ス長サ 13—15mm 黄白色ニシテ尾端ハ赤色ヲ帶フ第 9 輪ノ背側中央ニ 1 列ノ棘毛ヲ具ヘ第 10 及第 11 輪ノ背側ニハ之ヲ缺ク

4 がすつろふいるす-べこるむ G. pecorum. 本蟲ハ匈國及露國ニ發生シ本邦ニ於テハ未タ發生ヲ見ス成蟲ハ長サ 12—15mm 褐黄色乃至暗褐色ヲ呈シ卵ハ黑色ナリ

第十八圖



a. がすつろふいるす-いくいノ雌蟲 (自然大) b. がすつろふいるす-いくいノ雄蟲 (自然大) c. がすつろふいるす-へもろいだりすノ雌蟲 (自然大)

幼蟲ハ胃及十二指腸ニ寄生ス時トシテ排出前一時直腸ニ附著ス長サ 13—20mm 暗赤色・體ノ第 6 及第 7 輪ノ背側中央及第 8 乃至第 10

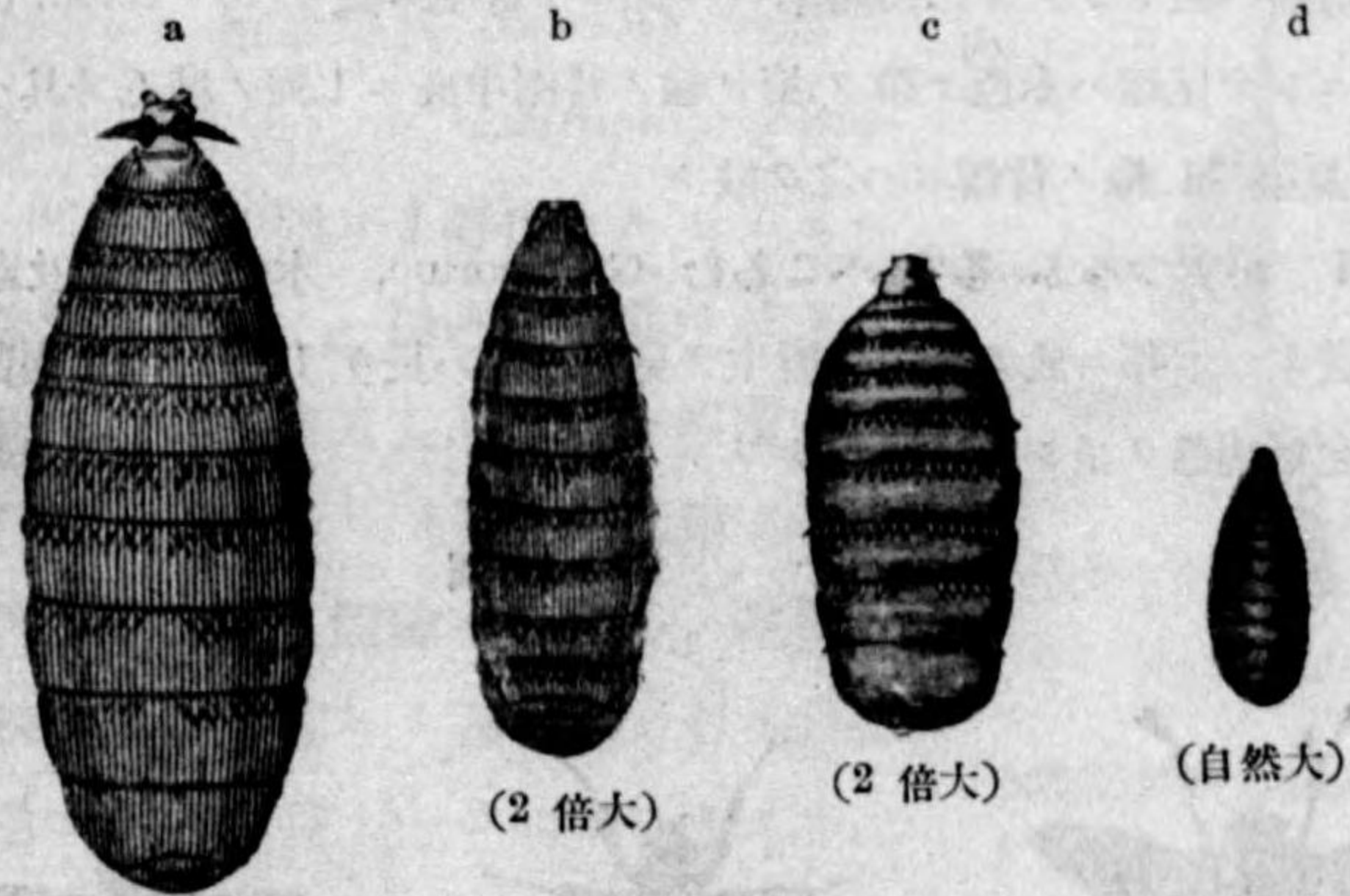
輪ノ背側ニハ棘ヲ缺キ第10輪ノ腹側ニ1列ノ棘ヲ具フ第11輪ハ全ク之ヲ缺ケリ

5 がすつろふいるす-ふらぎいへす *G. flavipes*. 地中海ノ沿岸ニ産ス幼蟲ハ驢ノ胃ニ寄生ス

6 がすつろふいるす-いねるみす *G. inermis*. 此幼蟲ハ馬ノ直腸ニ發見セラレタリ

發育法 馬蠃(馬蠅)ハ五月ヨリ十月ニ至ル季間殊ニ六・七・八月盛夏ノ候牧野ニ於テ馬體ノ周圍ヲ飛翔シ其雌蟲ハ馬體前部頭・鬣・鼻及口ノ周圍・前肢ノ被毛ニ産卵ス 卵ハ長形ニシテ毛ニ膠着セルモノハ下方ニ蓋ヲ具フ 其後數日ヲ經

第十圖



- a. がすつろふいるす-いくいの幼蟲
- b. がすつろふいるす-へもろいだりすの幼蟲
- c. がすつろふいるす-なざりすの幼蟲
- d. がすつろふいるす-べこ-るむの幼蟲

テ卵ヨリ幼蟲匍出シ馬ハ癢痒ノ爲メ之ヲ舐却ス 或ハ云フ幼蟲自ラ馬口若クハ舐却セラレ易キ部位ニ幼蟲一タヒ胃ニ達スレハ其粘膜ニ鉤著シテ約10箇月間淹留シ翌年五・六月ノ候ニ至リ十分發育ヲ遂ケタル後胃粘膜

ヲ辭シ胃腸内容ト共ニ體外ニ排出セラレ土中又ハ馬糞中ニテ脱皮シ約30—40日ノ後羽化シテ成蟲トナル

病理 馬蠃ハ胃ノ左半部ニ鉤著シタル場合ハ蟲體多數ナルモ殆ト障礙ヲ來スコトナシ然レトモ右半部ニ甚タシク多數寄生シ粘膜ヲ穿孔スレハ宿主ニ疼痛ノ感ヲ與ヘ血液及淋巴液ヲ奪ヒ胃ノ運動及分泌作用ヲ害シ終ニ榮養ヲ損ス胃粘膜缺損部ノ周圍ニ於テハ本蟲ノ中毒性産物及器械的刺戟ニ因リ慢性炎症ヲ惹キ起シ罕ニハ胃粘膜ノ深キ缺損ヲ來シ破裂ノ素因トナル甚タ罕ニ幼蟲ハ胃壁又ハ十二指腸壁ヲ穿孔シ時トシテ大血管ヲ損傷シ致死的出血ヲ來スコトアリ

第二十圖



馬ノ胃粘膜ニ鉤著セル馬蠃

剖檢 幼駒ノ胃内ニ於テハ通常多數ノ馬蠃ヲ發見ス著者ハ嘗テ1箇ノ胃内ニ於テ520箇ノ幼蟲ヲ數ヘ Numan 氏ハ1000箇ヲ見タリト云フ時トシテ十二指腸ノ起始部ヲ閉塞ス胃壁ノ内面ニハ圓形噴火口狀ノ凹陥ヲ生ス其直徑3—4耗アリ其底部ハ赤色ヲ呈シ其縁ハ肥厚シタル上皮層ヨリ成ル胃底腺部・十二指腸若クハ本蟲鉤著部ノ周圍ハ著シク腫脹シ赤色ヲ帶ヒ往々小出血ヲ呈ス罕

ニハ胃壁ニ膿瘍ヲ生ス

症候 病徴ハ放牧ノ末期・收牧直後若クハ冬季間ニ發ス當初消化障礙殊ニ食慾變シ易ク容貌衰ヘ粘膜蒼白トナリ往々瘦削シ時々疝痛症狀ヲ發ス重症ニ在テハ心悸亢進・脈性軟弱トナリ時トシテ全ク食慾ヲ失ヒ羸瘦・骨立シ終ニ虚脱シテ起ツヲ得ス適時治療ヲ施サ、レハ患畜ハ本蟲寄生後 6—8 週ヲ經テ斃ル

がすつろふいるすへもろいだりす及が、なざりすハ胃及十二指腸ノ粘膜ヨリ脱落シタル後チ一時直腸粘膜ニ鉤著シ其刺戟ニ因リ直腸かた一る(排糞頻數・努責・癢痒若クハ興奮・不穩・疝痛症狀)ヲ惹キ起シ罕ニハ努責ノ結果直腸脱ヲ來ス

療法 二硫化炭素 20—30.0 ヲ膠囊ニ容レテ與フレハ顯著ノ效アリ 膠囊ハわぜりん又ハ蓖麻子油ヲ塗リテ與フヘシ 是レ Perroncito, Bosso 兩氏ノ創意ニ係ル吐酒石(6—10.0 ヲ蘆薈丸ト共ニ與フ)・てれびん油モ亦效アリ

直腸ノ馬瘻炒ニハ 石鹼水・稀釋石腦油・べんぢん 又ハくれをそーと溶液ヲ灌腸シ且手ヲ入レテ炒ヲ除キ去ルヘシ著者ハ此場合ニモ二硫化炭素(5—10.0 ヲ粘漿劑ニ混ス)ノ灌腸ヲ推奨ス

豫防法 馬瘻炒ノ胃内侵入ヲ豫防センカ爲ニハ 夏季馬體ノ被毛ニ附着セル卵子ヲ驅除セサル可カラス其法種々アリト雖著者ノ經驗ニ據レハ約 1 週間毎ニ小洋刀又ハ削蹄刀ヲ用キテ被毛ヨリ卵子ヲ削リ取り或ハ毛焼らんふニテ焼却スルヲ便トス

馬ノ胃ノ線蟲 Nematoden.

馬ノ胃ニ寄生スル線蟲次ノ如シ

1 はぶろねま-めがすと-ま Habronema(Spiroptera) megastoma.

胃底腺部ニ榛實大ノ硬キ結節ヲ生ス

1 はぶろねま-みくろすと-ま Habronema (Spiroptera) micro-oma. 胃粘膜ニ寄生ス

3 はぶろねま-むすせー Habronema muscae. 前者ニ能ク類似シ胃粘膜ニ寄生ス

4 とりこすとろんぎらす-あきせい Trichostrongylus Axei. 胃粘膜ニ腺腫様ノ腫瘤ヲ生ス

2 羊及山羊ノ胃蟲症

Strongylosis ventriculi ovium et caprarum.

發生 本病ハ卑濕・沮洳・多雨ノ地方ニ常存シ家畜ノ年齢ニ差別ナク之ヲ侵スト雖仔羊・仔山羊ノ症狀殊ニ重ク時トシテ大流行ヲ來スコトアリ

原因 本病ハ毛様線蟲科 Trichostrongylidae 屬ニ因テ發ス其主ナルモノハへもんくす-こんとるたす Haemonchus (Strongylus) contortus 雄蟲 1—2cm 雌蟲 2—3cm ニシテねまとちらす-ふりこりす Nematodirus (Str.) filicollis・おす

第二十一圖

てるたぎあ-さあかむしんくた Ostertagia(Str.)circumcincta・とりこすとろんぎらす-れとるて-ふるみす Trichostrogylus retortaeformis・おすてるたぎあ-おすてるた-ぎ Ostertagia (Str.) Ostertagi 及其他ノすとろんぎらす屬モ亦罕ニ本病ノ原因トナル



へもんくす-こんとるたす

本蟲ノ發育史ハ審ナラサルモ自然感染ハ羊ノ放牧中すとろんぎらすノ幼蟲ヲ附着セル植物又ハ飲水ヲ攝取スルニ由ル仔羊ハ舍飼スルモ蟲害ヲ免レス卵及孵化直後ノ幼蟲^{孵化後4-14日}ハ傳染性ヲ有セス

病理 すとろんぎらすハ胃粘膜ヲ穿孔シ之ヨリ血液ヲ吸吮シテ宿主ノ榮養ヲ損ス而シテ本蟲ハ尙毒素^{Grosso氏ニ據レハ溶血素}ヲ分泌シテ主ラ造血機能及血液組成ニ著シキ障礙ヲ及ホスト云フ

剖檢 第四胃ノ粘膜ニハ數多ノ蟲ヲ附着シ急性及慢性かた一ノ症狀ヲ現ハシ時トシテ小潰瘍ヲ生ス第四胃ノ内容ハ赤色ヲ帶フ之ニ水ヲ混シテ稀釋スレハ無數ノすとろんぎらすヲ發見ス

症候 本蟲ハ攝取ノ時季ニ由テ或ハ晩秋既ニ症狀ヲ現ハシ或ハ冬季ニ至リテ漸ク發病シ榮養障礙及貧血ヲ來ス患畜ハ當初不活潑トナリ疲勞・倦怠シ食慾ノ佳良ナルニ拘ラス發育不良ナリ漸次貧血・水血及惡液質ニ陥リ終ニ著シク瘦削ス末期ニ至レハ暗色・稀薄ノ糞汁ヲ泄ラシ時々痙攣症狀ヲ發シ其糞便ハ通常すとろんぎらすノ卵ヲ含ム

其他時トシテ痙攣又ハ麻痺ヲ發シ血液検査上雜形赤血球ヲ證明シ赤血球中ニ鹽基性顆粒ヲ認ム

療法 胃蟲症ニ對シ多少良效アルモノヲ掲クレハ てれびん油(1茶匙)・かまら(4-5瓦ヲ水又ハ乳汁ニ混シテ與フ)・びくり酸カリ(0.12-0.2瓦ヲ亞麻仁煎汁ニ混シテ3日毎ニ與フ)其他檳榔子末・亞砒酸・くれをそーと・硫酸銅トス近時ノ研究ニ依レハ

第二十二圖



ねまとぢらす-ふいりこりすノ卵 (250倍廓大)

硫酸銅ト亞砒酸トヲ4:1ノ比ニ混和シ1晝夜ヲ隔テ、0.2-0.6宛2回内服セシムルトキハ頗ル有效ナリ烟草ノ煎汁(1%)ニ硫酸銅ヲ1%ノ割合ニ溶解シ其5-10ccヲ1晝夜絶食後1回内服セシムルモ效アリ

3 牛ノ胃蟲症 Strongylosis ventriculi bovum.

發生 すとろんぎらす屬ハ屢ニ牛ノ第四胃ニ寄生シ其數多キトキハ障害ヲ醸ス本蟲ハ主ラ放牧ノ幼牛ヲ侵シ時アリ流行病ノ狀ヲ呈ス

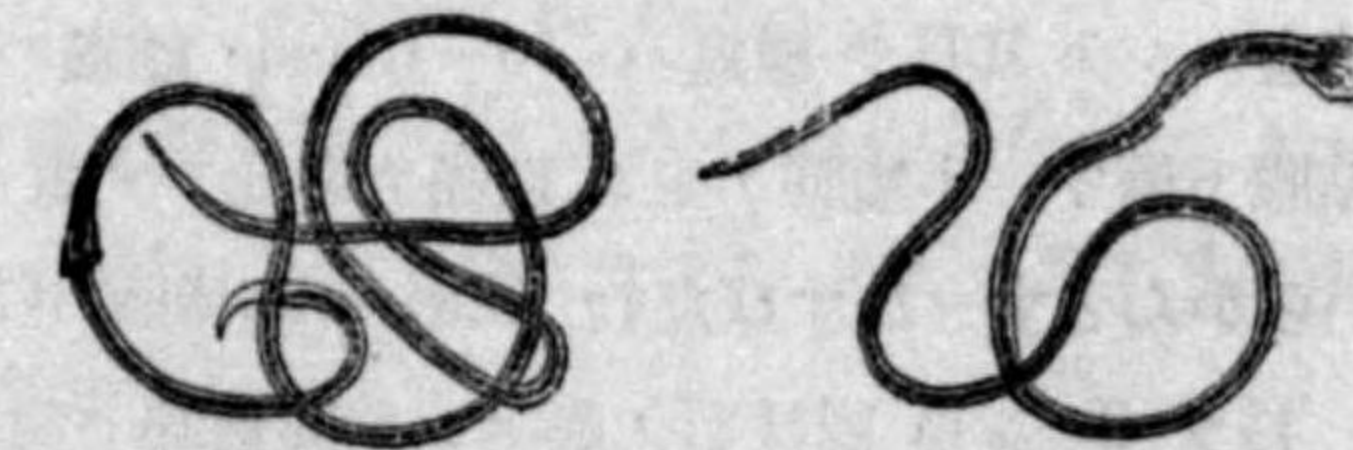
原因 Schnyder 氏ノ研究ニ據レハ牛ノ第四胃ニ寄生スルすとろんぎらすハおすてるたぎあ-おすてるた-ぎ Ostertagia Ostertagi (Str. convolutus)・とりこすとろんぎらす-れとるて-ふをるみす Trichostrongylus retortaeformis・こおべりあ-くるちせい Cooperia (Str.) Curticei・こおべりあ-おんこふをらす Cooperia (Str.) oncophorus・へもんくす-こんとるたす Haemonchus (Str.) contortus 等ニシテ通常胃腸内ニ於テ同時ニ其數種ヲ發見ス

牛ノ胃ニ寄生スルすとろんぎらす屬ノ發育史・自然感染及病理ハ凡テ羊・山羊ノとろんぎらすニ同シ

剖檢 Schnyder und Blunsky 兩氏ニ據レハ本病ノ末期ニ於テ

第二十三圖

おすてるたぎあ-おすてるた-ぎ



雌 蟲

雄 蟲

ハ瘦削・貧血及水血ノ外第四胃ノ粘膜ハ著シク浮腫シ赤色斑點ヲ現ハシ帽針頭大・灰白色ノ結節ヲ叢生シ其中心ニハ罌粟粒大ノ透明ナ

ル膿疹(含蟲結節 Wurmknötchen)ヲ含ム其他豌豆大乃至指爪大ノ爛斑ヲ認ム第四胃ノ内容ヲ數回水ニテ洗淨スレハ容易ニすとろんぎらすヲ目視ス又小腸ノ粘膜ハ弛緩・浮腫シ長キ皺襞ヲ生シ腸ノ實質炎ニ於ケルカ如ク赤斑ヲ呈ス

症候 症状ハ晩夏・初秋ノ候ニ現ハレ羊ノ胃蟲症ニ類似ス

療法 本症ノ初期ニ在テハかみり花(150—250 瓦ノ煎劑)有效ナリ其他ハ羊ノ胃蟲症ノ療法ニ同シ

其他牛ノ第一胃及第二胃ニ寄生スル あんふいすとまむ-せるづい Amphistomum cervi (conicum) ハ圓錐形ノ吸蟲ニシテ長サ 10—13mm アリ微ニ腹面ニ彎曲ス本蟲ハ本邦ノ牛ニ多數寄生スト雖生前症状ヲ發セサルヲ常トス

鹿ノ胃蟲症 Magenwurmkrankheit bei Rehen. 鹿ノ胃ニハ往々へもんくす-こんとるたす・おすてるたぎあ-おすてるた-ぎ及す.-ふいりこりす寄生シ死因トナルコトアリ

4 豚ノ胃寄生蟲

Parasiten im Magen des Schweines 獨

1 **あるづえんな-すとろんぎりな** Arduenna strongylina. 白色纖細ナル線蟲ニシテ其長サ雄蟲ハ 10—13mm・雌蟲ハ 12—20mm アリ胃ノ粘膜下織中ニ小瘤腫ヲ生シ粘膜ヲ穿孔シテ重キ胃炎ヲ發ス

2 **せいらかんさす-ひすびだむ** Cheiracanthus (Gnathostoma) hispidum. 長サ 2—3cm 圓柱形ノ蟲ニシテ其前端ハ稍・太ク胃底部ノ粘膜ニ鉤著若クハ穿孔ス本蟲ハ胃粘膜ノ重キ炎症・胃壁ノ肥厚・胃擴張ヲ來シ終ニ消化障礙ノ爲メ惡液質ニ陥ル

3 **しもんどしあ-ばらどきざ** Simonsia paradoxa. 英人 Simo-

第二十四圖



あんふいすとまむ-せるづい

nds 氏之ヲ發見セリ雌蟲ハ長サ 45mm アリ胃壁ノ囊腫中ニ宿リ雄蟲ハ胃ノ内容中ヲ游泳ス

4 **とりこすとろんぎらす-るびだす** Trichostrongylus rubidus.

本蟲ハ胃粘膜ノちふてり-變狀又ハ慢性炎ヲ惹キ起シ高度ノ貧血又ハ慢性衰弱ヲ來シ死ニ至ラシム患畜ノ糞中ニハ多數ノ卵ヲ發見ス

5 **ふいそせふるす-せきさつす** Physocephalus sexalatus. 本蟲ハ Foster 氏ニ依テ發見セラレあ-すとろんぎりなニ類似ス

5 肉食獸ノ胃寄生蟲

Parasiten im Magen der Fleischfreser 獨

犬ノ胃ノ寄生蟲 主トシテ すびろふてら-さんぐいのれんた Spiroptera sanguinolenta トス罕ニハ胃内ニ腸ノ蛔蟲及條蟲ヲ見ル

猫ノ胃ノ寄生蟲 おるらなす-つりかすびす Ollulanus tricuspis ハ長サ 1mm ノ小蟲ナリ多數寄生スレハ胃かた-るヲ惹キ起ス

6 家禽ノ胃寄生蟲

Parasiten im Magen des Geflügels 獨

雞ノ胃ノ寄生蟲 あくありあ-なす-た Acuarina (Dispharagus) nasuta・すびろふてら-べくちにふえら Spiroptera pectinifera・す-ば-ふをらんす Spiroptera perforans.

水禽ノ胃ノ寄生蟲 あくありあ-うんしな-た Acuarina (Dispharagus) uncinata・あみどすと-まむ-あんせりす Amidstomum anseris (Str. nodularis)

腸ノ寄生蟲

家畜ノ腸寄生蟲ニ扁形動物 Plathelminthes (條蟲類 Cestodes 及

吸蟲類 Trematodes) 及圓形動物 Nematelminthes (線蟲類 Nematodes 及鉤頭蟲類 Acanthocephala) ノ 2 種アリ

1 條蟲類 Cestodes. Bandwürmer 獨.

條蟲ハ數多聯結セル雌雄同體 Hermaphroditisch ノ片節 Proglottis ヨリ成リ恰モ眞田紐ノ狀ヲ呈ス之ヲ分節體 Strobila ト云フ分節體ノ前端ハ頭-頸部 Scolex ニシテ幅狭ク各片節ノ母體ト

看做スヘキモノトス各片節ハ頭-頸部ヲ距ルニ從ヒテ次第ニ幅ヲ増シ生殖器亦明瞭トナル其子宮ハ通常多數ノ卵ヲ含ミ卵ハ片節ノ外層ヲ透シテ窺フヲ得ヘシ而シテ生殖器ハ條蟲ノ種類ニヨリ異ナレルヲ以テ分類上重要ナルモノトス

條蟲ノ片節ハ 2 層ノ結締織ヨリ成リ其外層ニハ顆粒層ヲ含メリ滋養物ハ宿主ノ腸液ヨリ各片節ノ表面ニ開口セル小口ヲ通過シテ體內ニ入り其代謝物ハ體側ヲ走レル排

泄管ヲ經テ末節ノ後端ニ開口セル肛門ヨリ排出セララル

發育法 卵ハ單獨若クハ母體ノ片節ト共ニ體外ニ出タル後更ニ他ノ宿主ノ胃内ニ攝取セラレ茲ニ於テ其卵殼溶解セラルレハ輒チ六鉤幼蟲 Oncosphaera トナリ腸ノ粘膜ヲ穿孔シ他ノ臟器ニ移行シテ各條蟲特異ノ發育ヲ遂クテ一ニ類 Taeniidae ノ幼蟲ハ囊蟲 Cysticercus ト成リ裂頭條蟲類 Bothriocephalidae ノ幼

第二十五圖



葉狀條蟲

蟲ハ一種帶狀ノふれろせるこいと Plerocercoid ト成ル而シテ此等ノ幼蟲ハ其後更ニ他ノ固有宿主ノ胃内ニ達スレハ先ツ頭-頸部ヲ突出シ尋テ消化液ノ爲メ包囊若クハ體部ヲ失ヒテ腸管内ニ遊走シ其粘膜ニ鉤着シ之ヨリ片節ノ發育ヲ始ム已ニ受胎スレハ卵内ニ仔蟲ヲ形成ス卵子全ク成熟スレハ裂頭條蟲類ハ宿主ノ腸管内ニ排卵シテ一ニ類ハ其片節内ニ卵ヲ含ミタル儘糞便ト共ニ宿主ノ體外ニ排泄セララル、モノトス

a 馬ノ條蟲 Bandwürmer beim Pferde 獨.

原因 馬ニ於テハ次ノ 3 種ノ無鉤條蟲寄生ス

1 葉狀條蟲 Anoplocephala (Taenia) perfoliata. 長サ 2.5—8cm・幅 3—15mm アリ頭ハ鈍 4 角形ニシテ 4 箇ノ吸盤ヲ具フ卵ハ多角形

第二十六圖



皺襞條蟲 (約 1/2 大)

ナリ長サ 65—80 μ アリ

2 皺襞條蟲 Anoplocephala (T.) plicata. 扁平ニシテ長サ 10—

25cm アリ頭ハ4角形ニシテ4箇ノ吸盤ヲ具フ卵ハ圓形又ハ4角形ニシテ長サ50—60 μ トス

3 侏儒條蟲 *Anoplocephala* (T.) *mamillana*. 長サ1—5cm・幅4—6mm アリ頭ハ球形ヲ呈ス卵ハ橢圓形ナリ

馬ノ條蟲ハ概シテ稀有ナルモ比較的多キハ葉狀條蟲ナリ此等ノ囊蟲及傳染ノ方法ハ審ナラス侏儒條蟲ハ未タ曾テ本邦ノ馬ニ於テ發見セラレス

剖檢 腸ニ多數ノ條蟲ヲ宿シ其壁ハ所々凹陷ス尋テ凹陷部ノ腸壁破裂シテ腹膜炎ヲ發ス

症候 此等ノ條蟲ハ通常著シキ障礙ヲ發スルコトナキモ多數寄生スレハ消化障礙ヲ來シ貧血・羸瘦時トシテ疝痛ヲ來ス

療法 概ネ蘆薈(20—30.0)又ハ吐酒石(10—12.0)ノ應用ヲ以テ足レリ又てればん油(100.0)ヲ蓖麻子油500.0ニ混シテ與フ・砒石(日々1—3.0)ヲ1—2週間連用ス・甘草(4—6.0)・檳榔子日々2—3回2食匙ヲ與ヘ100瓦ニ至リテ止ム綿馬根(50—100.0)等モ亦有效ナリ

b 牛ノ條蟲 *Bandwürmer beim Rinde* 獨.

原因 牛ノ腸管内ニ寄生スル條蟲ハ概ネ次ノ4種トス

1 齒狀條蟲 *Moniezia* (*Taenia*) *denticulata*. 長サ25—80cm 罕ニハ1.7m・幅13—25mm アリ卵ハ圓形又ハ多角形ニシテ卵殻内ニ大小不同ノ空胞ヲ含ム大サ48 μ アリ

2 擴張條蟲 *Moniezia* (T.) *expansa*. 條蟲中最長ノ分節體ヲ有シ長サ10mニ達スルモノ尠カラス卵ハ前者ニ類シ大サ50—90 μ アリ

3 扁平條蟲 *Moniezia* (T.) *planissima*. 長サ1—2m・幅12—26mm アリ頭部ハ4角形ヲ呈ス卵ハ圓形ナリ

4 白色條蟲 *Moniezia* (T.) *alba*. 長サ60cm—2.5mニ達シ幅4—

14mm アリ卵ハ立方形ナリ前記條蟲ノ發育法ハ審ナラサルモ宿主ノ小腸ニ鉤著ス本邦ノ牛ニ能ク寄生スルモノハ擴張條蟲及扁平條蟲ノ2種トス

第二十七圖



擴張條蟲 (約 $\frac{1}{2}$ 大)

症候 齒狀條蟲ハ時トシテ消化障礙・羸瘦・貧血及鼓脹ヲ發シ罕ニハ癩癩様ノ發作ヲ來ス其他ノ條蟲ハ概ネ無害ナリ

療法 馬ノ條蟲驅除法ニ同シ

c 羊及山羊ノ條蟲

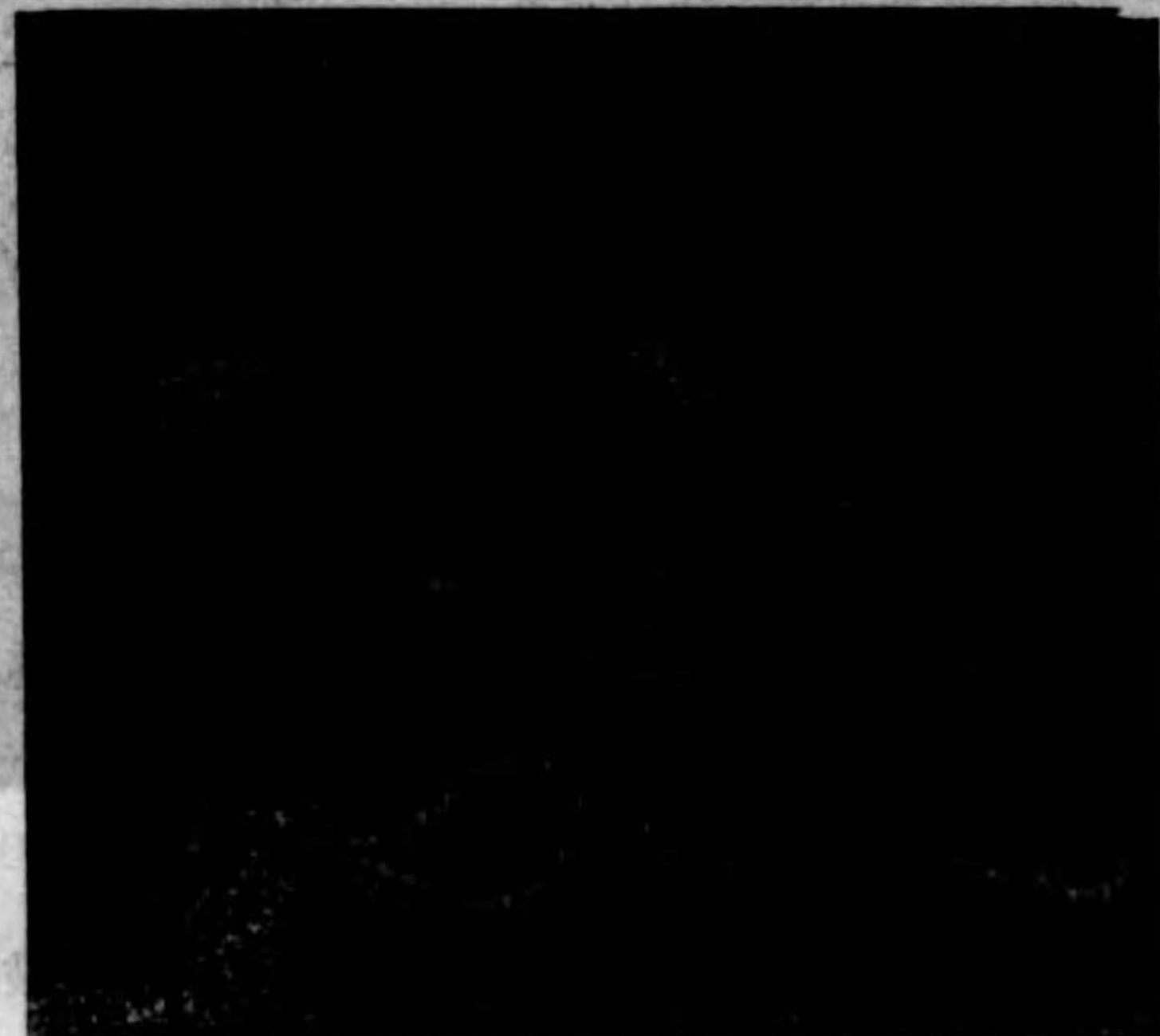
Bandwürmer beim Schafe und der Ziege 獨.

原因 羊ノ腸管内ニ寄生スル條蟲ハ擴張條蟲 *Moniezia* (*Taenia*) *expansa* 及白色條蟲 *Moniezia* (T.) *alba* ヲ主トシ罕ニハちさのぞーまおづいらむ *Thysanosoma ovillum*・もにーちあべねぢに *Moniezia benedini*・もーとりこのふをら *M. trigonophora*・あづいてりなせんつりふんくたーた *Avitellina centripunctata*・あづいてりなぐろびふんくたーた *Avitellina globipunctata* 等ナリ

實際上最も重要ナルハ擴張條蟲ニシテ夏季仔羊ヲ侵シ多數ノ羊ノ死因トナルコトアリ

症候 初期ハ消化障礙顯著ナラサルモ後ニ至レハ次第ニ瘦削シテ發育停止ス粘膜ハ蒼白トナリ羊毛ハ脂膩ニ乏シク拔去シ易シ又時

第二十八圖



鋸齒條蟲

トシテ疝痛症狀ヲ現ハシ努責・窘迫・尾ヲ舉ケテ急遽突進ス末期ニハ粥狀若クハ液狀ノ糞ヲ泄ラジ糞中ニハ往々運動性ヲ有スル白黃色ノ分節體ヲ含ム

療法 驅蟲藥ヲ與フルニ先チ數日間ハ專ラ綠飼ヲ與ヘ食鹽ヲ舐メ且杜松子ヲ喰ハシム 驅蟲藥トシテハてれびん油又ハ之ニ鹿角油ヲ配合(各1茶匙)シテ與ヘ又綿馬えきす(5—10.0)・かまら(4—5.0)・びくりん酸(0.1—0.3)及びびくりん酸カリ(0.5—1.5)等ヲ用ウ前記ノ藥物ヲ與フルト同時又ハ投藥後2—3時間ヲ經テ下劑(吐酒石1—5.0・蓖麻子油1食匙)ヲ内服セシムヘシ

d 犬ノ條蟲 Bandwürmer der Hunde 類.

原因 犬ノ條蟲ニハ5種ノテ一ニハ族ト2種ノ裂頭條蟲アリ

1 **鋸齒條蟲** *Taenia serrata*. 長サ0.5—2m アリ頭ハ小ナルモ其額ニハ34—38箇ノ鉤ヲ具フ卵ハ橢圓形ニシテ長徑36—40 μ ・短徑31—36 μ アリ

第二十九圖



邊緣條蟲

2 **豆形囊蟲** *Cysticercus pisiformis*. ハ鋸齒條蟲ノ幼體ニシテ兎ノ大網膜及腸間膜ニ於テ發育シ其組織ト共ニ獵犬ノ胃ニ達ス後チ2箇月ヲ經レハ成熟セル分節體ト成ル兎ハ本蟲ノ卵ヲ含メル犬ノ糞ヲ啖フテ感染ス

2 **邊緣條蟲** *Taenia marginata*. 長サ1.5—2m アリ頭ハ小ニシテ30—44箇ノ鉤ヲ具フル2重ノ額ヲ有シ4箇ノ圓形吸盤ヲ具フ卵ハ橢圓形ニシテ長徑31—36 μ アリ

細頸囊蟲 *Cysticercus tenuicollis*. ハ草食獸^{殊ニ羊・豚}ノ腹膜・肝包膜^ニ罕ニハ肋膜及心囊ニ寄生ス主ラ犬ニ寄生シ4—5箇月ノ後犬ノ腸管

内ヨリ成熟セル片節ヲ排泄ス

3 同尾(多頭)條蟲 *Taenia coenurus*. 長サ 40—60cm =達ス頭ハ小ニシテ 4箇ノ吸盤及 22—23 箇ノ鉤ヲ具フル額ヲ有ス卵ハ稍、長橢圓形ニシテ長徑 31—36 μ アリ

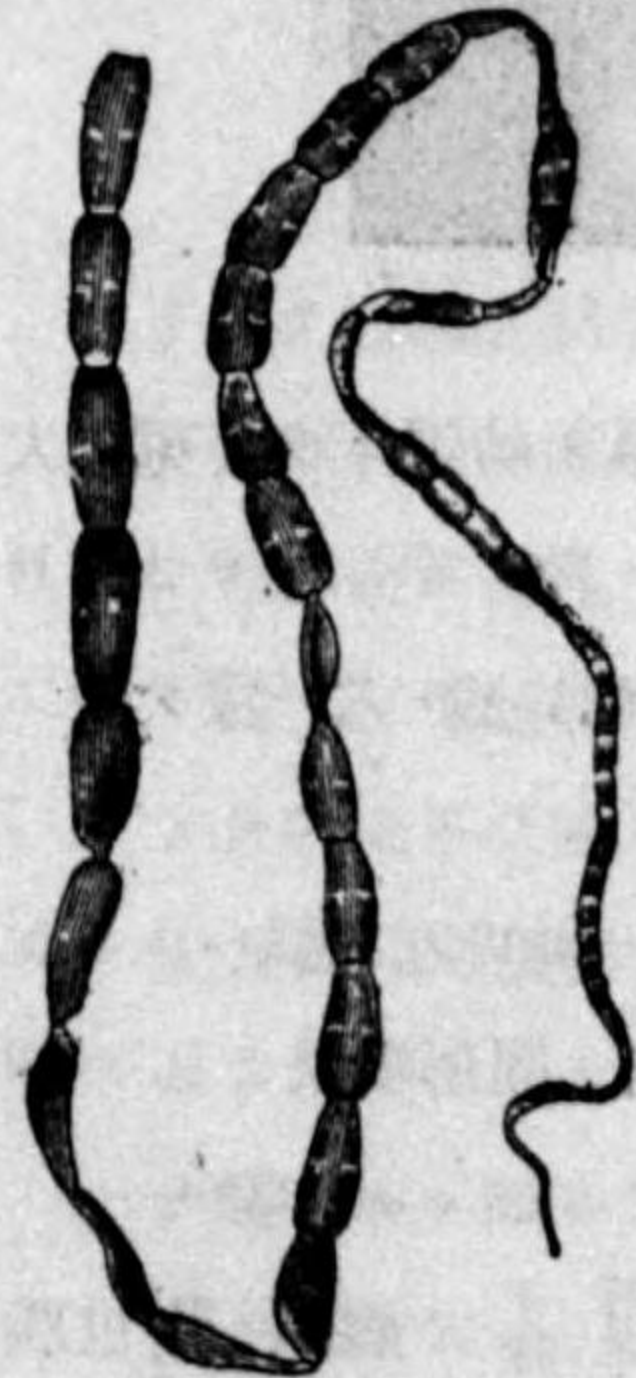
第三十圖



同尾條蟲

腦包蟲 *Coenurus cerebralis* ハ羊 其他食獸ニハ稀ナリ ノ腦髓管内ニ發育ス 犬ハ羊ノ腦脊髓ヲ啖フテ感染シ其片節ハ 2—3 箇月半ノ後發育ス

4 瓜實條蟲 *Dipylidium caninum* (Taenia cucumerina). 第三十一圖



瓜實條蟲(自然大)

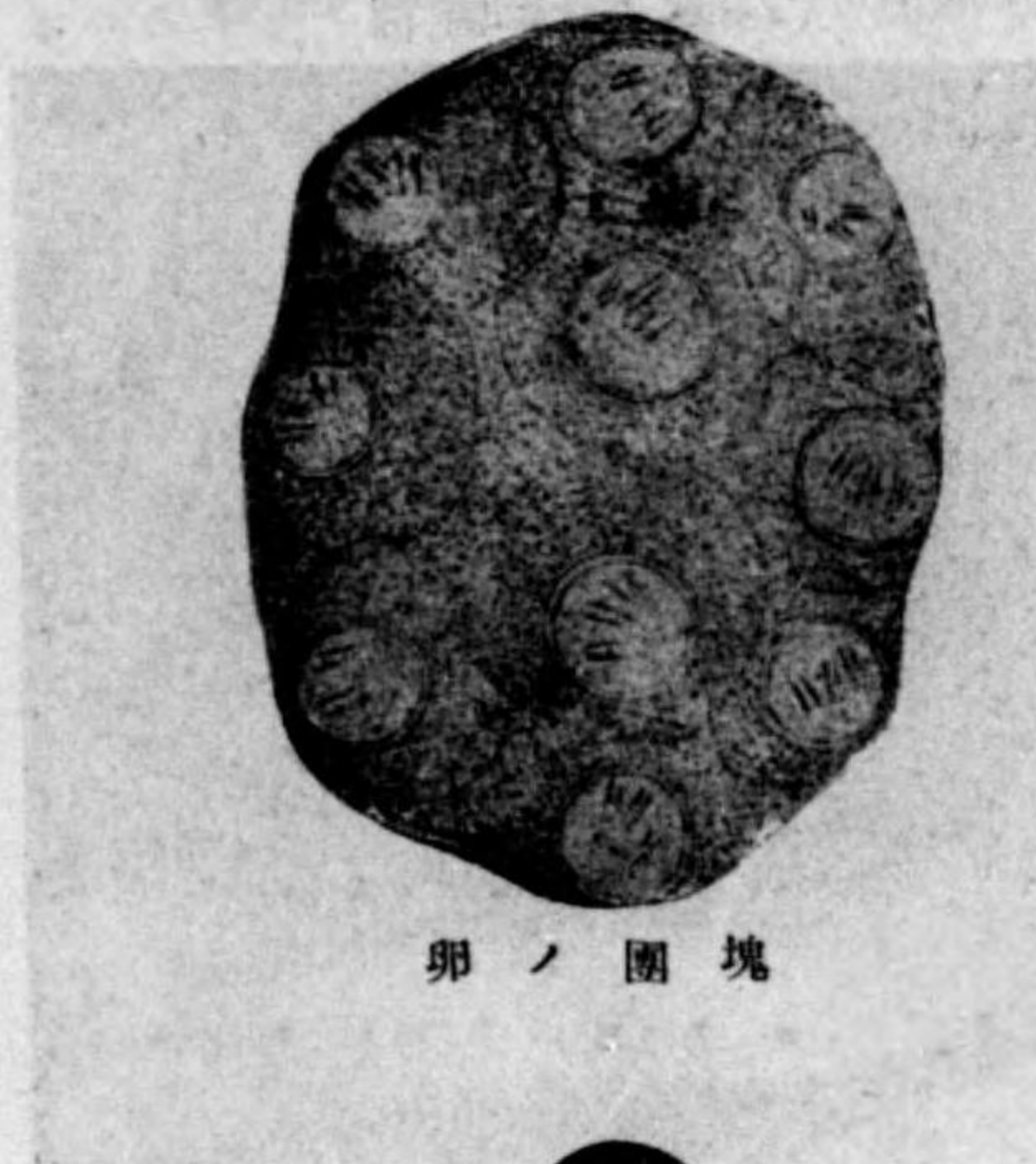
長サ 10—40cm・幅 3mm アリ頭ハ小ニシテ延長シ發育不完全ナル吸盤ノ間ヨリ棍形ノ額(小嘴) *Rostellum* ヲ突出ス而シテ額ニハ 4列ニ環生セル鉤約 60 箇ヲ具フ卵ハ多數集合シテ粘稠性ノ團塊ヲナス

囊蟲 *Cryptocystis trichodectis*. ハ犬體ニ寄生スル毛蟲 *Trichodectes latius canis* 又ハ犬蚤 *Pulex serraticeps* 及人ノ蚤 *P. irritans* ニ宿リ犬ハ此等ノ昆蟲ヲ啖フテ感染ス

5 狗兒條蟲 *Taenia echinococcus*.

片節 4—5 箇ヨリ成リ長サ 5mm ヲ超エス頭部ニ 4箇ノ吸盤ト棍形ノ額ヲ有ス額ニハ 2列ニ環生セル 28—50 箇ノ鉤ヲ具フ本蟲ハ主ラ反芻獸及人ノ肝及肺ニ寄生スル悉ひのこっかす *Echinococcus poly-*

第三十二圖



卵ノ團塊



瓜實條蟲ノ卵 (250倍廓大)

第三十三圖



狗兒條蟲

morphus 包蟲ヨリ發見スルモノニシテ犬ハ此包蟲ヲ含メル反芻獸ノ肉ヲ啖フテ感染ス

其他犬ノてーにあ族ニ *T. serialis*, *T. Krabbei*, *Mesocestoides lineatus* アルモ甚々稀ナリ

6 マンソン氏裂頭條蟲 *Dibothriocephalus mausoni*. 長サ 80—100cm アリ本邦ノ犬ノ小腸ニ多ク寄生ス

7 廣節裂頭條蟲 *Dibothriocephalus latus*. 本邦人ニ多ク寄生ス

ルモ犬ニハ稀ナリ長サ 2-7m アリ頭ハ長橢圓形ヲ呈ス 成熟セル片節ノ長サ 4-5mm・幅 2cm アリ卵ハ橢圓形ナリ

本蟲ノ幼蟲(ふれろせるこいど)ハ水中ニテ卵ヨリ遊離シ 鰓毛ヲ以テ運動シ遂ニ魚類(鱸・鯪・鱒)ヲ侵シテ其腸管・筋肉又ハ他ノ臟器ニ寄生ス 犬ハ此等ノ魚類

第三十四圖

ヲ啖フテ感染ス

其他 Bothr. cordatus, Bothr. fuscus 等アルモ重要ナラス

剖檢 條蟲多數寄生スレハ急性又ハ慢性腸かた一ヲ發ス 腸粘膜ニ小出血アリ 腸ノ絨毛ハ時トシテ4-5倍ニ延長シ 粘膜面ニ附著セル蟲體ヲ覆フテ 隧道狀ヲナス 又結締織増殖ノ爲



廣節裂頭條蟲

メ腸ノ管狀腺ハ壓迫セラレテ萎縮ス 而シテ此等ノ變狀ハ狗兒條蟲ノ存スル場合最モ重シ 瓜實條蟲ニ因ルモノハ多クくるっふ性變狀ヲ呈ス 罕ニハ條蟲ノ團塊ニ由テ腸管ヲ閉塞ス 鋸齒條蟲ハ往々腸壁ヲ穿孔スルコトアリ

症候 犬ノ腸管内ニ條蟲ヲ宿スモ少數ナレハ障礙ヲ來スコトナシ 多數寄生スレハ始メテ症狀ヲ發ス 其徵ハ概ネ慢性胃かた一ニ一致ス 即チ食慾變シ易ク 貪食スルニ拘ラス 瘦削ス 狗兒條蟲及瓜實條蟲ノ寄生セル場合ハ 疝痛症狀ヲ發シ 不安・呻吟・腹部ヲ顧ミテ 太息ス 其他蟲塊ノ爲メ腸壅塞又ハ腸炎ヲ發スレハ重キ神經障礙(眩暈・局所若クハ全身痙攣・麻痺狀態・高度ノ痴鈍)ヲ現ハシ 病犬ハ恰モ狂犬病

ニ於ケルカ如ク咬狂・嘔聲・下顎下垂・瘳猛ノ眼貌ヲ呈ス 其他腸出血・^スをじん嗜好性白血球ノ增多・中性色素嗜好性白血球ノ減少ヲ來シ 時トシテ肛門ノ周圍ニ癢痒ヲ覺ヘ 犬ハ之ヲ舐却シ 或ハ臀ヲ地ニ抵シテ滑走・旋廻ス

第三十五圖

糞若クハ吐物中又ハ肛門ノ周圍ニ條蟲ノ片節ヲ認メ 又糞中ニ其卵ヲ發見ス 疑ハシキ場合ニ於テハ下劑ヲ與フレハ通常多量ノ糞ト共ニ片節ヲ排出ス 但シ狗兒條蟲ハ小體ナルカ爲メ往々看過スコトアリ 注意スヘシ



廣節裂頭條蟲ノ卵 (250倍廓大)

療法 1日間絶食セシメ 緩下劑ヲ投シ 且微温湯ノ灌腸ヲ行ヒタル後 驅蟲藥ヲ與フ 其最モ有效ナル藥ヲ掲クレハ かまら (2-8.0 ヲ牛乳ニ混シテ與フ 驅蟲及下泄ノ兩作用アリ)・綿馬えきす (0.5-5.0 ヲ丸劑又ハ膠囊劑トシテ 與フ 1-2 時間ノ後 蓖麻子油 30-50.0 ヲ頓服セシム)・檳榔子 (5-10.0 ヲ丸劑トシテ 與フ) 等トス Schiel 氏ハかまら 10.0 ト檳榔子 20.0 トヲかゝをばた Kakaobutter ト共ニ 25 丸ヲ作りけらちん Keratin ニテ被ヒ 其 6-15 丸ヲ與フ Regenbogen 氏ハ條蟲囊 Baudwurm kapsel (檳榔子・かまら 各 1 瓦 及蓖麻子油ヲ含ム)ヲ大犬ニ 5 筒・小犬ニ 1 筒ヲ與フレハ 頗ル有效ナリ ^{嘔吐豫防ノ爲メ} 投藥前粘汁 ^{すーふヲ} 與フヘシ ぶろむ水素酸あれこりん (100 倍溶液 5-50cc ヲ内服セシム)ハ最モ卓效アリト云フ

豫防法 草食獸ノ生肉及内臟ヲ啖ハシメス 且皮膚ノ清潔法ヲ怠ルヘカラス

e 猫ノ條蟲 Bandwürmer bei der Katze 猫

原因 猫ノ腸管内ニ寄生スル條蟲ノ中主要ナルモノ次ノ如シ 肥頸條蟲 Taenia crassicollis. 長サ 15-60cm アリ頭ハ球形ニシテ

4箇ノ吸盤アリ 29—52箇ノ鈎ヲ有スル棍形ノ額ヲ具フ卵ハ直径 20—27 μ アリ其囊蟲 *Cysticereus fasciolaris* ハ鼠ノ肝臓ニ寄生ス

其他猫ノ條蟲ニ *Dipylidium caninum*, *Dipylidium Chyzeri*, *Taenia echinococcus*, *Dibothriocephalus Mausoni* 等アリ

症候 肥頸條蟲ハ深ク腸粘膜ヲ穿チ時トシテ腸壁ヲ穿孔スルコトアリ多數寄生スレハ腸かたゝるヲ惹キ起シ食慾不振・便秘・下痢・流涎・視覚及聴覺ノ衰退・瀉瘦等ヲ來シ末期ニハ痙攣ヲ發ス

療法 犬ニ同シ

f 家兎ノ條蟲 *Bandwürmer bei Kaninchen* 獨.

家兎ニハ甚々稀ナルモ野兎ニハ *Ctenotaenia pectinata*, *Ct. Goezei*, *Ct. Leuckarti* 等寄生ス

g 家禽ノ條蟲 *Bandwürmer beim Geflügel* 獨.

原因 家禽ニ寄生スル條蟲ノ種類ハ頗ル多シ

1 雞ノ條蟲 (1) 輪頸條蟲 *Davainea cesticillus*. (2) 方形條蟲 *Davainea tetragona*. (囊蟲ハ蛇ニ寄生ス) (3) 棘溝條蟲 *Davainea echinobothrida*. (4) 貧節條蟲 *Davainea proglottina*. (5) 雞有鈎條蟲 *Hymenolepis exigua*. (6) 雞無鈎條蟲 *Hymenolepis inermis*. ひめのれびす-かりおか *Hymenolepis Carioca*. ハ本邦ノ雞ニ寄生スル重要ノ條蟲ナリ其他 (7) *Taenia infundibuliformis*. (囊蟲ハ蠅ニ寄生ス) (8) *Dicranotaenia sphenoides*. (囊蟲ハ蚯蚓ニ寄生ス) (9) *Bothriocephalus longicollis* 等アリ

2 鶩ノ條蟲 (1) *Drepanidotaenia (Hymenolepis) lanceolata*. (2) *D. setigera*. (3) *D. fasciata*.

鴨ノ條蟲 (1) *Drepanidotaenia setigera*. (2) *D. gracilis*. (3) *D.*

sinuosa. (4) *D. infundibuliformis*. (5) *D. anatina*.

4 吐綬雞ノ條蟲 *Davainea cataniana*.

5 鳩ノ條蟲 *Davainea crassula*.

症候 多數寄生スレハ始メテ症狀ヲ現ハス即チ病禽ハ不活潑トナリ食慾ヲ損シ時トシテ食飽クヲ知ラス而モ漸次瀉瘦ス末期ニハ下痢ヲ來シ衰弱シテ斃ル腸ノ炎症・便秘又ハ穿孔ヲ發スレハ眩暈及痙攣様ノ痙攣ヲ呈ス剖檢スレハ腸管内ニ多數ノ條蟲ヲ見ル

療法 檳榔子ヲ應用ス鳩ニ1瓦・雞ニ2瓦・鶩ニ4瓦・幼禽ニハ各其半量ヲ與フ然レトモ吐綬雞ハ之ニ因テ消化障礙ヲ起シ易クかまらハ鶩ニ對シテハ危險ナリ

2 吸蟲類 *Trematodes. Saugwürmer* 獨.

家畜ノ腸管内ニ吸蟲類ノ寄生スルハ稀ニシテ臨牀上亦重要ナラス從來發見セラレタルモノヲ列舉スレハ次ノ如シ

- 1 *Fasciolopsis Buski*. 肝蛭ニ類ス人及豚ノ小腸ニ寄生ス
 - 2 *Heterophyes heterophyes*. 人・犬・猫ニ寄生ス
 - 3 *Metagonimus Yokogawai*. 人及犬ノ小腸ニ寄生ス
 - 4 *Harmostomum Horisawai*. 雞ノ盲腸ニ寄生ス
 - 5 *Amphistomum Collinsi*. 蟲體ハ赤色ナリインドノ馬ニ寄生ス
 - 6 *Gastrodiscus aegyptiacus*. エジプトノ馬及牛ニ寄生ス
 - 7 *Hemistomum alatum*. 狼・狐等ニハ犬ニ寄生ス
 - 8 *Echinostomum perfoliatum*. 水禽及犬ニ寄生ス
 - 9 *Holostomum gracile*. 鴨ニ寄生ス
- 其他鳥類ニ寄生スルモノ
- 10 *Monostoma verrucosum*. (鴨・雞・鶩)

- 11 Cephalogonymus ovatus. (雞・鵝)
- 12 Clinostomum dimorphum. (雞・吐綬雞・鳩)

3 線蟲類 Nematelminthes. Rundwürmer 獨.

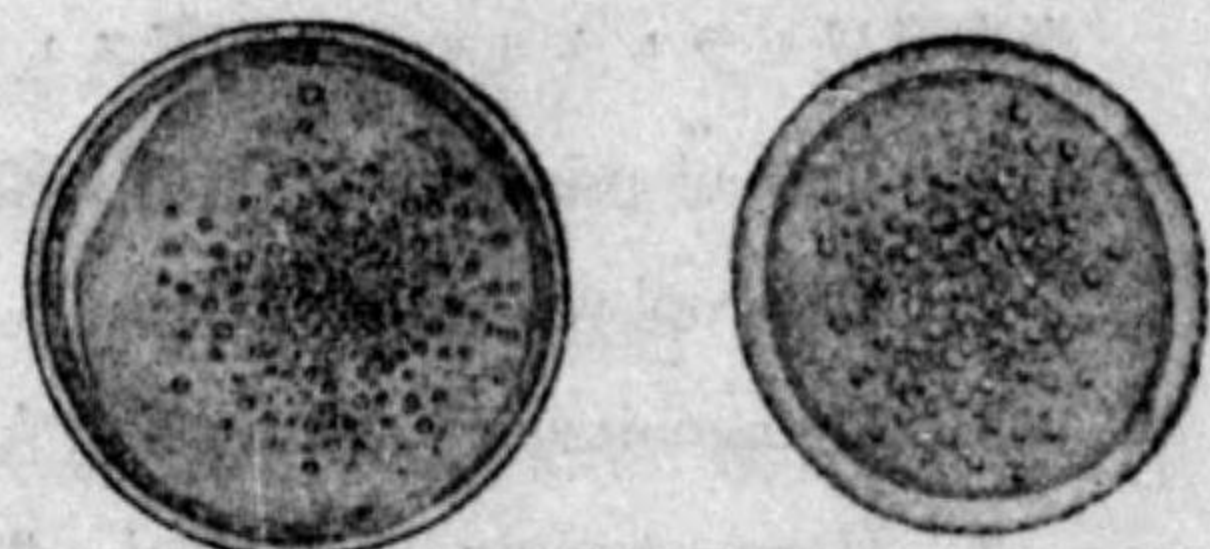
a 哺乳動物ノ蛔蟲症 Ascariasis.

發生 蛔蟲ニ因ル障害ハ幼畜ニ頻發シ老畜ニハ稀ナリ舍飼若クハ放牧中蛔蟲ノ卵ヲ攝取スレハ輒チ感染ス最モ感受性ニ富ムモノハ犢³⁻⁵月ニシテ仔豚・仔羊・幼駒及犬之ニ亞ク

原因 形態 蛔蟲ハ眞直・細長・平滑ナル圓筒形ノ線蟲ニシテ頭短ク口ノ周圍ニ3箇ノ唇狀突起ヲ有シ之ニ齒ヲ具フ家畜ニ寄生スル蛔蟲ノ種類ハ次ノ如シ

1 馬ノ蛔蟲 Parascaris equorum. 蟲體ハ白色又ハ帶黃白色ニシテ硬ク頭端ニハ齒ヲ具

ヘタル3箇ノ唇ヲ有ス
雄蟲ハ長サ 15—25cm
雌蟲ハ長サ 18—37cm
アリ卵ハ黃褐色ヲ呈シ球形又ハ橢圓形ニシテ直徑 90—100 μ ヲ有ス



馬ノ蛔蟲卵 (350倍廓大)

本蟲ハ馬・驢・騾ノ小腸ニ寄生シ成熟セルモノハ血液ヲ吸吮ス

2 犢ノ蛔蟲 Ascaris vitulorum. 蟲體ハ帶赤白色ニシテ透明ナリ雄蟲ハ長サ 15—20cm・雌蟲ハ長サ 22—30cm・卵ノ直徑 75—80 μ アリ卵殻ハ厚クシテ卷縮セル蛋白質ノ包膜ヲ被ムレリ本蟲ハ犢ノ小腸及第四胃ニ寄生シ成牛ニ宿ルハ甚タ稀ナリ

3 羊ノ蛔蟲 Ascaris ovis. 蟲體ハ黃白色ヲ呈ス口唇ニ齒ヲ具フ

第三十六圖

雄蟲ノ長サ 7—10cm・雌蟲ノ長サ 7—12cm アリ本蟲ハ羊ノ小腸ニ寄生ス

4 豚ノ蛔蟲 Ascaris lumbricoides (As. suilla). 蟲體ハ白色又ハ淡赤色ニシテ口唇ニ齒ヲ具フ雄蟲ノ長サ 15—17cm・肛門ニ70—75箇ノ乳嘴突起アリ雌蟲ノ長サ 20—25cm・卵ハ蛋白質ノ包膜ヲ被ムリ長サ 66 μ アリ本蟲ハ豚及人ノ小腸ニ寄生ス

5 犬ノ蛔蟲 次ノ2種アリ

a Toxocara (Belascaris) marginata. 蟲體ハ灰黃色ニシテ頭ノ兩側ニ短キ翼狀突起ヲ有ス雄蟲ハ長サ 5—10cm雌蟲ハ 9—20cm・卵ハ球形又ハ橢圓形ニシテ蛋白質ノ包膜ヲ被ムリ直徑 75—80 μ アリ本蟲ハ犬ノ小腸ニ寄生ス

第三十七圖



あすかりすらんぷりこいです (250倍廓大)

b Toxascaris leonina (Tox. limbata). 蟲體ハ白色ニシテ頭頸ノ兩側ニ細長翼狀突起アリ雄蟲ハ長サ 4—6cm・雌蟲ハ長サ 6—12cm・卵ハ橢圓形ヲ呈シ包膜稍厚シ大サ 85 \times 70 μ ナリ本蟲モ亦犬ノ小腸ニ寄生ス

6 猫ノ蛔蟲 Toxocara mystax. 犬ノ蛔蟲ニ類似スルモ頗ル小ナリ雄蟲ハ 4—6cm・雌蟲ハ 4—10cm・アリ猫ノ小腸ニ寄生ス

第三十八圖



犬ノ蛔蟲卵 (250倍廓大)

發育法 蛔蟲卵ハ宿主ノ糞ト共ニ排泄セラレタル後適當ノ溫度ト濕氣ノ存スル處ニ在テハ動物體外ニ於テモ發育シ卵殻内ニ於テ活潑ナル運動性ヲ有スル仔蟲トナル蟲卵一タヒ宿主ニ攝取セラレレハ卵殻溶解シテ仔蟲出テ仔蟲ハ腸壁ヲ穿チテ肺臟ニ至リ是ヨリ氣管枝ヲ上行シ咽頭ヨリ再ヒ食道及胃ヲ經テ小腸ニ戻

リ此間ニ一定ノ發育ヲ遂ケテ成蟲トナル仔蟲ノ腸壁ヲ穿チタル

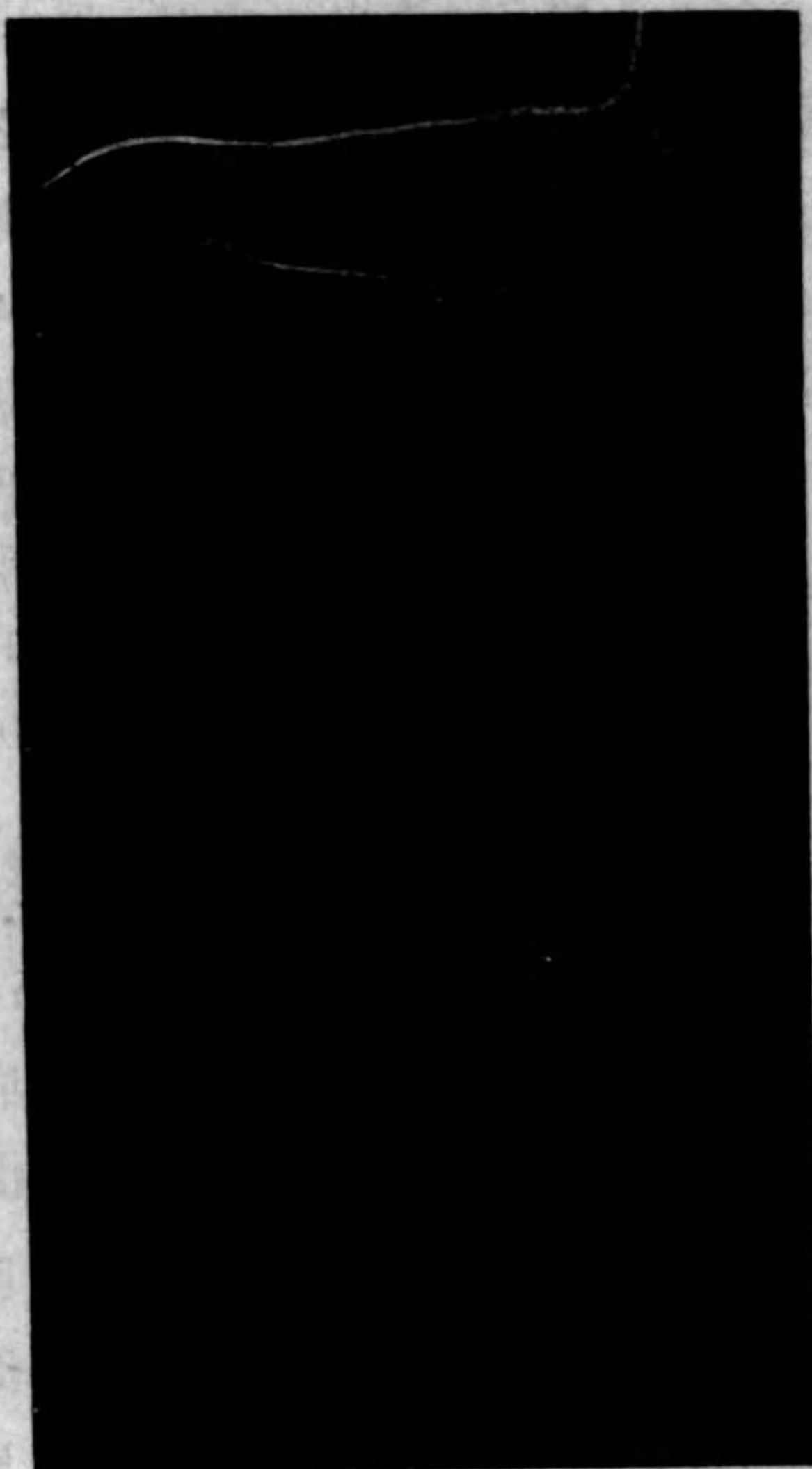
後肺臓ニ至ル徑路ニハ2説アリ1ハ仔蟲一旦腹腔ニ出テ肝臓ノ表面ヨリ侵入シ血行ニ由リテ肺ニ達シ或ハ横隔膜ヲ穿テ胸腔ニ出テ肺臓ノ表面ヨリ侵入ストナシ1ハ腹壁ニ穿入後直ニ血管又ハ淋巴管ニ入り門脈系統ヲ經テ肝臓ニ達シ心臟ヲ經テ肺臓ニ至ルト云フ卵ノ攝取後10—12週ヲ經レハ宿主ノ糞中ニ卵ヲ發見ス

第三十九圖

自然感染 飲食物ノ攝取又ハ周圍ノ物體ヲ舐却スルニ當リ偶蛔蟲ノ卵ヲ攝取スルニ由ル蓋シ糞ト共ニ排泄セラレタル卵ハ寢藁・給水場・牧場又ハ厩牀ニ散亂シ更ニ之ヨリ飲水又ハ飼料ニ混シ又牝畜ノ乳頭ニ附著ス

病理 蛔蟲ハ先ツ宿主ノ腸管ニ器械的作用ヲ呈ス殊ニ其運動ニ由リテ腸粘膜ヲ刺戟シ時トシテ腸ノ1部若クハ全部ニ蟲塊ヲ充滿シ往往之ニ由テ腸管ノ破裂ヲ來ス其他蟲體ノ實質及排泄物中ニ含マレタル刺戟性物質ニヨリ限局性充血・炎症・壞

死及腸ノ穿孔ヲ將來ス1方ニハ滋養分ヲ奪取シ溶血素ヲ產生シ且腸壁ヨリ血液ヲ吸吮スルニ由テ榮養障礙ヲ來ス本蟲ノ毒性ヲ



犬ノ蛔蟲

有スル代謝産物モ亦重要ニシテ其主ナルモノハ揮發性ヲ有スル脂肪酸・あるでひーど屬・遊離脂肪酸・あるこーる・えちーる・ぶちーる及あみーる屬ノえすてる Ester 其他鹽基性びりん等トス凡テ此等ノ物質ハ1方局所刺戟ヲ爲シ1方其吸收後中心神經系統ニ中毒作用ヲ及ホシ間代性若クハ強直性痙攣・興奮・意識障礙及麻痺ヲ喚起ス尙 Flury 氏ハ腸出血ヲ生スヘキ含窒素物竝ニあとりびん及こにいん様ノ作用ヲ有スル鹽基性ノ毒成分ヲ發見セリ蟲體ヨリ分泌セラレタル揮發性脂肪酸ハ宿主ノ臟器ニ固有ノ臭氣ヲ傳フ其他代謝産物ノ外死蟲ノ腐敗及分解産物モ亦病的作用ヲ有スルモノニシテ驅蟲藥ノ應用直後暫時症狀ノ亢進ヲ來スハ乃チ之ヲ證明スルモノトス

往年島村・藤井兩氏ハ蛔蟲ノ體腔液及蟲體ノ乾燥粉末ヨリ有毒性ノあるぶもーぜーべふとん質 Albumose-peptonsubstanz ヲ析出シ之ニあすかるん Askaron ノ名ヲ下セリあすかるんニ對スル感受性ハ馬・もるもっと・犬及家兎ノ順序ニシテ其注射ニ由ル主要ノ中毒症狀ハ末梢血管ノ擴張・呼吸障礙・分泌及排泄ノ増加・神經障礙・體溫及血壓下降等ニシテ其耐過後ニアリテハ迅速ニ比較的高度ノ抵抗性ヲ生ス解剖的變狀ハ肺氣脹(もるもっと)・消化管・心内膜其他内臟實質(殊ニ肺)ノ出血及ヒ浸潤(馬・犬)竝ニ血液ノ凝固不全等ニシテ致死量ハ體重1kgニ對シ馬0.004mg・もるもっと0.8mg・犬2.0mg・兎5.0mgナリトス尙あすかるんノ稀溶液(0.1%)ヲ馬ニ點眼スレハ強度ノ眼反應ヲ惹起シ其成績ハ殆ント100%陽性ニ達セリ而シテあすかるんハ目的ヲ有スル分泌毒ニアラス寧ろ一種ノ代謝産物ニシテ偶然猛毒性ヲ有スルモノト考フルヲ得ヘシト云フ

剖檢 蛔蟲ノ附著部ニ於テハ小圓形ノ凹陷部ヲ生シ時トシテ血液ヲ被ムリ其周圍ノ粘膜ニかたーる性變狀ヲ認ム多數ノ蛔

蟲存スレハ小腸全部發炎シ粘膜面ニ大潰瘍ヲ生シ往々腸壁ヲ穿孔シテ腹膜炎ヲ併發シ腸間膜ニ腐膿性膿瘍ヲ形成シ又致死の出血ヲ來ス時トシテハ腸管ハ蟲塊ヲ充滿シ^{主ラ犬及馬ニ於テ}破裂ヲ來スコトアリ罕ニ本蟲ハ胃ニ寄生シ又膀胱及膽道ニ嵌入シテ其排泄ヲ障礙ス犢及仔羊ノ肉ハ蛔蟲固有ノ不快ナル臭氣ヲ帶フ

症候 多數蛔蟲寄生スレハ始メテ症狀ヲ發ス即チ食慾變リ易ク時トシテ全ク絶止シ時トシテ増進ス羸瘦日ニ加ハリ粘膜蒼白トナリ被毛ハ光澤ヲ失ヒ便秘・下痢互變ス犬・猫ニ於テハ胃内ニ蛔蟲ノ遊走セル結果嘔吐ヲ發シ時々胆汁ヲ交ヘタル粘稠ノ胃内容物中ニ多少ノ蛔蟲ヲ見ル馬ハ往々異嗜若クハ噎氣ヲ催スマニ於テハ屢、間歇性ノ劇シキ疝痛ヲ認ムルモ犬及猫ニ在テハ稀ナリ又時トシテ烈シキ癲癇様痙攣・躁狂・昏睡状態竝ニ後體ノ麻痺ヲ來ス犬及猫ニ於テハ躁狂様ノ興奮及全身筋肉ノ強直ヲ來シ仔豚ハ採食ニ當リ卒然痙攣ヲ發シ穿孔性若クハ急性腹膜炎ノ症狀ヲ現ハシ或ハ何等ノ症狀ヲ呈スルコトナク卒死スルコトアリ病畜ハ透竄性ノ固有臭氣ヲ發ス

診斷 本病ノ診斷ハ糞又ハ吐物中ニ於ケル蛔蟲若クハ卵ノ證明ニ由テ決定ス經驗アルモノハ呼氣及尿ノ固有臭氣ニ由テ本病ヲ察知スルヲ得ヘシ

療法 動物ノ種類ニヨリ多少療法ヲ異ニス馬ニ於テハ豫メ大量ノ胡蘿蔔若クハ馬鈴薯(8—16立ヲ日々糞ト混シテ與フ)ヲ與フレハ蛔蟲ノ一部ヲ驅除ス驅蟲藥ハ吐酒石(12—15.0ヲ1立ノ湯ニ溶解シテ與フ)・砒石(0.1—0.5)・ほーれる水(5—8日間朝夕1—2食匙・幼駒ニハ1茶匙ヲ與フ)・さんとにん(8—20:0)・2硫化炭素(20—30.0)・四鹽化炭素及四鹽化砒ちーれん(體重1肝

ニ對シ^{0.05-0.08}~~0.2-0.3~~ヲ膠囊ニ入レ内服セシム)等凡テ有效ナリ犬・猫ニ於テハ條蟲ノ驅除法ニ同シさんとにん(犬 0.05—0.2・猫 0.02—0.05)ヲ散劑トシテ與ヘ其後蓖麻子油ヲ投ス

犢ニハ吐酒石 3—5 瓦ヲ水 125cc ニ溶解シ 3—4 時間毎ニ 1 食匙ヲ牛乳ニ混シテ與フ 驅蟲藥ノ準備療法トシテ前晚ノ食量ハ半減シ當日ノ朝食ヲ與フヘカラス

豫防法 患畜ノ糞ヲ焼却シ畜舎ヲ清潔ニ掃除スルニアリ

b 家禽ノ蛔蟲症 Heterakiasis.

原因 家禽ニハ次ノ蛔蟲寄生ス

1 **あすかりちあがり** *Ascaridia galli* s. *perspicillum* (*Heterakis inflexa*). 蟲體ハ黄色ニシテ常ニ彎曲ス雄蟲ハ長サ 3—8mm・雌蟲ハ長サ 7—12mm アリ卵ハ橢圓形ニシテ卷縮セル包膜ヲ被ムリ長サ 75—80 μ アリ本蟲ハ雞及吐綬雞ノ小腸ニ寄生ス

2 **へてらきす-ばびろ-ざ** *Heterakis papillosa* (*vesicularis*). 蟲體ノ兩端尖リ雄蟲ノ長サ 7—13mm・雌蟲ノ長サ 10—15mm アリ卵ノ長サ 63—71 μ ナ算ス本蟲ハ雞・孔雀・吐綬雞・雉・珠雞・鵝及鴨ノ盲腸ニ寄生ス

3 **へてらきす-ぢすばる** *Heterakis dispar*. (2)ニ類似スルモ稍、大ナリ其他ノ蛔蟲 *Heterakis compressa* 及 *H. compar* (濠洲雞)・*H. differens* (雞)・*H. lineata* (雞・鴨)・*H. isolonche* (雉)・*Ascaris crassa* (鴨)

第四十圖



あすかりちあがりの卵 (250倍廓大)

4 **へてらきす-まくろ-ざ** *Heterakis maculosa* (*columbae*). 蟲體白色ニシテ透明ナリ頭端ニハ3箇ノ口唇ヲ有ス雄蟲ノ長サ 16—25mm 雌蟲ノ長サ 20—34mm・卵ハ卷縮セル包膜ヲ被ムリ 橢圓形ヲ呈シ長サ 80—90 μ アリ本蟲ハ鳩等ニハ雉ノ小腸ニ寄生ス

前ニ列舉シタル蛔蟲中へてらきす-まくろ-ざハ最モ危険ナルモ

ノニシテ往々鳩ノ腸管内ニ多數寄生シ疫ノ状ヲ呈スルコトアリ家禽ノ糞ト共ニ水中若クハ濕地ニ排泄セラレタル卵ハ漸次^{約70日}發育シテ仔蟲トナル飲食ト共ニ此仔蟲ヲ含メル卵ヲ攝取スレハ直ニ感染シ約3週ノ後成蟲トナル

症候 漸次羸瘦シ倦怠・懶睡・下痢・脱毛ヲ來シ鳩ハ屢、卒死ス
療法 條蟲ノ療法ニ同シ檳榔子(雞 3.0・鳩 1.0 ヲ丸劑トナス)・さんとにんヲ應用ス

c 蟯蟲症 Oxyuriasis.

原因 家畜ニ寄生スル蟯蟲ノ種類次ノ如シ

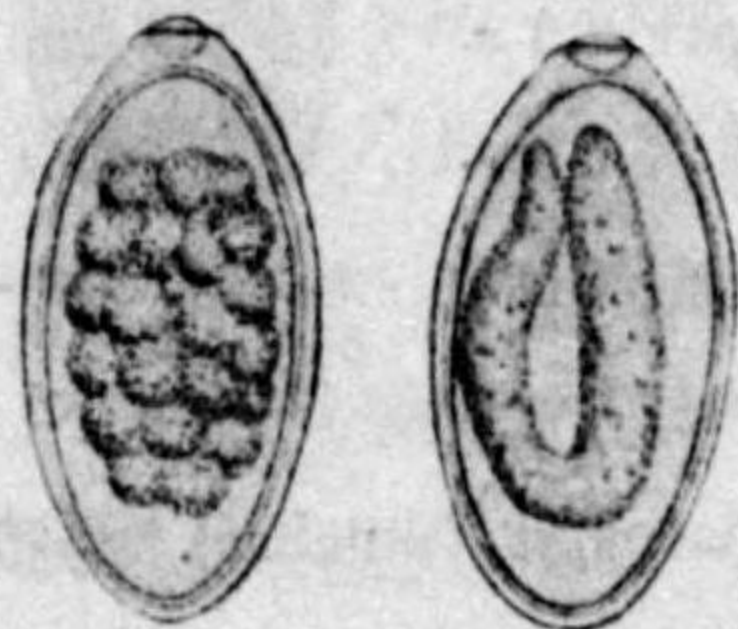
1 馬ノ蟯蟲 *Oxyuris equi*. 馬ノ腸管内ニ於テハ殆ント雌蟲ノミヲ發見ス其長サ 4—15cm アリ體ノ前部ハ太クシテ稍、彎曲シ後體ハ尖レリ口ニ3箇ノ唇ヲ有ス雄蟲ハ長サ 9—12mm アリ卵ハ橢圓形ニシテ長徑 88—95 μ 短徑 41—44 μ アリ其1端ニ蓋ヲ具フ

第四十一圖



おきしうりす-ますちごです *Oxyuris mastigodes* ノ雌蟲ハ前者ヨリ 3—4 倍大ナリ

第四十二圖



馬ノ蟯蟲卵 (250倍廓大)

2 おきしうりす-うゑる みきゅら-りす *Oxyuris (Enterobius) vermicularis*.

雄蟲ノ長サ 2—3mm 後體ハ卷廻ス雌蟲ハ長サ 9—10mm ニシテ體ハ眞直ナリ卵ハ橢圓形ニシテ1端ハ扁平・1端ハ凸出ス往々人ノ直腸ニ寄生シ又犬ニ寄生ス

馬ノ蟯蟲

3 おきしうりす-あむびぎあ *Oxyuris ambigua*. 家兎ノ盲腸ニ寄生シ劇性腸炎ヲ發スもるもつとニハ *Oxyuris obvelata* 寄生ス

發育法 雌蟲ハ尾ヲ以テ馬ノ肛門ニ附著シ卵ヲ排ス卵ハ粘稠ノ塊ヲナシテ肛門及會陰部ノ皮膚ニ膠著シ 2—3 日中ニ幼蟲發育ス卵塊乾燥スレハ落屑上皮ト共ニ落下シテ寢藁ニ附著シ之ヨリ飲食物ニ達ス斯クシテ攝取セラレタル卵ハ胃ニ至リテ其蓋ヲ溶解シ幼蟲ヲ出ス遊離シタル幼蟲ハ大腸ニ至リテ成熟ス

Roger 氏ハ *Filaria irritans* (顆粒性皮炎ノ原因)ハ蟯蟲ノ幼蟲ナラント云ヘルモ猶ホ疑問ニ屬シ眞ノ成蟲ハ未タ審ナラス

症候 肛門ノ周圍ニ懸垂セル蟯蟲ノ雌蟲ハ時トシテ肛門部ノ急性かた一る又ハ劇性癢痒ヲ惹キ起シ之カ爲メ病畜ハ尾及其周圍ヲ他ノ物體ニ摩擦シ尾根・會陰及股部ノ皮膚ニ濕疹様ノ炎症ヲ發シ肛門ノ周圍ニ痂皮ヲ生ス其他糞球ノ外表又ハ手腕^{直腸検査ニ際シ}ニ附著シタル本蟲ヲ認メ又ハ糞ノ鏡檢ニ由リ卵ヲ發見ス Illy 氏ハ稍、劇シキ疝痛症狀ヲ發シタル馬ノ本蟲驅除後恢復シタルヲ見タリ

療法 最モ有效ナル療法ハけのぼち油 16.0 ヲ膠囊ニ入レ應用ス其他醋水(常醋ニ 10 倍ノ水ヲ加フ)又ハ石鹼水ヲ數回灌腸シ必要ト認ムレハ 2000 倍ノ昇汞水ヲ灌注スルニアリ

d 旋毛蟲 Trichocephelidae.

本屬ノ線蟲ハ概ネ無害ニシテ病原性ヲ有スルモノハ單ニ旋毛蟲 *Trichina (Trichinella) spiralis* アルノミ^{運動器病中ニ詳論ス}

第四十三圖

とりこせふあらす *Trichocephalus* ハ屢、反芻獸・豚・犬及家兎ノ腸管内ニ寄生スルモ無害ナリ體ノ前部ハ絲狀ヲ呈シ後體ハ棍形ヲナス雄蟲ハ眞直・雌蟲ハ彎曲ス卵ハ檸檬形ヲ呈シ長徑 50—70 μ アリ本蟲ニ次ノ數種アリ



1 とりこせふあらす-あふいにす *Trichocephalus affinis*. 長サ 5—8cm・反芻獸ノ盲腸及大

とりこせふあらす-あふいにすノ卵 (250倍廓大)